Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属：大阪体育大学	職名：学長	氏名：岩上　安孝	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
なし					
論文					
1.認定講座(ダンスムーブメント)21世紀を目指した生涯スポーツの振興方策	単著	平成10年1月	日本女子体育連盟 女子体育	21世紀を目指した生涯スポーツの振興方策について、社会状況の変化と国民のスポーツニーズの動向並びに、国民のスポーツ活動の状況を、具体的な数値を示してまとめた。	47頁-49頁
2.認定講座(ダンスム-ブメント)21世紀を目指した生涯スポ-ツの振興方策（２）	単著	平成10年2月	日本女子体育連盟 女子体育	21世紀を目指した生涯スポーツの振興方策について、生涯スポーツ振興の課題と21世紀に向けた生涯スポーツ振興ビジョン並びに、生涯スポーツ社会の実現を目指した振興方策の国・行政施策の取り組みをまとめた。	46頁-48頁
3.生涯スポーツ社会の実現に向けて（特集 スポ-ツ振興）	単著	平成10年3月	大阪市 都市問題研究	我が国の社会状況の変化を見据え、生涯スポーツ社会の実現に向けた基本的なスポーツ振興の方向性と、そのための方策についての取り組みをまとめた。	31頁-50頁

4.わが国のスポーツ振興政策について (平成十一年度全国大学体育連合総会)	単著	平成11年7月	(社)全国大学体育連合 大学体育 26(1)	わが国のスポーツ振興政策について、スポーツの魅力の再考、わが国のスポーツを取り巻く現状と課題、今後のスポーツ振興の視点及び施策の方向性などを中心に国・行政の取り組みを報告した。	5頁-23頁
5.我が国の国際競技力の向上に向けて (特集 体育・スポーツ・学校健康教育--施策の展望) -- (平成12年度〔文部省〕体育局の重点施策)	単著	平成12年4月	第一法規出版 スポーツと健康32(4) (通号393)	わが国の国際競技力の向上に向けて、素質ある選手の早期発掘、一貫指導体制の確立、ナショナルレベルのトレーニング拠点や地域の育成拠点の整備、優れた指導者の育成･確保を行うとともに、スポーツ医･科学研究の推進、各種競技大会に対する支援、スポーツを通じた国際交流の推進、プロスポーツの振興等の各種施策の取り組みをまとめた。	15頁-17頁
6.体力・運動能力調査報告書	共著	昭和62年9月	文部科学省	向井正剛、笠原一也、鈴木漠、岩上安孝	296頁
	共著	昭和63年9月	文部科学省	工藤智規、向井正剛、笠原一也、鈴木漠、岩上安孝、増田俊明	278頁
	共著	平成元年9月	文部科学省	本間政雄、向井正剛、笠原一也、久保浩二、岩上安孝、増田俊明	284頁
	共著	平成2年10月	文部科学省	本間政雄、向井正剛、笠原一也、久保浩二、岩上安孝、増田俊明	286頁
	共著	平成3年10月	文部科学省	本間政雄、杉山重利、岡崎助一、久保浩二、岩上安孝、増田俊明	286頁
	共著	平成7年10月	文部科学省	中根孝司、岡崎助一、岩上安孝、坂元譲次、萩原出、時本識資、新井忠	286頁
	共著	平成13年10月	文部科学省	岩上安孝、長登健、萩原秀明、内藤雅志	264頁
	共著	平成14年10月	文部科学省	岩上安孝、長登健、萩原秀明、内藤雅志	266頁
	共著	平成15年10月	文部科学省	岩上安孝、早瀬健介、日比野幹生、山本幸男	268頁
	共著	平成16年10月	文部科学省	岩上安孝、山岸仁、早瀬健介、日比野幹生、川口勝也、山本幸男	252頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
	文部省・文部科学省でのスポーツ行政への関わり
昭和61年10月～昭和62年1月	「社会体育指導者の知識・技能審査事業の認定に関する規定（昭和６２年１月に告示）により、多様化･高度化する国民のニーズに対応した質の高いスポーツ指導者の養成を推奨するための文部大臣認定制度の創設に携わった。
昭和61年10月～平成12年9月	「２１世紀に向けたスポーツ振興方策について（保健体育審議会答申・平成元年）、「生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツ振興の在り方について（保健体育審議会答申・平成９年）」及び「スポーツ振興基本計画（文部省告示・平成１２年」の策定に携わった。
平成12年3月～6月	日韓ワールドカップサッカーの招致及び共催決定後のFIFA関連の税制措置に携わった。
昭和61年～平成14年9月	「体力・運動能力テスト」の実施内容の見直し及び「子供の体力向上のための総合的な方策について（中央教育審議会答申・平成１４年）」の策定に携わった。
平成13年7月～平成15年3月	スポーツ振興計画での提言に基づき「総合型地域スポーツクラブ」創設に向けた全国展開に携わった。

平成13年7月～平成15年3月	スポーツで唯一、税金が掛かっている「ゴルフ場利用税」の撤廃及び民間スポーツ施設の税制の改善に携わった。
	その他
平成13年11月	全国スポーツ推進委員研究協議会
	静岡市コンベンションアーツセンターにて行われ左記研究協議会において、「スポーツ行政の課題と展望」として、以下の課題について説明を行った。 1. 地域スポーツクラブの育成に向けた体育指導委員の役割 2. 地域スポーツの普及と体育指導委員のあり方 3. 体育指導委員の組織的活動と地域スポーツ活動 4. 地域に根ざした生涯スポーツの推進
平成21年11月～平成24年7月	マルチサポートハウスの企画・運営
	文部科学省が有望競技を特別支援する「マルチ・サポート事業」の一環として、中国広州にて行われてたアジア大会にて、、日本代表選手の情報医科学面からのサポートを行う「マルチサポートハウス」の企画及び運営の代表者として携わった。
平成22年～平成25年	ＪＩＳＳスポーツ科学会議～「JISSサイエンスフェア」～
	独立行政法人日本スポーツ振興センター及び国立スポーツ科学センター主催で、スポーツ医・科学研究者、指導者、競技者、その他スポーツ関係者等を対象にした左記会議に、代表者として企画・運営を行った。

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無
体育学部	教授	浅井　正仁	（ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） （１）　授業及びタスクゲーム風景をVTRに録画して、説明用資料として利用 （２）　授業評価を実施し教育内容等を吟味した。	平成２１年～２２年	１－（１）（２） 「バレーボールⅡ」の授業において、タスクゲーム（キャッチバレー）を指導しゲーム様相をVTRに録画して、次年度の授業や各種講習会において利用した。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成２１年～２５年	「バレーボールⅡ」の授業において、プレゼン用資料、グループ課題資料を作成。 「スポーツ測定評価」の授業において、プレゼン用資料を作成
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 （１）　免許更新講習会にてバレーボール授業について講義	平成２２年～２３年	１（１）のタスクゲームVTRを用いて説明及び実技指導を行った。
４　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ステップアップ中学体育	共著	平成２２年	大修館書店	編著者：高橋健夫、友添秀則、他２名	P170～P189、20頁
ステップアップ高校体育	共著	平成２５年	大修館書店	編著者：高橋健夫、友添秀則、他２名	P180～P199、19頁
教員免許状更新講習テキスト	共著	平成２２年7月	大阪体育大学教員免許更新講習委員会	浅井正仁、他21名	P167～P183、17頁
教員免許状更新講習テキスト	共著	平成２３年12月	大阪体育大学教員免許更新講習委員会	浅井正仁、他15名	P121～P136、16頁
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成１６年～	関西大学ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ連盟　常任理事、副理事長（H25年～）
平成２４年～	全日本大学バレーボール連盟　理事
昭和５５年～	日本体育学会

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	男子バレーボール　　部	２．役職	監督	３．部員数	４０人
４．現場指導の頻度	②	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　12　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本インカレ（東京、大阪）	１２月	東京
	西日本インカレ（兵庫・広島）	６月	兵庫・広島
	関西大学バレーボール連盟春季・秋季リーグ戦（大阪、京都、兵庫）	４月～６月、９月～11月	大阪、京都、兵庫

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　教授	氏名　浅野　幸子	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　(無)　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1) 視聴覚関連機器の活用とAuthenticな教材の利用による授業活動	2009年～2013年	Video,DVD,PC機器などの利用により、多様な情報を学習者に与えて意味の理解を促すと同時に、動機づけに努め、学習の効率化を図った。(英語Ⅰ、Ⅱ、& Ⅲ、総合演習)
(2) プリゼンテーションを重視した指導	2009年～2013年	グループやペアーでの活動を通して、英語による表現力(英語Ⅰ&Ⅱ)や日本語による発表のための基礎力(総合演習)の養成を目指した。
(3) 小論文や小テストによる学習活動評価の実施	2009年～2013年	グループやペアーでの活動を通して、英語による表現力(英語Ⅰ&Ⅱ)や日本語による発表のための基礎力(教養演習Ⅰ&Ⅱ)の養成を目指した。
(4) 「学生による授業評価」の実施	2009年～2013年	大阪体育大学ＦＤ委員会実施の授業評価を受け、その結果を基に学生の意見などを参考にして、授業内容と指導方法の改善に努めた。
(5) E-Learningシステムの活用	2009年～2013年	英語Ⅳ(TOEIC受験対策コース）、英語演習(A)の授業でALCNetAcademy,Superstandard Courseを活用し個別指導を行ない効果をあげるよう努力した。また英語特（再履修クラス）では、各学生の習熟レベルに合った学習内容の選択と個別学習により再学習への動機づけと指導の効率化を図った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1) 英語Ⅰおよび英語Ⅱ、Ⅲの教材の作成	2009年～2013年	TVコマーシャル、ニュースや映画、あるいは、インターネットから入手した素材を基にして、体育系学生が得意とする非言語的な能力を生かしながら、英語コミュニケーション能力を伸ばすための独自の教材の作成を行なった。
(2) 総合演習の授業のための教材・ワークシートの作成	2009年～2011年	学生の特色を生かした指導内容と方法(ディベート)により効果的な授業を実践するために、自作ワークシートと教材を作成した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
(1) TOEIC IPテスト(前期)の実施を主導	平成21年7月1日 平成22年1月1日 平成22年7月1日 平成23年1月15日 平成23年7月16日 平成24年1月14日 平成24年7月14日	全学的に大学院生と学部生を対象に、英語コミュニケーション能力の測定と卒業後の進路指導を意図して実施した。また英語Ⅳ指導・の評価の資料としてに用いた。

	平成25年1月26日 平成25年7月1日 平成26年2月19日	
(2) TOEIC Bridge IPテストの実施を主導	平成22年1月23日 平成23年1月31日 平成24年2月4日 平成25年1月26日 平成26年1月29日	体育・健康福祉学部一年生の英語Ⅰ(B)の履修者(680名)を対象に実施し、英語Ⅱ(A)(B)外国語科目クラス編成の資料として情報を提供すると共に指導に活用した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「ダウン症児の言語・認知機能の開発を目指した指導」	共著	2009年3月	『仮想祝宴会での話』日本視聴覚教育協会	青木繁、飯吉透、生田孝至、その他	5頁(8頁～12頁)
Inter-intra commonlality of cognitive and linguistic facors relative to learning difficulties of college students and intervention program	共著	2012 年3月	*Research on Teacher Education and Training.* (Athens Institute for Education and Research)	Feyza Doyran,Parveen Ali,Fátima Pereira,Lynn C. Hart, Susan Oesterle and Susan Swars,Penni Cushman,Ebru Ersay Cekmecelioglu,and et.al.	191頁～202頁
論文					
A bilingual approach to developing concept formation and planning ability in a child with Down Syndrome 二か国語を利用したダウン症児の概念形成と計画能力の養成	単著	2009年3月	大阪体育大学 健康福祉学部紀要 第6巻		79頁～92頁
Linguistic, cognitive and memory factors related to difficulties in learning English as a foreign language among college students	単著	2012年3月	大阪体育大学 体育学部紀要 第43巻		83頁～134頁
その他					
概念学習を重視した視聴覚的手法による英語指導（英語学習困難の要因と対策-視聴覚的アプローチ-)	単著	2009年 6月	大学教育学会第31回大会発表要旨集録		150頁～151頁

Inter-subject commonality of cognitive and linguistic factors relative to learning difficulties of collegeStudents and its implicatio-ns for an intervention program	単著	2010年 5月	12th Annual International Conference on Education 2010, Athens, Greece	
大学生の学習困難に見られる認知的要因に関する研究	単著	同　年9月	第15回日本情報ディレクトリ学会全国大会研究報告論集	17頁～22頁
Cognitive and linguistic factors related to foreign language learning difficulties (FLLD) among college students	単著	2011年 5月	13th Annual International Conference on Education 2011, Athens, Greece	
札幌農学校におけるImmersion Program(英語教育)の今日的な意義:統計手法による解析結果	単著	2012年 5月	大学教育学会第34回大会発表抄録	82頁～83頁
Developmental changes in concept formation processes andiInter-/intra-individual differences exhibited in immersion programs	単著	2013年 7月	The Inaugural European Conference on Education- ECE,2013, Brighton, UK	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
2000 年　4月　～　2013 年　3月	大学英語教育学会(JACET)会員
2003 年　4月　～　2013 年　3月	全国語学教育学会(JALT)会員
2004 年　4 月　～　2013 年　3月	大学教育学会会員
2010 年　4月　～　2013 年　3月	日本情報ディレクトリ学会会員
2013年　10月　～　2013 年　3月	日本情報ディレクトリ学会理事

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名 教授	氏名　荒木　雅信	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「スポーツ心理学」，「スポーツメンタルトレーニング指導論」，「運動学習論」の講義において、レポート作成の指導と、方法論の実習に重点を置いている	H21年4月（前期）～	毎回の授業のテーマについて、キーワードを示し、理解を深めると共に文章の作成能力の向上を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書 (1)「これから学ぶスポーツ心理学」を刊行した (2)「スポーツメンタルトレーニング指導論」，「運動学習論」講義ノート	 H23年4月（前期）～ H21年4月（前期）～	 テキストを刊行し、基本的な知識体系を示して、スポーツ現場への応用に繋いだ 講義ノートを作成し、基礎知識の体系化とその活用法について解説した
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) JPC医・科学・情報サポ―ツ事業（統括） (2) 日本障がい者スポーツ協会スポーツコーチ養成講習会	 H21年4月～ H21年6月～	 パラリンピック日本代表選手・候補選手の競技力向上のための教育プログラム ナショナルコーチ養成のための講習会
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
これから学ぶスポーツ心理学	共著	平成23年4月	大修館書店	荒木雅信（編著者），荒井弘和　他12名（共著者）	1～2，140～144．152～162頁
スポーツ精神生理学	共著	平成24年11月	西村書店	山﨑勝男（監修），荒木雅信　他12名（共著者）	131～145．191～207頁
論文					
Characteristics of Shooting Time of The World's Top Level Male Archery Athletes.	共著	2012年10月	NSSU Journal of Sport Sciences. Vol.1,	Hideaki TAKAI, Yoko KUBO and Masanobu ARAKI	8～12頁
Kinematic characteristics during maximal board paddling: comparison between elite and sub-elite paddlers	共著	2013年10月	13 World Conference Drowning Preventio	Motoyoshi Miyama, Azusa Uematsu, Kentaro Nakatsuka, Masanobu Araki	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
平成14年4月～現在	日本体育学会評議員
平成20年6月～現在	日本障がい者スポーツ協会　理事
平成23年4月～現在	日本スポーツ心理学会　理事（副会長）

Ⅳ　クラブ活動の指導業績					
１．指導クラブ名	ライフセービング　　部	２．役職	平成8年～部長，平成14年～顧問	３．部員数	50　　人
４．現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　　回	延べ日数：　　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

（表18）

所属	体育学部	職名	教授	氏名	伊藤　章	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１．教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） スポーツ科学とコーチング・演習などの授業では，パワーポイントを使いながら，資料，板書を併用し，聴覚障害者にも分かりやすいように配慮している． しばしば道具を用いたデモを実施し説明している．		言葉での説明の内容はできる限り板書ををするようにしている． 道具を用いて実際に動かしながら説明している．
２．作成した教科書、教材、参考書 毎授業資料を配布し，切り貼りをしながらのノート作りを指導している．		
３．教育方法・教育実践に関する発表、講演等 授業がバイオメカニクスと陸上競技に関連したものであるので，私の研究そのものが授業に役立っている． ４．その他教育活動上特記すべき事項		研究業績を参照

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
バイオメカニクス：身体運動の科学的基礎	共著	平成16年10月	杏林書院	金子公宥，福永哲夫	197頁～202頁
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成18年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編集	232頁～235頁
スポーツ科学辞典	共著	平成18年9月	平凡社	社団法人日本体育学会監修	25頁～27頁
論文					
ハンマー投げ記録と半間ヘッド速度の関係	共著	平成18年7月	体育学研究（第51巻第4号）	坂東美和子，田邉　智	505頁～514頁
Biomechanical analysis of the javelin at the 2005 IAAF World Championships in Atheletics	共著	平成18年6月	IAAF New Studies in Atheletics (21;2)	M. Murakami, S. Tanabe, M Ishikawa, J. Isolehto, P.V. Komi	67頁-80頁
Changes in the step width, step length, and step frequency of the world's top sprinters during the 100 metres	共著	平成18年9月	IAAF New Studies in Atheletics (21;3)	M. Ishikawa, J. Isolehto, P.V. Komi	35頁-39頁

コーナー進入後の疾走速度は直線より低下するのか？	共著	平成24年3月	バイオメカニクス研究第15巻	堀　尚，浦田達也	134頁-142頁

Ⅲ　学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成９年４月　～　現在	日本バイオメカニクス学会理事
平成１４年４月　～　現在	大阪体育学会会長
平成２２年４月　～　現在	大阪体育学会副会長
平成２５年４月　～　現在	日本体育学会副会長
平成２６年４月　～　現在	日本ゴルフ学会副会長

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	陸上競技　部		２．役職	部長	３．部員数　約　200 人
４．現場指導の頻度	②	①　ほぼ毎日　②　週3日　③　週１日　④　現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤　全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　1　回		延べ日数：　5　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み		①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		
８．部員の就職指導への取り組み		①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西インターカレッジ	５月	年によって異なる
	西日本インターカレッジ	９月	年によって異なる
	日本インターカレッジ	６月	年によって異なる

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　績	場　所

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　教授	氏名　伊藤美智子	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ ㊀ ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「ダンスⅡ」体育科教育コース実技授業におけるノート課題の指導	平成15年4月より	ノートは、ワークブック編と記録編の2部構成になっている。ワークブック編については、ダンスの理論や学習指導要領での取り扱いについて、解説と設問についてレポートを作成するようになっている。実技のみならず理論的な枠組みをしっかりと確立させることを目的として、行わせている。記録編では、毎時間の授業内容の記録を行い、自らの経験知を記録し、今後の指導に役立てるようにしている。このノートは、年２回提出させ、指導後返却している。
「ダンスⅡ」実技授業における指導実習の実施	平成22年より	授業の目的として，実践的な指導者を養成を目指すために，指導実習を行っている．教師役・生徒役・授業分析者をローテーションさせて，指導能力と共に授業分析力を要請するために，授業分析用コーディングシートを用いて，VTR収録した自らの指導の様子を分析させた．
「ダンスⅡ」実技授業創作活動におけるiPad使用	平成25年より	各グループでの創作活動にiPadを使用して，音楽・映像によるフィードバックを用いて，作品づくりを行わせることによって，効果的な授業づくりに努めた．
「演習Ⅰ・Ⅱ」におけるビデオ教材の活用	平成15年より	体育科教育コースに所属する演習学生に対して、小・中・高校の教育現場における授業場面の映像を用いて、より効果的な学習が進められるようにした。
２　作成した教科書、教材、参考書		
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 （１）教員ダンス研修会 兵庫県女子体育連盟ダンス講習会講師	平成21年4月18日	兵庫県下の小学校・中学校・高校教員ならびに社会体育指導者を対象にダンス研修会を行った
大阪高等学校保健体育研究会講師	平成21年7月8日 平成22年7月14日	大阪府下の高校の教員を対象にダンス研修会を行った
八尾市立学校教員授業研究会	平成21年11月30日	小学校における表現運動の取り組み方についての講義と実技研修を行った
八尾市立中学校武道・ダンス必修化に向けたダンス実技講習会	平成21年8月21日・10月21日	八尾市立中学校教員を対象に，リズムダンス創作ダンス授業に関する研修を行った
大阪府小・中・高等学校・支援学校10年経験者研修ダンス講師	平成21年8月24日 平成22年8月11日 平成24年8月20日	大阪府小・中・高等学校・支援学校10年経験者を対象に，表現運動・リズムダンス・創作ダンスの授業づくりについての講義および実技研修を行った

和歌山県学校体育実技ダンス指導者講習会講師	平成21年10月22・30日 平成22年9月21日・27日 平成23年9月30日・10月3日 平成24年9月28日・10月5日 平成25年9月27日・10月1日	和歌山県下の中学校・高校の教員を対象にダンス研修会を行った
大阪市ダンス講習会	平成21年8月23日・平成22年2月19日 平成23年9月8・15日・12月5日	大阪市立中学校教員を対象に，創作ダンスの授業づくりに関する研修を行った
堺市中学校教育研究会保健体育部会ダンス実技研修講師	平成22年10月13日	堺市立中学校教員を対象にダンスの授業づくりに関する研修を行った
和歌山県小学校体育学習研修会講師	平成23年1月20日 平成24年1月18・25日	小学校における表現運動の取り組み方についての講義と実技研修を行った
大阪府佐野支援学校専門性向上研修講師	平成24年2月22日	特別な支援を必要とする生徒へのダンス指導の研修を行った
東大阪市小学校体育研究会実技研修	平成24年7月25日	小学校における表現運動の取り組み方についての講義と実技研修を行った
大阪府小学校「体育」指導力向上研修会講師	平成24年8月2日	小学校教員を対象に，表現リズム遊び・創作ダンス授業に関する研修を行った
岸和田市小中学校体育科実技研修会講師	平成24年8月21日	小中学校教員を対象に，リズムダンスを通した効果的な授業に関する研修を行った
東大阪市中学校体育研究会実技研修	平成24年6月4日 平成25年11月20日	中学校教員を対象にダンスの授業づくりに関する研修を行った
大阪府中学校・高等学校「保健体育」指導力向上研修会講師	平成25年7月24日	大阪府下の中学校・高校の教員を対象にダンス研修会を行った
滋賀県体育科の授業力アップ研修	平成25年7月31日	滋賀県小・中・高等学校・支援学校10年経験者を対象に，表現運動・リズムダンス・創作ダンスの授業づくりについての講義および実技研修を行った
大阪府泉南郡市中学校教育研究会保健体育部会講師	平成25年11月6日	泉南郡市下の中学校教員を対象にダンス研修会を行った
和歌山県子どもの体力向上支援事業に係る講師	平成25年11月21日・12月5日	和歌山県立新宮高校でダンス授業，広川町立南広小学校で表現運動についての指導を行った
４　その他教育活動上特記すべき事項 （１）介護予防事業 熊取町介予防講師 （２）ダンスコンクール等 兵庫県学校高等学校ダンス大会審査員	平成22年2月5日 平成24年2月14日 平成21年9月5日 平成24年2月19日 平成25年6月7日 平成26年2月16日	熊取町在住の高齢者を対象に，リズムに合わせて楽しく身体を動かし，日常に自宅でも運動可能な内容についての講習を行った 兵庫県高体連ダンス部のコンクールの審査員を行った
兵庫県学校高等学校ダンス新人大会審査員	平成21年11月14日 平成23年11月13日 平成24年11月3日 平成25年11月2日	兵庫県高体連ダンス部のコンクールの審査員を行った
大阪高等学校創作ダンス発表会総評	平成21年11月15日	大阪府下の高校生ダンス部員による作品発表に対して講評を行った

第52回兵庫県学校ダンス研究発表会講評			平成21年11月23日 平成22年11月19日 平成23年6月3日	明石市立西部市民会館において，27作品の発表に対して講評を行った	
Ⅱ　研究活動					
著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
「動きの足し算」からお話づくりへー表現運動における『習得』『活用』を意識した学習展開を考えるー	共著	平成21年5月	体育授業研究（第12巻）	長町裕子・伊藤美智子・梅垣明美	19頁～28頁
Analysis of Hurdle Running at Various Inter-hurdle Distances in an Elementary School PE Class	共著	平成22年2月	International Journal of Sport and Health Science, Vol. 8	Mituo Otuka ,Michiko Ito, Akira Ito	35頁～42頁
ダンス指導の現状と問題点に関する報告～大阪市立中学校教員を対象として～	共著	平成23年3月	大阪体育学研究（第49巻）	北島奈津・白井麻子・伊藤美智子	81頁～88頁
「多様な動き」を素材とした視聴覚教材が表現運動の学習活動に与える効果：小学校６年生を対象に心に響く動きを探る実践的試み	共著	平成23年3月	舞踊教育学研究（第13号）	白井麻子・伊藤美智子	12頁～20頁
必修科目としてのインターンシップ実習の取り組みに関する事例研究	共著	平成23年3月	大阪体育学研究（第49巻）	◎伊藤美智子・中大路哲・淵本隆文・岡﨑勝博・髙本恵美	103頁～110頁
スポーツバイオメカニクスから得たハードル走の新しい指導法の有効性の検討―小学校6年生を対象とした体育授業―	共著	平成23年3月	体育科教育学研究（第27巻第1号）	大塚光雄・伊藤美智子・伊藤章	1頁～18頁
研究雑誌					
教師も夢中になるダンス指導を目指して	単著	平成22年4月	体育科教育（第58巻4号）	伊藤美智子	66頁～67頁
「取り戻せ自然～もののけ姫の世界より～」ができるまで-体育教員志望学生の授業実践報告-	単著	平成22年4月	女子体育（第52巻4号）	伊藤美智子	27頁～31頁

知的障がい児・者を対象としたダンス指導の紹介～Adapted Creative Dance みんな一緒に～	単著	平成25年4月	女子体育（第55巻4号）	伊藤美智子	28頁～33頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
＜学会等＞	
昭和56年～現在に至る	日本体育学会会員
平成22年4月～現在に至る	大阪体育学会理事
昭和60年～現在に至る	舞踊学会会員
平成22年4月～現在に至る	日本女子体育連盟理事
平成18年～現在に至る	大阪女子体育連盟（平成24年より会長）
＜社会的活動＞	
平成21年度～24年度	熊取町教育委員会活動評価委員
平成21年～23年度	和歌山県中学校武道・ダンス必修化にむけた地域連携指導推協力者
平成21～22年度	大阪府八尾市中学校武道・ダンス必修化にむけた地域連携指導推協力者
平成21年度	大阪府スポーツ振興審議委員
平成22年度～25年度	全日本高校大学ダンスフェスティバル（神戸）運営委員
平成25年度	和歌山県「紀州っ子かがやきエクササイズ・ダンス」検討委員
平成12年度～現在に至る	大阪府泉佐野市を中心とした知的障がい者とその家族をメンバーとするダンスグループ「Dance Assemble　ルード・フェアリー」のダンス指導担当

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	創作ダンス　　部	２．役職	2009～監督 2010～部長	３．部員数	12　　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　0　回	延べ日数：　0　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）	8月初旬	神戸文化ホール
	大阪体育大学単独公演	10月	高石市アプラホール
	アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ（少人数による創作ダンスコンクール）	9月	富山県福岡町Uホール

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2014年8月6日～9日	全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）創作コンクール部門	奨励賞	神戸文化ホール
2013年8月7日～10日	全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）創作コンクール部門	日本女子体育連盟会長賞	神戸文化ホール

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　教授	氏名　上谷　浩一	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
一般教養科目歴史学における指導法の改善	平成21年4月1日～	スポーツ科学の学修に対応した、日常生活・意識・感覚からの歴史学の講義
一般教育科目日本語技法における指導内容の改善	平成21年4月1日～	教員志望者を対象とする、実践に即した文章作成およびコミュニケーションの指導
2　作成した教科書、教材、参考書		
教養歴史学	平成21年4月1日～	スポーツ科学の学修に対応した、日常生活・意識・感覚からの歴史学を整理した
日本語技法教職	平成25年4月1日～	教員志望者を対象とする、実践に即した文章作成およびコミュニケーションの指導
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
日本語技法に教職特別クラスを設置	平成25年4月1日～	保健体育科教員志望者を対象に、実践に即した教育活動の基礎を指導し、そこで求められるコミュニケーション能力について指導した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
関羽の死--『三国志』研究ノート（3）	単著	平成21年3月	『東洋史訪』第15巻		46頁～56頁
孫権の苦悩--『三国志』研究ノート（4）	単著	平成22年3月	『東洋史訪』第16巻		81頁～93頁
陶謙と劉備--『三国志』研究ノート(5)	単著	平成23年3月	『東洋史訪』第17巻		111頁～118頁
中学校における責任学習モデルの効果に関する実証的研究	共著	平成23年6月	『体育学研究』第56巻第1号	梅垣明美、草島進之助、上谷浩一	157頁～172頁
大正期日本野球界におけるマネジメント問題	単著	平成25年3月	『大阪体育大学紀要』第44巻		29頁～41頁

後漢時代中後期の自然災害と党錮事件	単著	平成26年3月	『大阪体育大学紀要』第45巻		25頁～36頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成21年４月～	中国水利史研究会理事

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	日本拳法部　　部	２．役職	2009～　部長	３．部員数	13　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　7　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全国大学選抜選手権大会	6月	東京・早稲田大学
	全日本学生拳法選手権大会	11月	大阪府立体育館

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成26年6月1日	全国大学選抜選手権大会	全国ベスト８	東京・早稲田大学

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　教授	氏名　梅垣　明美	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
1.ソフトボールの授業におけるスポーツ教育モデルの活用	平成21年4月から	実技の授業において、シーデントップのスポーツ教育モデルを活用している。そのことを通して、技術学習のみならず、コミュニケーション能力や役割遂行能力などの社会的行動学習をも意図した実技を行っている。
2.講義ノートの作成	平成21年4月から	授業のポイントを書いたノートを作成し、それに基づいた授業を行っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
1.体育原論の講義ノート	平成21年4月から	講義内容の要点をまとめた講義ノートを作成した。
2.スポーツ教育学の講義ノート	平成21年4月から	講義内容の要点をまとめた講義ノートを作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
1.和歌山県日高地方学校体育教育研究会『実技講習会』	平成23年11月29日	小中学校の教員を対象に、新学習指導要領に基づく、ベースボール型ゲームの指導法や教材について、実技講習を行った。
2.平成24年度和歌山県中学校体育学習研修会	平成24年11月29日 平成24年12月 4日	中学校の教員を対象に、新学習指導要領に基づく、ベースボール型ゲームの指導法や教材について、実技講習を行った。
3.第57回 全国小学校体育科教育 研究集会・神戸大会　指導助言者	平成25年8月2，3日	小学校体育科教育の全国大会において、「ゲーム運動領域」の班別研究において講演を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
中村敏雄著作集：中村敏雄の人と仕事	共著	平成21年7月	創文企画	友添秀則編	149頁～153頁
論文					
初期ボクシングのルール（ブロートンズ・ルール）に関する研究	共著	平成22年2月	大阪体育学研究50周年記念号（48）	◎梅垣明美、上谷浩一	187頁～195頁

JTPE掲載論文にみる体育における道徳学習と責任学習の研究動向	共著	同年3月	スポーツ教育学研究（第29巻第2号）	◎梅垣明美、友添秀則	1頁～16頁
翻訳『ボクシアーナ』（Boxiana：or sketches of ancient and modern pugilism. Vol.1.）（１）－トム・ジョンソン（1750-1797）－	共著	同年3月	大阪体育大学紀要（第41巻）	◎梅垣明美、上谷浩一	145頁～154頁
学習規律の課題に取り組む「責任学習モデル」に学ぶ	単著	同年4月	体育科教育（第58第5号）		26頁～30頁
日本体育学会第60回大会体育科教育学専門分科会企画シンポジウム報告：体育を教える教師に今、求められる力量とは	共著	同年10月	体育科教育学研究（第26巻第2号）□		43頁、67頁～69頁
書評：西村秀樹（2009）スポーツにおける抑制の美学　静かなる強さと深さ．世界思想社.	単著	同年10月	スポーツ教育学研究（第30巻第1号）□		37頁～41頁
もう一つのフェアプレイ-コナン・ドイル『ロドニーストーン』を手がかりに-	単著	平成23年3月	大阪体育大学紀要（第42巻）		87頁～95頁
中学校における責任学習モデルの効果に関する実証的研究	共著	同年6月	体育学研究（56）	◎梅垣明美、草島進之介、上谷浩一	157頁～172頁
日本体育学会第61回大会 体育科教育学専門分科会企画シンポジウム報告：大学における体育教師養成における質的保証をどうするのか	共著	同年9月	体育科教育学研究（第26巻第2号）		29頁、49頁から50頁
翻訳『ボクシアーナ』（Boxiana：or sketches of ancient and modern pugilism.）（２）－第1巻.ジャック・ブロートン－	共著	同年3月	大阪体育大学紀要（第43巻）	◎梅垣明美、ウエイン・ジュリアン、上谷浩一	161頁～174頁
新学習指導要領における社会性の位置づけから今後の実践を展望する	単著	平成24年3月	体育科教育（第60第3号）		28頁～31頁
日本体育科教育学会第16回大会企画シンポジウム報告：確かな学力の定着に向けた「指導と評価」の在り方について	共著	同年9月	体育科教育学研究（第28巻第1号）□		31頁～35頁
体育・武道と人間形成	単著	同年10月	補導だより		6頁～9頁
体罰問題を考える：暴力によらない指導の検討	単著	平成25年3月	大阪体育大学紀要（第45巻）		209頁～216頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
平成21年4月～平成23年3月まで	日本体育科教育学会常任理事、日本体育科教育学会理事
平成25年4月～	日本体育科教育学会理事

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 大学	職名　教授	氏名　梅林　薫	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 授業評価では、各講義、実技とも平均以上の評価を得ている。 テニスⅡにおいては、視覚教材を活用しながら、また、グループ学習携も行っている。		
2　作成した教科書、教材、参考書 テニステキスト　−初心者指導法−	2014年3月31日	テニスⅠ（体育学部テニス実技　必修授業）に教科書として利用
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本コーチング学会、日本体育学会等で、テニス指導法について、発表を行っている。 教員免許講習において、授業におけるテニス指導法について担当し、講義を行っている。		
4　その他教育活動上特記すべき事項 演習については、個人の能力を伸ばすために、インターネットなどを利用しての学習指導を行っている。		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
テニステキスト	共著	平成24年３月	遊戯社	梅林　薫、松原慶子	6頁～35頁、46頁～57頁
論文					
一流ジュニアテニス選手に必要な体力要素の調査	共著	平成21年3月	大阪体育大学紀要 vol.40	今西　平、菅　勝揮、松原慶子、梅林　薫	81頁～89頁
投球トレーニングがジュニアテニス選手のサービス速度に及ぼす影響	共著	平成23年3月	大阪体育大学紀要 vol.42	今西　平、菅　勝揮、松原慶子、魚田尚吾、出井章雅、梅林　薫	43頁～50頁

大学ラグビー選手の体力特性 -スピード、パワー、筋力に着目して-	共著	平成24年３月	大阪体育大学紀要 vol.42	中井俊行、菅　勝揮、梅林　薫	11頁～21頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成22年4月～　現在に至る	日本コーチング学会理 日本コーチング学会の理事で、コーチング学研究の編集委員をと務めている。
平成20年4月～　現在に至る	日本体力医学会評議員
平成25,26年	日本テニス協会医科学委員会副委員長

１．指導クラブ名	テニス　　部（男子、女子）	２．役職	2009～監督 2014～部長	３．部員数	20　　人
４．現場指導の頻度	②　① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない				
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　14　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	②　①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①　①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				
８．部員の就職指導への取り組み	②　①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生テニストーナメント	5月第４週の１週間	靭テニスセンター
	関西学生テニスリーグ戦	９月１週、２週の５日間	各大学コート

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

（表18）

所属	体育学部	職名	教授	氏名	岡村　浩嗣	大学院における研究指導担当資格の有無	(有)・無

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１．教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 担当授業で使うスライドや配布資料のPDFファイルを研究室ホームページよりダウンロード出来るようにして、学生が欠席した場合などに役立つようにしている。		
２．作成した教科書、教材、参考書　市民からアスリートまでのスポーツ栄養学（八千代出版）	2011年	
３．教育方法・教育実践に関する発表、講 なし		
４．その他教育活動上特記すべき事項　なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
親子で学ぶスポーツ栄養	共著	2013	八千代出版	柳沢香絵・岡村浩嗣	127-137
Nutrition and Enhanced Sports Performance. Muscle Building, Endurance, and Strength. ed by　et al. pp. .	共著	2013	Elsevier	D Bagchi	415-421
サプリメントのほんととウソ	共著	2013	ナップ	下村吉治	71-91
ジムに通う人の栄養学　スポーツ栄養学入門	単著	2013	講談社ブルーバックス		
市民からアスリートまでのスポーツ栄養学	共著	2011	八千代出版	岡村浩嗣	1-10, 4-42, 131-139
スポーツ医学研修ハンドブック	共著	2011	文光堂	川原貴	43-50
スポーツ・運動生理学概説	共著	2011	明和出版	山地啓司	121-141
スポーツ現場に生かす運動生理・生化学	共著	2011	市村出版	樋口満	122-131
運動生理学のニューエビデンス	共著	2010	真興交易株式会社医書出版部	宮村実晴	170-178
栄養と運動医科学	共著	2010	建帛社	ネスレ栄養科学会議	55-83
スポーツ指導者のためのスポーツ医学	共著	2009	南江堂	小出清一、福林徹、河野一郎	8-13

砂糖の事典	共著	2009	東京堂出版	日高秀昌、岸原士郎、斎藤祥治	194-208
論文					
プロテインサプリメントが自転車競技アスリートのトレーニング効果に与える影響	共著	2013	日本スポーツ栄養研究誌	井上なぎさ、小清水孝子、田畑昭秀、白石裕一、神山慶人、寺門厚彦、岡村浩嗣	6: 18-27
Basal metabolic rates and body compositions of the elite Japanese male athletes	共著	2012	J Med Invest	T Koshimizu, Y Matsushima, Y Yokota, K Yanagisawa, S Nagai, K Okamura, Y Komatsu, T Kawahara	59:253-60
Exercise, nutrition and iron status.	共著	2012	J Phys Fitness Sports Med	Fujii T, Matsuo T, Okamura K.	1: 133-137
The effects of resistance exercise and post-exercise meal timing on the iron status in iron deficient rats	共著	2012	Biol Trace Elem Res.	Fujii T, Matsuo T, Okamura K	147: 200-205
Effect of a high protein diet on the anemia mitigating effect of resistance exercise in rats	共著	2011	Segment Journal, Nutritional Segment	T Fujii, T Matsuo, K Okamura	2(2) NS/1561
Effect of resistance exercise on iron status in moderately iron deficient rats	共著	2011	Biol Trace Elem Res	T Fujii, T Asai, T Matsuo, K Okamura	144: 983-991
寒冷環境下における飲料の温度、辛味のない唐辛子成分及びたんぱく質が成人男性の体温、温度感覚及び血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響	共著	2011	日本スポーツ栄養研究誌	奥村友香、近藤衣美、岡村浩嗣	4: 10-18
Effects of short-term refeeding after rapid or slow body mass reduction on body composition in adult rats	共著	2010	Obesity Research & Clinical Practice	S Tai, Y Yokota, Y Tsurumi, H Hasegawa, M Masuhara, K Okamura	4: e191-e199
Differential effects of rapid and slow body mass reduction on body composition during an equivalent weight loss in rats	共著	2010	Obesity Research & Clinical Practice	S Tai, Y Harada, Y Yokota, Y Tsurumi, M Masuhara, K Okamura	4: e91-e100
Effects of Rapid or Slow Body Mass Reduction on Body Composition in Adult Rats	共著	2009	J Clin Biochem Nutr	S Tai, Y Tsurumi, Y Yokota, Y Tsurumi, M Masuhara, K Okamura	45: 185-192

Ⅲ　学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期　　間	内　　容
1999年　～	日本体力医学会評議員
2003年　～　2008年～	日本オリンピック委員会情報・医・科学専門委員会科学サポート部会
2003年　～　2008年～	日本テニス協会スポーツ科学委員会サポート部会

2003年　～　2004年	スポーツ選手の栄養調査・サポート基準値策定及び評価に関するプロジェクト（国立スポーツ科学センター）					
Ⅳ　クラブ活動の指導業績						
１．指導クラブ名	柔道部／ボクシング部			２．役職	部長	３．部員数　／　人
４．現場指導の頻度	⑤	①　ほぼ毎日　②　週3日　③　週１日　④　現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤　全く関与していない				
５．合宿指導	年間合宿回数：　回			延べ日数：　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み		④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み		③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み		④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
９．年間の引率公式大会名	大　会　名			期　　間		場　　所
１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）						

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　大阪体育大学体育学部	職名　教授	氏名　加藤勇之助	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
朝から体温が低い子どもたち	共著	平成25年5月	芽ばえ社、子どもの体温と健康の話	野井真吾	64頁～71頁
運動と健康	共著	平成25年4月	大修館、現代保健体育指導ノート	鈴木一行	56頁～63頁
休養・睡眠と健康	共著	平成25年4月	大修館、現代保健体育指導ノート	鈴木一行	64頁～71頁
運動・休養と健康	共著	平成25年4月	大修館、現代保健体育指導ノート	鈴木一行	52頁～59頁
中高生男子の“からだづくり”の取り組み	共著	平成24年12月	有限会社ブックハウス・エイチディ	野井真吾	32頁～34頁
論文					
生徒の姿勢改善と主体的問題解決能力との関係－実践的姿勢教育を通して－	共著（筆頭）	平成26年4月	筑波教育学研究第12号	横尾智治・早貸千代子・岡崎勝博・中西健一郎	19頁～37頁

“自分が何をどれだけ食べたらよいか”のイメージを育てるー「3・1・2弁当箱法」を基礎にした食事・食事づくり法の実践	共著	平成25年11月	日本健康教育学会誌21巻第4号	足立己幸・高増雅子・早貸千代子・田中久子	338頁～346頁
養護教諭と共に行う食育実践報告ー生きる基礎をつくる筑駒LBCの取り組みについてー	共著（筆頭）	平成25年4月	筑波教育学研究第11号	早貸千代子	19頁～40頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　教授	氏名　柏森　康雄	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　○有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
保健体育科教育法Ａ・Ⅱ	平成21・22・23・24・25年度	各年度とも学生の授業評価の結果は、両科目とも学部の講義科目の平均値より高い値を示し、学生の授業評価は高かった。
体育の授業研究ＩＡ	平成21・22・23・24・25年度	
2　作成した教科書、教材、参考書		
保健体育科教育法Ａ・Ⅱ	平成21年　3月　初版	保健体育科教育法Ａ・Ⅱの授業用テキストを、直近のトピックや話題を加筆し、授業の進め方に沿って内容を刷新した。
保健体育科教育法Ａ	平成24年　4月　改訂	カリキュラムの変更に伴い、保健体育科教育法Ａ・Ⅱ講義用テキストを保健体育科教育法Ａに改訂した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
教員免許状更新講習　大阪体育大学　2010	平成22年　1月10・11日	球技の授業づくり（2コマ担当）
教員免許状更新講習　大阪体育大学　2011	平成22年　7月24・25日	球技の授業づくり（2コマ担当）
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
教員免許状更新講習　テキスト 大阪体育大学　2010	共著	2010年　7月	(株) フルノライフベスト	大阪体育大学教員免許状更新講習会委員会 (柏森・浅井・曽根他19名)	球技の授業づくり（Ｐ155～Ｐ166）
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容

平成21年度～現在に至る	関西大学バレーボール連盟　　会長
平成21年度～現在に至る	全日本大学バレーボール連盟　副会長
平成21年度～現在に至る	日本バレーボール学会　副会長
平成23・24年度	日本体育学会　体育方法専門分科会　　理事
平成24年度～現在に至る	西日本大学バレーボール連盟　会長

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	女子バレーボール部	２．役職　部長兼監督	2009年4月～2014年度3月	３．部員数	50人
４．現場指導の頻度	②	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　4　回		延べ日数：　16　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本大学バレーボール女子選手権大会	12月第1週	東京
	西日本大学バレーボール女子選手権大会	6月第4週	広島・兵庫（隔年開催）
	関西大学バレーボール連盟　春季・秋季1部リーグ戦	4・5月　　9・10月	関西地区各大学

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　教授	氏名　神﨑　浩	大学院における研究指導担当資格の有無（ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義ノートの作成	平成21年4月～	授業のポイント、用語の解説等を盛り込んだノートを作成し、それに沿った授業を展開している。また毎授業の終了前に、復習の意味で書売れポー津を書かせている。
授業評価の導入	平成21年4月～	授業評価を積極的に導入することで、得られたデータや学生の意見をある程度反映させて、授業の改善をしている。
パワーポイントを用いた視覚に訴える授業の導入	平成21年4月～	学生の理解を深めるためにパワーポイントを用い、視覚的に重要事項を示すことで、わかりやすい授業を心掛けている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
運動学・運動学概論講義ノート	平成21年～	授業のポイント、用語の解説等を盛り込んだノートを作成し、それに沿った授業を展開している。また毎授業の終了前に、復習の意味で書売れポー津を書かせている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
高槻市生涯スポーツ指導者養成講習会　講師	平成19年10月6日	高槻市市民を対象として武道指導のあり方についての研修
学校体育における武道（剣道）指導者研修会　講師	平成19年11月30日	福岡県の中・高校の教師を対象とした剣道授業の指導法の講習
新潟県高等学校指導者講習会　講師	平成20年12月7日	福岡県の中・高校の教師を対象とした特に部活動の指導法の講習
高槻市生涯スポーツ指導者養成講習会　講師	平成21年6月13日	高槻市市民を対象として武道指導のあり方についての研修
高槻市生涯スポーツ指導者養成講習会　講師	平成22年	高槻市市民を対象として武道指導のあり方についての研修
岩手県中体連主催　岩手県中学校剣道練成大会　講師	平成23年2月26日	岩手県及び近隣県の中学生を対象とした剣道指導
4　その他教育活動上特記すべき事項		
OSPA(大阪市スポーツ大学)講師	平成20年～	大阪市民を対象とした武道の紹介
全日本剣道連盟　社会体育指導員養成講習会講師	平成22年～	社会体育の免許取得のための講習会講師
全日本剣道連盟主催　剣道講師要員(試合・審判)研修会　参加	平成22年12月26日～27日	剣道の試合・審判の講習会を行うための講師を養成する講習会
全日本剣道連盟　普及委員会　学校教育部会委員	平成23年～	武道必修化に伴う中学校現場の指導者養成を目的とした委員会
全国剣道指導者講習会	平成23年～	武道必修化に伴う中学校現場の指導者養成を目的とした講習会の講師
岐阜国体少年アドバイザー	平成23年～24年	岐阜国体に向けた高校生の指導
鳥取県競技力向上対策事業ジュニア期一貫指導体制事業講習会	平成24年2月25.26日	鳥取県の事業への協力
福井国体剣道少年アドバイザー	平成24年～	福井国体に向けた中・高校生の指導

和歌山国体剣道少年アドバイザー	平成25年～	和歌山国体に向けた高校生の指導

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
剣道を知る事典	共著	平成21年５月	東京堂出版	日本武道学会剣道分科会	３頁
「必勝の展開」を解き明かす	単著	平成21年12月	スキージャーナル、剣道日本		４頁
KENDO INTRODUZIONE ALLA PRATICA	単著	平成22年10月	PONCHIROLI ITALY		174頁
自己の改良に取り組む寒げいこ	単著	平成２２年５月	月刊トレーニングジャーナル		６頁
クローズアップシリーズ　特集「右」に関する極意帳	単著	平成２２年7月	スキージャーナル、剣道日本		４頁
精神力養成の糸口	単著	平成２２年10月	コーチングクリニック　ベースボールマガジン社		６頁
剣道の術理シリーズ「左手で勝つ」	単著	平成２２年9月	剣道時代　体育とスポーツ出版社		４頁
剣道昇段審査合格の秘訣	共著	平成23年	体育とスポーツ出版社	剣道時代編集部	2頁
Some Thoughts on the “Art of Kantoku”	単著	平成２３年１０月	KENDO WORLD		６頁
武道に学ぶ反応力の極意	単著	平成２３年３月	コーチングクリニック　ベースボールマガジン社		５頁
徹底解明シリーズ第５弾「仕掛け技」大集結	単著	平成２３年4月	スキージャーナル、剣道日本		４頁
誌上公開講座シリーズ第一弾「こうしたら出ばなが打てる」	単著	平成２３年12月	剣道時代　体育とスポーツ出版社		４頁
論文					
「柔道畳の衛生状態に関する調査」　～白癬菌と大腸菌の発生状況～	共著	平成21年２月	大阪体育大学紀要　40(2009)	平野　亮策，村元　辰寛	41頁～48頁
剣道の衛生管理に関する研究（その１）～特に乾燥方法の違いによる小手の汚染と劣化について～	単著	平成23年2月	大阪体育大学紀要　42(2011)		23頁～30頁
剣道面打撃時の竹刀に加わる力についての研究～圧力測定用フィルムプレスケールを用いた測定～	共著	平成24年2月	大阪体育大学紀要　43（2012）	山口　幸一	111頁～119頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成19年8月～平成21年8月	日本武道学会評議員
平成23年3月～平成25年2月	全日本剣道連盟　普及委員会　学校教育部会委員
平成21年年8月28～30日	第14回世界剣道選手権大会女子団体・個人優勝（監督）
平成21年年9月16日	第55回全日本東西対抗剣道大会　出場　（優秀選手賞）
平成22年11月1日	文部科学大臣スポーツ功労者顕彰及び国際競技大会優秀者表彰受賞
平成23年5月3日	第59回全日本都道府県対抗剣道優勝大会　三位
平成23年9月16日	第57回全日本東西対抗剣道大会　出場　（優秀選手賞）

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	剣道　　部	２．役職	2009～総監督	３．部員数	70　　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　3　回	延べ日数：　30　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名

大　会　名	期　　間	場　　所
大阪学生選手権大会	4月下旬	大阪府内の大学体育館
関西学生選手権大会	5月中旬	大阪市中央体育館
西日本学生優勝大会	5月下旬	福岡市民体育館
大阪学生新人大会	6月中旬	大阪府内の大学体育館
全日本学生選手権大会	7月上旬	大阪府立体育館
大阪学生優勝大会	9月上旬	大阪府内の大学体育館
関西学生優勝大会	9月中旬	大阪市中央体育館
全日本学生優勝大会	10月下旬	日本武道館
関西学生新人大会	11月中旬	関西圏内の大学体育館
全日本女子学生優勝大会	11月下旬	愛知県武道館

	全日本学生オープン大会	12月中旬（2年に一度）	各地域連盟持ち回り

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成21年5月	関西学生選手権大会	優勝	大阪市中央体育館
平成21年10月	全日本学生優勝大会	準優勝	日本武道館
平成22年5月	西日本学生大会	3位	福岡市民体育館
平成22年11月	関西学生新人大会	優勝	大阪市中央体育館
平成23年9月	全日本学生選手権大会	3位	大阪市中央体育館
平成23年9月	関西学生優勝大会	優勝	大阪市中央体育館
平成24年5月	西日本学生大会	準優勝	福岡市民体育館
平成24年9月	関西学生優勝大会	優勝	大阪市中央体育館
	関西女子学生優勝大会	優勝	大阪市中央体育館
平成24年11月	関西新人大会	優勝	近大記念体育館
平成25年5月	関西学生選手権大会	優勝	大阪市中央体育館
	関西女子学生選手権大会	優勝・2位	大阪市中央体育館
平成25年5月	西日本学生大会	優勝	福岡市民体育館
平成25年7月	全日本学生選手権大会	3位	日本武道館
	全日本女子学生選手権大会	2位・ベスト8	日本武道館
平成25年11月	全日本女子優勝大会	3位	春日井市総合体育館
平成25年11月	関西新人大会	優勝	近大記念体育館

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　教授	氏名　工藤　俊郎	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
教養科目・基礎教育科目：「日本語技法」（2010年度までの名称は「日本語技法Ⅰ」）での作文指導	2009（H21）年度～2013（H25）年度	日本語作文に関する初歩的事項を解説した指導用テキスト（本学で作成）を用いて，毎時間各重点事項に留意した作文指導を行っている。この授業は，新入生全員の必修科目であり，レポート・論文の基本作法が本学初年次学生全員の共通了解事項となることを目的としたものである。
教養科目・基礎教育科目：「英語演習A」（e-learnin授業）の導入（2009,2010年度の名称は「英語A」）	2009年度～2013年度	e-ラーニング教材を主とした授業を2009年度から導入した。この授業は，学生アンケートで対面型授業よりも学生がまじめに取り組み，満足度が高い傾向が見られた。効果検証の結果，一定の学力を有する学生では期末のTOEIC Bridgeテストにおいて有意な成績向上を見出すことができた。
教養科目・一般教育科目：「心理学」での授業内での主要テーマに関する記述式問題と添削指導	2009年度～2013年度	各回の授業でテーマを決め，そのテーマに関して説明を行い，授業の最後の15分程度を割いて，そのテーマに関する問に対して回答を記述提出させている。提出された回答を次の授業までに添削・採点する。添削においては根拠を挙げて正しく日本語で記されているかの観点を重視して採点する。これにより授業の理解と理解した内容を論理的に記述する力を高めることを目指している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
畔津憲司・工藤俊郎・堤裕之・長尾佳代子「大阪体育大学における初年次教育改革の概要紹介」，日本リメディアル教育学会第1回関西支部大会発表予稿集，p.20.	2009.3.23	大阪体育大学において2006年度に開始した初年次教育改革の概要を紹介した。
長尾佳代子・工藤俊郎「大阪体育大学における作文添削授業「日本語技法Ⅰ」の運営報告」，日本リメディアル教育学会第5回全国大会発表予稿集，p.107-108	2009/9/1	「日本語技法Ⅰ」の授業の運営報告を行った。
工藤俊郎「大阪体育大学における英語eラーニング導入経過報告～英語eラーニングと従来型授業の比較～」，日本リメディアル教育学会第5回全国大会発表，予稿集,p.191-192	2009/9/1	eラーニング授業導入の経緯と従来型授業との学生の評価における比較結果の報告
工藤俊郎「eラーニング活用型授業に対する学生の評価と態度に関する調査結果」，ALC NetAcadem2ワークショップ名古屋招待講演	2009/11/21	eラーニング授業に対する学生の評価と態度についての調査結果の報告を行った。
工藤俊郎「eラーニング活用型授業に対する学生の評価と態度に関する調査結果および授業充実のための工夫」，ALC NetAcadem2ワークショップ京都招待講演	2010/7/3	eラーニング授業を充実させるための工夫について報告した。

工藤俊郎，長尾佳代子「数学コンピテンシーテスト記述解答にみる大体大生の傾向」，数学コンピテンシー研究会研究集会，湘南工科大学	2010/10/30	「日本語技法」による作文指導が数学の証明問題にも何らかの効果をもつかどうかを検討した結果を報告した。
工藤俊郎・長尾佳代子「必修授業との連携によって学生をリメディアル教育に導入する仕組みの構築について」，日本リメディアル教育学会第7回全国大会発表，予稿集p.125-126	2011/9/2	リメディアル教育のカリキュラム構築に際して必修科目との連携を緊密にすることで学生を確実に指導できるシステムを構築した大阪体育大学の実践を紹介した。
吉沢一也・中村建・工藤俊郎「学習支援と正規授業との連携（大阪体育大学における昼休み「英語講座」）」，日本リメディアル教育学会第7回全国大会発表,予稿集p.163-164	2011/9/2	必修授業「英語Ⅰ」の単位取得要件となっている英語基礎学力試験合格支援のための昼休み英語講座の運営について実践報告を行った。
小野博・田中周一・工藤俊郎「コミュニケーション能力育成部会設置記念講演：大学入学時に求められるコミュニケーション能力とその育成・測定方法」，日本リメディアル教育学会第7回全国大会発表,予稿集p.45-46	2011/9/2	大学での学業を円滑に進めるためには大学で友人を作ること，教員と意思疎通はかることが有用である。そのためのスキルとしてのコミュニケーション能力の育成を目指す活動に関する基礎研究の試みを報告した。これは科学研究費課題番号23652122研究代表者小野博の研究分担者として行った研究成果報告である。
田中周一，小野博，工藤俊郎「医系学生のコミュニケーション能力とその育成について」，日本リメディアル教育学会第4回関西支部大会，予稿集，p.30-31	2012/3/19	チーム医療ができる人材の育成を目指す医療系大学の昭和大学における学生のコミュニケション能力育成の試みとその試みの成果測定に関して報告を行った。
村上昌孝，工藤俊郎「初年次教育受講生の追跡調査」，日本リメディアル教育学会第8回全国大会発表,予稿集p.188-189	2012/8/29	初年次の作文授業が専門教育に効果をもたらしているのかを探るため，専門教育のゼミ担当教員にインターヴューした。その結果を整理して報告した。
工藤俊郎「学習型コミュニケーション能力(SCS)の評価テストの開発と質問紙調査結果」，日本リメディアル教育学会第8回全国大会発表,予稿集p.162-163	2012/8/29	大学で学ぶために有用なコミュニケーション能力育成のための講座の効果を測定するための質問紙の開発状況について報告した。
工藤俊郎「コミュニケーション力因子と心理特性の関係に関する考察」，日本リメディアル教育学会第6回九州沖縄支部大会,予稿集p.7-8	2012/9/15	コミュニケーション能力を支える心理特性因子は何であるかを分析した結果を報告した。
工藤俊郎「コミュニケーション能力の測定」，グローバル人材育成教育学会第1回全国大会予稿集，p.12-13	2013/10/26	グローバル人材には語学力と並んで異文化の人々と交流できる能力が求められる。コミュニケーション能力はその能力の一つと考えられる。その能力の測定尺度の開発について報告した。
ウェイン・ジュリアン，工藤俊郎「e-ラーニングを取り入れた，英語ネイティブ教員による英会話の授業」，日本リメディアル教育学会第6回関西支部大会，予稿集，p.30-31	2014/3/24	英語ネイティブ教員の授業にe-ラーニングを取り入れた授業の実践報告を行った。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
学習支援室の設立	2009年10月	大学で学問をするために必要な基礎学力を保障するため，およびキャリア支援につながる学力の養成のため，学習支援室を開設した。その際，教養教育センター所属教員として，その基本構想の策定および具体的活動の枠組み構築に参画し協力した。
英語基礎学力試験導入による実質的な英語基礎学力の保障	～2013年度	2007年度入学者から基礎的英文法理解を問う「英語基礎学力試験」を導入し，この合格を必修英語科目の単位認定要件としてきた。この試験は，正規授業とは独立させて温情的対応を排し要件を満たすかを問うものである。正規授業の課題に合格してもこの試験には不合格の者は2年次生になっても100名近く残る。これら学生に対する，学習支援室と連携した指導体制の構築に関与した。
ティーチングポートフォリオ構築	2010年前期～2013年後期	FD委員会では授業実施後の報告書（リフレクションペーパー，RPと記す）の提出を教員毎・科目毎に求めている。このRPの蓄積はティーチング・ポートフォリオの構築になる。その構築を行った。また，これを授業評価結果を含めてWeb上に公開するためのRP集の作成を行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「学士力を支える学習支援の方法論」，コラム12「データ整理の道具箱」	共著	2012年	ナカニシヤ出版	◎谷川裕稔他編	p. 287-289
論文					
「大阪体育大学「初年次教育科目」における学生の学習意欲」	単著	2009年3月	大阪体育大学紀要，第40巻		p. 195-212
「「日本語技法Ⅰ」授業設置の経緯とその効果」	共著	2009年3月	大阪体育大学紀要，第40巻	◎長尾佳代子・工藤俊郎・上谷浩一	p. 213-230
「1年次前期の作文指導の効果（一般教育科目「文学」課題レポートに現れた向上）」	共著	2010年3月	リメディアル教育研究，第5巻2号	◎工藤俊郎・長尾佳代子	p. 73-80
「学習型コミュニケーション能力の測定と育成方策」	共著	2012年3月	リメディアル教育研究，第７巻１号	◎小野博，工藤俊郎，穂屋下茂，田中周一，加藤良徳，長尾佳代子	p. 96-103
「学士力養成としてのリメディアル教育」	共著	2012年3月	リメディアル教育研究,第７巻１号	◎工藤俊郎・吉沢一也	p. 50-54
「大学生に有用なコミュニケーション能力の測定研究」	単著	2013年3月	リメディアル教育研究,第8巻1号		p. 147-161
「コミュニケーション能力育成講座とその効果測定（グローバル人材育成における応用可能性について）」	共著	2014年3月	グローバル人材教育研究，第1巻第1号	◎工藤俊郎，小野博	p. 46-54

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
～現在	日本心理学会会員
～現在	日本認知科学会会員

～現在	日本リメディアル教育学会会員
2010年2月～現在	大学教育学会会員
2013年8月～現在	グローバル人材育成教育学会会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	剣道　　部	２．役職	2009～2013 部長	３．部員数	人
４．現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　　回	延べ日数：　　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

（表18）

所属	体育学部	職名	教授	氏名	栗山　佳也	大学院における研究指導担当資格の有無	有　・　(無)

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１．教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
２．作成した教科書、教材、参考書		
３．教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４．その他教育活動上特記すべき事項	平成24年12月23日	日本陸上競技連盟　公認コーチ更新講習会　講師

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ体育･スポーツの科学	共著	平成18年4月	大修館	本学教員	244頁～247頁
論文					

Ⅲ　学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成１２年４月　～	日本陸上競技連盟　強化委員
平成１５年４月　～	日本学生陸上競技連合　強化委員
平成１８年４月　～	日本学生陸上競技連合　理事
平成２５年１１月　～	日本陸上競技連盟　強化委員会　投擲部長
平成２５年４月　～	関西学生陸上競技連盟　副会長
平成２３年	第１６回アジア大会（広州・中国）　日本選手団（陸上競技）役員
平成２４年８月	世界陸上競技選手権（大邱・韓国）　日本代表　役員
平成２５年７月	ユニバーシアード（カザン・ロシア）日本代表　役員
平成２５年８月	世界陸上競技選手権大会（モスクワ・ロシア）日本代表　役員

１．指導クラブ名	陸上競技　　部		２．役職	監督	３．部員数　260　人
４．現場指導の頻度		①　ほぼ毎日　②　週3日　③　週１日　④　現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤　全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　1　回		延べ日数：　7　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み		①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み		①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み		①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生陸上競技対校選手権大会	5月中旬(4日間)	長居陸上競技場ほか
	日本学生陸上競技対校選手権大会	9月上旬（3日間）	国立競技場ほか
	日本陸上競技選手権大会	6月上旬(3日間)	国立競技場ほか

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　績	場　所
平成21年16, 17, 23, 24日	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合3位、女子総合2位	西京極・長居陸上競技場
平成22年5月15, 16, 22, 23日	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合3位、女子総合2位	西京極・長居陸上競技場
平成23年5月12, 13, 14, 15日	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合4位、女子総合3位	長居陸上競技場
平成24年5月10, 11, 12, 13日	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合3位、女子総合4位	長居陸上競技場
平成25年5月16, 17, 18, 19日	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合3位、女子総合5位	長居陸上競技場

（表24）

所属	体育学部	職名	教授	氏名	坂本　康博	大学院における研究指導担当資格の有無	有　　無

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
1．教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） コーチング論Ⅰ	平成4年～	理解力向上と文章作成能力向上のために、毎時講義の残り10分間でレポートを作成し提出させている。内容について、また誤字脱字について次回の講義で解説。
2．作成した教科書、教材、参考書 コーチング論Ⅰ　　私製テキスト	平成4年～	講義内容と参考資料（計61頁）を配布しOHPを使用して講義。 重要事項と自分の意見を纏めるスペースを作り、そのつど記録させている。
3．教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特別演習（サッカー）	平成15年～	（財）日本サッカー協会公認インストラクターの資格で、（財）日本サッカー協会公認C級コーチ並びに（財）日本体育協会公認指導員の両ライセンスを平成25年度までに211名を認定。コーチングコース所属でサッカーⅠ・Ⅱを受講したサッカー部所属の学生に講義・指導実践を通しコーチング法を習得させ、ライセンス授与の判定を行う。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
1　サッカー部・サッカー部後援会共催・サッカーフェスティバル	昭和56年～	部員による主として卒業生の指導する、小・中・高校の各部門別大会の企画・運営・審判の指導
2　JC（泉佐野）杯・少年サッカー大会	平成3年～	部員による地元小学生のサッカー大会の企画・運営・審判の指導
3　ＯＵＨＳスポーツキャンプ	平成16年～	少年サッカーの実技指導

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ　学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成23年　～　現在	関西学生サッカー連盟　評議員
平成23年　～　現在	全日本大学サッカー連盟　評議員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

1．指導クラブ名	サッカー（男・女）　　部		2．役職	部長・総監督	3．部員数　270　人
4．現場指導の頻度	①	①　ほぼ毎日　②　週3日　③　週１日　④　現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤　全く関与していない			
5．合宿指導	年間合宿回数：　3　回		延べ日数：　20　日		
6．クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		
7．クラブの教育及び部員の学習への取り組み		①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		
8．部員の就職指導への取り組み		①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		

9．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西リーグ・関西選手権・新人戦・Ｉリーグ	4月～11月	関西各地
	総理大臣杯・全日本大学サッカートーナメント	7月or8月	関西各地
	全日本大学選手権	12月～1月	関東各地
	全日本選手権	7～12月	関西各地・東京（日本各地）

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　績	場　所
男子部　平成22年	関西学生選手権	準優勝	関西
平成23年	関西学生選手権	準優勝	関西
平成23年	**総理大臣杯・全日本大学サッカートーナメント**	**優勝**	関西
平成24年	関西学生選手権	準優勝　（総理大臣杯出場）	関西
平成25年	関西学生選手権	準優勝　（総理大臣杯出場）	関西
平成25年	関西学生リーグ	優勝	関西
平成25年	**全日本大学選手権**	**優勝**	関東各地
女子部　平成21年～平成25年	関西学生女子春季リーグ	優勝2回　準優勝3回	関西
平成21年～平成25年	関西学生女子秋季リーグ	連続全て優勝	関西
平成21年	全日本大学選手権	3位	神戸・東京
平成23年	全日本大学選手権	3位	神戸・東京
平成25年	全日本大学選手権	3位	神戸・東京
平成23年　～　25年	皇后杯・全日女子サッカー選手権	連続出場	全国各地

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　スポーツ教育学科	職名　教授	氏名　阪本孝志	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　○無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
教育は人間疎外を克服できるか	単著	平成21年２月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要第6巻		139頁～156頁
高校生の生活実態に関する研究（第6報）	単著	平成21 年３月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要第6巻		157頁～181頁
児童の権利委員会及び国際人権規約委員会の最終見解から日本の子どもの権利状況を考える	単著	平成25年３月	大阪体育大学紀要　第45巻（2014）		37頁～51頁

児童の権利委員会の最終見解から見える日本の子どもの権利状況	単著	平成25年３月	大阪体育大学紀要　第45巻（2014）		53頁～64頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間		内　　容
日本生活指導学会会員	平成22年より現在	
学校法人精華学園評議員	平成9年より現在	
阪神大学野球連盟、理事、監事	平成24年より現在	

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	硬式野球部	部長	2011～2014	３．部員数	186　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導、　試合引率 、強化合宿引率 ⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　25　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	阪神大学野球連盟　春季リーグ	春季（4月1日～5月30日）	万博野球場、南港中央野球場等
	阪神大学野球連盟　秋季リーグ	秋季（8月30日～10月26日）	万博野球場、南港中央野球場等

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2012年度	第61回全日本大学野球選手権大会	ベスト16	神宮球場
2012年度	第43回明治神宮野球大会	出場	神宮球場
2011年度	第60回全日本大学野球選手権大会	ベスト16	神宮球場
2011年度	第42回明治神宮野球大会	出場	神宮球場

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　教授	氏名　作道　正夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成26年4月～7月	「武道・稽古・修行論」 講義において九道会のビデオを観賞させ、各武道種目の＜文化性＞と＜技術性＞について理解を深め、講義と毎回のマトメ文の提出で、学生の理解を深められた。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成25年5月20日	「剣道を知る事典」日本武道学会剣道専門分科会編 東京堂出版、＜剣道の稽古とは＞２P、＜剣道稽古の心得＞２P、＜剣道の一本とは＞２P執筆
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成18年8月30日	「日本剣道形」－その指導法を考える（慶應義塾大学） 武道学会「剣道専門分科会」で約１時間30分講演
4　その他教育活動上特記すべき事項	平成25年、26年	大学授業他、全国各地で少年、中学生、高校生、更には成人剣道関係者のみならず「武道の文化性」について語り、体罰、暴力の根絶に勤めた。「対人性」「身体攻撃」－＜本能を刺激しつつよりよい理性へと導いていく＞「武の文化性」の啓蒙につとめた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
平成17年9月～現在に至る	全日本剣道連盟　指導委員会委員　平成25年9月より委員長
平成20年4月～現在に至る	大阪府剣道連盟・大阪府学校剣道連盟　副会長

Ⅳ　クラブ活動の指導業績					
１．指導クラブ名	剣道　　部	２．役職		３．部員数	70～80　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　5　回	延べ日数：　約　30　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本学生（男・女）（団体）（個人）、関西学生、大阪学生	5月、6月、7月、9月、10月、11月	東京、大阪、福岡、その他
	西日本学生（男・女）（団体）、都道府県対抗大会）男・女	5月、6月、7月	

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2009～2013	全日本学生大会個人（男子）　2011	第3位	府立体育館
2009～2013	全日本学生大会個人（男子）　2013	第3位	日本武道館
2009～2013	全日本学生大会個人（女子）　2013	第8位、第2位	日本武道館

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　教授	氏名　宍倉保雄	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ハンドボールⅠ・Ⅱ	平成２１年度～平成２５年度	年２回の学生による授業評価を行い設問内容に対する評価を次年度の授業に反映している。
２　作成した教科書、教材、参考書 ハンドボール競技における各種デフェンスに対する攻撃の戦術をDVDに編集。	平成21年度～平成２５年度	6:0および 3:2:1のDFに対する有効なグループ戦術をまとめ授業に活用している。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本ハンドボール協会主催　NTS近畿ブロック講習会（技術委員長）	平成２１度～平成２５年度	近畿ブロック：小学生・中学生・高校生男女約100名を集め、ナショナルトレーニングシステムについて実技指導および当該指導者にたいして講習会を行っている。
４　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
昭和４８年４月～現在	日本体育学会　会員　　日本体力医学会　会員
昭和４９年４月～現在	関西学生ハンドボール連盟　理事
昭和５６年４月～現在	全日本学生ハンドボール連盟　競技担当理事

平成１２年４月～現在	日本ハンドボール協会　NTS（ナショナルトレーニングシステム）　近畿ブロック　技術委員長

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	男子ハンドボール　　部		２．監督	1974年～現在	３．部員数　３４　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　4　回		延べ日数：　20　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生ハンドボール１部　春・秋リーグ	4月から5月・9月から10月	京阪神地区
	西日本学生ハンドボール選手権	８月	西日本各地
	全日本学生ハンドボール選手権	１１月	日本各地
	全日本総合ハンドボール選手権	１２月	日本各地

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成２１年４月～５月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪地区
平成２１年８月	西日本学生ハンドボール選手権大会	優勝	福岡
平成２１年９月～１０月	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	優勝	京阪地区
平成２１年１１月	全日本学生ハンドボール選手権大会	ベスト８	石川
平成２２年４月～５月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪地区
平成２２年７月	西日本学生ハンドボール選手権大会	優勝	岡山
平成２２年９月～１０月	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	優勝	京阪地区
平成２２年１１月	全日本学生ハンドボール選手権大会	ベスト８	大阪
平成２３年４月～５月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪地区
平成２３年８月	西日本学生ハンドボール選手権大会	第３位	愛知
平成２３年９月～１０月	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	優勝	京阪地区

平成２３年１１月	全日本学生ハンドボール選手権大会	ベスト８	岩手
平成２４年４月～５月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪地区
平成２４年８月	西日本学生ハンドボール選手権大会	準優勝	京都
平成２４年９月～１０月	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	優勝	京阪地区
平成２４年１１月	全日本学生ハンドボール選手権大会	第３位	福岡
平成２４年１２月	全日本総合ハンドボール選手権大会	ベスト８	大阪
平成２５年４月～５月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	第３位	京阪地区
平成２５年８月	西日本学生ハンドボール選手権大会	準優勝	福岡
平成２５年９月～１０月	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	優勝	京阪地区
平成２５年１１月	全日本学生ハンドボール選手権大会	第３位	山梨
平成２４年１２月	全日本総合ハンドボール選手権大会	ベスト８	愛知

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

（表18）

所属	体育学部	職名	教授	氏名	滝瀬　定文	大学院における研究指導担当資格の有無	(有)・無

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１．教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
1）健康指導管理論、衛生学（公衆衛生学）でのレポート作成指導	平成21年度～	毎回の授業で、当日の講義内容に関するレポート課題を設定し、レポート作成を通じて毎時の授業内容の理解度の確認を行っている。授業内容に関する課題をまとめることにより講義内容の要点や知識を整理し、文章作成による論理的思考力の向上を図っている。
2）健康スポーツマネジメント学演習I、健康スポーツマネジメント学演習IIでの視覚教材活用（プレゼンテーション形式）による理解度の向上	平成21年度～	プレゼンテーション形式での授業方法である。講義スライドは、スポーツ生理学やスポーツ医学に関連するビジュアルな資料として、スポーツ生理学実験や組織学的研究から得られた組織標本や光学顕微鏡像、走査型電子顕微鏡像を豊富に資料活用し、学生の理解度の向上を図っている。
3）水泳IIでの「水泳授業の指導法ならびに水泳実技の模擬授業」の指導実践のよる体育科実技指導能力の養成	平成25年度～	水泳IIでは、水泳・水中運動科学に関する理論と実践とともに学校体育（水泳）における安全・衛生管理をはじめ水泳授業の指導法ならびに水泳実技の模擬授業」の指導実践を通して、保健体育科教員として備えなければならない体育科実技指導法の習得を図っている
4)学生による授業評価の実施	平成21年度～	FD委員会による授業評価を受け、学生の意見を授業内容に関する評価や取り入れ、講義方法等の改善を行っている。
２．作成した教科書、教材、参考書		
運動生理学のニューエビデンス （真興交易（株）医書出版部）	平成22年度～	本書は、運動生理学の分野で国際的レベルで活躍する研究者によってまとめられた運動生理学の最新知識に関する共著書である。体育学部の健康指導管理論や衛生学（公衆衛生学を含む）、大学院のスポーツ生理学特論、スポーツ生理学特論演習の受講者に、講義の参考図書として提示し、学習内容や研究課題のための参考書として活用している。
３．教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
枚方市教育委員会　授業の達人・教科研究講座「小学校・中学校保健体育」講師	平成25年度～	枚方市教育委員会　授業の達人・教科研究講座「小学校・中学校保健体育」講師を担当した。小学校及び中学校の教員を対象に、水泳・水中運動におけるスポーツ生理学講義と小学生や初心者の泳法指導法や授業実施時の安全管理について講演を行った。
４．その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
運動生理学のニューエビデンス	共著	平成22年	真興交易（株）医書出版部	編者：宮村実晴、著者（執筆担当箇所）：滝瀬定文、河上俊和	138頁～145頁

論文					
バタフライ アジア・日本記録保持者の記録樹立要因を探る How to Coaching Butterfly	共著	平成21年	日本水泳・水中運動学会2009年論文集	井出貴久、吉村豊、河本耕平、滝瀬定文、河上俊和	66頁～69頁
Effects of a Decrease in Mechanical Stress on Femoral Regional Bone Mineral Density and Osteoblast Microstructure: Comparison in a Model of Freely Mobile and Cast Immobilized Rats	共著	平成21年	Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine. Vol.58, No.2.	Toshikazu Kawakami, Sadafumi Takise, Daisuke Gima	305頁～316頁
Effects of Masticatory Movement on Cranial Bone Mass and Micromorphology of Osteocytes and Osteoblasts in Developing Rats	共著	平成21年	Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition Vol.18, No.1.	Toshikazu Kawakami, Sadafumi Takise, Takafumi Fuchimoto,Hiroshi Kawata	96頁～104頁
Effects of Reduced Knee-bend on 100 Butterfly Performance: A Case Study Using the Men’s Asian and Japanese Record Holder	共著	平成22年	Biomechanics and medicine in swimming Vol.11.	Takahisa Ide,Yutaka Yoshimura, Kohei Kawamoto,Sadafumi Takise,Toshikazu Kawakami	270頁～271頁
Effects of Physical Exercise on Femoral Bone Mineral Density and Osteocyte Micromorphology in Ovariectomized (OVX) Rats	共著	平成22年	Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine. Vol.59, No.4.	Toshikazu Kawakami, Sadafumi Takise, Hiroshi Kawata	395頁～406頁
廃用性萎縮におけるラット腱コラーゲン線維の組織学的研究	共著	平成23年	スポーツ整復療法学研究　第12巻　第3号	細川賢司、滝瀬定文、河上俊和	155頁～161頁
骨折治癒過程における血管網の組織学的研究	共著	平成23年	スポーツ整復療法学研究　第13巻　第1号	向井裕貴、滝瀬定文、河上俊和、川久保昭秀	27頁～32頁
唾液アミラーゼからみた水泳選手のストレスについて	共著	平成23年	日本水泳・水中運動学会2011年論文集	川久保昭秀、滝瀬定文、河上俊和、尾関一将、谷川哲朗	150頁～151頁
フィンスイミングにおけるキック動作とビーフィンの動きの関係	共著	平成23年	日本水泳・水中運動学会2009年論文集	谷川哲朗、川久保昭秀、滝瀬定文、尾関一将、河上俊和、野村照夫	158頁～159頁
骨折治癒過程における免疫組織化学的研究	共著	平成24年	スポーツ整復療法学研究　第13巻　第3号	向井裕貴、滝瀬定文、河上俊和	161頁～169頁
水素イオン指数が角膜上皮細胞に及ぼす衛生学的研究	共著	平成24年	スポーツ整復療法学研究　第13巻　第1号	滝瀬定文、河上俊和、谷川哲朗	1頁～10頁
Straightness Knee Butterfly Kick Markes More Lactate Acid During Buterfly Swimming. A Case Study with a High-Level Swinner.	共著	平成24年	Inter national Journal of swimming Kinetics. Vol.1, No.1.	Takahisa Ide, Sadafumi Takise, Yutaka Yoshimura, Kohei Kawamoto, Steve Schaffer, William F. Johnson, Toshikazu Kawakami	51頁～59頁

プール水が水泳愛好者の皮膚及び毛髪に及ぼす影響	共著	平成24年	日本水泳・水中運動学会2012年次大会論文集	河上俊和、滝瀬定文、中原亮太、谷川哲朗	30頁～32頁
中高年女性における水中ウォーキングが血中レプチンに及ぼす影響	共著	平成25年	日本水泳・水中運動学会2013年次大会論文集	河上俊和、滝瀬定文、古河準平、奥田修人、佐川光一、井出貴久	22頁～23頁
競泳スタート後の潜水局面が記録に及ぼす影響	共著	平成25年	日本水泳・水中運動学会2013年次大会論文集	奥田修人、滝瀬定文、井ノ坂大樹、河上俊和、古河準平、佐川光一、井出貴久	112頁～113頁
整形外科的メディカルチェックからみた大学競泳選手の身体的特徴	共著	平成25年	日本水泳・水中運動学会2013年次大会論文集	川島康弘、滝瀬定文、尾関一将、河上俊和	126頁～127頁
報告書					
西安體育學院・大阪体育大学大学院 スポーツ科学研究科特別企画　大学院若手研究者ジョイントミーティング 報告書	共著	平成21年	大阪体育大学大学院・ 西安體育學院　スポーツ科学研究科特別企画　大学院若手研究者ジョイントミーティング 報告書　大阪体育大学 国際・地域交流委員会	大阪体育大学 国際・地域交流委員会	
大阪体育大学大学院・ 西安體育學院 大学院学術交流 報告書	共著	平成22年	大阪体育大学大学院・西安體育學院 大学院学術交流報告書　大阪体育大学 国際・地域交流委員会	大阪体育大学 国際・地域交流委員会	
第4回全国学生選抜合同合宿　（財）日本水泳連盟学生委員会関西支部報告書	共著	平成22年	第4回全国学生選抜合同合宿（財）日本水泳連盟学生委員会関西支部報告書	（財）日本水泳連盟学生委員会関西支部競泳強化委員会	1133頁～1134頁
西安體育學院の「体育・スポーツ教育課程」に関する現状調査	共著	平成24年	2011年度　大阪体育大学　西安體育學院　　国際交流報告書	滝瀬定文、河上俊和、徐旻君	46頁～70頁

Ⅲ　学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成21年　～	日本体育学会 会員（現在に至る）
平成21年　～	大阪体育学会 会員（現在に至る）
平成21年　～	日本運動生理学会 会員（現在に至る）
平成21年　～	日本体力医学会 会員（現在に至る）
平成21年　～	日本体力医学会　評議員　　（現在に至る）
平成21年　～	日本水泳・水中運動学会 会員（現在に至る）
平成21年　～	日本スポーツ整復療法学会 会員（現在に至る）
平成21年　～	日本スポーツ整復療法学会　評議員（現在に至る）

平成21年	～	平成23年	公益財団法人　日本水泳連盟　学生委員会　関西支部　強化委員長
平成21年	～	平成24年	高槻市スポーツ振興課　生涯スポーツリーダー育成講座　講師
平成21年	～		公益財団法人　日本水泳連盟　学生委員会　関西支部　運営委員（現在に至る）
平成23年	～		公益財団法人　日本水泳連盟　学生委員会　関西支部　支部長（現在に至る）
平成23年	～		公益財団法人　日本水泳連盟　上層審判員（現在に至る）
平成23年	～		公益財団法人　日本水泳連盟 第5回全国学生選抜合同合宿　役員
平成23年	～		日本水泳水中運動学会 奨励賞 受賞（共著・研究責任者）
平成23年	～		日本スポーツ整復療法学会 最優秀奨励賞 受賞（共著・研究責任者）
平成23年	～		日本スポーツ整復療法学会 優秀奨励賞 受賞（共著・研究責任者）
平成23	～		NPO法人 大阪府高齢者大学校 講師　（現在に至る）
平成24年	～		日本スポーツ整復療法学会　関西支部　相談役
平成24年	～		公益社団法人　日本プールアメニティ協会　学校プール管理者講習会　講師（現在に至る）
平成24年	～		公益社団法人　日本プールアメニティ協会　プール衛生管理者講習会　講師（現在に至る）
平成24年	～		一般財団法人　大阪水泳協会　評議員（現在に至る）
平成25年			公益財団法人　健康・体力づくり事業団　理事長感謝状表彰
平成25年	～		枚方市教育委員会　授業の達人・教科研究講座「小学校・中学校保健体育」　講師　（現在に至る）
平成25年	～		熊取町　体力若返り講座　講師（現在に至る）
平成25年	～		高槻市みどりとスポーツ振興事業団　高槻スポーツ大学　講師（現在に至る）

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

1．指導クラブ名	水上競技　部	2．役職	部長・監督	3．部員数	55人（男子30人、女子26人）
4．現場指導の頻度	①	①　ほぼ毎日　②　週3日　③　週１日　④　現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤　全く関与していない			
5．合宿指導	年間合宿回数：　男女 各 3　回	延べ日数：　30　日			
6．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
7．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
8．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

9．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	日本選手権水泳競技大会　競泳	4月(4日間)	東京・辰巳国際水泳場
	関西学生短水路公認記録会	4月(1日)	兵庫・尼崎スポーツの森
	関西学生チャンピオンシップ水泳競技大会	5月（2日間）	和歌山・秋葉山公園県民水泳場
	ジャパンオープン2014（50m）	6月（4日間）	東京・辰巳国際水泳場
	関西学生夏季公認記録会	6月(2日間)	京都・京都アクアリーナ
	関西国公立大学選手権水泳競技大会	7月（2日間）	奈良・まほろば健康パーク スイムピア奈良

	関西学生選手権水泳競技大会	7月（3日間）	大阪・大阪府立門真スポーツセンター
	全国国公立選手権水泳競技大会	8月（3日間）	宮城・利府グランディ21
	関西学生プレインカレ水泳競技大会	8月（1日）	京都・京都アクアリーナ
	日本学生選手権水泳競技大会　競泳競技	9月（3日間）	神奈川・横浜国際プール
	国民体育大会　競泳競技	9月（3日間）	長崎・長崎市民総合プール
	日本選手権（25m）水泳競技大会（FINA 競泳ワールドカップ東京）	10月（2日間）	東京・辰巳国際水泳場
	関西学生冬季公認記録会	12月（1日）	京都・京都アクアリーナ
	関西学生春季室内選手権水泳競技大会	3月（1日）	奈良・まほろば健康パーク　スイムピア奈良

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　績	場　所
2009年，7月24～26日	第83回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m自由形第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第83回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第83回関西学生選手権水泳競技大会	男子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子100m背泳ぎ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子100m平泳ぎ第2位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子200m平泳ぎ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子800mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	大阪プール
2010年，2月27～28日	第51回日本短水路選手権水泳競技大会	男子 400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第8位	東京辰巳国際水泳場
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子50m自由形第3位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m自由形第3位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m背泳ぎ第2位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m背泳ぎ第3位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ優勝	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ第3位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m平泳ぎ第2位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m平泳ぎ第2位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ第3位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第2位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第2位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ第2位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第84回関西学生選手権水泳競技大会	男子総合第2位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第46回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子100m平泳ぎ第3位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第46回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2010年，7月30～8月1日	第46回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2010年，9月3～5日	第86回日本学生選手権水泳競技大会	女子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第8位	東京辰巳国際水泳場
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子50m自由形第2位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m自由形優勝	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子1500m自由形第2位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子1500m自由形第3位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m背泳ぎ優勝	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ優勝	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m平泳ぎ第3位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m平泳ぎ第2位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ第2位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ優勝	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第2位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子800mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ第2位	大阪プール
2011年，7月29～31日	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子総合優勝	大阪プール
2011年，11月12～13日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2011	男子200m平泳ぎ第18位	東京辰巳国際水泳場
2011年，11月12～13日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2011	女子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第35位	東京辰巳国際水泳場

2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子50m自由形第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m自由形第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子400m自由形第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子1500m自由形第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m背泳ぎ優勝	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ優勝	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m平泳ぎ第2位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ優勝	大阪プール
2012年，7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子総合第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第48回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子100m平泳ぎ第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第48回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第2位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第48回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第48回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2012年，11月6～7日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2012	男子50m自由形第36位	東京辰巳国際水泳場
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	男子50m平泳ぎ第31位	東京辰巳国際水泳場
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	男子50m平泳ぎ第32位	東京辰巳国際水泳場
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	男子100m平泳ぎ第20位	東京辰巳国際水泳場
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	男子200m平泳ぎ第６位	東京辰巳国際水泳場
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	女子50mﾊﾞﾀﾌﾗｲ第31位	東京辰巳国際水泳場
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	女子100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ第32位	東京辰巳国際水泳場
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	混合200mﾌﾘｰﾘﾚｰ第26位	東京辰巳国際水泳場
2013年，2月23～24日	第54回日本短水路選手権水泳競技大会	男子200m平泳ぎ第4位	東京辰巳国際水泳場
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子200m背泳ぎ第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子100m平泳ぎ優勝	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子100m平泳ぎ第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子100m平泳ぎ優勝	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子200m平泳ぎ第2位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第2位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子400mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子800mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子400mﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ第2位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	女子100m自由形第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	女子200m平泳ぎ第2位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，7月26～28日	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m背泳ぎ第3位	なみはやドーム
2013年，7月26～28日	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ第3位	なみはやドーム
2013年，7月26～28日	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m平泳ぎ優勝	なみはやドーム
2013年，7月26～28日	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m平泳ぎ優勝	なみはやドーム
2013年，7月26～28日	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ優勝	なみはやドーム
2013年，7月26～28日	第87回関西学生選手権水泳競技大会	女子100m自由形第2位	なみはやドーム

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　教授	氏名　土屋裕睦	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） （学部）スポーツ心理学、スポーツカウンセリング、スポーツメンタルトレーニング指導論、剣道ⅠA、スポーツ心理学実験実習、インターンシップB （大学院）スポーツカウンセリング論特論、スポーツカウンセリング特講演習、スポーツカウンセリング特論、スポーツカウンセリング特論演習、スポーツ科学論	2009年4月～現在	授業にあたっては、①視聴覚機材の活用、②対話のある授業の推進、③オフィスアワーと教員連絡先（メールアドレス）の明示に努め、学生による授業評価では、いずれの授業も学内平均よりも高い評価を得ている。
2　作成した教科書、教材、参考書 「インターンシップ実習マニュアル」 「これから学ぶスポーツ心理学」	 2009年4月～現在 2009年4月～現在	 インターンシップBテキストとして作成した。 スポーツ心理学テキストとして大修館書房より上梓した（荒木編著）。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本体育協会スポーツドクター養成講習会、日本体育協会公認指導者養成講習会、障害者スポーツ指導者養成講習会、和歌山県・大阪府内教育委員会いじめ･不登校問題研修会、他	2009年4月～現在	スポーツカウンセリングやメンタルトレーニング指導等のスポーツ心理学関連のテーマについて、教育実践に関する発表、講演を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項 大阪体育大学学生相談室・スポーツカウンセリングルームにて心理カウンセラー	2009年4月～現在	大阪体育大学学生相談室・スポーツカウンセリングルームにて心理カウンセラー(週２日、金曜日･土曜日)を担当

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
新しい時代におけるスポーツ指導のあり方ースポーツカウンセリングの現場からー.	共著	2013年	学研パブリッシング	文部科学省（編）私たちは未来から「スポーツ」を託されている：新しい時代にふさわしいコーチング.	122-123頁
ソーシャルサポートを活用したスポーツカウンセリングーバーンアウト予防のためのチームビルディング	単著	2012年	風間書房		1-280頁
アスリートへのメンタルサポートと震災.	共著	2012年	創元社	山中康裕（監修）揺れるたましいの深層―こころとからだの臨床学	236-245頁
メンタルトレーニング	共著	2012年	文光堂	日本体育協会（監修）スポーツ医学研修ハンドブック応用科目　第二版	21-29頁

ソーシャルサポートの活用．チームスポーツのメンタルトレーニング．メンタルトレーニングとカウンセリング．スポーツメンタルトレーニング指導士.	共著	2012年	ミネルヴァ書房	中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二「よく分かるスポーツ心理学」	138-171頁
研究論文の中に書き込むこと	共著	2012年	図書文化	日本教育カウンセリング学会（編著）「教育実践者のための調査研究入門　リサーチマインドとリサーチデザイン．」	138―141頁
スポーツ選手の抱える心理的問題と人格的発達	共著	2011年	福村出版	杉原隆（編著）「生涯スポーツの心理学」	132-142頁
スポーツカウンセリング	共著	2011年	大修館書店	荒木雅信（編著）「これから学ぶスポーツ心理学」	94-103頁
リーダーシップスキルを養う	共著	2011年	大修館書店	徳永幹雄（監訳）「コーチングに役立つ実力発揮のメンタルトレーニング」	122-123頁
論文					
大学生アスリートにおける不安と実力発揮の関係－競技特性不安と心理的競技能力に着目して－.	共著	2013年	びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要，11	福井邦宗，土屋裕睦，豊田則成	71-77頁
2011年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告.	共著	2013年	大阪体育大学紀要（事例報告），44	土屋裕睦，高橋幸治，今堀美樹，荒屋昌弘，前林清和，菅生貴之	121-138頁
オリンピアが語る体験と望まれる心理的サポートの検討―出来事に伴う心理的変化と社会が与える影響に着目して―	共著	2012年	スポーツ心理学研究　第39巻第1号	林晋子・土屋裕睦	1-14頁
2010年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告.	共著	2012年	大阪体育大学紀要（事例報告），43	土屋裕睦，高橋幸治，今堀美樹，荒屋昌弘，前林清和，菅生貴之	121-138頁
熟練したハンドボールキーパーのペナルティスローにおける視覚探索ストラテジーとコース予測の判断根拠.	共著	2012年	大阪体育大学紀要（原著論文），43	松本善枝・楠本繁生・佐藤孝矩・土屋裕睦	43-52頁
スポーツ集団を対象とした集合的効力感研究の現状と今後の展望：パフォーマンスとの関連性ならびに分析方法に着目して.	共著	2011年	体育学研究Vol．56（2011），No．2	内田 遼介，土屋 裕睦，菅生 貴之	491-506頁
2009年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告.	共著	2011年	大阪体育大学紀要（事例報告），42	土屋裕睦，高橋幸治，今堀美樹，荒屋昌弘，前林清和，菅生貴之，松本和典	149-167頁
イメージ能力と心理的競技能力の関係.	共著	2011年	大阪体育大学紀要（資料論文），42	前田実奈・松本善枝・土屋裕睦	61-69頁
シーズン中のスポーツ傷害発生に関わる心理社会的背景.	共著	2011年	大阪体育大学紀要（原著論文），42	東　亜弓・土屋裕睦	31-42頁
ミーティングの心理学.	単著	2011年	コーチングクリニック，2011-2		12-17頁
アスリートへのメンタルサポートの最前線.	単著	2010年	体育の科学，61-12		912-917頁
知的障害児を対象としたダンス教室におけるプログラムの検討.	共著	2010年	大阪体育大学紀要（資料論文），41	安田友紀・溝端茂樹・土屋裕睦	95-104頁
試合を控えた女子競技チームに対する心理的コンディショニング.	共著	2010年	大阪体育大学紀要（資料論文），41	奥野真由・土屋裕睦・川島康弘・滝瀬定文	115-124頁

「メンタルサポート」の役割を考える.	単著	2010年	コーチングクリニック，2010-9		20-27頁
オリンピックとメンタルトレーニング.	単著	2009年	スポーツ心理学研究，36-1		21-24頁
大阪体育大学におけるメンタルサポートとスタッフの育成.	単著	2009年	臨床スポーツ医学，「特集　アスリートの		677-681頁
大学新入運動部員に対する構成的グループ・エンカウンターの適用―ソーシャル・サポート獲得に向けた教育プログラムの開発とバーンアウト抑制効果の検討―.	共著	2009年	カウンセリング学研究，42-2	土屋裕睦，細川佳博	165-175頁
スポーツカウンセリングと心理的サポート.	単著	2009年	櫂，第12号		52-62頁
大阪体育大学スポーツカウンセリングルームにおけるメンタルトレーニング指導（3）－スポーツカウンセリングを通じた競技力向上の可能性―.	単著	2009年	メンタルトレーニング・ジャーナル（実践		14-16頁
レーシングドライバーのピークパフォーマンスにおける心理的世界－修正版グランデッド・セオリー・アプローチによる事例研究－.	共著	2009年	大阪体育大学紀要（資料），40	徳弘隆伸・土屋裕睦	143-156頁
初心者にとってゴルフ体験とは？－文章完成法による分析－.	共著	2009年	大阪体育大学紀要（原著），40	原端子・祐末ひとみ・原田純子・土屋裕睦・荒木雅信	117-130頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成22年9月	平成22年度　日本カウンセリング学会学校カウンセリング松原記念賞　受賞
平成23年４月～	日本オリンピック委員会（JOC）科学サポート部門員
平成25年４月～	文部科学省「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議」（タスクフォース）委員
平成25年４月～	日本スポーツ心理学会理事・資格認定委員長

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	剣道コーチ・なぎなた部部長　　部	２．役職	例：2009～コーチ 2013～部長	３．部員数	６人（なぎなた部）
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　　回	延べ日数：　　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間		場　　所	

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2013年度	関西学生なぎなた選手権大会	演技・団体・個人　優勝	
2013年度	全日本学生なぎなた選手権大会	演技　2位	
2013年度	西日本学生なぎなた選手権大会	団体　優勝／2位演技・団体・個人　優勝	

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部　健康スポーツマネジメント学科	職名　教授	氏名　冨山浩三	大学院における研究指導担当資格の有無 （有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
チームアイデンティティ構築におけるチーム・レピュテーションとセンス・オブ・コミュニティの影響　－J2リーグ所属サッカークラブサポーターの事例－	単著	2014年9月	スポーツ産業学研究（第24巻第2号）		195頁～210頁
新規参入プロスポーツチームの観戦者特性	共著	2013年9月	生涯スポーツ学研究（第9巻第1号）		33頁～42頁
自然体験活動施設における指定管理者制度の導入とサービス変化	共著	2011年6月	生涯スポーツ学研究（第8巻第1号）		23頁～31頁
フィールドホッケー観戦者の観戦動機と種目への愛着　－マイナースポーツ種目の普及の観点から－	共著	2011年4月	大阪体育大学紀要（第42巻）		77頁～86頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成23年4月～	日本スポーツマネジメント学会　理事
平成24年4月～	日本生涯スポーツ学会理事
平成16年4月～	日本キャンプ協会専門委員
	堺市教育スポーツ振興事業団理事

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	体育実技研究　　部	２．役職	部長	３．部員数	５０　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　1　回	延べ日数：　4　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	―	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	―		

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
	―		

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　大阪体育大学	職名　教授	氏名　豊岡示朗	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　○有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
大阪体育大学　「体力トレーニング論・同実習」での実践	平成11年4月～	講義によりトレーニングの知識と理論を学び、実習にて実践を行うことで、理論の実践の往還を繰り返しながら理解度を高めている。
２　作成した教科書、教材、参考書		
図と表による体力トレーニング論ノート	平成21年4月～	毎年、数ページ、加筆をして改訂
体力トレーニング論ノート(教材)	平成11年4月～	体力トレーニング論・同実習の授業時に役立てるため作成。ページ数212ページ毎年改訂
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
大阪体育大学・学生による授業評価	平成23年度～	毎年度２回行われる授業評価において、5点満点中4.0以上の高い評価を受けている。
教育学部採用における評価	平成26年8月	体育学部において「体力トレーニング論・同実習」の授業担当の中心者として担当を総括し、運営してきた実績を高く評価している。 学部の演習及び大学院における論文指導に対して高い評価をしている。新設する教育学部において、専門演習及び卒業論文の指導における牽引者として期待している。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
大阪体育大学研究委員長	平成7年4月	研究予算の配分，研究談話会の継続などの企画・運営を委員長として担った。（平成9年3月まで）
大阪体育大学研究委員長	平成11年4月	研究予算の配分，談話会，紀要編集のまとめ役を委員長として担った。（平成13年3月まで）
大阪体育大学体力トレーニングセンター長	平成13年4月	現在のトレーニング科学センターの基礎となる体力トレーニングセンターの立上げから運営管理に、センター長として管理責任を担った。（平成17年3月まで）
大阪体育大学国際交流委員長	平成17年4月	カナダ，中国，台湾にある姉妹大学との交流推進役（平成19年3月まで）
アミノバリューランニングクラブ　ｉｎ　南大阪	平成20年6月～	走るための知識を基礎から応用まで分かりやすく解説し、実技ではグループに分けてトレーニング、ランニングを指導。受講者も年々増加し、好評を得ている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数

著書					
ラン二ングリテラシー	共著	平成23年8月	大修館書店	ラン二ング学会編	140頁～162頁
これが体に効くトレーニングだ	共著	平成23年8月	大修館，東京 ランニングリテラシー　p.140-162	第８章の長距離走、マラソンの各種トレーニング方法について具体的にまとめた。	
論文					
インドアサイクリング（スピニング）の生理学的特徴	共著	平成21年3月	大阪総合保育大学紀要、第3巻		91頁～98頁
インドアサイクリング（スピニング）の生理学的特徴	共	平成21年3月	大阪総合保育大学紀要 第3巻	８名の成人男子を被験者として45分間のスピニングプログラムを実施したところ、有酸素および無酸素的能力を高めるトレーニング法として有用である事を指摘した。（高橋篤志、大橋昌弘、田中寿一、豊岡示朗）（共同研究により抽出不可能）	P.91-98
The association of the blood lymphocytes to neutrophils ratio with overtraining in endurance athletes.	共	平成21年4月	New Studies in Atheletics Vol.24(4)	免疫系指標を用いて、女子長距離選手を対象に、パフォーマンスと抹消血リンパ球と好中球の比率の関連を調べた。その結果、選手のパフォーマンスはリンパ球が優位である場合、好調を示し、逆に好中球が優位である場合は不調を示した。これらの結果から、選手の体調管理、試合期の調整に活用できる基礎資料となる。（Matsuo K, Kubota M, Sasaki H, Toyooka J, Nagatomi R）（共同研究により抽出不可能）	.p23-29
マラソンレース中の適切な水分補給について	共	平成22年9月	ラン二ング学研究 第22巻　1号	ラン二ング学会のposition standとして、水分補給の歴史過程からレース中の適量、補給の仕方などを文献的にまとめた総説。（伊藤静夫、佐伯徹郎、青野博、山本正彦、岡田英孝、隅田祥子、武田一、藤牧利昭、豊岡示朗)(共同研究により抽出不可能）	P1-12
漸増負荷運動での最大脂肪酸化量に対するFasting とFeedingの影響	共	平成23年3月	大阪総合保育大学紀要 第5巻	食後4時間後と一晩の絶食後に漸増負荷運動を実施して運動強度に対する脂肪酸化量を比較したところ、食後4 時間の場合に、低～高強度の範囲まで脂肪酸化量が高いことを明らかにした。（高橋篤志、中嶋南紀、山崎大樹、豊岡示朗）（共同研究により抽出不可能）	P.95-104
分岐鎖アミノ酸含有飲料摂取が漸増運動負荷中野生体に及ぼす影響について	共	平成23年9月	日本生理人類学会誌 第16巻	BCAAの摂取により、疲労困憊までの運動時間の延長、最大作業負荷の増加、100wでの相対的運動強度の低下と血中乳酸濃度の低下が起こることを明らかにした。（足立哲司、足立博子、中井聖、豊岡示朗、増原光彦）（共同研究により抽出不可能）	P.165-170

長時間運動中の女性鍛錬者の基礎代謝特性から見た運動処方	共	平成23年3月	近畿大学教養外国語教育センター紀要 第1巻	女子長距離選手10名に、ウォーキング（30%V02max）,ジョギング(50%V02max),ランニング(70%V02max)の3強度で2 時間の運動を課して炭水化物と脂肪によるエネルギー量を比較し、女性に心肺系の運動処方を負荷するには、低い強度で60分以上の運動が有効であることを示唆した。（中井聖、佐川和則、豊岡示朗、伊藤章）（共同研究により抽出不可能）	P.3-13
ランニングクラブ会員の生理学的プロフィールとクラブ運営の方向性	共	平成23年3月	ランニング学研究 第23巻(1)	44名のクラブ会員（平均年齢45歳）の生理学的プロフィールを明らかにし、クラブ運営の方法として、明確な目標設定と内発的動機を高める指導が必要な事を明らかにした。(中嶋南紀、中井聖、豊岡示朗) （共同研究により抽出不可能）	P.19-27
運動習慣のある女性の運動中の脂肪酸化量-20歳代と60歳代の比較	共	平成24年3月	大阪総合保育大学紀要 第6巻	アクティブな20歳代と60歳代の女性の運動強度と脂肪酸化量の関連を調べたところ、最大脂肪酸化量の出現強度は約54-57%V02max と類似していたが、最大値は、20 歳代が60歳代を60%上回っていることを指摘した。（高橋篤志、山崎大樹、豊岡示朗）（共同研究により抽出不可能）	P.137-148
第１回大阪マラソン完走を目指した「よみうりマラソン講座」 -受講生52名の指導報告	共	平成23年10月	ランニング学研究 第23巻(2)	月2回のペースで実施した市民ランナー用大阪マラソンの指導結果をまとめると、体脂肪率、体重、12分間走距離にトレーニング効果が認められ、マラソン記録と12分間走距離との間に高い相関関係のあることを見いだした。（豊岡示朗、山崎大樹）（共同研究により抽出不可能）	P.47-56
女子長距離ランナーにみられる3000ｍレース記録とV02maxのアロメトリースケーリングとの関係	共	平成23年10月	ランニング学研究 第23巻(2)	年齢14歳から26歳までの女子長距離ランナー86名を対象に、V02maxの3種の相対値とパフォーマンスとの関係について検証したところ、体重・体型や記録からみると比較的等質に近い母集団では、いずれの相対値のV02maxとの間にも3000mの記録と有意な相関関係が求められた。（足立哲司、足立博子、中嶋南紀、豊岡示朗、橋爪和夫、山地啓司）（共同研究により抽出不可能）	P.11-18
大学女子長距離選手の競技記録と最大酸素摂取量で走れるピードとの関係	共	平成25年3月	大阪総合保育大学紀要 第7巻	全日本大学女子駅伝にエントリーされた18名の選手の3000m記録とV02max,vV02maxの関係を検討したところ、記録の優れている選手は、BMIが低く、vV02maxが速いことを明らかにした。（高橋篤志、足立哲司、山崎大樹、豊岡示朗）（共同研究により抽出不可能）	P.95-103
大学女子中長距離選手の競技記録とV02max/kg,vV02max,OBLAスピードとの関係	共	平成25年3月	大阪体育大学紀要 第44巻		P. １-10
その他					
マラソンレース中の適切な水分補給について	共	平成22年11月	スポーツジャーナル2010Winter	気温の高い中でのマラソンレースやトレーニングを実施する場合などの水分補給の指針を紹介した。（伊藤静夫、豊岡示朗）	38-39

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
平成21年4月～平成23年3月	ランニング学会理事長
平成23年4月～平成25年3月	ランニング学会副会長
平成25年4月～現在に至る	ランニング学会会長

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

体育学部	教授	氏名　　中大路　哲	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） （１）特別活動指導論	平成２１年～２５年	随時課題を与え小論文を作成させた。
２　作成した教科書、教材、参考書		
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４　その他教育活動上特記すべき事項 （１）茨城県バスケットボール協会主催による指導者講習会 （２）日本バスケットボール協会主催による指導者講習会	 平成25年2月21日 平成２５年７月６日～７日	 指導者を対象に講演を行った。 指導者を対象に実技指導及び講演を行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
スリーポイントショットの成功に率に影響を及ぼす要因	共著	平成２３年３月	コーチン学研究第２６巻	◎中大路哲、山田なおみ他３名	
女子バスケットボール選手の競技パホーマンスにおける静止視力及び深視力の関係性	共著	平成２４年３月	大阪体育大学紀要第４３巻	◎木村準、中大路哲他４名	
Relationships among Perfomance of Lateral Cutting Maneuver from Lateral Sliding and Hip Extension and Abducttion Motions,Ground Reaction Force,and Body Center of Mass	共著	平成２４年３月	Journal of Strength and Conditioning Research	◎下河内洋平、中大路哲他２名	
必修科目としてのインターンシップ実習の取り組みに関する事例報告	共著	平成２３年３月	大阪体育学研究第４９巻	◎伊藤美智子、中大路哲他３名	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成２１年～平成２５年	日本体育学会会員　　日本体育・スポーツ経営学会会員　　日本コーチング学会会員
平成２１年～平成２５年	日本体育協会上級コーチ 日本バスケットボー教会公認A級コーチ　　関西女子学生バスケットボール連盟副理事長

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	バスケットボール女子　　部	２．役職	平成２１年～２５年部長・監督	３．部員数	５０名
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　4　回	延べ日数：　30　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西女子学生バスケットボール選手権大会	５月上旬	大阪
	西日本学生バスケットボール選手権大会	６月上旬	大阪
	関西女子学生バスケットボールリーグ戦	９月～１０月	大阪他
	全日本大学バスケットボール選手権大会	１１月下旬	東京他
	全日本総合バスケットボール選手権大会	１月上旬	東京

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成２２・２４・２５年度	関西女子学生バスケットボール選手権大会	優勝	大阪
平成２５年度	西日本学生バスケットボール選手権大会	優勝	大阪
平成２５年度	関西女子学生バスケットボールリーグ戦	優勝	大阪他
平成２４年度	全日本大学バスケットボール選手権大会	優勝	東京

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　教授	氏名　長尾　佳代子	大学院における研究指導担当資格の有無（　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
教養演習（2010.3までは総合演習）	2010.4～2011.3	図書館における調査を現地指導し，口頭発表をビデオ撮影して学生に自己点検させるなどアクティブ・ラーニングを実施した。また，学期末の2000字レポートではアカデミック・スキル（引用箇所，参考資料を正しく明記した文書作成指導など）を重点的に指導した。2011年度に授業が廃止されるまで，20人程度の少人数クラスで実施していたせいもあり，学生による授業評価は毎回高得点であった。
日本語技法(2011.3までは日本語技法Ⅰ) 日本語技法演習（応用）（2011.3までは日本語技法Ⅱ）	2009.4～現在	一斉ガイダンスや教科書の作成によって，4名の専任教員と6名の非常勤講師（2013年度）が習熟度別少人数クラスを分担して頻繁に作文添削する体制を実現した。2011年度からは体育学部・健康福祉学部の両学部学生が同じ教室で学ぶ初年次教育科目として実施し（日本語技法演習（応用）については全学実施は2012年度まで），全学学生が学士力の基礎となる日本語ライティングのアカデミック・スキルを習得できる体制を構築した。また，この授業で毎回返却される作文添削答案は堤裕之准教授がニッセイコムと共同でeポートフォリオシステムを開発する際に重要資料として活用された。2011年後期以降，学生の提出した全作文課題はeポートフォリオシステムを利用して担当教員と学生の双方向からWebで閲覧できるようになっており，評価の公正さと透明性を高めている。学生による授業評価も高い。
日本語技法演習（基礎）	2011.4～現在	必修科目である「日本語技法」への導入が難しい学生を対象に，グループワークや補習内容を多く取り入れたリメディアル授業を設置した。入学時プレースメントテストで日本語語彙力が中学2年生程度以下と診断された学生が対象。あわせて学習支援室との連携を行うことによって，後期に履修する「日本語技法」の脱落者を減少させることができた。学生による授業評価も高い。
文学・文学	2009.4～現在	最新の研究成果による情報を出来るだけ授業に反映させせつつ，教科書（文学）やハンドアウト（宗教学）の作成，視聴覚教材の利用によって，分かりやすく伝える努力をおこなっている。小レポートや小テストをほぼ毎回課し，採点して返却すると同時に，eポートフォリオにもアップしている。必修の「日本語技法」の履修によって理解度が高まる（2010年論文参照）ことを確認している。学生による授業評価にはばらつきがあり，学部平均レベル前後であるが，高評価を行っている学生も多い。
2　作成した教科書、教材、参考書		
『大学生・短大生のための日本語テキスト』（旺文社）	2011.12	全108頁。なにぶん大学新入生の寅男，喜之介，好子らの入試から合格発表，前期授業の終了までに起こる様々な事件を描いた小説を読みながら，日本語語彙力を増強し新入生の大学生活での注意事項を学ぶ。旺文社「＜入学前／初年次教育＞対象 学習成果到達度システム」国語指導テキストとして大阪体育大学をはじめ多数の大学・短大で採用されている。タブレット用電子版もある。
『大学生・短大生のための大学での学び方』（旺文社）	2013.8	共著　長尾佳代子・谷川裕稔・中園篤典。全112頁（うち第１章「文章の書き方」7頁～39頁を担当）。旺文社「＜入学前／初年次教育＞対象 学習成果到達度システム」全学共通テキストとして多数の大学・短大で採用されている。
『大阪体育大学基礎教育科目教科書叢書2　大阪体育大学・日本語技法テキスト（2013年度版）』	2013.4.9	全85頁。2007年度に第1版を作成し，その後，毎年改訂を重ねながら現在に至っている教科書。2015年度にナカニシヤ書店から出版予定である。

『大阪体育大学　一般教育教科書叢書1　文学』	2013.10.4	全108頁。「文学」の教科書として2009年度に第１版を簡易製本で作製した。その後，改訂を重ね，2013年度時点で第8刷となっている。文学作品を教材として引用し，「実物を読む」ことを重視した内容になっている。
作文添削用判子セット	2006～2013	作文の添削に便利な判子セット。「日本語技法」担当教員の意見を取り入れながら毎年作成している。朝日新聞社の記事やNHK Eテレ等で紹介されたこともあり，入手したいという他大学の教員からの要望がたびたびあり，応えている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「大阪体育大学における初年次教育改革の概要紹介」	2009.3.23	畔津憲司・工藤俊郎・堤裕之・長尾佳代子『日本リメディアル教育学会第1回関西支部大会発表予稿集』，20頁。大阪体育大学において2006年度に開始した初年次教育改革の概要を紹介した。
「大阪体育大学における作文添削授業『日本語技法Ｉ』の運営報告」	2009.9.2	長尾佳代子・工藤俊郎『日本リメディアル教育学会第5回全国大会発表予稿集』，107頁～108頁。「日本語技法Ｉ」の授業の運営報告を行った。
「補習を重視したリメディアル教育を含む初年次教育が学習への動機づけと自立学習支援に及ぼす効果と課題」	2010.8.31	長尾佳代子・谷川裕稔ほか 『日本リメディアル教育学会第6回全国大会発表予稿集』，196頁～204頁。体験型シンポジウムを企画し，司会を行った。
「数学コンピテンシーテスト記述解答にみる大体大生の傾向」	2010.10.30	工藤俊郎・長尾佳代子。数学コンピテンシー研究会研究集会「大学入学者の数学力の測定」（於 湘南工科大学。科研費基盤C 課題番号22500824「高等教育の基盤としての数学コンピテンシー及びその測定法に関する研究」研究代表者 水町龍一)のRTで行った話題提供。
「2010年マスコミ報道における『リメディアル教育』のとらえ方の一例――リメディアル教育を行うことは『なげかわしい』ことなのか――」	2011.3.23	『日本リメディアル教育学会第3回関西支部大会発表予稿集』，21頁。2011年11月に放映された大阪体育大学のリメディアル教育を批判するテレビ放送を紹介し，報道の背景を解説した。大学が行った抗議とそれを受けてテレビ局が制作したリメディアル教育を好意的に紹介する再放送も紹介し，他大学のリメディアル教育関係者らと情報共有をはかった。
「必修授業との連携によって学生をリメディアル教育に導入する仕組みの構築について」	2011.9.2 - 9.3	工藤俊郎，長尾佳代子・吉沢一也・堤裕之 『日本リメディアル教育学会第7回全国大会発表予稿集』，125頁～126頁。リメディアル教育のカリキュラム構築に際して必修科目との連携を緊密にすることで学生を確実に指導できるシステムを構築した大阪体育大学の実践を紹介した。ポスター発表。
「単位認定においてどこまで学生の個別条件を考慮し得るか――視覚障害学生のケースを通じて気付いた問題点――」	2012.3.19	『日本リメディアル教育学会第4回関西支部会支部大会発表予稿集』，26頁～27頁。「日本語技法」の授業を例に，習熟度別クラスにおける教育と障害のある学生のインクルーシヴ教育の特徴を対比しつつ実践報告した。
RT「リメディアル教育を語り合う」（企画・司会 児玉英明，登壇者 高橋正毅・長尾佳代子・谷川裕稔）に登壇した。 題目：「『教養の先生』が行うリメディアル教育（大阪体育大学ではなぜ教養教育センターがリメディアル教育の立案・管理運営を行うのか）」	2012.8.29	『日本リメディアル教育学会第8回全国大会発表予稿集』，174頁～175頁。中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」における「補習・補完教育」の位置付けに関連する課題について論じ合った。一般教育科目を成立させるためにリメディアル教育を含む「基礎教育科目」を設置した大阪体育大学の例を紹介し，その背景を解説した。
RT「教育広報のあり方を考える」（企画 中園篤典・長尾佳代子，司会 長尾佳代子，登壇者 中園篤典・廣井徹・児玉英明・上島誠司）を企画し，司会をつとめた。か）」	2012.8.29	『日本リメディアル教育学会第8回全国大会発表予稿集』，222頁～175頁。リメディアル教育の報道によって思わぬトラブルに巻き込まれることもある。このRTでは，否定的報道によって被害を受けた広島修道大学，広報を戦略的に行う立命館大学の例を報告するとともに，教学IRからの報告や朝日新聞記者による問題提起を行い，問題点について論じた。
「日本語で教育できる幸福――文学者の足跡から見る大学教育と使用言語――」	2014.11.12	四国大学言語文化研究所11月例会において行った講演。鈴木大拙ら明治の文学者が受けた高等教育のの概要を紹介し，大学教育を母語で行える現在の状況を確立するために先人が歩んできた足跡について自説を述べた。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
学習支援室の立ち上げに関わり，運営が軌道にのるまでの様々な具体的業務（スタッフの確保や規約の作成，業務内容の調整等）に携わった。	(2008.10) ～2011.3	吉沢一也ほか「2012年度大阪体育大学学習支援室活動報告」（『大阪体育大学紀要』vol.44，109頁～122頁参照。

教養教育センター長・学習支援室長として教養教育や学習支援活動の改善・推進を行った。	2011.4～2013.3	基礎教育科目を組織的に行うための実務を行うと同時に，研究論文や実践報告を行うことを推進した。これは教養教育センターと学習支援室が研究機関として実績を積むことに寄与した。また，学習支援室が従来から行っていた入学前指導を継続するとともに，2012年度の附属高校からの新入生を対象に大学における授業形式の指導を開始した。
朝日新聞社の記事「わが校イチ押し」で「日本語能力向上させ，専門教育の土台を築く――大阪体育大学」として教育実践が紹介された。	2009.11.29	asahi.comのコラム「わが校イチ押し」で「日本語技法」の授業が優れた実践として紹介された。
NHK Eテレ「教育シンポジウム～大学生の学力をどう支えるか～」に出演した。	2012.10.13	2012.9.15に福岡大学で行われたシンポジウムで教育実践が紹介され，パネリストとして解説・討議を行った。この模様がテレビで放映された。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『学士力を支える学習支援の方法論』	共著	2012.12	ナカニシヤ出版	谷川裕稔（代表編者）長尾佳代子・壁谷一広・中園篤典・堤裕之（編）	214頁～215頁，291頁～330頁，339頁～341頁
『ピアチューター・トレーニング』	共著	2014.3	ナカニシヤ出版	谷川裕稔・石毛弓（編）	15頁～25頁，79頁～92頁，18頁
論文					
「『日本語技法Ⅰ』授業設置の経緯とその効果」	共著	2009.3	『大阪体育大学紀要』vol.40	長尾佳代子・工藤俊郎・上谷浩一	213頁～230頁
Paul Carus as Involved in the Japanese Modernization of Education and Religion	単著	2009.7	*Japanese Religion,* vol.34 no.2		171頁～185頁
「1年次前期の作文指導の効果（一般教養科目「文学」課題レポートに現れた向上）」	共著	2010.9	『リメディアル教育研究』vol.5 no.2	長尾佳代子・工藤俊郎	73頁～84頁
「大学における視覚障害者のインクルーシヴ教育の課題～授業実践から見出されるもの～」	共著	2012.3	『大阪体育大学健康福祉学部紀要』vol.9	辰巳佳寿恵・長尾佳代子・中村健・寺口敏生・堤裕之	1頁～26頁（8頁～13頁）
「明治時代の接続教育（学びへのまわり道）	単著	2013.3	『リメディアル教育研究』vol.8 no.1		43頁～48頁
「大阪体育大学における日本語作文指導」	単著	2013.9	『リメディアル教育研究』vol.8 no.2		7頁～14頁
その他					
「リメディアル教育を含む初年次教育の実施と課題（特集企画に寄せて）」	単著	2010.9	『リメディアル教育研究』vol.5 no.2		1頁～4頁
「学習型コミュニケーション能力の測定と育成方策（学習型コミュニケーション能力を高める授業の導入を目指して）」	共著	2012.3	『リメディアル教育研究』vol.7 mo.1	小野博・工藤俊郎・穂屋下茂・田中周一・加藤良徳・長尾佳代子	96頁～103頁
「＜ラウンドテーブル＞高等学校における学習支援についての諸問題――歴史的視点にもとづいた検討――」	共著	2013.9	『大学教育学会誌』vol.35 no.2	長尾佳代子・谷川裕稔	71頁～74頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
～現在	日本リメディアル教育学会会員，理事（平成23年9月～現在）
平成21年4月～平成26年3月	同学会誌『リメディアル教育研究』編集委員，副編集長（平成24年4月～平成26年3月）
平成23年10月～平成24年3月	日本リメディアル教育学会関西支部大会運営委員長
～現在	仏教文学会，早稲田大学東洋哲学会　会員
平成22年5月～現在	大学教育学会 会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績						
１．指導クラブ名	新　体　操　　部		２．役職	部長	３．部員数	6　　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない				
５．合宿指導	年間合宿回数：　　回		延べ日数：　　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				
８．部員の就職指導への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2010.5.7～5.9	西日本学生選手権　個人	6位	愛知県パークアリーナ小牧
2013.4.13～4.14	関西学生選手権大会　団体	3位	花園大学
2013.6.24～6.26	西日本学生選手権　団体	4位	スカイホール豊田

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　　教授	氏名　永吉宏英	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無し　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 視聴覚教材による理解度の向上	2011年4月～	映像・写真等視聴覚教材を使い、講義内容を具体的にイメージできるように工夫して理解度を高めた。
2　作成した教科書、教材、参考書 （1）「スポーツが変われば楽しさの輪も広がります」（文化高知） （2）「体罰・暴力によらないスポーツ指導力の育成に関わる教育」（文部科学省） （3）「だれでもできるやさしい技術指導　バンパープール　（初心者編） （4）「　　同上　（中・上級者編）」 （5）「わたしとキャンプとＹＭＣＡ］	（1）2011年5月 （2）2013年11月 （3）2014年6月 （4）2014年7月 （5）2014年７・８月	（1）雑誌「文化高知」に生涯スポーツの視点からスポーツの新しい楽しみ方について執筆。 （2）文部科学省より発行された小冊子「私たちは未来からスポーツを委託されている～新しい時代にふさわしいコーチング」に、体罰・暴力によらないスポーツ指導力の育成をめざす教育の在り方について執筆。 （3）（4）　雑誌「みんなのスポーツ」に生涯スポーツの一つとして例としてバンパープールを取り上げ、その技術・指導法について解説。 （5）大阪青年の7・8月合併号にキャンプの教育的効果と方法について解説。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 （1）全国キャンプ大会　基調講演講師（日本キャンプ協会） （2）大阪市大・大阪府大・関西大学連携公開講座　基調講演講師 （3）「スポーツ科学と指導の連携モデルを」（日本ＹＭＣＡ） （4）「スポーツ科学の将来と早稲田大学への期待」（早稲田大学） （5）「仕事の場としての大学」（日本体育学会）	（1）2011年10月10日 （2）2011年12月8日 （3）2013年2月8日 （4）2013年11月2日 （5）2013年8月29日	（1）「全国キャンプ大会　イン高知」において大会基調講演講師として、これからの青少年教育におけるキャンプ活動の意義や方法について講演 （2）三大学連携公開講座「健都大阪」の基調講演講師として、都市における健康づくりの考え方について講演 （3）ＹＭＣＡ同盟の緊急特集に、スポーツ科学とスポーツ倫理をコアに据えたスポーツ指導のあり方について提言 （4）体育系大学学長・学部長会の会長としての立場から、大学教育とスポーツ科学研究の現状と課題について講演 （5）日本体育学会・全国大学連合　共催シンポジウム「仕事の場としての大学」にてパネリストとして発表
4　その他教育活動上特記すべき事項 （1）日本キャンプ協会「キャンピング・アワード」受賞	2014年2月	長年にわたる日本のキャンプ活動の普及・発展、国際化の進展等に対する貢献に対して、日本キャンプ協会から当該の賞を受賞。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					

論文					
Changes in Society and Curri-culum Reform at Osaka Univer-city of Health and Sport Sciences	単	2011年3月	大阪体育大学 健康福祉学部紀要第6巻		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成21年4月～	日本バンパープール協会理事長
平成21年4月～	日本介護予防指導者協会会長
平成21年5月～平成22年5月	ライフスポーツ財団理事
平成21年4月～平成23年3月	泉佐野市・熊取町・田尻町地域自立支援協議会会長
平成21年5月～平成23年5月	堺市スポーツ振興審議会会長
平成21年5月～平成25年4月	堺市障害者スポーツ大会実行委員会会長
平成21年5月～平成24年4月	日本野外教育学会副理事長
平成21年5月～	大阪府障害者スポーツ協会理事
平成21年9月～平成23年9月	健康大阪21推進府民会議会長
平成22年4月～	大阪市青少年活動財団評議員
平成22年4月～平成23年4月	大阪府生涯スポーツ推進協議会会長
平成23年4月～平成25年3月～	日本キャンプ協会副会長・顧問
平成24年5月～平成26年4月	全国体育系大学学長・学部長会会長
平成23年4月～平成25年3月～	堺市健康福祉プラザスポーツセンター運営委員会委員長
平成24年5月～	日本野外教育学会副会長

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

4　「研究活動」については、下記の点に留意してください。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　教授	氏名　浜田　拓	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 資料配布と図を用いた視覚教材の活用	平成21年4月～	授業は学生の理解を深めるためにパワーポイントを用いて、図で見せることで具体的にイメージさせ、理解度を高めるようにしている。また、視覚教材の活用に沿って作成したテキストにも書き込みやすいような授業の展開を心がけている。
2　作成した教科書、教材、参考書 スポーツ生理学の授業用テキストを作成	平成21年4月～	毎回の講義内容に沿って作成したテキストを配布して授業を展開している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
Low-calorie diet-induced reduction in serum HDL-cholesterol is ameliorated in obese women with the -3826G allele in the uncoupling protein-1 gene.	共著	2009年	Tohoku Journal of Experimental Medicine 219巻	Hamada T, Kotani K, Nagai N, Matsuoka Y, Tsuzaki K, Sano Y, Fujibayashi M, Kiyohara N, Tanaka S, Yoshimura Y, Egawa K, Kitagawa Y, Kiso Y, Moritani T, Sakane N.	337頁-342頁
Caffeine acutely activates 5'adenosine monophosphate-activated protein kinase and increases insulin-independent glucose transport in rat skeletal muscles.	共著	2009年	Metabolism 58巻	Egawa T, Hamada T, Kameda N, Karaike K, Ma X, Masuda S, Iwanaka N, Hayashi T.	1609頁-1617頁

Genetic polymorphisms of the renin-angiotensin system and obesity-related metabolic changes in response to low-energy diets in obese women.	共著	2011年	Nutrition 27巻	Hamada T, Kotani K, Nagai N, Matsuoka Y, Tsuzaki K, Sano Y, Fujibayashi M, Tanaka S, Kiyohara N, Yoshimura Y, Egawa K, Kitagawa Y, Kiso Y, Moritani T, Sakane N.	34頁-39頁
Caffeine activates preferentially α1-isoform of 5’AMP-activated protein kinase in rat skeletal muscle.	共著	2011年	Acta Physiologica 201巻	Egawa T, Hamada T, Ma X, Karaike K, Kameda N, Masuda S, Iwanaka N, Hayashi T.	227頁-238頁
The B2 receptor of bradykinin is not essential for the post-exercise increase in glucose uptake by insulin- stimulated mouse skeletal muscle.	共著	2011年	Physiological Research 60巻	Schweitzer GG, Castorena CM, Hamada T, Funai K, Arias EB, Cartee GD.	511頁-519頁
Caffeine modulates phosphorylation of insulin receptor substrate-1 (IRS-1) and exacerbates insulin signal transduction in rat skeletal muscle.	共著	2011年	Journal of Applied Physiology 111巻	Egawa T, Tsuda S, Ma X, Hamada T, Hayashi T.	1629頁-1636頁
Possible involvement of AMPK in acute exercise- induced expression of monocarboxylate transporters MCT1 and MCT4 mRNA in fast-twitch skeletal muscle.	共著	2013年	Metabolism 62巻	Takimoto T, Takeyama M, Hamada T.	1633頁-1640頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成13年4月～	日本体力医学会　会員
平成20年4月～	日本運動生理学会　会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	バドミントン　　部	２．役職	2010年～部長	15　　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない		
５．合宿指導	年間合宿回数：　1　回	延べ日数：　4日		
６．クラブの競技力向上への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		

８．部員の就職指導への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない	
９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生バドミントン春・秋季リーグ	4月と9月	大阪市中央体育館など
	西日本学生バドミントン選手権大会	8月	岡山県岡山市体育館など
１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2013年4月	大阪学生バドミントン大会	女子ダブルス　3位	大阪市中央体育館など
2013年12月	大阪学生バドミントン新人戦大会	女子ダブルス　3位	大阪市中央体育館など

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　教授	氏名　福田　芳則	大学院における研究指導担当資格の有無（ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 演習（野外教育）における体験型授業の活用		4年生による3年生のためのキャンププログラムの企画・運営、地元小学生のためのキャンププログラムの企画・運営、兵庫県自然学校指導補助員への派遣など、学外における実践体験に基づいた学びを重視して演習を展開している。
2　作成した教科書、教材、参考書 教員用スキー技術指導体系	平成23年12月	大学スキー実習指導教員のためのスキー技術の指導体系を取りまとめた
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 スポーツ・レクリエーション活動の振興・普及に関する講演	平成23年、24年、25年	日本レクリエーション協会による全国レクリエーション大会の研究セッションで、標記のテーマでパネルディスカッションなどで発表　大阪府レクリエーション協会、三重県レクリエーション協会で講演
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
教育キャンプが参加者の社会人基礎力と生きる力に及ぼす影響	共著	平成24年3月	大阪体育大学紀要　第43巻	江口達也　池島明子　福田芳則	pp67 ～76
体育系大学・学部における社会貢献活動のあり方	共著	平成25年3月	大阪体育大学紀要　第44巻	冨山浩三　福田芳則　ほか	pp11 ～28
学会発表					
自然体験活動による「生きる力」の変容について	共著	平成24年3月	日本野外教育学会　第15回大　pp94-95	脇坂康代　福田芳則　ほか	pp6-7
教育キャンプ参加者の社会人基礎力の変容	共著	平成24年6月	関西野外活動ミーティング2012	江口達也　福田芳則　ほか	pp94-95
教育キャンプ3年間継続参加者の社会人基礎力の変容	共著	平成26年6月	日本野外教育学会　第17回大会	徳田真彦　福田芳則　ほか	pp94-95
教育キャンプが参加者の自己効力感、チーム効力感、集団凝集性に及ぼす影響	共著	平成26年6月	日本野外教育学会　第17回大会	大杉夏葉　福田芳則　ほか	pp66-67

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成 11年6月～平成24年6月	日本野外教育学会理事
平成 14年 4月～現在に至る	大阪府レクリエーション協会評議員　　平成 22年4月～24年3月まで副会長
平成 20年 4月～現在に至る	熊取町社会教育委員　　次世代育成計画策定委員会委員
平成 23年 4月～現在に至る	日本レクリエーション協会　理事

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	野外活動　　部	２．役職	部長	３．部員数	28　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　5　回	延べ日数：　20　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
毎年8月　3泊4日	熊取町教育委員会との共催サマーキャンプ　地域交流事業として小学生40名参加　　プログラム企画･指導		
毎年2月、9月　4泊5日	大阪体育大学海洋スポーツキャンプ実習およびスキー実習の運営スタッフ		

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　教　授	氏名　藤井　均	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2009	学生による教員評価順位は学部専任教員24人中3位であった。（九州共立大学）
2　作成した教科書、教材、参考書	2009～	講義内容は全てスライド作成し、そのハンドアウトを受講者に配布している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年2月12日 2011年11月20日	スポーツ傷害フォーラム（加古川医師会主催）にて講演。 第6回全国スポーツメンタルトレーニングフォーラムにて講演。
4　その他教育活動上特記すべき事項	2010～2013	日本体育協会公認アスレティックトレーナー資格現役合格者連続排出（九州共立大学）

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
柔軟性の科学	共著	平成21年2月	大修館書店	山本利春、藤井均他	173頁～212頁
論文					
アスレティックトレーニングおける実践教育Ⅱ ーリコンディショニングセンターの役割	共著	平成21年3月	浜松大学健康プロデュース雑誌（3巻第1号）	中村浩也、藤井均	47頁～51頁
九州共立大学におけるアスレティックトレーニングルーム利用者記録の役割	共著	平成22年3月	九州共立大学スポーツ学部研究紀要（第4号）	井手裕子、藤井均	16頁～43頁
スポーツ学部新入生の宿泊研修時の身体状況と緊急対応計画の役割	単著	平成25年3月	九州共立大学研究紀要（第3巻第2号）		81頁～87頁
九州共立大学リコンディシニングルーム利用者報告　2011-2012	共著	平成25年3月	九州共立大学スポーツ学部研究紀要（第3巻第2号）	井手裕子、藤井均、有吉晃平、篠原純司	89頁～93頁
異なるハムストリング筋力トレーニングによるH:Q比の変化の違い	共著	平成25年5月	体力科学（第62巻　第1号）	小野高志　藤井均	87頁～94頁

足趾トレーニングが動的姿勢制御と主観的足関節安定性に及ぼす影響	共著	平成26年2月	九州共立大学生涯学習研究センター紀要（第19号）	篠原純司、藤井均、豊瀬崇暢	79頁～86頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
平成２５年６月～現在	大阪体育協会　医科学委員として在阪アスリートの医科学サポートおよび指導者養成に関する事項の審議を担当。
平成２５年６月～現在	日本体育協会公認アスレティックトレーナー連絡会議代表委員。　大阪府代表者として会議に出席。
平成２１年６月～平成２３年８月	日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会講師、および検定試験問題作成者。

Ⅳ　クラブ活動の指導業績					
１．指導クラブ名	学生トレーナー　　部		２．役職	2013～監督	３．部員数　31
４．現場指導の頻度	②	①　ほぼ毎日　②　週3日　③　週１日　④　現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤　全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　1　回		延べ日数：　3　日　（学生トレーナーの集いに引率）		
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本大学レスリング選手権大会においてトレーナーステーション設置	2013年11月9日・10日	堺市金岡公園体育館
	西日本学生レスリング春季リーグ戦において救護活動	2013年5月18日・19日	堺市金岡公園体育館

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　教授	氏名　　藤　本　淳　也	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成21年4月～	特に、演習では、学生個人がテーマを決めて発表する研究報告を課し、課題の発見、情報収集、分析、まとめ、プレゼンテーションの一連のプロセスの習得を目指した。フィールドワークは、「Ｊリーグ」と「なでしこリーグ」の複数クラブの観客調査（実施、集計、報告書作成）を毎年実施した。授業評価は、理論理解と共に実践力を付けるために、フィールドワークと企画書作成を重視した。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年4月～	スポーツマーケティングと演習では、一般新聞、日経流通新聞、Sport Business Journalなどを中心に、国内外の最新情報を教材として用いた。また、研究レビュー実習のため、国内外の研究誌とビジネス誌から主要な論文を抜粋し、参考リストを作成した。教科書は、著書である「スポーツマーケティング」を用いた。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年4月～	教育方法や教育実践に特化した発表や講演は行っていない。しかし、専門分野に関する講演の中で、その人材育成の重要性と方法に関連して演習や担当授業の内容を紹介した。また、研究室のFacebookページの中で実践している教育内容を随時公開した。
4　その他教育活動上特記すべき事項	平成21年4月～	特に、演習において、スポーツビジネス界で活躍する方々との交流を重視している。毎年、プロスポーツチームスタッフを招いて1泊研修セミナーを企画し、同じ専門分野の他大学の学生と共に学び、ディスカッションし、交流する場を設けた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スポーツイベントのマーケティング	分担執筆	平成22年10月	市村出版	◎間宮聰夫・野川春夫編著、藤本淳也、ほか	128頁～137頁
スポーツ産業論入門第5版	分担執筆	平成23年10月	杏林書院	◎原田宗彦編著、藤本淳也、ほか	189頁～202頁
よくわかるスポーツ文化論	分担執筆	平成24年1月	ミネルヴァ書房	◎井上俊・菊幸一編著、藤本淳也、ほか	22頁～23頁
論文					
大学スポーツ観戦者の特性に関する研究：関西学生アメリカンフットボール試合観戦者に注目して	共著	平成22年３月	大阪体育大学紀要（第41巻）	◎坂田昌之、藤本淳也、住田健	125頁～134頁

スポーツイベントのサービスクオリティ評価に関する研究：湘南オープンウォータースイミング2008に注目して	共著	平成22年３月	大阪体育大学紀要（第41巻）	◎原久子、藤本淳也、住田健	135頁～144頁
体育家大学学生の大学に対する態度向上のための実践的研究：大学プロモーションビデオを使った試み	共著	平成24年３月	大阪体育大学紀要（第43巻）	◎平田智哉、藤本淳也、阿部輝	99頁～110頁
人を動かす：スポーツファンの特性とチーム・アイデンティティ	単著	平成24年11月	人間福祉学研究（第5巻第1号）		25頁～37頁
体育系大学・学部における社会貢献活動の在り方：生涯スポーツカンファレンス2011の報告	共著	平成25年３月	大阪体育大学紀要（第44巻）	◎冨山浩三、福田芳則、古澤光一、池島明子、藤本淳也、ほか	11頁～28頁
女子プロ野球リーグ観戦者の観戦動機に関する研究	共著	平成25年３月	大阪体育大学紀要（第44巻）	◎西村靖香、藤本淳也	53頁～64頁
なでしこリーグ所属チームのチームブランドに関する研究：ブランド連想を用いたチーム間比較分析	共著	平成26年３月	大阪体育大学紀要（第45巻）	◎長谷川堅一、藤本淳也、原田宗彦、松岡宏隆、押見大地、田口禎則	77頁～86頁
マスターズ・シンクロナイズドスイミングの課題と可能性に関する一考察：現状分析と実施者へのインタビュー調査を用いて	共著	平成26年３月	大阪体育大学紀要（第45巻）	◎堀井樹理、藤本淳也	87頁～102頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成17年12月～	特定非営利法人アダプテッドスポーツサポートセンター監事
平成19年7月～	日本スポーツ産業学会運営員
平成22年4月～	日本スポーツマネジメント学会運営委員
平成23年10月～平成26年３月	なでしこリーグ改革タスクフォース委員
平成22年4月～平成22年5月	「第１回大阪マラソン」開催準備業務業務事業者選考委員会委員
平成24年1月～平成24年3月	「第２回大阪マラソン」開催準備業務業務事業者選考委員会委員
平成24年4月～	大阪府堺市スポーツ推進審議会委員
平成24年12月～平成25年3月	「第３回大阪マラソン」開催準備業務業務事業者選考委員会委員
平成25年7月～	特定非営利法人日本フライングディスク協会監事

平成25年12月～平成25年3月	「第４回・第５回大阪マラソン」開催準備業務業務事業者選考委員会委員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	アルティメット、アメリカンフットボール 部	２．役職	監督：1994～、部長2013～	３．部員数	合計110人（70人、40人）
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　回	延べ日数：　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本学生アルティメット選手権大西日本予選	8月下旬	静岡県または大阪府
	全日本学生アルティメット選手権大会本選	9月下旬	静岡県、東京都
	関西学生アメリカンフットボールリーグ公式戦	4月～6月、9月～12月	大阪府、兵庫県

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成21年	全日本学生アルティメット選手権大会	男子4位、女子3位	静岡県新富士
平成22年	全日本学生アルティメット選手権大会	男子優勝、女子準優勝	東京駒沢競技場
平成23年	全日本学生アルティメット選手権大会	男子3位、女子準優勝	東京駒沢競技場
平成24年	全日本学生アルティメット選手権大会	男子準優勝、女子優勝	東京駒沢競技場
平成25年	全日本学生アルティメット選手権大会	男子優勝、女子準優勝	東京駒沢競技場

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　　体育学部	職名　　教授	氏名　　淵本隆文	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
「体力・動作分析法」での研究レポート作成指導	平成21年4月～	授業で行った動作分析のデータをもとに、統計処理や文献を参照しながら、研究レポートを作成させ、記述や報告書作成能力を養っている。
「演習Ⅰ、Ⅱ」での研究論文作成指導	平成21年4月～	各自の研究テーマに沿った実験や文献研究を行わせ、本格的な研究論文の書き方を指導している
「バイオメカニクス」での視聴覚教材活用による理解度の向上	平成21年4月～	テキストにある図表や参考資料をカラースライドにして写すことによって、視覚的に説明し、理解を助ける工夫を行っている。
「教育方法論」での教育方法の工夫	平成21年4月～	毎時間、空欄の多いプリントを配布し、空欄に書く内容はエクセルを利用してスクリーンに映すことによって、板書の時間を節約している。また、授業の最初に「本時の目標」を黒板の隅に書き、その中から毎時間小テストの問題を出題するようにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スポーツ運動科学－バイオメカニクスと生理学－	共訳	平成22年10月	西村書店，東京	宮永豊総監訳	437頁～458頁
運動処方の指針　～運動負荷試験と運動プログラム～　原書第8版	共訳	平成23年７月	南江堂，東京	日本体力医学会体力科学編集委員会監訳	72頁～89頁
論文					

Effects of masticatory movement on cranial bone mass and micromorphology of osteocytes and osteoblasts in developing rats	共著	平成21年４月	Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition (Vol.18 No.1)	◎Toshikazu Kawakami, Sadafumi Takise, Takafumi Fuchimoto, Hiroshi Kawata	96頁～104頁
Analysis of trunk muscles activity in the side medicine-ball throw	共著	同　年11月	Journal of Strength and Conditioning Research (Vol.23 No.8)	◎Yusuke Ikeda, Kazutaka Miyatsuji, Koichi Kawabata, Takafumi Fuchimoto, Akira Ito	2231頁～2240頁
高齢者の転倒予防に関する基礎的研究：若年者における歩行速度が爪先高に及ぼす影響について	共著	平成22年３月	近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 (第9巻　第1号)	◎田中ひかる，禿隆一，佐川和則，淵本隆文	29頁～36頁
男女短距離選手のスタートダッシュ	共著	平成22年３月	世界一流陸上競技者のパフォーマンスと技術、第11回世界陸上競技選手権大阪大会，日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究班報告書	◎貴嶋孝太、福田厚治、伊藤章、堀尚，川端浩一、末松大喜、大宮真一、山田彩、村木有也、淵本隆文、田邉智	24頁～38頁
一流短距離選手の疾走動作の特徴：第11回世界陸上競技選手権大阪大会出場選手について	共著	平成22年３月	世界一流陸上競技者のパフォーマンスと技術、第11回世界陸上競技選手権大阪大会，日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究班報告書	◎福田厚治、貴嶋孝太、伊藤章、堀尚、川端浩一、末松大喜、大宮真一、山田彩、村木有也、淵本隆文、田邉智	39頁～50頁
円盤投げのキネマティクス的分析	共著	平成22年３月	世界一流陸上競技者のパフォーマンスと技術、第11回世界陸上競技選手権大阪大会，日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究班報告書	◎山本大輔、伊藤章、田内健二、村上雅俊、淵本隆文、田邉智，遠藤俊典，竹迫寿，五味宏生	189頁～200頁
スナッチ種目における日本人男子選手のバーベルのキネマティクス分析	共著	平成22年４月	Japanese Journal of Elite Sports Support (Vol.4)	◎池田祐介，松尾彰文，立 正伸，船渡和男，淵本隆文，菊田三代治	15頁～31頁
必修科目としてのインターンシップ実習の取り組みに関する事例報告	共著	平成23年3月	大阪体育学研究（第49巻）	◎伊藤美智子，中大路哲，淵本隆文，岡崎勝博，高本恵美	103頁～110頁
バレーボールにおける最大スパイク高測定方法の開発	共著	平成23年6月	バレーボール研究（第13巻　第1号）	◎永田聡典，淵本隆文	1頁～7頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成21年4月1日～　平成26年3月31日	日本体育学会会員
平成21年4月1日～　平成26年3月31日	日本体力医学会会員
平成21年4月1日～　平成26年3月31日	日本バイオメカニクス学会会員
平成21年4月1日～　平成26年3月31日	日本運動生理学会会員

平成21年4月1日～　平成26年3月31日	大阪体育学会会員
平成21年4月1日～　平成26年3月31日	日本スポーツ教育学会会員
平成21年4月1日～　平成26年3月31日	日本運動生理学会　評議員
平成21年4月1日～　平成26年3月31日	日本体力医学会　評議員
平成21年4月1日～　平成26年3月31日	大阪体育学会　理事
平成21年4月1日～　平成24年3月31日	日本体力医学会編集委員
平成21年4月1日～　平成26年3月31日	日本バイオメカニクス学会編集委員
平成24年4月1日～　平成26年3月31日	大阪体育学会編集委員長
平成21年度～　平成25年度	日本体育協会スポーツ指導者養成講習会（共通科目Ⅲ）　講師
平成21年度～　平成25年度	健康運動指導士養成講習会講師
平成22年度～平成23年度	泉佐野市指定管理者選定委員会委員長
平成24年度～平成25年度	泉佐野市指定管理者制度評価委員会委員長
平成25年4月1日～　平成26年3月31日	西日本学生レスリング連盟副会長

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	レスリング　部	２．役職	部長・監督	３．部員数	５　人
４．現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　0　回	延べ日数：　0　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	JOC杯ジュニアオリンピック	４月下旬の２日間	神奈川・横浜文化体育館
	西日本春季リーグ戦	５月中旬の２日間	堺市立金岡公園体育館
	西日本学生新人戦選手権大会	７月上旬の２日間	堺市立金岡公園体育館
	文部科学大臣杯・全日本学生選手権大会	８月下旬の４日間	駒沢体育館／金岡公園体育館

	関・関・同アルキメデス・レスリング大会	９月中旬の１日間	同志社大学
	西日本学生選手権大会	10月下旬の３日間	堺市立金岡公園体育館
	内閣総理大臣杯・全日本大学選手権大会	11月上旬の２日間	駒沢体育館／金岡公園体育館
	西日本秋季リーグ戦	11月下旬の２日間	堺市立金岡公園体育館

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成21年４月25，26日	JOC杯ジュニアオリンピック	ｸﾞﾚｺﾛｰﾏﾝｽﾀｲﾙ　50kg級　3位	神奈川・横浜文化体育館
平成21年８月８，９日	西日本学生新人選手権	ｸﾞﾚｺﾛｰﾏﾝｽﾀｲﾙ　55kg級　3位	関西大学
平成22年７月10，11日	西日本学生新人選手権	フリースタイル 55kg 3位	なみはやドーム
平成25年７月６，７日	西日本学生新人選手権	フリースタイル 84kg 3位	堺市立金岡公園体育館

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　　体育学部	職名　　教授	氏名　　前島　悦子	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
私製の資料配布による講義	2009年～	授業内容に関する私製の資料を配布し、講義でさらに詳細に開設することで理解度を高める
図を用いた視覚的教材	2009年～	図を用いることによってより具体的にイメージさせ、理解度を高める
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スポーツ指導者のためのスポーツ医学	共著	平成21年10月	南光堂	小出清一、福林徹、河野一郎編	163～164頁
論文					
Portal vein thrombosis in a patient with hepatitis C virus-related cirrhosis complicated with antiphospholipid syndrome.	共著	平成21年	Rheumatol Int.vol.29 No.12	Kida Y, Maeshima E, Yamada Y	1495頁～1498頁
The effect of short-term endurance exercise on semen quality.	共著	平成21年	大阪体育大学紀要　vol.40	Maeshima E, Matsuda K, Moriyama S	1頁～7頁

国民体育大会冬季大会スキー競技会で集団発生したノロウイルス感染症について	共著	平成21年	臨床スポーツ医学 vol.26 No.19	前島伸一郎、前島悦子、前島しん也	1315頁～1318頁
関節リウマチ治療の最前線	単著	平成21年	和歌山県医師会医学雑誌 vol.38	前島悦子	1頁～2頁
A screening test for capsaicin-stimulated salivary flow using filter paper: a study for diagnosis of hyposalivation with a complaint of dry mouth	共著	平成23年	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod vol.112 No.1	Kanehira T, Yamaguchi T, Asano K, Morita M, Maeshima E, Matsuda A, Fujii Y, Sakamoto W	73頁～80頁
Multiple symptoms of higher brain dysfunction caused by Marchiafava-Bignami disease in a patient with dermatomyositis	共著	平成23年	Rheumatol Int Vol.31 No.1	Furukawa K, Maeshima E, Maeshima S, Ichinose M	109頁～112頁
Effect of short-term exercise on reproductive hormones and semen quality	共著	平成24年	GAZZETTA MEDICA ITALIANA Vol.171 No.1	Maeshima E, Tanaka Y, Matsuda N, Harada Y	27頁～33頁
Hyposalivation in autoimmune diseases	共著	平成25年	Rheumatol Int Vol.33 No.12	Maeshima E, Furukawa K, Maeshima S, Koshiba H, Sakamoto W	3079頁～3082頁
A case of fibromyalgia syndrome with anaphylaxis induced by intradermal injection of purified protein derivative	共著	平成25年	Mod Rheumatol Vol.23 No.3	Maeshima E, Furukawa K	593頁～596頁
エタネルセプト投与下で妊娠・出産した関節リウマチの一例	共著	平成25年	日本臨床免疫学会会誌 Vol.36 No.1	古川加奈子、前島悦子、一ノ瀬正和	47頁～51頁
投擲競技およびそれに伴うトレーニングが動脈スティフネスに及ぼす影響	共著	平成25年	日本臨床スポーツ医学会誌 Vo.21 No.3	小芝裕也、前島悦子	643頁～649頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成 2年 9月～現在に至る	日本内科学会認定内科医
平成 4年 1月～現在に至る	日本リハビリテーション医学会認定臨床医
平成 4年 6月～現在に至る	日本リウマチ財団登録医
平成 4年12月～現在に至る	日本内科学会認定内科専門医（現　日本内科学会総合内科専門医）
平成 5年 6月～現在に至る	日本温泉気候物理医学会温泉療法医
平成 6年 3月～現在に至る	日本リウマチ学会認定医

平成10年10月～現在に至る	日本体育協会公認スポーツドクター
平成12年 9月～現在に至る	日本内科学会近畿地方会評議員
平成16年 4月～現在に至る	日本リウマチ学会評議員
平成17年 3月～現在に至る	日本リウマチ学会指導医
平成21年 4月23-26日	前島悦子、古川加奈子、山内康平：ステロイド製剤の変更により原疾患の増悪がみられた自己免疫疾患3例の検討、第53回日本リウマチ学会総会・学術集会、東京
平成21年 9月18-20日	今西平、前島悦子：高強度短時間運動が嗅覚に及ぼす影響、第64回日本体力医学会大会、新潟
平成21年12月6日	前島伸一郎、前島悦子、前島しん也：国民体育大会冬季大会スキー競技会で集団発生したノロウイルス感染症について、第41回和歌山県医師会医学会総会、和歌山
平成22年 4月22-25日	前島悦子、古川加奈子、大澤恭子、前島伸一郎、山内康平：精製ツベルクリン反応液にアレルギー症状を呈した線維筋痛症候群の一例、第54回日本リウマチ学会総会・学術集会、神戸
平成22年 4月22-25日	古川加奈子、前島悦子、山内康平：多彩な高次脳機能障害の症状を呈したMarchiafava-Bignami病を合併した皮膚筋炎の一例、第54回日本リウマチ学会総会・学術集会、神戸
平成22年 9月16-18日	小芝裕也、森北育宏、前島悦子、東亜弓、清水正輝、片岡裕恵、三谷保弘、岩田勝、松田基子、江籠順平、魚田尚吾、梅林薫、鶴池柾叡：足関節捻挫後の背屈制限および不安定性の検討、第65回日本体力医学会大会、千葉
平成23年 7月17-20日	前島悦子、古川加奈子、前島伸一郎、山内康平：膠原病患者の唾液分泌に影響を及ぼす因子に関する検討、第55回日本リウマチ学会総会・学術集会、神戸
平成23年 7月17-20日	古川加奈子、前島悦子、一ノ瀬正和：エタネルセプト投与で妊娠・出産したRAの一例、第55回日本リウマチ学会総会・学術集会、神戸
平成23年 9月16-18日	小芝裕也、前島悦子、笠目裕貴：陸上競技における投擲種目が動脈スティフネスに及ぼす影響、第66回日本体力医学会大会、山口
平成24年 4月26-28日	前島悦子、古川加奈子、前島伸一郎、山内康平：カプサイシンを用いた唾液分泌刺激試験の有用性について、第56回日本リウマチ学会総会・学術集会、東京
平成24年 4月26-28日	古川加奈子、前島悦子、平松政高、池田高治、一ノ瀬正和：多剤免疫抑制療法と大量γグロブリン併用療法で急速進行性間質性肺炎と縦隔気腫を抑制できた抗CADM-140抗体陽性皮膚筋炎の一例、第56回日本リウマチ学会総会・学術集会、東京
平成24年 4月26-28日	平松政高、古川加奈子、池田高治、前島悦子、一ノ瀬正和：SLEの経過中に発症し、診断に苦慮した肺アスペルギルス症の一例、第56回日本リウマチ学会総会・学術集会、東京
平成24年 9月14-16日	小芝裕也、前島悦子、笠目裕貴：アスリート引退後の動脈スティフネスと体格の経時的変化について、第67回日本体力医学会大会、岐阜
平成24年11月 3- 4日	小芝裕也、前島悦子、笠目裕貴：ディトレーニングが動脈スティフネスと体格に及ぼす影響について、第23回日本臨床スポーツ医学会学術集会、神奈川
平成25年 4月18-20日	前島悦子、古川加奈子、前島伸一郎、山内康平：口腔衛生が関節リウマチの病態に及ぼす影響に関する検討、第57回日本リウマチ学会総会・学術集会、京都
平成21年 7月18日	前島悦子：スポーツ医学-内科医の立場から、スポーツ医・科学セミナーin OSAKA、女性アスリートの競技力向上と健康のために、2009年7大阪国際交流センター、大阪市

平成21年 8月22日	前島悦子：スポーツ活動中の熱中症予防及び救急処置（心肺蘇生法、AED、RICE）、生涯スポーツリーダー育成講座、高槻市立総合体育館、高槻市
平成21年 9月10日	前島悦子：RAの診断と治療～最近の話題～、第1回Remicadeチーム医療研究会、ロイヤルパインズホテル、和歌山市
平成21年12月 3日	前島悦子：大発見！メタボにきく運動法、熊取町公開講座、熊取ふれあいセンター、泉南郡熊取町
平成22年 4月10日	前島悦子：関節リウマチに対する生物学的製剤使用の注意点、1st 和歌山Ps Bio Usersセミナー、和歌山県立医科大学高度医療仁育成センター、和歌山市
平成22年 7月17日	前島悦子：スポーツ活動中の熱中症及び救急処置（心肺蘇生法、AED、RICE）、高槻市生涯スポーツリーダー養成講座、高槻市立総合体育館、高槻市
平成22年10月25日	前島悦子：膠原病の理解と日常生活の注意点、難病患者医療相談事業、御坊保健所、御坊市
平成22年11月21日	前島悦子：正しく知ろう、リウマチ治療の現在、日本リウマチと者会50周念記念事業、和歌山マリーナシティ和歌山館、和歌山市
平成22年12月 6日	前島悦子：メタボ解消のワンポイントアドバイス、熊取町公開講座、熊取ふれあいセンター、泉南郡熊取町
平成22年12月16日	前島悦子：膠原病の理解と日常生活の注意点、難病患者医療相談事業、海南保健所、海南市
平成23年 3月 2日	前島悦子：膠原病の理解と日常生活の注意点、新宮保健所難病患者医療相談事業、新宮保健所、新宮市
平成23年 7月 2日	前島悦子：スポーツ指導者のための内科学～女性の健康管理～、生涯スポーツリーダー育成講座、高槻市立総合体育館、高槻市
平成23年 9月13日	前島悦子：膠原病の理解と日常生活の注意点、難病患者医療相談事業、橋本保健所、橋本市
平成24年 6月17日	前島悦子：関節リウマチを考える-女性の立場から-、公益財団法人日本リウマ友の会和歌山支部第47回総会・大会、和歌山県勤労福祉会館プラザホープ、和歌山市
平成24年 7月26日	前島悦子：リウマチ治療の変遷～和歌山県かにおける施設連携の現状とこれから～、疾患治療と施設連携ミーティング、ロイヤルパインズホテル、和歌山
平成24年 8月26日	前島悦子：ビタミンEが自己免疫疾患の抗体産生におよぼす影響、第15回Vitamin E Update Forum、如水会館、東京
平成24年10月23日	前島悦子：リウマチ治療におけるガイドラインについて、第４回和歌山県病院薬剤師会医療ガイドラインシリーズ学術講演会、ホテルグランヴィア和歌山、和歌山市
平成25年 3月 4日	前島悦子：強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎の療養生活について、特定疾患医療相談会、岩出保健所、岩出市
平成25年10月 7日	前島悦子：正しく知ろう！運動のキホン、ヘルスアップ応援講座、田尻町総合保健福祉センター、泉南郡田尻町
平成25年10月28日	前島悦子：関節リウマチ患者さんのQOLと運動について、リウマチ秋の医療講演会、公益財団法人日本リウマチ友の会和歌山支部、岩出市
平成25年11月 9日	前島悦子：関節リウマチの治療について-生物製剤を中心に-、海南医師会学術講演会、海南保健福祉センター、海南市

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	競技スキー　　部	２．役職	2009～部長・監督	３．部員数	３人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			

５．合宿指導	年間合宿回数：　0　回	延べ日数：　0　日	
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない	
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない	
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない	

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成22年1月11～17日	第83回全日本学生スキー選手権大会	アルペンGS 4位	長野県・白馬
平成24年2月23～27日	第85回全日本学生スキー選手権大会	コンバインドスペシャルジャンプ1位、コンバインド3位	岩手県・雫石
平成25年2月15～20日	第87回全日本学生スキー選手権大会	アルペンＧＳ1位、SL 4位	岩手県・雫石
平成21年3月 5～10日	第80回全関西学生スキー選手権大会	アルペンＧＳ1位、2位	長野県・野沢
平成24年3月 2～ 7日	第82回全関西学生スキー選手権大会	クロスカントリースプリント1位	新潟県・赤倉
平成25年3月 8～13日	第83回全関西学生スキー選手権大会	クロスカントリースプリント1位、3位　クラシカル10km 2位　アルペンGS1位、SL1位、4位	新潟県・赤倉
平成26年3月 9～14日	第84回全関西学生スキー選手権大会	アルペンＧＳ1位、SL１位	長野県・野沢

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 スポーツ科学研究科	職名　教授	氏名　松村新也	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
運動生理学のニューエビデンス	共著	2010	真興交易（株）医書出版部	宮村実晴編	417頁～424頁
論文					
Lower skin temperature decreases maximal cycling performance	共著	2011	Osaka City Med.J.	Imai D, Okazaki K, Matsumura S, Suzuki T, Miyazawa T, Suzuki A, Takeda R, Hamamoto T, Zako T, Kawabata T, Miyagawa T.	67頁～77頁
Oral administration of gammaaminobutyric acid affects heat production in a hot environment in resting humans	共著	2012	J PhySiolAnthropol.	Miyazawa T, Kawabata T, Okazaki K, Suzuki T, Imai D, Hamamoto T ,Matsumura S, Miyagawa T.	29頁～31頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
昭和44年4月～現在に至る	日本体力医学会会員
平成6年～現在に至る	日本バイオレオロジー学会会員
平成16年～現在に至る	日本生理学会会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	女子ソフトボール　　部		２．役職	部長	３．部員数　15　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　4　回		延べ日数：　約20　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
９．年間の引率公式大会名	大　会　名		期　　間	場　　所	

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

１．指導クラブ名	ダブルダッチ同好会		２．役職	部長	３．部員数　20　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　3　回		延べ日数：　約15　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
９．年間の引率公式大会名	大　会　名		期　　間	場　　所	

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
H26.10.19	ダブルダッチ全日本学生大会	優勝	大阪府サンケイホールブリーゼ
H26.12.7	ダブルダッチ世界大会	優勝	米国ニューヨークアポロシアター

［注］　１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　教授	氏名　　宮下　和己	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
２　作成した教科書、教材、参考書		
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 平成25年度キャリア教育推進連携シンポジウム	平成26年2月21日	文部科学省・厚生労働省・経済産業省主催。パネリスト。
４　その他教育活動上特記すべき事項 教育者表彰（文部科学大臣表彰）	平成25年11月	

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
小学校で育てたい勤労観・職業観と指導の課題－小学校におけるキャリア教育	単著	平成22年８月	初等教育資料8月号（通巻863号）東洋館出版社		p. 4-9
キャリア教育の更なる充実のために－期待される教育委員会の役割－	共著	平成23年２月	文部科学省国立教育政策研究所	作成協力委員	
論文					
学校におけるキャリア教育に関する総合的研究「諸外国におけるキャリア教育」	共著	平成22年３月	文部科学省国立教育政策研究所	研究委員会委員	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成１５年１０月～現在	日本キャリア教育学会　会員

平成２２年４月～平成２４年３月	和歌山県高等学校野球連盟　会長
平成２２年５月～平成２４年４月	和歌山県商業教育研究会　会長
平成２３年９月～平成２５年８月	和歌山県地方産業教育審議会　委員
平成２４年４月～平成２６年３月	和歌山県高等学校長会　会長
平成２４年４月～平成２６年３月	第７０回国民体育大会和歌山県競技力向上対策本部　委員
平成２５年４月～平成２６年３月	和歌山県きのくに教育審議会　委員
平成２５年６月～平成２６年３月	平成２７年度全国高等学校総合体育大会和歌山県実行委員会　委員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	軟式野球（女子）　　部	２．役職	平成26年4月～コーチ（部長）	３．部員数	１５人
４．現場指導の頻度	③	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　0　回	延べ日数：　0　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西地区大学女子軟式野球春季リーグ	５月～６月	大阪芸術大学
	関西地区大学女子軟式野球秋季リーグ	１０月～１１月	大阪芸術大学
	全日本大学女子野球選手権大会	８月	富山県魚津市桃山球場他

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成２６年５月～６月	関西地区大学女子軟式野球春季リーグ	第２位	大阪芸術大学
平成26年８月22日～27日	全日本大学女子野球選手権大会	ベスト８	富山県魚津市桃山球場他

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属	体育学部	職名	教授	氏名	森北　育宏	大学院における研究指導担当資格の有無	(有)・無

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1．教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「スポーツ医学」「救急処置Ⅰ・Ⅱ」	H22年前期	ビデオ教材を更新し最新の知識を与えている
2．作成した教科書、教材、参考書 「スポーツ医学テキスト」	H23年前期	学生の学生の学力低下に合わせたテキストの変更を毎年行っている
3．教育方法・教育実践に関する発表、講演等	H25前期	学力不足に学生でも理解できるようにデフォルメした形での教育方法に変更している
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スポーツ指導者のためのスポーツ医学	分担	2009年3月	南江堂		6頁
復帰のためのスポーツ外傷・障害治療	分担	2011年	メディカルビュー社		10頁
スポーツと腰痛－最新の知見－	分担	2012年	株）加藤文明社		7頁
ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療	分担	2014年	南江堂		16頁
改訂第２版					
論文					
Incidence, Symptoms and Diagnosis of Jumper's Knee and Knee contusions in College Women's Volleyball Players	共著	2009年	Journal of Physical Therapy Science２１（２）	Ikuhiro Morikita, Shinya Kisii, Yasuhiro MItani	121-127
Factors Responsible for Lower Back Pain in Kendo Practitioners	共著	2009年	Journal of Physical Therapy Science２１（２）	Shinya Kisii,　Ikuhiro Morikita ,Kyousuke Takasaki, Tsuyoshi Yamaguchi, Toshiaki Suzuki	147-154
Range of Motion of Hip Joints of Male University Kendo Practitioners with Lower Back Pain	共著	2009年	Journal of Physical Therapy Science２１（２）	Shinya Kisii,　Ikuhiro Morikita	253- 256

腰椎椎間板切除術（MED法）後の超早期リハビリテーション・プログラムの効果とその検討	共著	2009年	日本臨床スポーツ会誌17(2)	貴志真也、森北育宏、奥田智史、片岡大輔、左海伸夫、吉田宗人	255-262頁
スポーツ選手の腰痛への対応	共著	2009年	臨床整形外科44-9	清水克時　中川泰彰　森北育宏ほか	919-928頁
腰仙椎アライメントと腰痛との関係 一変形性股関節症患者6名による一考察	共著	2009年	四条畷学園大学 リハビリテーション学部紀要5	三谷保弘、森北育宏	55-58頁
男子ナショナルチームのメディカルサポートについて	共著	2010年	日本臨床スポーツ医学会誌15(1)	西野衆文　林光俊　森北育宏　橋本吉登	55-59頁
レジスタンスダイナミックストレッチ（RDS法）の効果	共著	2012年	日本臨床スポーツ医学会誌17(2)	清水正輝、森北育宏、片岡裕恵	255頁～162頁
大阪府下ゴルフ場における受動喫煙防止対策に関するアンケート調査	共著	2012年	ゴルフの科学25	片岡裕恵　森北育宏　粟谷健礼	83頁～134頁
2012年度整形外科的メディカルチェック活動報告	共著	2013年	大阪体育大学紀要44	片岡裕恵　森北育宏　梅林　薫他	93～107頁
大阪体育大学診療所の現状と課題	共著	2014年	大阪体育大学紀要45	森北育宏 前島悦子古屋桂子粟谷健礼他	121-128頁
2013年度整形外科的メディカルチェック活動報告	共著	2014年	大阪体育大学紀要45	魚田尚吾　森北育宏　古屋桂子	143-156頁

１．指導クラブ名	ラクロス　部		２．役職	2004～部長	３．部員数	35
４．現場指導の頻度	③	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない				
５．合宿指導	年間合宿回数：　回		延べ日数：　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				

９．年間の引率公式大会名	大　会　名			期　　間		場　　所	

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　足立哲司	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
視覚教材活用による理解度の向上	平成22（2010）年～	パワーポイントによるパソコンプレゼンテーションの導入およびBR、DVD、YouTubeほか動画を利用した視覚教材の活用によって学生の理解度を深めている。
学生による授業評価の実施	平成22（2010）年～	FD委員会による授業評価を受けて、学生の意見を取り入れた講義内容の改善に取り組んでいる。
2　作成した教科書、教材、参考書		
プリント資料の配布	平成22（2010）年～	授業内容を明確にするために適宜プリント資料を配布して、学生の理解力の向上を図っている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
特定非営利活動法人ＮＳＣＡジャパン日本ストレングス＆コンディショニング協会主催. 第4回北陸地域ディレクターセミナー「心臓の鼓動を味方につけろ!ロードレース、マラソンを完走するための心拍数トレーニング」、「心拍計を用いたランニングの実習」	平成21（2009）年9月	指導者を対象に心拍数トレーニングについて講演・実技指導を行った。
第8回乳酸研究会. 女子長距離ランナーにおけるトレーニングへの乳酸活用～2011日本インカレ女子1万m優勝者などを例として～	平成24（2012）年2月	研究者、指導者を対象にトレーニングへの乳酸活用法について講演を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
分岐鎖アミノ酸（BCAA）含有飲料摂取が漸増運動負荷中の生体に及ぼす影響について	共著	平成23（2011）年11月	日本生理人類学会誌. 16(3)	◎足立哲司、足立博子、中井聖、豊岡示朗、増原光彦	165頁～170頁
女子長距離ランナーにみられる3000mレース記録とVO_2maxのアロメトリースケーリングとの関係	共著	平成24（2012）年9月	ランニング学研究. 23(2)	◎足立哲司、足立博子、中嶋南紀、豊岡示朗、橋爪和夫、山地啓司	11頁～18頁
大学女子中長距離選手の競技記録と最大酸素摂取量および最大酸素摂取量で走れるスピードとの関係	共著	平成25（2013）年3月	大阪総合保育大学紀要. 7, 95-103	高橋篤志、足立哲司、山崎大樹、豊岡示朗	95頁～103頁

大学女子中長距離選手の競技記録とVO_2max/kg、vVO_2max、OBLAスピードの関係	共著	平成25（2013）年3月	大阪体育大学紀要. 44, 1-10	◎足立哲司、豊岡示朗	1頁～10頁
Association between lifestyle and physical activity level in the elderly: a study using doubly labeled water and simplified physical activity record	共著	平成25（2013）年10月	European Journal of Applied Physiology. 113(10) , 2461-2471	Yosuke Yamada, Risa Noriyasu, Keiichi Yokoyama, Tomoaki Osaki, Tetsuji Adachi, Aya Itoi, Taketoshi Morimoto, Shingo Oda, Misaka Kimura	2461頁～2471頁
その他					
女子中長距離ブロック、1年目の指導を振り返って～5000m、15分台への軌跡～	単著	平成23（2011）年3月	櫂.第14号, 23-29		23頁～29頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成7　(1995) 年1月～現在に至る	日本体力医学会 会員
平成7　(1995) 年1月～現在に至る	ランニング学会 会員
平成7　(1995) 年6月～現在に至る	日本運動生理学会 会員
平成10（1998）年4月～現在に至る	日本トレーニング科学会 会員
平成14（2002）年6月～現在に至る	日本肥満学会 会員
平成15（2003）年4月～現在に至る	ランニング学会　理事
平成22（2010）年6月～現在に至る	日本生理人類学会 会員
平成22（2010）年9月～現在に至る	関西学生陸上競技連盟コーチ
平成25（2013）年4月～平成26（2014）年3月	第26回ランニング学会大会実行委員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

1．指導クラブ名	陸上競技　　部	2．役職	2010.4～男女コーチ／2013.4～女子コーチ	3．部員数	250人
4．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
5．合宿指導	年間合宿回数：　4　回	延べ日数：　24　日			
6．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
7．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
8．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
9．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所		

	大阪学生陸上競技対校選手権大会	4月初旬（2日間）	ヤンマーフィールド長居（大阪）
	関西学生陸上競技対校選手権大会	5月初旬（5日間）	ヤンマースタジアム長居（大阪）
	日本学生陸上競技個人選手権大会	6月中旬（3日間）	ShonanBMWスタジアム平塚（神奈川）
	西日本学生陸上競技対校選手権大会	7月初旬（3日間）	関西地区開催（京都・西京極）、九州地区開催（福岡・博多の森）、東海地区開催（岐阜・長良川）、中四国地区開催（徳島・ポカリスエットスタジアム）：1年毎の持ち回り
	日本学生陸上競技対校選手権大会	9月初旬（3日間）	国立競技場（東京）
	関西学生新人陸上競技選手権大会	9月中旬（2日間）	ヤンマーフィールド長居（大阪）
	関西学生対校女子駅伝競走大会	9月下旬（1日間）	神戸・しあわせの村（兵庫）
	関西学生対校駅伝競走大会予選会	10月上旬（1日間）	住友電工総合グラウンド（大阪）
	関西学生陸上競技種目別選手権大会	10月下旬（4日間）	ヤンマーフィールド長居（大阪）
	全日本大学女子駅伝対校選手権大会	10月下旬（1日間）	仙台市陸上競技場～仙台市役所前市民広場（宮城）
	関西学生対校駅伝競走大会	11月下旬（1日間）	久美浜町・浜公園～宮津市役所前（京都）

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成22（2010）年5月14日-15日 平成22（2010）年5月20日-21日	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	男子10000mW　優勝	大阪市長居第二陸上競技場（大阪）および京都市西京極総合運動公園陸上競技場（京都）
	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	男子3000mSC　優勝	
	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	男子800m　優勝	
	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	男子800m　2位	
	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	男子1500m　2位	
	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	女子800m　4位	
平成22（2010）年6月18日-20日	2010日本学生陸上競技個人選手権大会	男子10000mW　8位	平塚市総合公園平塚競技場（神奈川）
平成22（2010）年6月4日-6日	第94回日本陸上競技選手権大会	女子3000mSC　8位	香川県立丸亀競技場（香川）
平成22（2010）年7月2日-4日	秩父宮杯 第63回西日本学生陸上競技対校選手権大会	男子800m　3位	博多の森陸上競技場（福岡）
平成23（2011）年5月12日-15日	第88回関西学生陸上競技対校選手権大会	男子10000mW　3位	大阪市長居第二陸上競技場（大阪）
	第88回関西学生陸上競技対校選手権大会	女子5000m　2位	

	第88回関西学生陸上競技対校選手権大会	女子10000m　2位	
平成23（2011）年6月17日-19日	2011日本学生陸上競技個人選手権大会	女子5000m　2位	平塚市総合公園平塚競技場（神奈川）
平成23（2011）年7月15日-17日	秩父宮杯 第64回西日本学生陸上競技対校選手権大会	男子5000m　4位	岐阜メモリアルセンター長良川競技場（岐阜）
	秩父宮杯 第64回西日本学生陸上競技対校選手権大会	女子5000m　2位	
	秩父宮杯 第64回西日本学生陸上競技対校選手権大会	女子10000m　優勝	
平成23（2011）年9月9日-11日	天皇賜盃 第80回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子5000m　5位	KKWING（熊本）
	天皇賜盃 第80回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子10000m　優勝	
平成24（2012）年1月15日	皇后杯 第30回全国都道府県対抗女子駅伝	優勝　大阪（4区）	西京極陸上競技場～国立京都国際会館（京都）
平成24（2012）年7月14日-21日	第2回世界ろう者陸上競技選手権大会	男子800m　5位	カナダ・トロント
	第2回世界ろう者陸上競技選手権大会	男子4×400mリレー　銅メダル	
平成25（2013）年7月5日-7日	秩父宮杯 第66回西日本学生陸上競技対校選手権大会	女子5000m　2位	ポカリスエットスタジアム（徳島）
平成26（2014）年5月7日-10日	第90回関西学生陸上競技対校選手権大会	女子3000mSC　3位	ヤンマースタジアム長居（大阪）

［注］ 1　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
2　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
3　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
4　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部 健康･ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	職名　　准教授	氏名　　池島　明子	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　(無)　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
・学生による授業評価を実施	平成18年4月より開始（毎年継続中）	FD委員会による授業評価に加え、実技授業(ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝⅠ・Ⅱ）では毎回授業内容の評価と改善点の提案をレポート作成させている。
・実技試験を兼ねた地域住民対象の体力測定会の実施	平成22年6月より開始（毎年継続中）	地域住民を被測定者とした体力測定会を年1回開催し、健康福祉学部「体力測定評価」受講生に測定員を務めさせることで受講への意識の向上を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
・学生による小学生へのスポーツ技術指導（年15回）	平成23年5月より開始（毎年継続中）	地域貢献および健康運動指導士養成のため、健康・ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学演習において
・学生による介護予防や健康づくり教室の指導（年6回）	平成23年10月より開始（毎年継続中）	プログラム立案をふくめた現場実習を実施するための指導を行っている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
生活状況の厳しい教育キャンプが参加者の「生きる力」に及ぼす影響	共著	平成21年3月	大阪体育大学紀要第40巻	福田芳則・横山誠	59頁～71頁
ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動に対する意識の調査・分析ー大阪体育大学学生を対象としてー	共著	平成22年3月	大阪体育大学紀要第41巻	福田芳則	105頁～113頁
握力計の不正確な実態とその対策ー正確性のﾁｪｯｸと補正法ー	共著	平成24年2月	体育の科学第62巻第2号	藤田英和・金子公宥他	147頁～153頁
教育ｷｬﾝﾌﾟが参加者の社会人基礎力と生きる力に及ぼす影響ー社会人基礎力と生きる力の関係に着目してー	共著	平成24年3月	大阪体育大学紀要第43巻	江口達也・福田芳則	67頁～76頁
新たな握力計検定器の開発ー背筋力計の検定も可能ー	共著	平成24年11月	体育の科学第62巻第11号	藤田英和・金子公宥他	884頁～887頁
体育系大学・学部における社会貢献 活動のあり方：生涯ｽﾎﾟｰﾂｶﾝﾌｧﾚﾝｽ2011の報告	共著	平成25年3月	大阪体育大学紀要44巻	冨山浩三他	11頁～28頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成10年4月より	日本野外教育学会・日本キャンプ協会　会員
平成12年4月より	日本体育学会・大阪体育学会　会員
平成6年4月より	日本バンパープール協会　理事
平成23年5月より	NPO法人　みんなのスポーツ協会　理事
平成24年7月より	大阪体育大学同窓会摂泉会　理事
平成17年4月より	大阪府熊取町健康課主催「介護予防事業　転倒骨折予防教室」講師（年20回）
平成18年6月より	大阪府熊取町健康課主催「くまとりタピオ元気体操　普及並びにリーダー養成会」講師（年6回）

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	野外活動 応援団・ﾁｱﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ　部	２．役職	コーチ 部長	３．部員数	31人 13人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　回	延べ日数：　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　石川　昌紀	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）	有

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
（1）健康運動指導士養成講習会　講師	2011年より	
（2）OSAKAスポーツ大学　講師	2008年より	
（3）高大連携事業　大阪府立大塚高等学校 体育科のスポーツ科学の講師	2011年より	
（4）堺市ジュニア育成プログラムの講師	2010年より	

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Neuromusclar Aspects of Sports Performance	共著	2010年	Wiley-Blackwell	Komi PV	150頁～163頁
Olympic textbook of science in sport	共著	2009年	Wiley-Blackwell	Komi PV, Maughan RJ	7頁～24頁
論文					
Economical running strategy for East African distance runners	共著	2013年7月	J Phys Fitness Sports Med 〈2巻〉	Ishikawa M, Sano K, Kunimasa Y, Oda T, Nicol C, Ito A, Komi PV	361頁～363頁
Agonist-antagonist muscle activation during drop jumps	共著	同　年1月	Eur J Sport Sci（13巻）	Arai A, Ishikawa M, Ito A	490頁～498頁

シンスプリント治療におけるアキレス腱部への押圧刺激に伴う血流と筋硬度の変化	共著	同　年2月	大阪体育学研究(51巻)	佐野加奈絵, 石川昌紀, 国正陽子, 中村誠治, 西下正成, 伊藤章	19頁～23頁
Muscle-tendon interaction and EMG profiles of world class endurance runners during hopping	共著	同　年6月	Eur J Appl Physiol（113巻）	Sano K, Ishikawa M, Nobue A, Danno Y, Akiyama M, Oda T, Ito A, Hoffren M, Nicol C, Locateilli E, Komi PV	1395頁～1403頁
Age-related fascicle-tendon interaction in repetitive hopping	共著	2012年12月	Eur J Appl Physiol（112巻）	Hoffren M, Ishikawa M, Avela J, Komi PV	4035頁～4043頁
Age-related muscle activation profiles and joint stiffness regulation in repetitive hopping	共著	2011年6月	J Eletromyogr Kinesiol（21巻）	Hoffren M, Ishikawa M, Rantalainen, Avela J, Komi PV	483頁～491頁
異なるドロップ高からの着地における筋活動の調整	共著	同　年2月	健康運動科学（2巻）	新井彩, 石川昌紀, 伊藤章	21頁～28頁
Achilles tendon length changes during walking in long-term diabetes patients	共著	2010年6月	Clin Biomech （25巻）	Cronin NJ, Peltonen J, Ishikawa M, Komi PV, Avela J, Sinkjaer T, Voigt M	476頁～482頁
Afferent contribution to locomotor muscle activity during unconstrained overground human walking: an analysis of triceps surae muscle fascicles	共著	同　年12月	J Neurophysiol （103巻）	af Klint R, Cronin NJ, Ishikawa M, Sinkjaer T, Grey MJ	1262頁～1274頁
Bone rigidity to neuromuscular performance ratio in young and elderly men	共著	2009年11月	Bone （45巻）	Rantalainen T, Sievänen H, Linnamo V, Hoffrén M, Ishikawa M, Kyröläinen H, Avela J, Selänne H, Komi PV, Heinonen A	956頁～963頁
Effects of prolonged walking on neural and mechanical components of stretch responses in the human soleus muscle	共著	2009年7月	J Physiol （10巻）	Cronin NJ, Ishikawa M, Af Klint R, Komi PV, Avela J, Sinkjaer T, Voigt M	4339頁～4347頁
Force in the Achilles Tendon During Walking With Ankle Foot Orthosis	共著	2009年6月	Am J Sports Med 〈37巻〉	Fröberg A, Komi P, Ishikawa M, Movin T, Arndt A	1200頁～1207頁
Neuromuscular control in landing from supra-maximal dropping height	共著	2009年2月	J Appl Physiol （106巻）	Galindo A, Barthèlemy J, Ishikawa M, Chavet P, Martin V, Avela J, Komi PV, Nicol C.	539頁～547頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成14年4月～現在	A member of European congress of sport science (ECSS)

平成17年4月～現在	A member of American college of sports medicine (ACSM)
平成17年4月～現在	A member of International society of Biomechanics (ISB)
平成21年4月～現在	大阪体育学会会員　（平成22年～理事 スポーツ領域代表 ）
平成21年4月～現在	日本体育学会会員（平成21年～平成25年　幹事）
平成24年4月～現在	A member of International society of Electrophysiology and Kinesiology (ISEK)

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	トランポリン　　部	２．役職	例：2009～2011年　部長	３．部員数	4　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　0　回	延べ日数：　0　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

[注] １　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。

２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　伊原久美子	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ ㊒ ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 学内授業評価	2009年～	
2　作成した教科書、教材、参考書 大阪体育大学教員免許更新講習（テキスト） 冒険教育の理論と実際（著書）	2011年3月 2014年5月10日	授業に役立つレクリエーション活動と野外活動に関する内容 冒険教育に関する概論
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 チーム始動時におけるASEプログラム導入が集団凝集性に及ぼす影響（学会発表）	2014年6月21日	チームビルディングを高める野外活動（ＡＳＥプログラム）導入の効果検証
4　その他教育活動上特記すべき事項 和歌山県青少年育成協会の事業の企画・実践	2013年～	和歌山県の青少年を対象とした野外活動を用いたリーダー養成研修会

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
冒険教育の理論と実際	共著	2014年5月	杏林書院	星野敏男、金子和正（監修）	28頁～34頁
論文					
保育実習が実習生の保育者効力感に及ぼす影響 －短期大学2年生の責任実習と四年制大学2年生の観察実習の比較－	共著	2009年3月	愛媛女子短期大学研究紀要（第20号）	◎伊原久美子、糸岡夕里	83頁～95頁
教員養成大学におけるキャンプ活動の効果に関する研究-セルフエフィカシーに注目して-	共著	2009年3月	Leisure&Recreation（自由時間研究）（第35号）	◎井澤悠木、伊原久美子	39頁～48頁
冒険教育プログラムにおける中学生の自己効力感の変容要因の探索 - 質的研究方法を用いたプロセスモデルの検討から -	共著	2009年6月	野外教育研究（第12巻第2号）	◎伊原久美子、飯田稔、木谷尚史、佐藤知行	7頁～21頁

冒険教育プログラムの参加経験がその後の人生に及ぼす影響	共著	2010年3月	大阪体育大学紀要（第41巻）	◎伊原久美子、木谷尚史・佐藤知行	13頁～22頁
幼児・低学年児童における継続型組織キャンプの効果に関する研究	共著	2013年1月	野外教育研究（第16巻第1号）	◎伊原久美子・中野友博、飯田稔	31頁～44頁
体育系大学・学部における社会貢献のあり方：生涯スポーツカンファレンス2011の報告	共著	2013年3月	大阪体育大学紀要（第44巻）	◎冨山浩三、福田芳則、伊原久美子他9名	1頁～10頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成22年4月～現在に至る	大阪府レクリエーション協会課程認定校連絡会幹事
平成22年6月～現在に至る	大阪府キャンプ協会専門委員
平成22年7月～現在に至る	大阪府立青少年海洋センター指定管理候補者選定委員会委員
平成25年4月～現在に至る	兵庫県立南但馬自然学校調査・研究委員会委員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	野外活動　　部	２．役職	2009年～　監督	３．部員数	30人
４．現場指導の頻度	③	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　5　回	延べ日数：　25　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

4　「研究活動」については、下記の点に留意してください。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　ウエイン　ジュリアン	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　(無)　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2010年4月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2011年4月～現在に至る	英語Ia/b（１年次配当、必修、半期）では基礎的な「読む」・「聴く」・「話す」・「書く」能力の向上を目標として指導を行っている。積極性を促すために発言の回数を成績に反映させる制度を取り入れている。 英語演習Bでは（１年次配当、必修、半期）では英会話力の向上を目標として指導を行っている。比較的に低い英語力のある学生がついていけるようにe-ラーニングを使って予習を課す。 Scientific & Practical English(大学院、半期)では海外研究発表に臨んでいる大学院生に対して指導を行っている。発表の準備としてクラスメートや専門教員の前で質疑応答を含めた模擬発表をしてもらう。
２　作成した教科書、教材、参考書	2010年4月～現在に至る	英語演習Bで取り入れたe-ラーニングシステムであるALC NetAcademy2の内容に合わせてワークシートを作っている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年3月24日	「e-ラーニングを取り入れた英語ネイティブ教員による英会話の授業」（ウエイン・ジュリアン，工藤俊郎）日本リメディアル教育学会第６回関西支部会大会(関西外国語大学)
４　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
翻訳					
学生が学習者としての自分を理解することを援助する：学習に関する認識の指導	単著	平成22年9月	リメディアル教育研究第５巻第２号		11頁～16頁
翻訳『ボクシアーナ』（Boxiana; or Sketches of Ancient and Modern Pugilism.）（2）-第１巻．ジャック・ブロートン編-	共著	平成24年3月	大阪体育大学紀要第４３巻	梅垣明美，ウエイン・ジュリアン，上谷浩一	161頁～174頁
論文					
翻訳作業から捉えた初期ボクシングの実態　-ブロートンズ・ルールの定訳に向けて-	単著	平成25年3月	大阪体育大学紀要第４４巻		139頁～146頁

A Brief Characterization of Nippon Kempo	単著	平成26年3月	大阪体育大学紀要第４５巻		157頁～164頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成22年4月～現在に至る	全国語学教育学会(JALT)会員
平成23年4月～現在に至る	日本リメディアル教育学会(JADE)会員及び学会誌の編集員、英国日本学研究協会(BAJS)会員
平成23年4月～現在に至る	日本体育学会(JSPEHSS)会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	日本拳法　　部	２．役職	2009～　コーチ	３．部員数	13　　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　7　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全国大学選抜選手権大会	6月	東京・早稲田大学
	全日本学生拳法選手権大会	11月	大阪府立体育会館

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成23年6月5日	第24回全国大学選抜選手権大会	全国ベスト８	東京・早稲田大学
平成23年11月27日	第56回全日本学生拳法選手権大会　女子の部	全国３位	大阪府立体育会館

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　大阪体育大学体育学部	職名　准教授	氏名　川島　康弘	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
（1）レポート提出	平成21年～	授業内容の理解度を高めることを目的に課題を与え、数回のレポート作成させ、提出させている。
（2）視聴覚教材の活用	平成21年～	PCのプレゼンテーションソフトを活用し、授業内容の理解度を高めている。
（3）「学生による授業評価」の実施とそのリフレクションの提出	平成21年～	FD委員会による「学生による授業評価」を受け、リフレクションを行うとともに授業展開について検討した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
（1）櫂第11号	平成21年３月	1996年より本学コーチング系研究グループが中心となって、運動部の指導や問題点、スポーツパフォーマンス向上に役立つ理論や方法などを纏めて作成している。コーチングコース専攻学生の副読本として使用している。
（2）櫂第12号	平成22年３月	
（3）大阪体育大学　教員免許更新講習2010テキスト	平成22年７月	授業に役立つ運動の仕組み、水泳・水中運動の基本動作とその指導法について解説した。
（4）櫂第13号	平成23年３月	1996年より本学コーチング系研究グループが中心となって、運動部の指導や問題点、スポーツパフォーマンス向上に役立つ理論や方法などを纏めて作成している。コーチングコース専攻学生の副読本として使用している。
（5）櫂第14号	平成24年３月	
（6）櫂第15号	平成25年３月	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
（1）教員免許更新講習の講師	平成22年１月	本学が行っている教員免許更新講習の講師として「水泳の授業づくり」を担当した。
（2）教員免許更新講習の講師	平成22年７月	
（3）大阪府高齢者大学校の講師	平成25年１月	中高年における水泳･水中運動の実施方法とその効果について講義した。
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
試合を控えた女子競技チームに対する心理的コンディショニング	共著	平成22年３月	大阪体育大学紀要（第41巻）	奥野真由、土屋裕睦、川島康弘、滝瀬定文	115頁～124頁
大阪体育大学大学生の体力を測る ー平成21,22年度体力測定の学年別集計結果ー	共著	平成23年３月	大阪体育大学紀要（第42巻）	川島康弘、平野亮策他	111頁～120頁

大阪体育大学大学生の体力を測る ー平成23年度体力測定の学年別集計結果ー	共著	平成23年３月	大阪体育大学紀要（第42巻）	中井俊行、川島康弘他	139頁～145頁
整形外科的メディカルチェックからみた大学競泳選手の身体的特徴	共著	平成25年11月	日本水泳・水中運動学会2013年次大会	川島康弘、滝瀬定文他	126頁～127頁
その他					
コーチの役割と必要なもの	単著	平成22年３月	櫂第12号		22頁～27頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	水上競技　　部	２．役職	2009:監督、2012～女子コーチ	３．部員数	２０ 人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　3　回	延べ日数：　15　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	日本選手権水泳競技大会	４月10～13日	東京辰巳国際水泳場
	関西学生春季短水路公認記録会	4月13日	尼崎スポーツの森プール
	関西学生チャンピオンシップ水泳競技大会	５月24～25日	秋葉山公園プール
	大阪府選手権水泳競技大会	６月７～８日	なみはやドーム
	JAPAN OPEN(50m)水泳競技大会	６月19～22日	東京辰巳国際水泳場
	関西学生夏季短水路公認記録会	６月21～22日	京都アクアリーナ
	関西学生選手権水泳競技大会	７月25～27日	なみはやドーム
	日本学生選手権水泳競技大会	９月５～７日	横浜国際プール
	関西学生冬季短水路公認記録会	12月7日	京都アクアリーナ
	日本短水路選手権水泳競技大会	２月21～22日	東京辰巳国際水泳場
	関西学生春季短水路選手権水泳競技大会	3月8日	まほろば健康パーク　スイムピア奈良

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2009年，7月24～26日	第83回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m自由形第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第83回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第83回関西学生選手権水泳競技大会	男子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子100m背泳ぎ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子100m平泳ぎ第2位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子200m平泳ぎ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ第3位	大阪プール
2009年，7月24～26日	第45回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子800mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	大阪プール
2011年，11月12～13日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2011	女子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第35位	東京辰巳国際水泳場
2012年，7月27～29日	第48回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子100m平泳ぎ第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第48回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第2位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第48回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2012年，7月27～29日	第48回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	女子100m自由形第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，6月１～２日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	女子200m平泳ぎ第2位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
2013年，7月26～28日	第87回関西学生選手権水泳競技大会	女子100m自由形第2位	なみはやドーム
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	女子50mﾊﾞﾀﾌﾗｲ第31位	東京辰巳国際水泳場
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	女子100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ第32位	東京辰巳国際水泳場
2012年，11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	混合200mﾌﾘｰﾘﾚｰ第26位	東京辰巳国際水泳場

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　木　村　準	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・○無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 授業評価により授業内容等を吟味した	平成21年度～25年度	実技「バスケットボールⅠ」では、基本技術を積極的に取り組めるよう授業内容を工夫し、「バスケットボールⅡ」では、戦術及び指導法についても理解させるような授業内容とした。
2　作成した教科書、教材、参考書 大阪体育大学コーチング教育研究誌　櫂　第14号　17頁～20頁	平成24年3月	クラブ活動の指導におけるコーチング・フィロソフィーを理解するために参考となるピート・キャリル（プリンストン大）のコーチング哲学の紹介。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
賢者は強者に優るーピート・キャリルのコーチング哲学ー	共著	平成23年4月	晃洋書房	二杉　茂、津田真一郎、木村　準、伊藤　淳	26頁～50頁、69頁～89頁
論文					
大学女子バスケットボール選手の競技パフォーマンスと静止視力および深視力の関連性	共著	平成24年3月	大阪体育大学紀要（第43巻）	◎木村　準、東　亜弓、國部雅大、山田なおみ、三根由香里、中大路　哲	1頁～9頁
公式記録を利用したbjリーグにおけるルール改正後のショット成績の分析	共著	平成24年3月	大阪体育大学紀要（第43巻）	◎比嘉　靖、中井　聖、東　亜弓、木村　準	91頁～97頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成21年3月～平成25年3月	関西学生バスケットボール連盟　理事
平成21年3月～平成25年3月	大阪バスケットボール協会　副理事長

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	バスケットボール男子　　部		２．役職	1984年（昭和59年）～監督	３．部員数　65　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　回		延べ日数：　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生バスケットボール選手権大会	4月下旬～5月上旬	大阪市立東淀川体育館他
	西日本学生バスケットボール選手権大会	6月上旬	大阪府立体育館他
	関西学生バスケットボールリーグ戦	8月下旬～11月上旬	近畿地区体育館

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成17年4月下旬～5月上旬	関西学生バスケットボール選手権大会	4位	大阪市立東淀川体育館他
平成18年9月上旬～10月下旬	関西学生バスケットボールリーグ戦（1部リーグ）	4位	なみはやドーム他
平成19年4月下旬～5月上旬	関西学生バスケットボール選手権大会	4位	大阪市立東淀川体育館他

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　　准教授	氏名　楠本　繁生	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 学生による授業評価 ワークシートの活用	平成22年～25年 平成22年～26年	学生による授業評価（授業に関するアンケート調査）の各項目の平均点が、４．５であり、学生から高い評価を得ている。ワークシートを作成し、毎時間学生にフィード・バックさせることにより、自らの課題を見つけ
２　作成した教科書、教材、参考書 画像コンテンツの活用	平成22年～25年	学習内容の理解を深めるため、「画像コンテンツ」を作成し、講義内で活用している。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 現場教諭・ＰＴＡ（保護者）を対象とした研修会・講習会の講師	平成２３年～25年	京都府高等学校ＰＴＡ連合会・研究大会の講師 京都府長岡京市スポーツ団体連合会役員・指導者研修会の講師 大阪府立高等学校保健体育科連絡協議会・実技指導の講師
４　その他教育活動上特記すべき事項 教員免許更新講習の講師	平成２５年～26年	スポーツ科学と体育の授業づくり「ゴール型・ハンドボールの授業づくり」

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「今　この瞬間に全力をつくせ」	単著	平成２１年１２月	グローバル教育出版		250頁
論文					
Shimokochi Y, Igawa T,et al., Combined landing, core, and jump training modifies lower extremity energetics during single-leg landing in college handball players: Implications for anterior cruciate ligament injury prevention	共著		National Athletic Trainers' Association 64th Annual Meeting and Clinical Symposia, Las Vegas, NV, US, 2013 June 24~27	下河内洋平、井川貴裕	

熟成したハンドボールゴールキーパーのペナルティースローにおける視覚探索ストラテジーとコース予測の判断根拠	共著		大阪体育大学　第４３巻		
ハンドボール競技におけるチーム格差に対する有効な攻撃戦術に関する研究	共著		兵庫教育大学紀要　第４３巻		
「着地トレーニングがリバウンドジャンプ中の下肢のパワー発揮に及ぼす影響」	共著		第1回日本トレーニング指導者学会プログラム・抄録集　p 18		
「大阪体育大学女子ハンドボール選手におけるスクワット１RM及び最大伸張性腰椎屈筋力向上は監督による選手の主観的プレー能力の評価向上の必要条件となる」	共著		第1回日本トレーニング指導者学会プログラム・抄録集　p 34		
「女子ハンドボール選手における2種の異なる体幹トレーニングが最大伸張性腰椎屈筋力に及ぼす経時的効果」	共著		第1回日本トレーニング指導者学会プログラム・抄録集　p 35		
「両脚スクワット系運動における最大パワー発揮能力及び最大筋力発揮能力と片脚リバウンドドロップジャンプの遂行能力との関係	共著		第1回日本トレーニング指導者学会プログラム・抄録集　p 36		
「複合的な体幹、ジャンプ、着地トレーニングは女子ハンドボール選手のジャンプ及び片脚着地時における股関節の貢献度を増大させる」	共著		第1回日本トレーニング指導者学会プログラム・抄録集　p 37		
「下肢3関節伸展速度と跳躍高の関係性　～トレーニングによる関係性の変化～」	共著		第1回日本トレーニング指導者学会プログラム・抄録集　p 38		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成２３年～　現在に至る	関西学生hんどボール連盟　理事
平成２3年～　現在に至る	日本体育学会　会員
平成２3年～　現在に至る	日本スポーツ教育学会　会員
平成２3年～　現在に至る	日本ハンドボール学会　会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	女子ハンドボール　　部	２．役職	2010年～監督	３．部員数	30
４．現場指導の頻度	①	①（ほぼ毎日）　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2～3　回	延べ日数：　10～20　日			

６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西ハンドボール春季リーグ戦	4月上旬～5月中旬	関西周辺
	西日本学生ハンドボール選手権大会	８月	西日本学連持ちまわり
	関西ハンドボール秋季大会	9月上旬～10月中旬	関西周辺
	全日本学生ハンドボール選手権大会	１１月	全日本学連持ちまわり

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成２３・２５年１１月	全日本学生ハンドボール選手権大会	優　勝	岩手県・山梨県
平成２２・２４年１１月	全日本学生ハンドボール選手権大会	準優勝	大阪府・福岡県
平成２４～２６年度８月	西日本学生ハンドボール選手権大会	優　勝	京都府他
平成２３～26年	関西春季・秋季ハンドボールリーグ戦	優　勝	関西周辺

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　下河内　洋平	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
The relationships among sagittal-plane lower extremity moments: implications for landing strategy in anterior cruciate ligament injury prevention.	共著	2009年1月	Journal of Athletic Training Vol 44 No.1	Shimokochi Y, Yong Lee S Shultz SJ, Schmitz RJ	33頁～38頁
日本人大学競技スポーツ選手の大腿骨捻転角の特徴	共著	2010年3月	大阪体育大学紀要 第44巻	魚田尚吾，下河内洋平	23頁-32頁

全身的パワー発揮のモニタリングおよびフィードバックが投擲選手のパフォーマンスに及ぼす影響	共著	2010年11月	日本トレーニング科学会 トレーニング科学第22回 第3号	永田聡典、下河内洋平	269頁～277頁
Knee Joint Laxity and Its Cyclic Variation Influence Tibiofemoral Motion during Weight Acceptance	共著	2011年2月	Medicine & Science in Sports & Exercise Vol43 No.2	Shultz SJ, Schmitz RJ, Nguyen AD, Levine B, Kim H, Montgomery MM, Shimokochi Y, Beynnon BD, Perrin DH.	287頁～295頁
Changing Sagittal Plane Body Position during Single-Leg Landings Influences the Risk of Non-contact Anterior Cruciate Ligament Injury	共著	2013年4月	Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy Vol21 No.4	Shimokochi Y, Ambegaonkar JP, Meyer EG, Lee SY, Shultz SJ	88頁～97頁
Balance comparisons between female dancers and non-dancers	共著	2013年3月	Research Quarterly for Exercise and Sport Vol84 No.1	Ambegaonkar JP., Caswell SV, Winchester J, Caswell AM, Shimokochi Y	24頁～29頁
Relationships among Performance of Lateral Cutting Maneuver from Lateral Sliding and Hip Extension and Abduction Motions, Ground Reaction Force, and Body Center of Mass Height	共著	2013年	Journal Strength Conditioning Reserch Vol27 No.7	Shimokochi Y, Ide D, Kokubu M, Nakaoji T	1851頁～1860頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
2013年～現在	日本トレーニング指導者協会会員及び調和研究委員会委員
2013年～現在	日本臨床スポーツ医学会会員
2011年～現在	日本コーチング学会会員
2008年～現在	日本バイオメカニクス学会会員
2008年～現在	日本体力医学会会員
2003年～現在	National Athletic Trainers’Association会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	トライアスロン　　部	２．役職	2013～部長	３．部員数	人
４．現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　　回	延べ日数：　　日			

６．クラブの競技力向上への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない
８．部員の就職指導への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　准教授	氏名　白井麻子	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
（1）「ダンスⅠ」での模擬授業、作品発表	平成21年～平成25年	授業の中に、学生が模擬授業体験をする機会を設け、指導計画、教授法についての内容を取り入れた。グループ毎の作品創作・発表会では、活動を通して自己効力感を高め教育を実践した。毎時間学習が活動を記録することを通して、学習の振り返り、自己評価をできるよう指導形態の工夫を取り入れた。
（2）視覚教材の利用	平成21年～平成25年	ダンス授業の見本、模範のみにならず、学習者自身を撮影した映像をすぐに再生し、フィードバックする試みを実施し、教育効果を高めた。 講義の授業においても、視聴覚資料を取り入れ、学生の興味を引き付ける工夫を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		
（1）教員免許状更新講習テキスト2010～2013	平成22年～平成25年	2010年版から2013年まで体ほぐし、ダンスの指導書を作成している。2010年から3回の改定を行った
（2）保存版！ダンス指導ハンドブックⅢ	平成23年	現代的なリズムのダンスの指導法について2ページ分を担当
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
（1）ダンス授業の指導法についての講義		
大阪女子体育連盟主催　ムーブメントプラザ2010　ダンス授業指導	平成22年5月23日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
大阪体育大学免許更新講習　体ほぐし担当	平成22年7月26日	免許更新講習
兵庫県教育委員会　阪神教育事務所　ダンス指導講習会	平成22年8月23日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
高槻市生涯スポーツリーダー育成講座	平成22年10月2日	地域体育指導者養成講習
大阪市中体連　ダンス授業講習会	平成22年10月9日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
兵庫県教育委員会　播磨西教育事務所　ダンス実技研修会	平成22年11月4日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
兵庫県教育委員会　但馬教育事務所　ダンス実技研修会	平成22年11月25日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
兵庫県教育委員会　淡路教育事務所　　ダンス実技研修会	平成23年1月21日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
兵庫県女子体育連盟主催　ダンスセミナー	平成23年8月26日	高校生を対象としたダンス技術指導
兵庫県教育委員会　播磨西教育事務所　ダンス実技研修会	平成23年10月19日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
兵庫県教育委員会　淡路教育事務所　　ダンス実技研修会	平成23年11月18日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
OSAKAスポーツ大学　ダンス研修会	平成23年11月18日	地域体育指導者養成講習
兵庫県教育委員会　但馬教育事務所　ダンス実技研修会	平成23年12月6日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
大阪体育大学免許更新講習　ダンス担当	平成24年1月9日	免許更新講習
兵庫県教育委員会　播磨西教育事務所　ダンス実技研修会	平成24年6月1日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
大阪女子体育連盟主催　ムーブメントプラザ2012　ダンス授業指導	平成24年6月2日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
兵庫県教育委員会　淡路教育事務所　　ダンス実技研修会	平成24年6月13日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
兵庫県高等学校体育研究会　ダンス実技講習	平成24年7月5日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
香川県女子体育連盟主催　ダンス実技講習会	平成24年8月20日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会

兵庫県女子体育連盟主催　ダンスセミナー	平成24年8月24日	高校生を対象としたダンス技術指導
兵庫県教育委員会播磨東教育事務所	平成24年9月27日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
OSAKAスポーツ大学　ダンス研修会	平成24年10月12日	地域体育指導者養成講習
兵庫県教育委員会　但馬教育事務所　ダンス実技研修会	平成24年11月30日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
大阪体育大学免許更新講習　ダンス担当	平成25年1月14日	免許更新講習
豊中市教育委員会主催　ダンス実技研修会	平成25年1月28日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
兵庫県教育委員会　播磨西教育事務所　ダンス実技研修会	平成25年5月29日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
兵庫県高等学校体育研究会　ダンス実技講習	平成25年7月4日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
大阪市中体連　ダンス授業講習会	平成25年7月14日	中学生を対象としたダンス技術指導
兵庫県女子体育連盟主催　ダンスセミナー	平成25年8月22日	高校生を対象としたダンス技術指導
豊中市教育委員会主催　ダンス実技研修会	平成25年8月23日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
関西大学地域連携事業　ダンス実技セミナー	平成25年8月24日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
香川県女子体育連盟主催　ダンス実技講習会	平成25年8月26日～27日	ダンス必修化に伴う中学校教員を対象としたダンス実技講習会
神戸大学大学院主催　ダンス授業に関する講義	平成25年11月15日	ダンス学習に関する特別講義
OSAKAスポーツ大学　ダンス研修会	平成25年12月13日	地域体育指導者養成講習
大阪体育大学免許更新講習　ダンス担当	平成26年1月12日	免許更新講習
（２）ダンスの実技、振付		
熊取町主催元気広場	平成22年４月～	隔週土曜日にダンス部学生を中心とした子供のためのダンスクラス監修
スポーツキャンプ	平成23年3月、平成25年3月	大阪体育大学主催の地域スポーツ講習の振付・演出
４　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
カードを利用した表現の指導に関する研究　―参加者の意識に着目して―	単著	平成22年3月	大阪体育大学紀要41		pp. 67-76
ダンス指導の現状と問題点に関する報告～大阪市立中学校教員を対象として～	共著	平成23年3月	大阪体育学研究 No. 49	北島奈津、白井麻子、伊藤美智子	pp. 81-88
「多様な動き」を素材とした視覚教材が表現運動の学習活動に与える効果：小学校6年生を対象に心に響く動きを探る実践的試み	共著	平成23年3月	舞踊教育学研究第13号,	◎白井麻子、伊藤美智子	pp. 12-20
コミュニティダンスワークショップの参加体験とイメージに関する研究―大学生を対象として―	単著	平成24年3月	大阪体育大学紀要43		pp. 53-65
コミュニティダンス事業が参加者に及ぼす影響に関する研究：静岡コミュニティダンスプロジェクトの事例を通して	単著	平成25年10月	舞踊教育学研究　第15号		pp. 25-34
舞踊作品の表現手法に関する研究―「蛻る、蛻る、もぬけ・・」の作品分析を手掛かりとして―	共著	平成26年3月	大阪体育大学紀要45	◎白井麻子、山口晏奈	pp. 165-176
舞踊作品					

作品名	振付	公演日	公演名	会場
『undernearth』	白井麻子	平成22年１月	ダンスがみたい！新人シリーズ８	神楽坂die　pratze
『Outgoing』	白井麻子	平成23年11月	京都国民文化祭関連事業・アルティ舞踊フェスティバル	京都府民ホール
『Tag！』	白井麻子	平成25年9月	ダンスクリエーションアワード	亀有リリオホール
『フィクション』	山口晏奈・白井麻子	平成26年3月	アルティ舞踊フェスティバル	京都府民ホール

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成21年4月～現在	舞踊学会会員
平成22年4月～現在	大阪女子体育連盟理事
平成22年4月～現在	日本体育学会　会員
平成25年4月～現在	堺市スポーツ推進審議会委員
平成22年4月～現在	日本体育学会　会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	創作ダンス部　　部	２．役職	例：2009～コーチ 2010～監督	３．部員数	13人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　7　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生舞踊連盟	4月下旬	兵庫県立芸術文化センター
	全日本高校大学ダンスフェスティバル（神戸）	8月上旬	神戸文化ホール
	アーティスティック・ムーブメントin トヤマ	9月	福岡町Uホール
	大阪体育大学創作ダンス部単独公演	10月	高石市民文化会館アプラホール

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成24年9月12～14日	第15回アーティスティック・ムーブメントin トヤマ	審査員賞／高円寺ダンスアワード受賞	福岡町Uホール

平成25年8月７～9日	第26回全日本高校大学ダンスフェスティバル（神戸）	日本女子体育連盟会長賞受賞	神戸文化ホール
平成26年8月７～9日	第27回全日本高校大学ダンスフェスティバル（神戸）	奨励賞受賞	神戸文化ホール

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　大学　体育学部	職名　准教授	氏名　菅生　貴之	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） スポーツ心理・カウンセリングコース必修科目 「スポーツ心理学実験実習」における研究計画法の指導	平成24年4月～	オムニバス授業の形態をとった授業の中で、実験や調査の実施方法についての講義を採用した。
2　作成した教科書、教材、参考書 これから学ぶスポーツ心理学	平成23年4月	体育学部スポーツ教育学科必修科目の「スポーツ心理学」の担当者により共通の指導内容を目指して教科書を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
コーチングに役立つ実力発揮のメンタルトレーニング	共訳	平成21年5月	大修館書店	ロビン・S・ビーリー　著　徳永幹雄　監訳	22頁
スポーツモチベーション	共著	平成25年10月	大修館書店	西田保　編	2頁
スポーツメンタルトレーニング指導士活用ガイドブック	共著	平成22年8月	大修館書店	日本スポーツメンタルトレーニング指導士会　編	4頁
これから学ぶスポーツ心理学	共著	平成23年4月	大修館書店	荒木雅信　編	25頁
論文					
スポーツ競技者に対する認知的ストレス課題及び自律訓練法実施時の心拍変動の反応性	共著	平成22年3月	大阪体育大学紀要　第41巻	◎菅生貴之、内田遼介	47頁～56頁

2011年度大阪体育大学学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告	共著	平成25年3月	大阪体育大学紀要　第44巻	◎菅生貴之、髙橋幸治、今堀美樹、荒屋昌弘、前林清和、土屋裕睦	75頁～92頁
2012年度大阪体育大学学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告	共著	平成26年3月	大阪体育大学紀要　第45巻	◎菅生貴之、髙橋幸治、今堀美樹、荒屋昌弘、前林清和、今川惠和、土屋裕睦	103頁～120頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成26年4月～	日本スポーツ心理学会　理事
平成23年4月～平成27年4月	日本体育学会体育心理学専門領域　理事
平成23年4月～	日本スポーツ心理学会認定　スポーツメンタルトレーニング指導士会　理事

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	バトントワリング　　部	２．役職	2014～	３．部員数	5　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　0　回	延べ日数：　0　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	特になし		

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

4　「研究活動」については、下記の点に留意してください。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　曽根純也	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無○　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
１）講義科目：演習Ⅰ、Ⅱ	2007～現在	指導実践、発表と最終的にゼミ論文をまとめる授業を実施。
特別演習	2008～現在	特別演習では(財)日本サッカー協会公認Ｃ級コーチライセンスの指導。
スポーツ技術・戦術論運動学	2008～現在	サッカーの基本的な戦術的視点を紹介
運動学	2009～現在	他者観察、運動共感力、身体知の形成、学習位相理論を中心に講義形式で行う。
コーチング法	2014	コーチングの基礎知識を中心に講義及び課題提出の形式で進め授業を実施。
２）実技科目：サッカーⅠ	2007～現在	技術指導と同時に、スモールゲームやタスクゲームを取り入れて実施。
２　作成した教科書、教材、参考書		
教員免許状更新講習テキスト	2009.2010.2011.	教員免許更新制の実施に伴う共著による大阪体育大学のテキストを作成。
運動学講義ノート	2011/3/10作成、2014/3/10改訂版作成	2009年より新書「身体知の構造」「スポーツ運動学」などの発刊に伴い改訂版を作成。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
高槻市生涯スポーツ指導員要請講座	2010/9/18,2011/9/19,2012/10/25	子供の体力低下・運動嫌い防止のためにについて講義
堺市生涯スポーツ指導員要請講座	2013/8/21	子供の運動参加のための親の関わり方について講義
大阪市スポーツ振興財団	2009.2010.2011.2012.2013.2014	他者観察、運動共感力、身体知の形成について講義
４　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
Eine paedagogische Betrachtung ueber die FaehigkeitderBeobachtung	単著	2010/11/30	大阪体育大学紀要第42巻		17頁－22頁
球技における戦術学習に関する今日的課題	単著	2010/10/31	日本スポーツ運動学会23号		67頁－72頁

Dispatch of Japanese Soccer Coaches to Asia	共◎	2012/5/14	World Conference on Science and Soccer		280頁
体罰の法的観点	単著	2013/10/31	大阪体育大学紀要第45巻		65頁～76頁
Eine Studie über die rechtliche Perspektive der Körperlichen Züchtigung		2014/9/18	日独スポーツ科学会議		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　准教授	氏名　髙本　恵美	大学院における研究指導 担当資格の有無 （ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成23年～	「陸上競技Ⅰ」において、視覚教材を用いて、到達目標となる技能等の確認を行い、さらに、ipad等のタブレット端末のビデオカメラ機能を用いた撮影・再生や遅延再生によるフィードバックによる技能到達度の確認を行うことで、課題解決のための課題の明確化を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成22年11月29日、12月6日 平成23年1月16日、23日 平成23年5月16日 平成25年1月21日、28日 平成25年8月26日	和歌山県高等学校体育研修会「体力向上を目指した授業づくり」講師 和歌山県小学校体育研修会「陸上運動領域」講師 和歌山県高等学校体育主任者会議「体力を高める運動」講師 和歌山県小学校体育学習研修会「陸上運動領域」講師 泉佐野市教育研究会保険体育部講習会「陸上運動」講師
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
陸上競技指導教本アンダー12　楽しいキッズの陸上競技．第5章正しい・楽しい練習計画の立て方	共著	平成22年5月	大修館書店		113頁～123頁
陸上運動のジュニア（小学生）指導ガイドラインー投運動（ボール投げ）ー	単著	平成23年2月	陸上競技社、月刊陸上競技2011年3月号		120頁～165頁
論文					
第11回世界陸上女子走高跳上位入賞者の跳躍動作のバイオメカニクス的分析	共著	平成22年3月	第11回世界陸上競技選手権大会日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究班報告書　世界一流陸上競技者のパフォーマンスと技術	阿江通良・永原隆・大島雄治・小山宏之・髙本恵美・柴山一仁	171頁～171頁
第11回世界陸上男子走高跳上位入賞者の跳躍動作のバイオメカニクス的分析	共著	平成22年3月	第11回世界陸上競技選手権大会日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究班報告書　世界一流陸上競技者のパフォーマンスと技術	阿江通良・永原隆・大島雄治・小山宏之・髙本恵美・柴山一仁	165頁～170頁
走幅跳のバイオメカニクス的分析	共著	平成22年3月	第11回世界陸上競技選手権大会日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究班報告書　世界一流陸上競技者のパフォーマンスと技術	小山宏之・村木有也・吉原礼・永原隆・柴山一仁・大島雄治・髙本恵美・阿江通良	154頁～164頁
投能力を高めるためにー陸上競技投てき界の将来を担う子どもたちにできることー	単著	平成22年9月	陸上競技研究（第82号）		2頁～7頁

世界一流女子三段跳選手の踏切動作に関するバイオメカニクス的研究－同程度の競技記録を持つ男子選手との比較－	共著	平成23年3月	陸上競技研究（第84号）	築野愛、阿江通良、小山宏之、村木有也、髙本恵美	23頁～31頁
必修科目としてのインターンシップ実習の取り組みに関する事例報告	共著	平成23年3月	大阪体育学研究（第49巻）	伊藤美智子・中大路哲・淵本隆文・岡崎勝博・髙本恵美	103頁～110頁
2010年度大阪体育大学トレーニング科学センター活動報告	共著	平成23年3月	大阪体育大学紀要（第42巻）	内田遼介・菅勝輝・菅生貴之・下河内洋平・髙本恵美・梅林薫	135頁～148頁
2011年度大阪体育大学トレーニング科学センター活動報告	共著	平成24年3月	大阪体育大学紀要（第43巻）	内田遼介・安宅優輔・井上雅喜・上杉宏治・菅勝輝・助永仁美・菅生貴之・下河内洋平・髙本恵美・田中健一・松原郷士・鶴池柾叡・梅林薫	147頁～159頁
2012年度大阪体育大学トレーニング科学センター活動報告	共著	平成25年3月	大阪体育大学紀要（第44巻）	内田遼介・安宅優輔・井川貴裕・井上雅喜・門岡晋・高力裕也・下河内洋平・助永仁美・菅生貴之・髙本恵美・田中健一・谷山万寿美・星川麻里子・松原郷士・梅林薫	123頁～137頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
学会・競技団体　委員等	
平成15年4月～平成25年6月	日本陸上競技連盟　科学委員会　委員
平成15年4月～現在	関西学生陸上競技連盟　コーチ
平成18年4月～現在	大阪体育学会理事
平成20年11月～平成22年3月	大阪体育学会50周年記念事業実行委員会　委員
平成23年1月～平成24年12月	大阪市スポーツ振興審議会　委員
平成23年4月～平成25年6月	日本陸上競技連盟　普及育成委員会　地域拠点部　近畿担当
平成23年4月～平成23年10月	日本ゴルフ学会第24回大会実行委員会　委員
平成24年4月～平成25年3月	大阪体育学会大会実行委員会　委員
講習会・研修（教育方法・実践以外）　講師	
平成22年11月	親子テニスフォーラム　講師
平成22年5月	大阪女子体育連盟指導者セミナー　講師
平成22年5月	PGA　B級昇級講習会　講師
平成22年6月	堺市スポーツ少年団指導者研修会　講師
平成22年7月～現在	堺市ジュニア育成プログラム　講師
平成22年10月～平成23年11月	日本体育協会上級指導員養成講習会　講師
平成22年12月～現在	堺市スポーツ指導者養成講座　講師
平成23年2月～現在	大阪府高齢者大学校　講師
平成23年8月	大阪スポーツ大学　講師
平成24年2月	兵庫県中体連研究大会　講師

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	陸上競技　　部	２．役職	コーチ	３．部員数	250　　人
４．現場指導の頻度	②	①　ほぼ毎日　②　週3日　③　週１日　④　現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤　全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　0　　回	延べ日数：　0　　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間		場　　所	

	大阪学生対校陸上競技選手権大会	4月	大阪
	関西学生対校陸上競技選手権大会	5月	大阪・京都
	日本学生個人陸上競技選手権大会	6月	神奈川
	日本陸上競技選手権大会	6月	長野
	西日本学生陸上競技選手権大会	7月	京都・福岡・岐阜・徳島
	日本学生対校陸上競技選手権大会	9月	東京・埼玉
	関西学生新人陸上競技選手権大会	9月	大阪
	日本ジュニア陸上競技選手権大会	10月	愛知
	関西学生種目別陸上競技選手権大会	10月	大阪

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成21年9月	デフリンピック台北大会	男子棒高跳4位	台北
平成21年9月	日本学生陸上競技対校選手権大会	男子走高跳5位	東京・国立
平成21年7月	西日本学生陸上競技対校選手権大会	男子走高跳1位	香川・丸亀
平成21年7月	西日本学生陸上競技対校選手権大会	女子走高跳4位	香川・丸亀
平成21年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子棒高跳3位	大阪・長居第2
平成21年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子十種競技3位	大阪・長居第2
平成21年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合2位	大阪・長居第2
平成21年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	女子総合2位	大阪・長居第2
平成22年7月	西日本学生陸上競技対校選手権大会	女子走高跳4位	福岡・博多の森
平成22年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	女子棒高跳2位	大阪・長居第2、京都・西京極
平成22年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	女子総合2位	大阪・長居第2、京都・西京極
平成23年7月	西日本学生陸上競技対校選手権大会	女子棒高跳5位	岐阜・岐阜メモリアル
平成23年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	女子棒高跳2位	大阪・長居第2
平成23年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合3位	大阪・長居第2
平成24年7月	西日本学生陸上競技対校選手権大会	男子総合3位	京都・西京極
平成24年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子走幅跳1位	大阪・長居第1
平成24年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子十種競技3位	大阪・長居第1
平成24年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合3位	大阪・長居第1
平成24年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	女子棒高跳3位	大阪・長居第1
平成24年6月	日本学生陸上競技個人選手権大会	男子走幅跳8位	神奈川・平塚
平成24年6月	日本学生陸上競技個人選手権大会	女子棒高跳8位	神奈川・平塚
平成25年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子走高跳2位	大阪・長居第1
平成25年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子走高跳3位	大阪・長居第1
平成25年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子走幅跳1位	大阪・長居第1
平成25年5月	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合2位	大阪・長居第1

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

V　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　准教授	氏名　堤　裕之	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

I　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1)「情報処理実習I」「情報処理実習II」の授業実施方法の統一と反転授業化	～現在	「情報処理実習I」「情報処理実習II」は体育学部全学生に必修として課されている演習科目であり，各13コマずつ，複数の教員（非常勤含む）により実施されている．これら全ての授業で課す課題内容，評価方法，試験問題を2012年度よりすべて統合することで，評価基準を厳格化（明白化）した．この実現のため，2013年度より，本授業専用の教員向け，および学生向けホームページから，それぞれに向けた詳細な資料を閲覧，ダウンロードできるようにした．なお，この統一された授業は結果的に反転授業と呼ばれる授業形式を満たすものとなっている（反転授業が全国的に注目されるようになったのはここ最近である）．
(2)「情報処理実習I」「情報処理実習II」と他の授業科目群の連携	～現在	「情報処理実習I」と「情報処理実習II」の授業内容が，他の体育学部基礎教育科目（自然科学基礎群，及び日本語技法群）と連動するよう授業を構成した．そのため，基礎教育科目で用いている教科書を本授業でも教科書として採用している．他の基礎教育科目で学んだことを本授業でさらに実践的に復習させることで，基礎教育科目全体で教育効果が高まるよう配慮した．
(3) 自然科学基礎群の設置と運営	2011.4～現在	2010年まで開講されていた「自然科学基礎I」「自然科学基礎II」の授業に代わり，2011年より「自然科学基礎(基礎I)」「自然科学基礎(基礎II)」「自然科学基礎(生化)」「自然科学基礎(統計)」「自然科学基礎(力学)」を設置，運営した．学生はこれら5科目から2科目の単位を取得する必要がある．本授業群は次の特色を持つ．(A)学力に応じた授業計画を可能にしたこと (B)高等学校での履修状況，および入学時プレースメントテストの結果から，推奨取得授業が提示されるようにしたこと (C)リメディアル対象学生向授業である「基礎I」「基礎II」に対して，他の授業科目より手厚い教員配置を実現したこと (D)「基礎I」について，学習支援室と連携し，授業時間外の手厚い学習サポートを実現したこと (E)ガイダンス，授業内試験等を基礎群全ての授業で一致して行うことで，担当する教員が密接に連絡を取り合いながら授業を進めていくようにしたこと
(4)「自然科学基礎(力学)」における頻回の成績評価と評価内容の全面開示	2011.4～現在	自然科学基礎群のうち，実際に担当している「自然科学基礎(力学)」において，前回の授業内容の理解度を試す小試験をほぼ毎回（12回）実施し，それらの結果と期末試験の試験結果を総合して最終的な成績評価を行うようにした．また，それら小試験，試験結果の答案を本学eポートフォリオシステムを用いてすべて学生に返却した．これにより，単位認定の厳格化（明白化）を実現した．
2　作成した教科書、教材、参考書		
「情報処理実習I・情報処理実習II(体育学部)」ホームページ (https://sites.google.com/a/ouhs.ac.jp/ouhsipp/)	2013.9～現在	体育学部「情報処理実習I」「情報処理実習II」を受講する学生に対して配布資料を提供すると共に，授業を担当する複数の教員が共通して用いる20種類以上の課題の説明，採点基準，プログラム等が掲載されている．なお，教員向けの情報には学生がアクセスできないよう適切なアクセス制御が行われている．
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

「大阪体育大学における初年次教育改革の概要紹介」	2009.3.23	畔津憲司，工藤俊郎，堤裕之，長尾佳代子『日本リメディアル教育学会第1回関西支部大会発表予稿集』，20頁。大阪体育大学において2006年度に開始した初年次教育改革の概要を紹介した。
「単位認定試験結果の数量分析：理科系基礎科目について」Preliminary results	2011.3.27	畔津憲司，堤裕之，神戸マクロ経済研究会（神戸大学）KMSGセミナー．大学の基礎教育科目の特に理科系科目について行った実験的な数量分析の結果を報告した．
「必修授業との連携によって学生をリメディアル教育に導入する仕組みの構築について」	2011.9.2 - 9.3	工藤俊郎，長尾佳代子・吉沢一也・堤裕之 『日本リメディアル教育学会第7回全国大会発表予稿集』，125頁～126頁。リメディアル教育のカリキュラム構築に際して必修科目との連携を緊密にすることで学生を確実に指導できるシステムを構築した大阪体育大学の実践を紹介した。ポスター発表。
「授業内レポートとポートフォリオについての一考察とその実際」	2012.3.19	堤裕之，日本リメディアル教育学会 第4回 関西支部会．大阪体育大学において頻回のレポートを課す授業である日本語技法に着目し，その運営にどのようにe-ポートフォリオシステムが係ったのかについて紹介することで，成績評価の厳格化に資するシステムの方向性について発表した．
「スキャナを用いた業務効率化の一例」	2012.7.24，2012.7.27	堤裕之，日立OCR&スキャナ イメージソリューションフェア東京，大阪．日立コンピューター機器株式会社の依頼により，大阪体育大学のさまざまな授業での経験を元に，教育現場におけるOCRとスキャナの活用の方向性，および求められる機能，信頼性に関する講演を開発者，ITベンダー担当者向けに行った．
4　その他教育活動上特記すべき事項		
大体大 e-ポートフォリオシステムの開発	2011.4～2012.3	現在，大阪体育大学で継続的に利用されている「大体大 e-ポートフォリオシステム」の設計と構築を監修した．本システムは授業で回収される紙ベースの資料の適切な保管，開示を目的として構築されたものであり，実際に，大阪体育大学において，大規模授業における出席補助，教員免許に係る履修カルテ，試験答案用紙の適切な保管等を実現するシステムとして多くの授業で利用されている．なお，本システムは構築に協力した企業により実際に製品化されている．
授業評価システムのポートフォリオシステムへの統合	2013.9～現在	上記した「大体大 e-ポートフォリオシステム」にさらに授業評価機能を追加した．これにより，素早い授業評価結果の取得，複数回の授業評価，評価結果の適切な公開，関連する事務作業の軽減，および授業評価に要するコストの大幅な軽減を実現した．

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『学士力を支える学習支援の方法論』	共著	2012.12	ナカニシヤ出版	谷川裕稔（代表編者）長尾佳代子，壁谷一広，中園篤典，堤裕之（編）	158頁～159頁
『大学における学習支援への挑戦』	共著	2012.9	ナカニシヤ出版	リメディアル教育学会（監修）	194項～195項
『教養としての数学』	共著	2013.4	ナカニシヤ出版	堤裕之（編著），畔津憲司，岡谷良二（著）	1項～179項
論文					
「初歩の統計学と力学の補習教育に読解力と計算力が与える影響についての一考察」	共著	2010.3	『リメディアル教育研究』 第5巻 第1号	堤裕之，畔津憲司	44項～51項（共同研究に付き本人執筆部分抽出不可能）

「大学における視覚障害者のインクルーシヴ教育の課題～授業実践から見出されるもの～」	共著	2012.3	『大阪体育大学健康福祉学部紀要』vol.9	辰巳佳寿恵・長尾佳代子・中村健・寺口敏生・堤裕之	1頁～26頁（21頁～24頁）
Extremal quasimodular forms for low-level congruence subgroups	共著	2012.3	Journal of Number Theory 132 (2012)	Yuichi Sakai, Hiroyuki Tsutsumi	1896頁～1909頁
「基礎学力以外の要因を考慮した期末試験スコアの回帰分析」	共著	2013.3	『リメディアル教育研究』第8巻 第1号	堤裕之，畔津憲司	139頁～146頁（共同研究に付き本人執筆部分抽出不可能）

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
～現在	日本数学会　会員
～現在	日本リメディアル教育学会　会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	フィールドホッケー　部	２．役職	部長	３．部員数	30人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　6　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2011.10.30～2011.11.3	第33回女子全日本学生ホッケー選手権大会	8位	岐阜県グリーンスタジアム
2012.9.15～2012.9.17	第11回全日本大学ホッケー大会（女子）	4位	岐阜県グリーンスタジアム

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　手塚洋介	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2009年4月～	学生の理解を促す工夫を試みている。例えば，教科書以外に独自に作成した穴埋め式の授業ノートを配布し，学生からは「分かりやすい」「読み返して内容を確認できる」等の評価を得ている。他にも，講義の最初と最後に小レポート課題を実施し，学生の理解の進度を毎時確認するようにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書	2011年4月	荒木雅信（編）（2011）これから学ぶスポーツ心理学　大修館書店（分担執筆）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年8月	日本芝草学会主催公開シンポジウム「体育・スポーツから見た芝生」（第1部「心と身体　芝生が与える効果・影響」）にて，芝生化がもたらす心身への影響に関する一連の研究成果を発表するとともに，体育・スポーツと芝生とのかかわりについて提言を行った。
4　その他教育活動上特記すべき事項		高大連携事業の一環として，高校にて模擬授業を年1回程度実施している。また，大学見学に来た高校生を対象に，スポーツ心理学実験室にて実習授業も行っている。加えて，熊取町民を対象とした体力若返り講座にて講師を務めている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
これから学ぶスポーツ心理学	共著	平成23年4月	大修館書店	手塚洋介　他13名	106～117，169～170頁
ストレス科学事典	共著	平成23年6月	実務教育出版	手塚洋介　他481名	41～42，283～284，609，728～729，804～805，819～820，948，997～998頁
日々の生活に役立つ心理学	共著	平成26年3月	川島書店	手塚洋介　他14名	118～131頁
心理学概論（第二版）	共著	同　　年4月	ナカニシヤ出版	手塚洋介　他72名	177頁～179頁
論文					
競走場面における心身反応およびその関連要因の検討	共著	平成26年3月	文京学院大学総合研究所紀要（14号）	◎長野祐一郎・下仲順子・手塚洋介	149～162頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
平成21年4月～平成25年3月	日本体育学会体育心理学専門領域理事
平成25年4月～現在	日本感情心理学会編集委員会　副委員長
平成25年2月～現在	公益社団法人日本心理学会代議員（専門別代議員（第1部門））

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　中井俊行	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		毎年度、学生による授業評価を行っている
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
大学ラグビー選手におけるスピードを伴ったパワーの形成的評価に関する事例研究	共著	2011年3月	日本ラグビー学会誌「ラグビーフォーラム」（第４号）	中井俊行、石指宏通、灘英世、三野耕	9頁～18頁
大学ラグビー選手の体力特性－スピード、パワー、筋力に着目して－	共著	2012年3月	大阪体育大学紀要第43巻	中井俊行、菅勝揮、梅林薫	11頁～21頁
大阪体育大学学生の体力を測る－平成23年度　体力測定の学年・学科別集計結果－	共著	2012年3月	大阪体育大学紀要第43巻	中井俊行、川島康弘、平野亮策、吉田精二、岩岡研典、梅林薫、菅勝揮	139頁～145頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成元年　～　現在に至る	日本体育学会員
平成7年4月　～　現在に至る	関西ラグビーフットボール協会コーチ委員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	ラグビー　部	２．役職	～2013　コーチ　2014～部長、コーチ	３．部員数	96　人
４．現場指導の頻度	①	①　ほぼ毎日　②　週3日　③　週１日　④　現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤　全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　15　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西大学ラグビーAリーグ	10～12月	花園ラグビー場、他
	全国大学ラグビー選手権大会	12～1月	花園ラグビー場、他

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2010年10～12月	関西大学ラグビーAリーグ	4位	花園ラグビー場、他
2011年10～12月	関西大学ラグビーAリーグ	3位	花園ラグビー場、他

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　准教授	氏名　中房　敏朗	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2012年度後期	2012年度後期「授業に関するアンケート調査」の「スポーツ史」「スポーツと人類学」「国際スポーツ論」「スポーツ文化研究」の評価は、学部平均値から0.2～0.6ポイント低い値であった。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スポーツ学の冒険：スポーツを読み解く「知」とは	共著	平成21年3月	黎明書房	船井廣則、松本芳明、三井悦子、竹谷和之編	141-150頁
最新スポーツルール百科2010	共著	平成22年4月	大修館書店	大修館書店編集部編	10-15頁
最新高等保健体育 授業用参考資料	共著	平成23年4月	大修館書店	大修館書店編集部編	390-393頁
論文					
欧米におけるスポーツ雑誌（新聞）の過去・現在・未来	単著	平成22年5月	現代スポーツ評論 no.22（創文企画）		122-141頁
オリンピックが日本にやってくる：戦後日本におけるオリンピックの語られ方	単著	平成22年8月	ISIM Journal no.1（仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所）		25-36頁
ポスト3.11社会のスポーツ	単著	平成24年3月	ISIM Journal no.2（仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所）		49-63頁

スポーツメディア史を考える（スポーツ史学会第25回大会シンポジウム採録）	共著	平成25年3月	スポーツ史研究 26号	松浪稔、玉置通夫	63-98頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成21年4月～平成23年3月	宮城体育学研究　編集委員（平成23年3月まで）

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	空手道　　部	２．役職	2012～　部長	３．部員数	８　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の把握　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　0　回	延べ日数：　0　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　中山　健	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　(無)　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成24年４月	担当している講義科目においては、書き込み式の配布プリントを用意し、必要事項を書き込みながらノート作成する形式の講義を行なっている。ノートは期末に回収し成績評価の参考にしている。また授業内容の理解を促進するために、視聴覚教材を多用することを心掛けている。学生の成績評価は平常点（出席状況とノート作成、授業内での発言）とレポートで評価している。様々な点から学生の成績を評価するため、授業評価アンケートでは「成績評価の方法」について批判的な意見はない。現在にいたる。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成24年４月	上記のとおり、講義科目においては書き込み式のプリントを作成し、学生の授業内容の理解を促進するように努めている。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
生涯スポーツ実践論―生涯スポーツを学ぶ人たちに―改訂３版	共著	平成24年10月	有限会社市村出版	川西正志・野川春夫　編著	担当項pp. 125-127
健康スポーツ学概論―プロモーション，ジェロントロジー，コーチング―	共著	平成25年６月	（株）杏林書院	山羽教文・長ケ原誠　編著	担当項pp. 173-179
翻訳					
Sport club in various European countries（邦訳名：ヨーロッパ諸国のスポーツクラブ～異文化比較のためのスポーツ社会学～）	共訳	平成22年２月	有限会社市村出版	川西正志・野川春夫　監訳	担当項pp. 52-72および pp. 121-130

論文					
プロスポーツクラブの社会貢献活動に関する研究―ジェフユナイテッド市原・千葉を事例に―	単著	平成23年３月	日本体育学会体育経営管理専門分科会編集・発行：体育経営管理論集3巻		pp. 71-80
プロスポーツクラブの社会貢献活動が地域に与える影響に関する研究―ジェフユナイテッド市原・千葉を事例に―	単著	平成24年３月	公益財団法人笹川スポーツ財団発行：SSFスポーツ政策研究第1巻1号		pp. 140-149
高齢者の運動実施に対する自己効力感へ人的支援が与える影響に関する研究；支援内容と働きかけの主体に着目して	単著	平成25年12月	東海体育学会編集・発行：スポーツ健康科学研究（旧;東海保健体育科学）35巻		pp. 99-110

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成20年８月～平成25年３月	富士市スポーツ振興審議会委員（スポーツ推進審議会）
平成25年５月～現在にいたる	高槻市スポーツ推進審議会委員（副会長）

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	ライフセービング　　部	２．役職	2012～監督	３．部員数	51　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　1　回	延べ日数：　5　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本ライフセービング・プール選手権大会	５月中旬	神奈川県横浜国際プール
	全日本ライフセービング種目別選手権大会	６月上旬	千葉県本須賀海岸
	西日本ライフセービング選手権大会	９月中旬	和歌山県白良浜海水浴場
	全日本学生ライフセービング選手権大会	９月下旬	千葉県御宿中央海岸
	全日本ライフセービング選手権大会	10月中旬	神奈川県片瀬江ノ島西浜海水浴場
	全日本学生ライフセービング・プール選手権大会	２月下旬	静岡県富士水泳場

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成25年５月18～19日	第26回　全日本ライフセービング・プール競技選手権大会	ラインスロー男子　第１位（吉岡慎二、小林海）	神奈川県横浜市　横浜国際プール
平成25年６月１～２日	第26回　全日本ライフセービング種目別選手権大会	女子ビーチスプリント　第２位（瀬尾晴香） 女子２kmビーチラン　第３位（廣江史子）	静岡県浜松市　舞阪海岸
平成25年９月28～29日	第28回　全日本学生ライフセービング選手権大会	サーフスキーレース男子　第１位（小林海） ビーチリレー女子　第２位　（水岡由季恵、柴田夏希、樋口友理恵、瀬尾晴香）１km×３ ビーチリレー女子　第３位 （廣江史子、下田柚衣子、薬師川優希子）	千葉県夷隅郡御宿町　御宿中央海岸

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部　健康・スポーツマネジメント学科	職名　准教授	氏名　古澤　光一	大学院における研究指導担当資格の有無（　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） （1）視聴覚教材による理解力の向上・(2)授業評価の活用・(3) 実践能力の情勢	平成21年～	毎回の授業で配布プリントにあわせたPPTによるプレゼンテーション
	平成21年～	授業評価による学生の意見を活かした改善の実施（リフレクションペーパーの活用）
	平成21年～	企画書作成から実施報告書の作成による実践能力の情勢
2　作成した教科書、教材、参考書 ・「スポーツファシリティマネジメント」原田宗彦・間野義之編著スポーツファシリティ運営とサービス（第６章）執筆（再掲）	平成23年	スポーツファシリティとサービス、ファシリティマネジャーの資質と心構え、ホスピタリティマネジメントについて
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スポーツファシリティマネジメント	共著	平成23年7月	大修館書店	原田宗彦・真野義明編著	第6章
クラブマネジャー養成テキスト「マーケティング」「スポーツクラブ経営の戦略」	共著	平成24年3月	(財)日本体育協会	(財)日本体育協会	第2章、第3章
論文					
民間フィットネスクラブの地域スポーツ貢献	単著	平成15年	体育の科学、第53巻（第9号）：ｐ671-675		
フィットネスクラブ従業員の教育研修に関する研究	共著	平成17年3月	大阪体育大学紀要		
18ｔｈTAFISA　World　Congres s報告書	単著	平成16年12月	Trim　Japan　2004　Winter		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成15年4月	日本スポーツ産業学会　会員
平成16年4月	日本体育スポーツ経営学会　会員
平成23年12月～	日本スポーツマネジメント学会　監事

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	アルティメット　　部		２．役職	2003～部長	３．部員数　70　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回		延べ日数：　6　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本アルティメット選手権大会	6月	静岡県富士川緑地公園
	全日本大学アルティメット選手権	9月	静岡県富士川緑地、駒沢運動公園

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成25年9月	第24回全日本大学アルティメット選手権大会	男子優勝・女子準優勝	J-グリーン堺
平成26年9月	第25回全日本大学アルティメット選手権大会	男子・女子決勝進出（2014/9/28決勝）	駒沢オリンピック公園

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　准教授	氏名　松 田 基 子	大学院における研究指導担当資格の有無（ 有 ・ 無 ）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
「学生による授業評価」を実施	平成22年度～	学生の評価を参考に、授業内容の改善に努めた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
大阪体育大学教員免許更新講習テキスト	平成23年12月15日	「柔道の授業づくり」を担当。基本を中心にわかりやすく解説した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大阪府高等学校体育連盟柔道専門部会 審判講習会 講師	平成22年10月	「武道必修化対策」「柔道の基本指導」「審判法」等について、講習会の講師を務めた。
日本武道館地域社会武道指導者研修会（山口県） 講師	平成22年11月	
大阪府柔道連盟Ｃライセンス審判員研修会・認定会 講師	平成23年4月	
大阪府高等学校体育連盟柔道専門部会 審判講習会 講師	平成23年4月	
柔道指導講習会（東大阪市）「女子生徒に合わせた授業づくり」講師	平成23年11月	
大阪府高等学校体育連盟柔道専門部会 審判講習会 講師	平成23年11月	
大阪府柔道連盟Ｃライセンス審判員研修会・認定会 講師	平成24年4月	
大阪府高等学校体育連盟柔道専門部会 審判講習会 講師	平成24年4月	
全国中学校教科柔道指導者研修会（日本武道館・全日本柔道連盟主催）助講師	平成24年6月	
全国中学校教科柔道指導者研修会（日本武道館・全日本柔道連盟主催）助講師	平成25年6月	
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
中学校武道必修化対する大学生の認知と柔道に対する態度との関連ースポーツ志向性の高い大学生を対象にー	共著	平成23年3月	講道館科学研究紀要 第13輯	高橋進, 貝瀬輝夫, 野瀬清喜, 松田基子, 渡辺涼子 他	117～135頁
大学女子柔道部員の安静時の健康状況および運動負荷後の身体的・精神的疲労の出現についてースポーツ医学の観点に立った包括的メディカルチェックー	共著	平成23年6月	臨床スポーツ医学 第28巻6号	古賀稔彦, 梅田孝, 田辺勝, 松田基子, 中路重之 他	669～678頁

武道必修化に対する保健体育科教員養成系大学生の認知と柔道に対する態度との関連性－O体育大学の場合－	共著	平成23年12月	埼玉武道学研究 第8号	松田基子,高橋進,,野瀬清喜,渡辺涼子,竹澤稔裕,三宅仁 他	24～31頁
日蘭の幼児・児童の生活習慣、運動習慣の実態比較について	共著	平成24年3月	関東学園大学 Liberal Art 第19集	高橋進,高橋博,竹澤稔裕,松田基子,鈴木明 他	51～73頁
柔道に対するイメージ調査の研究－日本人及び外国人柔道選手群を対象として－	共著	平成25年3月	近畿大学教養・外国語教育センター紀要（一般教養編）第3巻 第1号	岡田龍司,徳安秀正,森脇保彦,松田基子,中島たけし	61～72頁
Effect of initial blood glucose level on transient physical stress	共著	平成25年5月	弘前医学 第64巻 1号	M.Tanaka, T.Umeda, I.Takahashi,M.Matsuda	71～83頁
健康実践教室が全身の健康度および好中球活性酸素種産生能におよぼす影響	共著	平成26年2月	弘前医学 第64巻 2-4号	松田基子,高橋一平,沢田かほり,梅田孝,中路重之 他	127～135頁
日本及び中国における幼児の体温水準と生活環境に関する調査研究	共著	平成26年3月	大東文化大学紀要 第52号	鈴木明,高橋進,勝又宏,松田基子 他	23～31頁
その他					
全国大学指導者研修会報告	共著	平成21年6月	柔道 平成21年6月号（講道館）	松田基子、溝口紀子	115～119頁
国際審判員として	単著	平成22年6月	大阪の柔道 第33号（大阪府柔道連盟）	松田基子	10頁
女子柔道選手のセカンドキャリア	単著	平成23年8月	女子柔道選手のセカンドキャリアハンドブック（全日本柔道連盟）	松田基子 他	26～27頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
学会	
平成3年4月～現在に至る	日本体育学会　会員
平成3年4月～現在に至る	日本武道学会　会員
平成16年4月～現在に至る	体力・栄養・免疫学会　会員
平成21年5月～現在に至る	日本体力医学会　会員
平成25年4月～現在に至る	日本トレーニング指導者協会（JATI）会員
平成25年4月～現在に至る	日本武道学会柔道専門部会 理事
社会活動	
平成10年4月～現在に至る	大阪市立修道館 柔道講師
平成15年4月～現在に至る	日本オリンピック委員会 強化スタッフ（柔道マネジメントスタッフ）

平成18年4月～平成22年3月迄	関西学生柔道連盟 評議員
平成18年4月～現在に至る	全日本柔道連盟 教育普及委員会委員
平成21年4月～平成26年3月迄	関西学生柔道連盟 副審判長
平成22年4月～現在に至る	関西学生柔道連盟 理事
平成22年4月～平成24年3月迄	全日本柔道連盟 審判委員会特別委員
平成22年4月～現在に至る	大阪学生柔道連盟 常任理事
平成24年2月	大阪学生柔道連盟海外研修（オーストラリア）コーチ
平成26年2月	全日本学生柔道連盟海外研修（フランス・イギリス）コーチ

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	柔道（女子）　　部	２．役職	女子監督（2010年度～）	３．部員数	１５　　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　10　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本選抜柔道体重別選手権大会	4月上旬	福岡国際センター
	皇后盃全日本女子柔道選手権大会	4月中旬	横浜文化体育館
	大阪府ジュニア柔道体重別選手権大会	5月上旬	堺市立大浜体育館
	関西学生柔道優勝大会	5月下旬	ベイコム総合体育館
	全日本学生柔道優勝大会	6月下旬	日本武道館
	近畿ジュニア柔道体重別選手権大会	7月上旬	兵庫県立武道館
	関西学生柔道体重別選手権大会	8月下旬	天理大学杣之内第一体育館
	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	9月上旬	埼玉県立武道館
	全日本学生柔道体重別選手権大会	9月下旬	日本武道館
	全日本学生柔道体重別団体優勝大会	10月下旬	ベイコム総合体育館
	講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	11月上旬	千葉ポートアリーナ
	大阪学生柔道体重別選手権大会	12月上旬	吹田武道館

	大阪府柔道選手権大会 兼 全日本選手権大会予選	1月下旬	大阪市立修道館
	近畿柔道選手権大会 兼 全日本選手権大会予選	3月上旬	各県持ち回り

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成21年9月	関西学生柔道体重別選手権大会	準優勝（52kg級、57kg級）	岸和田市総合体育館
平成22年9月	関西学生柔道体重別選手権大会	準優勝（48kg級）、３位（70kg級）	岸和田市総合体育館
平成23年7月	近畿ジュニア柔道体重別選手権大会	優勝（78kg級）	兵庫県立武道館
平成23年9月	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	ベスト８（78kg級）	埼玉県立武道館
平成23年10月	全日本学生柔道体重別選手権大会	準優勝（78kg級）	日本武道館
平成23年11月	講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	ベスト８（78kg級）	千葉ポートアリーナ
平成24年9月	関西学生柔道体重別選手権大会	３位（48kg級2名）	天理大学杣之内第一体育館
平成24年9月	全日本学生柔道体重別選手権大会	３位（78kg級）	日本武道館
平成24年11月	講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	ベスト８（78kg級）	千葉ポートアリーナ
平成24年11月	IJFグランプリ　青島	３位（78kg級）	中国・青島
平成25年3月	近畿柔道選手権大会 兼 全日本選手権大会予選	５位	滋賀県立武道館
平成25年4月	全日本選抜柔道体重別選手権大会	ベスト８（78kg級）	福岡国際センター
平成25年7月	近畿ジュニア柔道体重別選手権大会	優勝（78kg超級）	兵庫県立武道館
平成25年7月	IJFグランプリ　ウランバートル	準優勝（78kg級）	モンゴル・ウランバートル
平成25年９月	関西学生柔道体重別選手権大会	優勝（78kg級、78kg超級）、３位（70kg級）	天理大学杣之内第一体育館
平成25年９月	全日本学生柔道体重別選手権大会	３位（78kg級）	日本武道館
平成25年11月	講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	ベスト８（78kg級）	千葉ポートアリーナ
平成26年3月	近畿柔道選手権大会 兼 全日本選手権大会予選	３位	和歌山ビッグウェーブ

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部/スポーツ教育学科	職名　准教授	氏名　宮地弘太郎	大学院における研究指導担当資格の有無（　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書 テニステキストー初心者指導法ー　執筆者　梅林薫　松原慶子	平成26年3月31日	テニスの授業を発展科目（半期必修）としてテニスⅠ（２年対象）、関連科目（通年選択）テニスⅡ資格関連科目、半期選択として（特別演習・テニス　４年対象）を開講している。テキストを基に授業展開する
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 ユニバーシアードチーム男子監督(2014年より男子ヘッドコーチ) S級エリートライセンス, JOCオリンピック委員会テクニカルスタッフ	2013年4月まで 2014年4月より	男子ナショナルチーム（ユニバーシアード）での強化指導、国際競技大会での強化、経験を積ませ、ナショナルA,B代表、オリンピック、グランドスラムへ繋ぐ次世代強化を目的とした活動。 ナショナルコーチには必至であるライセンス。（国際大会、国際競技大会での経験を踏まえ、後任への指導を目的としたエキスパートなライセンスである）

Ⅱ　研究活動			発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）			
著書					
	単著				
	共著				

論文			テニスの科学　第19巻	宮地弘太郎, 伊藤雅充, 堀内昌一, 道上静香, 細木祐子	P25-26
ラリーの主導権を握るショットに関する研究-其の3-(日本テニス学会)	共著	2010年12月	関西国際大学研究紀要第11号	宮地弘太郎	P242-251
テニスのサービスゲームに関する研究-ユニバーシアード/ベオグラード大会から	単著	2010年3月	日本テニス協会強化本部第9巻	道上静香, 細木祐子, 宮地弘太郎	
ユニバーシアードチームに関する強化事業報告書	共著	2010年3月	テニスの科学第20巻	宮地弘太郎, 伊藤雅充, 道上静香, 細木祐子, 堀内昌一	P88-89
ラリーの主導権を握るショットに関する研究其の1-3	共著	2011年3月	日本テニス協会ナショナルチーム強化本部第11巻	道上静香, 宮地弘太郎	
ユニバーシアードチームに関する強化事業報告書	共著	2011年3月	テニスの科学第19号	道上静香, 宮地弘太郎, 細木祐子, 村松憲, 高橋仁大	P11-26
日本の女子学生トップレベル選手の強化策-第25回ユニバーシアード競技大会(2009・ベオグラード)の銅メダル獲得から見えてきたもの	共著	2011年3月	関西国際大学研究紀要第12号	宮地弘太郎	P211-220
日本男子テニスの現状と課題	単著	2011年3月	スポーツパフォーマンス研究学会第1014号	宮地弘太郎, 道上静香, 細木祐子, 高橋仁大	P11-30
ユニバーシアードベオグラード大会における日本男子テニスチームのメダル獲得を目指した取り組みと今後の課題	共著	2011年2月	テニスの科学第２０巻	道上静香, 細木祐子, 宮地弘太郎	P94-95
第26回ユニバーシアード競技大会（2011深圳）における日本テニスチームの取り組み-金メダル獲得までの道のりと課題	共著	2011年3月	日本テニス協会強化本部12巻	道上静香, 細木祐子, 宮地弘太郎	
ユニバーシアードチームに関する強化事業報告書	共著	2012年3月	テニスの科学第21号	宮地弘太郎, 細木祐子, 道上静香	P88-89
本学テニス部員に体する練習方法についての検討	共著	2012年3月	関西国際大学研究紀要第13号	宮地弘太郎, 道上静香, 細木祐子, 高橋仁大	P229-238
日本男子学生テニスの強化策についての考察-第26回ユニバーシアード競技大会の強化活動と今後の課題-	共著	2013年3月	関西国際大学研究紀要第14号	宮地弘太郎	P209-216
大学テニス選手に対するフィジカルトレーニングメニューの検討	単著	2013年3月	テニスの科学第２２巻	高橋仁大、宮地弘太郎、細木祐子、村上俊祐、北村哲、道上静香	P138-139

テニスにおけるゲーム・映像分析サポートの実践事例-第27回ユニバーシアード競技大会（2013／カザン）に向けての活動から-	共著	2013年3月	テニスの科学第２２巻	小屋菜穂子、北村哲、梅林薫、宮地弘太郎、道上静香、細木祐子	P23-32
テニス競技のナショナルジュニア選手に求められる体力評価の検討	共著	2013年3月	テニスの科学第２２巻	道上静香、細木祐子、宮地弘太郎、高橋仁大、小屋菜穂子	P140-141
第27回ユニバーシアード競技大会（2013／カザン）における女子テニスチームの取り組み　－ ９年間の取り組みから金メダル獲得の要因を探る－	共著	2013年3月			

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成14年４月～現在に至る	日本体育学会運営医院
	日本体育学会会員、分科会（2014 ,3月まで兵庫スポーツ体育学会会員、2014年4月より大阪体育学会会員）
	日本バイオメカニクス学会、アダプテット学会会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	テニス男子　　部		２．役職	2014,4～	３．部員数　１１人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回		延べ日数：　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生春季テニストーナメント、関西学生テニス選手権	5月、8月	うつぼ公園テニスコート
	関西大学対抗テニスリーグ戦	9月４日～１３日（入れ替え戦　１０月１１日ー１３日）	

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
9月４日～１３日	関西大学対抗テニスリーグ	２部３位	各大学テニスコート

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　講師	氏名　尾関　一将	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 水中映像等を活用した授業方法	平成24年4月	水中映像の提示を行うことで泳動作の体得を行いやすくする工夫をしている.
2　作成した教科書、教材、参考書 水泳授業配布資料の作成	平成23年4月	水の特性（浮力，水温，水圧，抵抗）や4泳法の指導法， 中・高校生を対象にした指導法，救助法などを記載した資料を作成した.
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」における発表	平成23年3月13日	大学体育におけるアクアエクササイズの授業が生涯スポーツに対する学生の意識に与える影響についてアンケート調査を行い，報告した.
4　その他教育活動上特記すべき事項 大阪体育大学教員免許更新講習2011の講師 大阪体育大学教員免許更新講習2012の講師	平成24年1月 平成25年1月	学校体育における技術指導方法及び危険を伴う飛込み，ターン動作の習得方法や学生補助方法の教授を行った.

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
大阪体育大学教員免許更新講習2012	共著	平成24年12月	大阪体育大学教員免許更新講習委員会	大阪体育大学	99頁～114頁
大阪体育大学教員免許更新講習2011	共著	平成23年12月	大阪体育大学教員免許更新講習委員会	大阪体育大学	103頁～118頁
論文					
競泳用水着の形状が競泳選手のバタフライ泳のパフォーマンス指標に与える影響	共著	平成25年3月	大阪体育大学紀要第44巻	尾関一将，田原亮二，田口正公	43頁～52頁
大学体育におけるアクアエクササイズの授業が学生の泳力と運動行動に与える影響-泳力向上を目的とした介入授業の効果-	共著	平成24年3月	体育・スポーツ教育研究12(1)	尾関一将，田原亮二，田口正公	29頁～36頁

女子競泳選手におけるキックスタートとトラックスタートの比較	共著	平成23年3月	中京大学体育学研究所紀要 第25巻	尾関一将，桜井伸二	13頁～16頁
競泳スタートにおける入水方法がパフォーマンスに与える影響	共著	平成22年6月	バイオメカニクス研究14(1)	尾関一将，桜井伸二，田口正公	12頁～19頁
競泳選手の着用する水着の形状がパフォーマンス指標に与える影響	共著	平成22年6月	デサントスポーツ科学第31号	尾関一将，田原亮二	22頁～31頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成19年4月～	日本水泳連盟医・科学委員会バイオメカニクス研究プロジェクトスタッフ
平成25年1月～	日本オリンピック委員会強化スタッフ（コーチングスタッフ）
平成22年9月	日本水泳連盟主催　全国選抜合宿代表コーチ

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	男子水上競技部　　部	２．役職	コーチ	３．部員数	30人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　3　回	延べ日数：　24 日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生春季短水路公認記録会	4月上旬	尼崎スポーツの森
	日本選手権水泳競技大会	4月上旬	東京辰巳国際水泳場　ほか
	大阪府春季室内選手権	5月上旬	なみはやドーム
	関西学生チャンピオンシップ	5月下旬	秋葉山公園県民水泳場
	大阪府選手権	6月上旬	なみはやドーム
	JAPAM OPEN（50m）	6月中旬	東京辰巳国際水泳場　ほか
	関西学生夏季公認記録会	6月中旬	尼崎スポーツの森

	天理チャレンジ	7月上旬	天理大学プール
	関西学生選手権水泳競技大会	7月下旬	なみはやドーム
	関西学生プレインカレ	8月下旬	京都アクアアリーナ
	日本学生選手権水泳競技大会	9月上旬	横浜国際プールなど
	World Cup Tokyo	11月上旬	東京辰巳国際水泳場
	天理スプリント水泳競技大会	11月上旬	天理大学プール
	秋葉山選手権水泳競技大会	11月下旬	秋葉山公園県民水泳場
	関西学生冬季公認記録会	12月上旬	京都アクアアリーナ　ほか
	兵庫県短水路選手権	1月上旬	尼崎スポーツの森
	KONAMI OPEN	1月中旬	コナミ西宮本店
	関西選手権水泳競技大会	2月中旬	大坂プール
	日本短水路選手権水泳競技大会	2月中旬	東京辰巳国際水泳場
	京都県短水路選手権	2月中旬	京都アクアアリーナ
	関西学生春季室内選手権水泳競技大会	3月上旬	尼崎スポーツの森　ほか

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成21年2月21～22日	第50回日本短水路選手権	50m自由形　2位	東京辰巳国際水泳場
	第50回日本短水路選手権	100m自由形　5位	東京辰巳国際水泳場
	第50回日本短水路選手権	50mバタフライ　3位	東京辰巳国際水泳場
	第50回日本短水路選手権	50mバタフライ　8位	東京辰巳国際水泳場
平成21年4月16～19日	第85回日本選手権	50mバタフライ　5位	東京辰巳国際水泳場
	第85回日本選手権	100mバタフライ　5位	東京辰巳国際水泳場
平成21年7月5～11日	第25回ユニバーシアード大会	100mバタフライ　2位	セルビア　ベオグラード
平成23年7月29～31日 □	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子50m自由形第2位	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m自由形優勝	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子1500m自由形第2位	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子1500m自由形第3位	大阪プール

	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m背泳ぎ優勝	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ優勝	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m平泳ぎ第3位	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m平泳ぎ第2位	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ第2位	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m個ﾒﾄﾞﾚｰ優勝	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第2位	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子800mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ第2位	大阪プール
	第85回関西学生選手権水泳競技大会	男子総合優勝	大阪プール
平成23年11月12～13日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2011	男子200m平泳ぎ第18位	東京辰巳国際水泳場
平成24年7月27～29日	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子50m自由形第3位	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m自由形第3位	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子400m自由形第3位	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子1500m自由形第3位	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m背泳ぎ優勝	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ優勝	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ第3位	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子100m平泳ぎ第2位	大阪プール
	第94回関西学生選手権水泳競技大会	男子400m個ﾒﾄﾞﾚｰ第3位	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子400mﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ優勝	大阪プール
	第86回関西学生選手権水泳競技大会	男子総合第3位	大阪プール
平成24年11月6～7日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2012	男子50m自由形第36位	東京辰巳国際水泳場
平成25年2月23～24日	第54回日本短水路選手権水泳競技大会	男子200m平泳ぎ第4位	東京辰巳国際水泳場
平成25年6月1～2日	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子200m背泳ぎ第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ

	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子100ｍ平泳ぎ優勝	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子100ｍ平泳ぎ第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子100ｍ平泳ぎ優勝	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子200ｍ平泳ぎ第2位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子400ｍ個ﾒﾄﾞﾚｰ第2位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子400ｍﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子800ｍﾌﾘｰﾘﾚｰ第3位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
	第１回 関西学生ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝｼｯﾌﾟ大会	男子400ｍﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ第2位	神戸ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞﾌﾟｰﾙ
平成25年7月26～28日	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子100ｍ背泳ぎ第3位	なみはやドーム
	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子200ｍ背泳ぎ第3位	なみはやドーム
	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子100ｍ平泳ぎ優勝	なみはやドーム
	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子200ｍ平泳ぎ優勝	なみはやドーム
	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子400ｍﾒﾄﾞﾚｰﾘﾚｰ優勝	なみはやドーム
	第87回関西学生選手権水泳競技大会	男子総合第3位	なみはやドーム
平成25年7月27～8月2日	22nd Summer Deaflympics sofia 2013	男子50m背泳ぎ優勝　世界新記録	ブルガリア　ソフィア
	22nd Summer Deaflympics sofia 2013	男子100m背泳ぎ第2位	ブルガリア　ソフィア
	22nd Summer Deaflympics sofia 2013	男子200m背泳ぎ第2位	ブルガリア　ソフィア
平成25年11月9～10日	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	男子50ｍ平泳ぎ第31位	東京辰巳国際水泳場
	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	男子50ｍ平泳ぎ第32位	東京辰巳国際水泳場
	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	男子100ｍ平泳ぎ第20位	東京辰巳国際水泳場
	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	男子200ｍ平泳ぎ第６位	東京辰巳国際水泳場
	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	混合200ｍﾌﾘｰﾘﾚｰ第26位	東京辰巳国際水泳場
	FINA 競泳 World Cup Tokyo 2013	混合200ｍﾌﾘｰﾘﾚｰ第26位	東京辰巳国際水泳場

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育学部	職名　講師	氏名　貴嶋　孝太	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　(無)　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「陸上競技Ⅰ」，「陸上競技」におけるスポーツ科学研究の知見を基にした教授方法	～平成22年3月	陸上競技を構成する走・跳・投種目における運動の仕組みや基礎的な知識を，科学的研究から得られた知見を基に解説して理解させるとともに，実践を通して技術を高める指導を教授した．
2　作成した教科書、教材、参考書 「陸上競技Ⅰ」，「陸上競技」講義用資料，プリントの作成	～平成22年3月	陸上競技の諸種目について，これまでに報告されている科学的研究をレビューし，分かりやすくまとめたプリントを作成した．これを基に運動の仕組みや指導法を教授した．
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 埼玉県高等学校体育連盟陸上競技部講習会　講師 日本陸上競技連盟，全国高等学校体育連盟陸上競技部　指導者講習会　講師	平成23年8月 平成23年12月，平成24年12月	「短距離走のスタートダッシュ」のタイトルで，短距離走の競技力向上に関する講演をした． ジュニア世代の体力や技術に関する科学的データを基に，競技力向上に役立つ内容について講演をした．
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
自転車競技の発走機を用いたスタートにおける体幹および上肢のキネマティクスとパフォーマンスの関係	共著	平成23年4月	トレーニング科学　（第23巻　第1号）	◎池田祐介，高嶋渉，貴嶋孝太，太田洋一，村田正洋	

自転車競技 (200mFTT,250mTT,500mTT, 1kmTT,4kmTT)における記録とレース中の速度変化特性，クランク回転数変化特性およびギア比との関係	共著	平成23年7月	トレーニング科学　（第23巻　第2号）	◎太田洋一，高嶋渉，池田祐介，貴嶋孝太， 村田正洋	
標準動作モデルによる世界一流および学生短距離選手の疾走動作の比較	共著	平成23年12月	陸上競技研究　（第87号）	◎矢田恵太，阿江通良，谷川聡，伊藤章， 福田厚治，貴嶋孝太	
100mハードル走におけるハードルサイクルおよびステップごとにみた疾走速度の変化	共著	平成24年11月	陸上競技研究紀要　（第8巻）	◎杉本和那美，榎本靖士，森丘保典，貴嶋孝太， 松尾彰文	
その他					
男女短距離選手のスタートダッシュ動作	共著	平成22年3月	日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究報告書　一流陸上競技者のパフォーマンスと技術	◎貴嶋孝太，福田厚治，伊藤章，堀尚，他7名	
一流短距離選手の疾走動作の特徴―第11回世界陸上競技選手権大阪大会出場選手について―	共著	平成22年3月	日本陸上競技連盟バイオメカニクス研究報告書　一流陸上競技者のパフォーマンスと技術	◎福田厚治，貴嶋孝太，伊藤章，末松大喜，他7名	
日本一流男子110mハードル選手のレース分析－2011年から2013年までのレース分析結果について－	共著	平成24年3月	陸上競技研究紀要　（第9巻）	◎貴嶋孝太，谷川聡，櫻井健一，他7名	
一流短距離選手の接地期および滞空期における身体移動に関する分析	共著	平成24年3月	陸上競技研究紀要　（第9巻）	◎福田厚治，貴嶋孝太，浦田達也，他4名	
日本一流400mハードル選手のレースパターン分析－2012年の国内主要大会について－	共著	平成24年3月	陸上競技研究紀要　（第9巻）	◎森丘保典，貴嶋孝太，千葉佳裕，谷川聡， 杉田正明，阿江道良	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成17年4月～平成23年3月	関西学生陸上競技連盟　コーチ
平成18年3月～現在	日本スポーツ方法学会（現，日本コーチング学会）会員
平成18年4月～現在	日本体育学会会員
平成18年4月～現在	日本バイオメカニクス学会会員
平成18年4月～現在	日本陸上競技学会会員
平成20年3月～現在	European College of Sport Science 会員

平成22年12月～現在	日本トレーニング科学会会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	陸上競技　　部	２．役職	コーチ	３．部員数	約260人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　1　回	延べ日数：　6　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生陸上競技対校選手権大会	5月	年によって異なる
	西日本学生陸上競技対校選手権大会	9月	年によって異なる
	日本学生陸上競技対校選手権大会	6月	年によって異なる

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成21年4月30日，5月8, 9, 16, 17日	第86回関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合2位，女子総合3位	大阪・長居陸上競技場ほか
平成21年9月6日	第78回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子200m　6位	東京・国立競技場
平成22年5月6, 14, 15, 20, 21日	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	女子総合3位	大阪・長居陸上競技場ほか
平成22年5月20日	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	男子110mハードル　4位	京都・西京極陸上競技場
平成22年5月21日	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	女子400mハードル　2位	京都・西京極陸上競技場
平成22年5月15日	第87回関西学生陸上競技対校選手権大会	女子4×100mリレー　3位	大阪・長居陸上競技場

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　講師	氏名　熊﨑　敏真	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 担当科目：機能解剖学，健康・スポーツマネジメント学演習，インターンシップA/B	平成25年4月1日 ～	機能解剖学では、人体の構造と機能についての講義を行った。健康・スポーツマネジメント学演習では、「人体の構造」について掘り下げ研究に繋げる為の講義を行っている。学生によるFDでは、解剖された実物の所見が掲示され勉強になったというコメントがあった。
2　作成した教科書、教材、参考書 機能解剖学	平成25年4月1日 ～	機能解剖学では、15回にわけ全身の関節・それらに関わる筋についての教材を作成し、学生に配布している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 愛知医科大学解剖学セミナーにて、肉眼解剖学についての発表を行う。以下、題目。 ハムストリングス損傷の解剖生理学	平成26年5月11日 ～	解剖体での形態解析と生体での機能解析を行い、大腿二頭筋で肉離れが好発する理由を明らかにした。この発表は、地域教育の1つとして行った。 ◎熊﨑敏真；江原義郎；坂井建雄
4　その他教育活動上特記すべき事項 野外実習指導（スキー実習）	平成26年1月4日 ～	スキー実習では、班を担当しスキー実技指導を行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
日本フットサルリーグ所属の選手に対するアンケート調査―2007年開幕1年目の傷害および環境・意識要因に注目して―	共著	平成23年1月	日本臨床スポーツ医学会誌（第19巻第1号）	◎熊﨑敏真，桜庭景植，廣津信義，吉村雅文，窪田敦之，　丸山麻子，坂井建雄	10頁～19頁
Anatomy and physiology of hamstring injury	共著	平成24年9月	International journal sports medicine. vol.21 No.3	◎Toshimasa Kumazaki, Yoshiro Ehara, Tatsuo Sakai	950頁～954頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成○年○月～平成○年○月	○○学会理事

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　講師	氏名　小林　博隆	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　○無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
・ICT機器を活用した授業実践	平成22-25年	学習内容の理解を深めるため、講義は視聴覚機器（PC、power point)にてスライドおよび動画を映写するとともに紙媒体の資料を配布し、展開している。また、体育授業における指導法の１つとして、ICT機器の活用例（タブレット型PCやwebカメラを用いた映像遅延装置等）を講義内で実演し紹介している。
・授業資料等のWEB上での公開	平成22-25年	講義資料の他、保健体育科学習指導論で学生が作成した指導案（単元計画、本時案）をWEB上で公開し、教育実習時の資料として活用している（履修者のみ閲覧可能）。
・学生による授業評価	平成22-25年	学生による授業評価（授業に関するアンケート調査）の各項目の平均点は、5点満点中の4.5であり、学生から高い評価を得ている（保健体育科学習指導論）。
２　作成した教科書、教材、参考書		
・映像コンテンツの作成	平成22-25年	学習内容の理解を深めるための「映像コンテンツ（動画）」を作成し、講義内で活用している。映像は各10分程度であり、内容は現職教諭や教育実習生が行う体育授業の様子、体育授業の教材や教具の活用例である。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・現職教諭を対象とした体育授業の研修会の講師	平成22-25年	小学校、中学校、高校の現職教諭を対象とした体育授業の研修会の講師を担当した（大阪府貝塚市、岸和田市、枚方市、茨木市）。
・運動部活動指導者研修会の講師	平成25年5月、7月	中学校、高校の運動部活動指導者を対象とした研修会の講師を担当した。研修会では、生徒の意欲を高める指導法に焦点を当てた講義を実施した（宮城県教育委員会、大阪府貝塚市）。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
・教員免許更新講習の企画	平成23-25年	企画、運営に携わっている。講習内容のさらなる理解を深めるため、本学では「テキスト」および「実技のDVD（動画集）」を作成し、受講者に配布している。当人は、DVDの編集、作成者である。
・教員免許更新講習の講師	平成23-25年	「体育の授業研究」、「体つくり運動の授業づくり」を担当している。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文 楽しみながら等動作を身につけることができる教具・カリキュラムの工夫	共著	平成19年11月	北海道教育大学釧路校研究紀要　第39巻	林政孝、石田譲、小林博隆	pp.111-114「共同研究により抽出不可能」

生活活動の運動量	共著	平成20年7月	子どもと発育発達（日本発育発達学会）Vol.6 No.2	◎小林博隆、秋葉裕幸、小澤治夫	pp.81-86「共同研究により抽出不可能」
「朝遊び」の有効性に関する調査-泉南市「子どもの生活リズム向上プロジェクト」	共著	平成21年3月	大阪体育大学紀要　第40巻	岡崎勝博、伊藤美智子、佐野耕治、福本光宏、西嶋尚彦、横尾智治、小澤治夫、小林博隆	pp.91-107「共同研究により抽出不可能」
小学校体育授業における「首はね跳び」の学習可能性の検討　ー特に下位教材及び学習指導過程の開発に着目してー	共著	平成21年11月	スポーツ教育学研究（日本スポーツ教育学会）第29巻1号	佐藤孝祐、太田早織、小林博隆、末永祐介、佐々木浩、高橋健夫	pp.1-15「共同研究により抽出不可能」
小・中学生段階の器械運動の技達成状況と学習指導学習指導要領の内容の妥当性に関する研究	共著	平成22年3月	平成19-21年度科学研究費基礎研究A研究成果報告書（代表高橋健夫）体育科のナショナルスタンダード策定の試みとその妥当性の検証	◎小林博隆、佐藤豊、今関豊一、元塚敏彦、高橋健夫	pp.199-218「共同研究により抽出不可能」
小学校マット運動授業における側方倒立回転系の技の習得に関する研究	共著	平成22年3月	平成19-21年度科学研究費基礎研究A研究成果報告書（代表高橋健夫）体育科のナショナルスタンダード策定の試みとその妥当性の検証	中丸直也、小林博隆、太田早織、和田博史、高橋健夫	pp.219-227「共同研究により抽出不可能」
学区の広域化と子どもの生活・歩数の変化	共著	平成24年1月	子どもと発育発達（日本発育発達学会）Vol.9 No.4	小澤治夫、小林博隆	pp.240-246「共同研究により抽出不可能」
大学生における幼児から現在に至るまでの運動有能感が体力に与える影響	共著	平成25年12月	運動とスポーツの科学（日本運動・スポーツ科学学会）第19巻1号	大石健二、小林博隆、大西崇仁	pp.81-89「共同研究により抽出不可能」
小学校体育授業におけるプレルボール教材の有効性について	単著	平成26年3月	大阪体育大学紀要　第45巻		pp.15-24
「体罰問題批判」を批評する	共著	平成26年3月	大阪体育大学紀要　第45巻	岡崎勝博、小林博隆	pp.209-216「共同研究により抽出不可能」

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成18年3月　～　現在に至る	日本発育発達学会　会員
平成19年9月　～　現在に至る	日本体育学会　会員
平成20年4月　～　現在に至る	日本スポーツ教育学会　会員
平成25年10月　～　現在に至る	日本運動・スポーツ科学学会　会員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	体育実技研究　　部	２．役職	コーチ（平成23年～）	３．部員数	40人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　7　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　講師	氏名　佐々木　義卓	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1)自然科学基礎の習熟度別指導	平成24年前期～	入学時のプレースメントテストの結果をもとに学生の習熟度を判別し、それに応じたクラス分けを行った。主に補充の必要な学生に体する講義の運営方法や教材（課題シート）の大幅な改善を行った。
(2)数学，物理の講義内課題の指導	平成24年前期～	一般教養科目の数学と物理の講義において、学生の理解を深めるために毎回課題を設け、適時直接指導を行うとともに、学生の理解度の把握にあたった。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
Diversities in Quantum Computation and Quantum Information	共著	2012年	World Scinetific	Mikio Nakahara, Yidun Wan, Yoshitaka Sasaki	228頁
Quantum Information and Quantum Computing	共著	2012年	World Scientific	Mikio Nakahara, Yoshitaka Sasaki	196頁
論文					
Multiple zeta values for coordinatewise limits at non-positive integers	単著	2009年	Acta Arithmeitca vol.136		299頁～317頁
Some formulas of multiple zeta values for coordinate-wise limits at non-positive integers	単著	2009年	New Directions in Value-Distribution Theory of Zeta- and L-functions		317頁～325頁

The first derivative multiple zeta values at non-positive integers	単著	2010年	The Ramanujan journal vol.21		267頁～284頁
On zeros of exponential polynomials and quantum algorithms	単著	2010年	Quantum Information Processing vol.9		419頁～427頁
On multiple higher Mahler measures and multiple L values	単著	2010年	Acta Arithmeitca vol.144		159頁～165頁
On multiple higher Mahler measures and Witten zeta values associated with semisimple Lie algebras	単著	2012年	Communications in Number Theory and Physics vol. 6		771頁～784頁
On generalized poly-Bernoulli numbers and related L-functions	単著	2012年	Journal of Number Theory vol.132		156頁～170頁
On the parity of poly-Euler numbers	共著	2012年	RIMS Kôkyûroku Bessatsu vol.B32	Yasuo Ohno, Yoshitaka Sasaki	271頁～278頁
On 3-variable exponential polynomials and quantum algorithms	共著	2012年	Frontiers in Quantum Information Research	Yasuo Ohno, Yoshitaka Sasaki, Chika Yamazaki	211頁～223頁
Quantum algorithms for problems in number theory, algebraic geometry, and group theory	共著	2012年	Diversities in Quantum Computation and Quantum Information	◎Wim van Dam, Yoshitaka Sasaki	79頁～106頁
Quantum Computing and Number Theory	単著	2012年	Quantum Information and Quantum Computing		67頁～84頁
Periodicity on poly-Euler numbers and Vandiver-type congruence for Euler numbers	共著	2013年	RIMS Kôkyûroku Bessatsu vol.B44	Yasuo Ohno, Yoshitaka Sasaki	205頁～212頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	卓球　　部		２．役職	2013～部長	３．部員数　3　人
４．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　0　回		延べ日数：　0　日		
６．クラブの競技力向上への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

（表24）

所属	体育学部	職名	講師	氏名	田原　宏晃	大学院における研究指導担当資格の有無	有　・　(無)

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概　　要
１．教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） (1)器械運動Ⅰ・・・初期段階から丁寧に授業を展開し、模範を見せながらよりわかりやすい授業になるよう工夫している。 (2)器械運動Ⅱ・・・器械運動Ⅰより、より詳細に教員という視点で初期段階から授業を展開すると同時に、発展技に挑戦しより興味をもってもらえるよう工夫している。 (3)スポーツ技術・戦術論・・・パワーポイントを使用し、質疑応答などを行いながらよりわかりやすい授業になるよう工夫している。 (4)授業研究ⅠA・・・授業外で教員役の学生と打合せをし、よい授業になるよう工夫している。 (5)スポーツ教育学演習Ⅰ・Ⅱ・・・学生とコミュニケーションをしっかりとり、積極的に卒業研究レポートが作成できるよう工夫している。 (6)「学生による授業評価」を実施・・・どの教科も良い評価を得られている	2003（H15）年4月 ～ 2011（H23）年4月 ～ 2008（H20）年9月 ～ 2008（H20）年9月 ～ 2008（H20）年4月 ～ 2004（H16）年4月 ～	主に器械運動（ﾏｯﾄ、とび箱、鉄棒）の技を系統性に沿って授業を展開。技の習得と指導法について学ぶ。 器械運動Ⅰを発展させより難しい技に挑戦し自己の能力を高めるとともに、指導法について学ぶ。また、模擬授業も行い、学校体育の器械運動の指導について学ぶ。 体操競技・器械運動の技の技術や戦術をはじめ歴史などにも学び、体操競技・器械運動をより深く学ぶ。 器械運動の模擬授業を行い、学校体育の器械運動の指導について学ぶ。 主に体操競技を中心に、自己が興味を内容を積極的に取り組む。卒業研究レポートの作成を行う。 ＦＤ委員会による授業評価を受け、学生の意見を取り入れて改善を行っている。
２．作成した教科書、教材、参考書 スポーツ種目別ワンポイントトレーニング	2005（H17）年	各スポーツ種目を指導している大阪体育大学の教員が、種目に特異的なトレーニング方法を持ち寄りまとめたもの。
３．教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４．その他教育活動上特記すべき事項 (1)大阪府高齢者大学校にて講師・・・ストレッチ運動・準備運動について実技講習を実 (2)和歌山県高等学校体育主任者会議主催、実技講習会にて講師・・・体つくり運動領域における実技講習会 (3)兵庫教育大学にて非常勤講師・・・運動方法学（器械運動） (4)教育実習・教員採用試験前、個別に対応	2011（H23）9月 2012（H24）5月 2009（H21）年度～2010（H22）年度 毎年	実際に体を動かして、ストレッチ運動・準備運動の種類と方法を紹介。 新学習指導要領が年次進行で実施される平成25年度に向け、体つくり運動領域のより一層の充実を図る目的として実施。 主に器械運動（ﾏｯﾄ、とび箱、鉄棒）の技を系統性に沿って授業を展開。技の習得と指導法について学ぶ。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ 体育・ｽﾎﾟｰﾂの科学	共著	2007（H19）年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	150頁～151頁
論文					
男子体操競技の採点規則からみた技の発展について－跳馬－	単著	2008（H20）年3月	大阪体育大学紀要		55頁～70頁
体操競技女子選手育成の問題点－椋本啓子選手のコーチングから－	共著	2008（H20）年3月	大阪体育大学紀要	◎大西仁久、椋本政信、田原宏晃	

Ⅲ　学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期　　間	内　　容
2003（H15）年4月～	体操競技男子1種審判資格し、様々な大会（関西、西日本、大阪府など）への審判員として活動
2003（H15）年4月～	大阪体育学会会員、日本体育学会会員
2003（H15）年4月～	体操競技・器械運動研究会会員
2007（H19）年10月	体操競技 大阪府成年男子監督
2008（H20）年11月	関西学生体操連盟　顧問
2009（H21）年4月～2011（H23）年3月	全日本学生体操連盟　理事
2009（H21）年4月～	大阪体操協会　審判委員
2012（H24）年4月～	大阪体操協会公認コーチ

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	体操競技　　部	２．役職	部長・コーチ（H26年現在）	３．部員数	40～50　人
４．現場指導の頻度	①	①　ほぼ毎日　②　週3日　③　週１日　④　現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤　全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　14　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生体操選手権大会 体操競技の部	4月	関西（毎年開催場所が変わる）
	西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	5月	西日本（毎年開催場所が変わる）
	全日本学生体操競技選手権大会	8月	全国（毎年開催場所が変わる）
	関西学生体操新人選手権大会 体操競技の部	10月～11月	関西（毎年開催場所が変わる）
	全日本体操競技個人総合選手権大会	5月	主として東京・代々木第一体育館
	全日本体操競技種目別選手権大会	7月	主として東京・代々木第一体育館
	全日本体操競技団体選手権大会	11月	主として東京・代々木第一体育館
	NHK杯	6月	主として東京・代々木第一体育館

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　績	場　所
2009.04.11-12	第51回 関西学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体優勝、個人優勝、種目別優勝他　女子；団体4位、種目別3位	兵庫県立総合体育館（兵庫）

2009.08.20-22	第63回全日本学生体操競技選手権大会	男子；1部 団体10位・種目別3位　女子；2部 団体6位、個人4位他	ぐんまアリーナ（群馬）
2010.04.17-18	第52回 関西学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体優勝、個人2位他、種目別優勝他　女子；団体優勝、個人優勝他、種目別優勝他	和歌山県立体育館（和歌山）
2010.05.21-23	第54回西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体5位、種目別3位他　女子；団体3位・個人3位、種目別2位他	スカイホール豊田（愛知）
2010.08.20-22	第64回全日本学生体操競技選手権大会	男子；1部 団体9位・個人2位　女子；2部 団体優勝・個人2位他、種目別優勝他	秋田県立体育館（秋田）
2011.04.16-17	第53回関西学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体優勝、個人3位他、種目別優勝他　女子；団体2位、個人優勝、種目別優勝他	和歌山県立体育館（和歌山）
2011.04.23-24	第65回全日本体操競技個人総合選手権大会	個人12位（ユニバー予選7位）	代々木第一体育館(東京)
2011.05.27-29	第61回西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体4位、種目別優勝他　女子；団体3位・個人4位、種目別3位他	維新百年記念公園スポーツ文化センター（山口）
2011.08.27-31	第65回全日本学生体操競技選手権大会	男子；1部 団体10位、女子；1部 団体7位、個人3位、種目別3位他	和歌山ビックホエール（和歌山）
2012.04.07-08	第66回全日本体操競技選手権大会兼第30回オリンピック・ロンドン大会第二次選考競技会	女子；個人13位、15位	代々木第一体育館(東京)
2012.05.04-05	第51回ＮＨＫ杯兼第30回オリンピック・ロンドン大会日本代表選考会	女子；個人14位、17位	代々木第一体育館(東京)
2012.04.14-15	第54回関西学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体優勝、個人2位他、種目別優勝他　女子；団体優勝、個人優勝他、種目別優勝他	向日市民体育館（京都）
2012.05.25-27	第62回西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体5位、種目別6位他　女子；団体優勝、個人優勝他、種目別優勝他	北九州市立総合体育館（福岡）
2012.08.20-24	第66回全日本学生体操競技選手権大会	男子；1部 団体12位　女子；1部 団体5位、個人5位他、種目別2位他	仙台市体育館（宮城）
2012.11.11-13	第5回アジア体操競技選手権大会（シニア）	日本女子；団体3位、種目別7位	中国・プーティエン
2013.05.11-12	第67回全日本体操個人総合選手権大会	女子；個人23位、24位	代々木第一体育館(東京)
2013.06.08-09	第52回ＮＨＫ体操	女子；個人19位、22位	代々木第一体育館(東京)
2013.06.21-23	第63回西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体6位、種目別6位他　女子；団体3位、個人優勝他、種目別優勝他	スカイホール豊田（愛知）
2013.06.29-30	第67回全日本体操種目別選手権	女子；種目別7位	東京体育館（東京）
2013.08.30-09.01	第67回全日本学生体操競技選手権大会	男子；2部 団体3位、個人3位、種目別優勝他　女子；1部 団体3位、個人3位、種目別優勝他	北九州市立総合体育館（福岡）
2013.11.02-03	第67回全日本体操競技団体選手権大会	女子；予選　種目別9位	幕張メッセ・イベントホール（千葉）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 健康・スポーツマネジメント学科	職名　講師	氏名　友金　明香	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・（無）） （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書 運動負荷試験実習ガイド	2012年9月20日	運動プログラム作成法の授業で使用
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
科学の力で速くなる	単著	2013年5月	株式会社アールビーズ、ランナーズ（2013・5）		44頁～45頁
論文					
本学の健康スポーツ科学科女子大学生の体力特性について―同年代の一般女子との比較から―	共著（筆頭）	2009年3月	中京女子大学健康科学研究所年報（第16号）	◎友金明香，高橋淳一郎，中井定，坂本涼子，飯本雄二，朝山正己	9頁～18頁
本学の健康スポーツ科学科女子大学生の体力特性について―運動部所属学生と無所属学生との比較から―	共著（筆頭）	2010年3月	中京女子大学健康科学研究所年報（第17号）	◎友金明香，高橋淳一郎，中井定，坂本涼子，飯本雄二，朝山正己	7頁～18頁
トライアスロン時の心拍数変動と血中乳酸濃度に関する事例研究	共著	2011年3月	鈴鹿工業高等学校紀要（第44巻）	森誠護，◎友金明香	25頁～30頁
実業団女子長距離選手における血液性状とCKとの関係について	共著（筆頭）	2011年3月	至学館大学紀要（第45号）	◎友金明香，大野史裕，進藤宗洋，田中宏暁，清永明	65頁～73頁

市民ランナーのマラソンレース中の推定%VO2maxの変動―12分間走テストを基にした予測法―	共著	2013年3月	大阪総合保育大学紀要（第8号）	高橋篤志，◎友金明香，池島明子，豊岡示朗	33頁～44頁
学会発表					
登山中の主観的疲労と唾液アミラーゼ活性および唾液中クロモグラニンA濃度の関係	共同	2009年2月	第10回日本健康支援学会学術集会(福岡)	中井定，◎友金明香，早川幸博	
分岐鎖アミノ酸(BCAA)摂取が持久的運動時に生じる中枢性疲労に与える影響に関する検討	共同	2009年7月	第17回日本運動生理学会(東京)	早川幸博，中井定，◎友金明香，小林久峰，朝山正己	
実業団女子長距離選手の競技記録と身体組成並びに血液性状の関連性について	共同（発表）	2009年9月	第64回日本体力医学会大会(新潟) 体力科学58(6)904	◎友金明香，田中宏暁，朝山正己，進藤宗洋，清永明	
実業団女子長距離選手の血液性状値を指標とした縦断的研究	共同（発表）	2010年9月	第65回日本体力医学会大会(千葉) 体力科学59(6)901	◎友金明香，田中宏暁，朝山正己，進藤宗洋，清永明	
地元自治体と大学との連携事業によるローカル熱中症予防情報システムの構築とその運用実績について	共同	2010年11月	第49回日本生気象学会大会(東京)	朝山正己，◎友金明香，鷹羽桃子，佐藤朋子，登内道彦	
長距離走時の核心温の経時変動と環境温の関係について	共同（発表）	2010年11月	第49回日本生気象学会大会(東京)	◎友金明香，鷹羽桃子，佐藤朋子，朝山正己	
足底圧パターンによる下肢スポーツ障害回復過程の観察	共同	2011年8月	第19回日本運動生理学会(徳島)	西牧未央，◎友金明香，朝山正己，早川幸博	
血中ヘモグロビン濃度と除脂肪体重からみた実業団女子長距離選手の健康管理と課題	単独(発表)	2012年9月	第66回日本体力医学会大会(山口) 体力科学60(6)758	友金明香	
マラソン記録と12分間走テスト距離の関係	共同（発表）	2013年3月	第25回ランニング学会大会(東京)	◎友金明香，足立哲司，豊岡示朗	
マラソンレースにおける%VO2max予測の簡便法	共同	2013年3月	第25回ランニング学会大会(東京)	豊岡示朗，足立哲司，◎友金明香	
漸増負荷による等尺性膝関節伸展運動と筋力および全身持久力との関連	共同	2013年12月	NSCAジャパンS&Cカンファレンス2013(京都)	光岡かおり，◎友金明香	
全国高校女子駅伝出場選手の3000m競技記録と身長、体重、BMIの関係	共同	2014年3月	第26回ランニング学会（大阪）	足立哲司，足立博子，岡小百合，◎友金明香，豊岡示朗	
市民ランナー指導への応用―12分間走距離からマラソン記録を予測―	共同（発表）	2014年3月	第26回ランニング学会（大阪）	◎友金明香，足立哲司，豊岡示朗	
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
期　　間		内　　容			

平成16年4月～現在に至る	ランニング学会会員
平成16年4月～現在に至る	日本体力医学会会員
平成24年4月～現在に至る	日本体育学会会員
社会的活動	
平成24年4月～現在に至る	アミノバリューランニングクラブ南大阪　　市民ランナーを対象としたランニング講座の指導及び運営

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	陸上競技　　部	２．役職	2012～中長距離男子コーチ	３．部員数	244人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　1　回	延べ日数：　5　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	大阪学生陸上競技対校選手権大会	4月	大阪府
	関西学生陸上競技対校選手権大会	5月	大阪府
	西日本学生陸上競技対校選手権大会	7月	西日本
	関西学生対校駅伝競走大会	11月	京都府

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2012年5月9日～12日	関西学生陸上競技対校選手権	800m 3位 藤久恭太、3000m障害 2位　福江宏弥	大阪・長居スタジアム

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

4　「研究活動」については、下記の点に留意してください。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　講師	氏名　中村　健	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「英語I-A」「英語I-B」の下位クラスに関して、学習支援室と連携した授業運営	2011年4月－現在	学習支援室と連携して、学生が授業内テストの再試験やその準備学習を常に行えるようにした。
2　作成した教科書、教材、参考書 『大阪体育大学　基礎教育科目教科書叢書3　大阪体育大学・英語I-Aテキスト』 『大阪体育大学　基礎教育科目教科書叢書3　大阪体育大学・英語I-Bテキスト』	2012年4月 2012年9月	
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「附属高校からの内部進学生に対する入学前指導の試み」	2012年3月19日	日本リメディアル教育学会　第4回関西支部大会（大阪体育大学）
4　その他教育活動上特記すべき事項 昼休み「英語講座」の実施	2011年4月―現在	学習支援室と連携して、昼休みに、英語の補習授業を実施している。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
	単著				
	共著				
論文					
「中世ヨーロッパの大学・学位制度とその現代的意義」	単著	2012年3月31日	『リメディアル教育研究』7(1)		85-95
「プラトン『ティマイオス』における天体の運動について」	単著	2015年3月31日（予定）	『ギリシャ哲学セミナー論集』vol.12		未定

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
2012年2月5日－9日	The Australasian Classical Society Conference 33回大会（メルボルン、モナシュ大学）への参加と、発表
2012年10月19日－21日	The Society for Ancient Greek Philosophy 30回大会（ニューヨーク、フォーダム大学）への参加と、発表

Ⅳ　クラブ活動の指導業績						
１．指導クラブ名	軟式野球　　部		２．役職　部長	2011年4月－現在	３．部員数	人
４．現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない				
５．合宿指導	年間合宿回数：　　回		延べ日数：　　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				
８．部員の就職指導への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない				

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　講師	氏名　藤原　敏行	大学院における研究指導担当資格の有無（　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
器械運動 Ⅰ・II	平成23年9月～	・レベルに応じた段階練習法を提供。また、良い見本だけでなく、典型的な失敗例や個々の学生の抱える課題を模倣した実演。
	平成24年4月～	・テキストの連続写真をもとに、課題技の動きを描写させることによる運動イメージ習得の促進。
	平成25年9月～	・iPadを活用して運動の主観と客観の一致促進。
バイオメカニクス	平成25年4月～	・テキストの内容をより身近に感じられるスライドの作成と動画の活用。
	平成25年4月～	・ポートフォリオによる学生の理解度チェックと、そこでの質問や疑問に次の講義で復習を兼ねて解説することで内容理解促進。
英語講読	平成25年4月～	・教材となる英文の翻訳版も解説に用いて、英語表現と日本語表現の両方から文意を解釈することによって、言語感覚の向上を促進。
スポーツ教育学演習Ⅰ・II	平成24年4月～	・スポーツの科学的側面とコーチングの実践的側面から様々な討論を行い、科学的視点をもった指導者の養成。
	平成24年4月～	・ゼミ論文作成を通じた科学的動作分析法の理解促進。
2　作成した教科書、教材、参考書		
・指導者のための器械運動:見て理解する指導の順序とコツ（大阪体育大学体操競技器械運動研究グループ編）	平成21年4月	・課題の詳細な連続写真と段階練習法、および器械運動の基礎用語と技の体系を記載した授業用テキスト
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・ 器械運動実技指導研修会講師（大阪府和泉市立国府小学校）	平成23年11月14日	・授業補助と放課後に教員を対象とした器械運動指導の実技研修。
・ 器械運動公開授業研究会講師（大阪府茨木市立春日丘小学校）	平成25年11月27日	・茨木市の体力向上プロジェクトに関する教員を対象とした器械運動指導の実技研修。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
・ 教員免許更新講習会「器械運動の授業作り」講師（大阪体育大学）	平成26年1月12日	・器械運動の教材的価値の確認、授業実践において重要な事項と技術的要素の伝達と情報交換。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
器械運動の授業作り（大阪体育大学教員免許更新講習テキスト）	共著	平成25年12月	大阪体育大学教職支援センター	大阪体育大学	85～91頁
論文					
Biomechanical analysis of circles on pommel horse.	共著	平成21年3月	Sports Biomechanics vol.8 No.1	◎ Fujihara, T., Fuchimoto, T. & Gervais, P.	22頁～38頁
Kinematics of side and cross circles on pommel horse.	共著	平成22年1月	European Journal of Sports Sciences vol.10 No.1	◎ Fujihara, T.& Gervais, P.	21頁～30頁
あん馬における両足旋回のバイオメカニクス	単著	平成23年3月	バイオメカニクス研究（第14巻4号）		155頁～163頁
Circles with a suspended aid: reducing pommel reaction forces.	共著	平成24年3月	Sports Biomechanics vol.11 No.1	◎ Fujihara, T.& Gervais, P.	34頁～47頁
Circles with a suspended aid on pommel horse: Spatio-temporal characteristics.	共著	平成24年3月	Journal of Sports Sciences vol.30 No.6	◎ Fujihara, T.& Gervais, P.	571頁～581頁
Circles with a suspended aid on pommel horse: Influence of expertise.	共著	平成24年3月	Journal of Sports Sciences vol.30 No.6	◎ Fujihara, T.& Gervais, P.	583頁～589頁
Circles with a suspended aid on pommel horse: Mass-centre rotation and hip joint moment.	共著	平成24年6月	Journal of Sports Sciences vol.30 No.11	◎ Fujihara, T.& Gervais, P.	1097頁～1106頁
器械運動・体操競技における幇助に関する考察	単著	平成26年3月	大阪体育大学紀要（第45巻）		1頁～15頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成16年11月～	日本体育学会会員（学会発表）
平成16年11月～	日本バイオメカニクス学会会員(学会発表)
平成16年11月～	日本体操競技· 器械運動学会会員（学会大会参加）
平成21年6月～	国際スポーツバイオメカニクス学会会員(学会発表、論文査読)
平成23年10月～	スポーツパフォーマンス研究会会員((学会発表、論文査読)

平成26年4月～	関西学生体操連盟顧問

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	男子体操競技　　部	２．役職	2011.9～コーチ　2012.9～監督	３．部員数	25人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　5　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生体操選手権大会	4月または5月	年によって異なる
	西日本学生体操選手権大会	5月または6月	年によって異なる
	全日本学生体操選手権大会	8月	年によって異なる
	関西学生体操新人選手権大会・交流大会	11月	年によって異なる

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成23年11月12日～13日	第43回関西学生体操新人選手権大会	個人総合1位、2位、3位（種目別入賞省略）	兵庫県立総合体育館
平成23年11月12日～13日	平成23年度関西学生体操交流大会	個人総合1位、2位、3位（種目別入賞省略）	兵庫県立総合体育館
平成24年4月14日～15日	第54回関西学生体操選手権大会	団体総合1位、個人総合2位、3位（種目別入賞省略）	向日市民体育館（京都府）
平成24年11月11日～12日	第44回関西学生体操新人選手権大会	個人総合2位（種目別入賞省略）	兵庫県立総合体育館
平成24年11月11日～12日	平成24年度関西学生体操交流大会	個人総合1位、2位、3位（種目別入賞省略）	兵庫県立総合体育館
平成25年4月14日～15日	第55回関西学生体操選手権大会	団体総合1位、個人総合1位、3位（種目別入賞省略）	和歌山県立体育館
平成25年11月9日～10日	第45回関西学生体操新人選手権大会	個人総合1位，3位（種目別入賞省略）	兵庫県立総合体育館
平成25年11月9日～10日	平成25年度関西学生体操交流大会	個人総合1位，3位（種目別入賞省略）	兵庫県立総合体育館
平成26年4月30日～5月1日	第56回関西学生体操選手権大会	団体総合1位、個人総合1位、2位、3位（種目別入賞省略）	兵庫県立総合体育館

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　体育学部	職名　講師	氏名　村元　辰寛	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 阪南市立　中学校保健体育武道研修会 大阪市立　修道館　柔道（寒稽古）研修会	2013年10月10日 2015年1月4，5，6日	阪南市教育委員会　主催 大阪武道振興協会　主催

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
柔道畳の衛生状態に関する調査（白癬菌と大陽菌の発生状況）	共著	2009年1月	大阪体育大学紀要	◎平野亮作	第40巻（2009）pp. 41―48
柔道の国際化に関する一考察Ⅱ（北京オリンピックに見られる「一本勝率」の急落の要因について）	共著	2009年10月	大阪体育大学紀要	◎平野亮作	第40巻（2009）pp. 49―57
柔道競技におけるスポーツ歯科医学的活動に関する研究　ー大学競技者を対象としたアンケート調査およびその分析ー	共著	2009年8月	スポーツ歯誌	◎白尾浩太郎	第13巻（2009）1号：6～15
Theoretical calculation of body composition changes after body mass reduction in humans	共著	2011年2月	Experimental Biology 2011	◎岡村浩嗣	

競技スポーツ種目の違いによる悲腹筋stiffness特性	共著	2013年11月	日本トレーニング科学会	◎岩崎正徳	

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成20年4月～平成27年4月	大阪府学生柔道連盟（理事）
平成20年4月～平成27年4月	関西学生柔道連盟（理事）
平成20年4月～平成27年4月	日本インドネシア武道友好協会（副理事長）
平成20年4月～平成27年4月	外務省（国際交流基金中央アジア／日本伝統文化柔道指導員）
平成20年4月～平成27年4月	全日本柔道連盟／日本武道館（全日本柔道ジュニア育成プロジェクト技術指導員）
平成20年1月,6月～平成26年1月,6月	大阪府教育委員会／大阪市教育委員会／大阪府柔道連盟　（技術師範）

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	柔道　　部	２．役職	2009～（男女）コーチ 2012～（男）監督（女）コーチ	３．部員数	39人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　3～4　回	延べ日数：　40～50　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	全日本選手権大会	4月	日本武道館
	全日本学生優勝大会	6月	日本武道館
	全日本学生体重別選手権大会	8月～10月	日本武道館，ベイコム総合体育館
	講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	11月	千葉ポートアリーナ
	全日本選抜柔道体重別選手権大会	4月	福岡国際センター
	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	9月	埼玉県立武道館

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
2011年度	関西学生体重別大会（団体）	4位	兵庫県立武道館
2013年度	関西学生体重別大会（個人73kg）	2位	天理大学杣之内第一体育館

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 体育	職名　講師	氏名　吉沢一也	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
口頭発表「「学習支援」と「教養」」	平成22年6月　第32回大学教育学会	大学における学習支援と教養教育との関係についての発表
ポスター発表「必修授業との連携によって学生をリメディアル教育に導入する仕組みの構築について」	平成23年9月　第7回日本リメディアル教育学会	（工藤らと共同）本学における基礎教養科目単位取得の仕組みについての発表
口頭発表「学習支援と正規授業との連携」	平成23年9月　第7回日本リメディアル教育学会	本学における補習授業と正規授業との連携についての発表
口頭発表「附属高校からの内部進学生に対する入学前指導の試み」	平成24年3月　第4回日本リメディアル教育学会関西支部大会	（中村と共同）本学における入学前指導についての発表
口頭発表「体育大学における社会福祉養成の課題：社会福祉士国家試験合格率の上昇を目指す取り組み」	平成24年3月　第8回日本リメディアル教育学会	（辰巳らと共同）国家試験対策における、健康福祉学部と学習支援室の連携について
口頭発表「学習支援における教職協働と第三の職種――大阪体育大学学習支援室の機能と役割」	平成25年2月　第18回FDフォーラム	本学におけるFD活動と学習支援についての報告
4　その他教育活動上特記すべき事項		
講演「大学授業の現場から見たプレFD」	平成25年8月　大学院生のための教育実践講座2013@京都大学	大学院生、ポスドクを対象とした、大学で授業を行うための実践的な講座

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
岩波講座「哲学」14巻	共著	平成21年4月	岩波書店	中畑正志他	165頁～170頁

学士力を支える学習支援の方法論	共著	平成24年8月	ナカニシヤ出版	谷川裕稔他	25頁～32頁
論文					
論評：渡辺邦夫「アテナイの法廷とソクラテス」	単著	平成21年3月	法制史研究59		410頁～414頁
プラトン『国家』における魂と国家のアナロジー再考	単著	平成22年3月	西洋古典学研究58		25頁～36頁
教養教育としての初年次教育	単著	平成22年年9月	リメディアル教育研究5-2		17頁～22頁
プラトンの倫理思想	単著	平成22年12月	京都大学・課程博士　博士論文（文学）		
学視力の育成におけるリメディアル教育の可能性	共著	平成24年3月	リメディアル教育研究7-1	石毛弓との共著	33頁～36頁
学士力養成としてのリメディアル教育	共著	平成24年3月	リメディアル教育研究7-1	工藤俊太郎との共著	50頁～54頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
リメディアル教育学会　2012年	全国大会実行委員

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	サッカー　　部	２．役職	副部長2013～	３．部員数	２４０　　人
４．現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　　回	延べ日数：　　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	④	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

2013年12月	全日本大学サッカー選手権大会	優勝	国立霞ヶ丘陸上競技場
2013年4月～11月	関西学生リーグ	優勝	

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　　コーチ教育	職名　　助教	氏名　　長江　晃生	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
２　作成した教科書、教材、参考書		
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成２２年１１月	全日本男子バレーボールチーム登録選手　アジア大会　金メダル
平成２４年～平成２５年	全日本女子バレーボールチーム　アシスタントコーチ

Ⅳ　クラブ活動の指導業績					
１．指導クラブ名	女子バレーボール　　部	２．役職	2014～監督	３．部員数	５０　　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　約７　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	春季リーグ戦	4月～5月	1部所属の各大学
	西日本インカレ	6月	兵庫、広島
	秋季リーグ戦	9月～10月	1部所属の各大学
	関西インカレ	11月	関西の大学
	全日本インカレ	12月	東京、大阪

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　大阪体育大学	職名　助教	氏名　村上　雷多	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
近世初期剣術における精神性に関する一考察	単著	平成25年9月10日　日本武道学会第46回大会発表			

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成26年4月29日	第62回全日本都道府県対抗剣道優勝大会出場
平成26年8月10日	第56回全国教職員剣道大会出場
平成26年6月～	剣道男子強化訓練講習会参加

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	剣道　　部	２．役職	2014～男子監督	３．部員数	70　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　3　回	延べ日数：　30　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	大阪学生選手権大会	4月下旬	大阪府内の大学体育館
	関西学生選手権大会	5月中旬	大阪市中央体育館
	西日本学生優勝大会	5月下旬	福岡市民体育館
	大阪学生新人大会	6月中旬	大阪府内の大学体育館
	全日本学生選手権大会	7月上旬	大阪府立体育館
	大阪学生優勝大会	9月中旬	大阪府内の大学体育館
	関西学生優勝大会	9月中旬	大阪市中央体育館
	全日本学生優勝大会	10月下旬	日本武道館
	関西学生新人大会	11月中旬	関西圏内の大学体育館
	全日本女子学生優勝大会	11月下旬	愛知県武道館
	全日本学生オープン大会	12月中旬	各地域連盟持ち回り

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　健康福祉学部	職名　教授	氏名　板原和子	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書 6訂　介護福祉士用語辞典（中央法規出版） 明治時代史大辞典　第1巻、第2巻（吉川弘文館）	 平成24年2月 平成23－23年	 改訂にあたり精神保健福祉分野の編集協力、執筆 「後見人制度」（第１巻）、「精神病者監護法」（第２巻）について執筆
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 新しいカリキュラムによる本学の精神保健福祉士養成について（平成23年度健康福祉学部社会福祉・精神保健福祉実習施設連絡協議会にて）	平成24年2月9日	精神保健福祉士養成カリキュラム変更の内容と、そこにおける本学の養成方針について
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
治療の場所と精神医療史	共著	平成22年9月	日本評論社	橋本明編著、中村治、近藤等等	pp103-139、pp211-222
論文					
戦前の大阪府における代用精神病院の増加について	単著	平成22年3月	大阪体育大学短期大学部研究紀要第11号		pp1-11
精神病院法下の大阪府の精神病院	単著	平成23年3月	大阪体育大学短期大学部研究紀要第12号		pp15-25
明治初期の精神障害者処遇ー江戸時代後期の精神障害者の処遇はどのように変化したのか	単著	平成25年３月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要第10巻		pp1-18
明治期以降の障害者施設の変遷	単著	平成26年1月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要第11巻		pp35-59

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
平成24年10月～現在	日本精神医学史学会評議員
第15回日本精神医学史学会（愛知県立大学）平成23年10月29－30日	発表：山崎佐『検視史資料類纂』にみる「乱心者」の法的処遇
第16回日本精神医学史学会（京都大学）平成24年10月27－28日	発表：明治初期の精神障害者処遇の形成過程に関する一考察
ＸＸＸＩＩＩrd　International Congress on Low and Mental Health（アムステルダム）	presentation:Cotinuity and adiscontinuity in the Treatment of the Mentally Ill in Japan
第17回日本精神医学史学会（東京慈恵医科大学）平成25年11月9－10日	発表：江戸時代各都市における精神障害者に対する処遇

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　健康福祉学部	職名　准教授	氏名　今堀美樹	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「社会福祉援助技術論Ⅰ」の講義	平成21～25年度	授業では当日の講義内容に関する具体的な社会福祉の実践場面についてのビデオ教材を視聴させ、小レポートを書くことにより授業内容の理解度を高めるよう工夫している。
「社会福祉援助技術論Ⅱ」の講義	平成21～25年度	授業では当日の講義内容に関する穴埋め方式の課題レポートを提出させ、それを最終授業時に返却して試験の範囲として示し、具体的な課題を明確化することで試験に向けての学習意欲の増進をはかっている。
「社会福祉援助技術演習Ⅱ」の演習授業	平成19～21年度	エンカウンターグループ方式でのグループワークとして、“今、ここで”の自分自身の感情の動きや、他のメンバーの思いに気づき、相互に率直なフィードバックを試み、相互理解を深めるというグループの課題に取り組んでいる。
「社会福祉援助技術演習Ⅲ」の演習授業	平成19～21年度	グループスーパービジョンとして、それぞれの学生が実習で出会った心に残る利用者との場面をインシデントシートにまとめ報告し、他のメンバーからフィードバックをしてもらい、実習での学びをさらに深めるための取り組みを実施している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 学生相談およびカウンセリング業務	平成21年4月～平成25年3月	学生相談室・スポーツカウンセリングルームにて心理カウンセラー（週1日，10時より13時まで）を担当
泉佐野市次世代育成支援対策地域協議会副委員長	平成21年5月～平成25年3月	
泉佐野市立効率保育所の民間移管に伴う保育所運営者選考委員会副委員長	平成21年11月～平成22年3月	
泉佐野市子ども・子育て会議副委員長	平成25年9月～現在に至る	

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数

著書					
論文					
出会いを中心とした学習過程についての考察－グループ過程への参加に対する“抵抗感”に配慮した場の設定をめぐって－	単	平成22年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要，第7巻		pp. 39-52
キリスト教社会福祉教育とは何か―キリスト教教育の原点に立ち返って―	単	平成24年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要，第9巻		pp. 57-71
理解しあおうとする関係―菅円吉が説く“隣人愛”とキリスト教社会福祉が志向する人間関係―	単	平成25年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要，第10巻		pp. 31-46
大阪体育大学における社会福祉士養成の課題	共	平成25年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要，第10巻	辰巳佳寿恵，今堀美樹，大谷悟	pp. 59-78
“愛による援助モデル”再考―ロジャーズのカウンセリング理論における実存主義への傾斜―	単	平成26年1月	日本キリスト教社会福祉学会，『キリスト教社会福祉学研究』，第46号		pp. 36-50
その他の論文					
2008年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告	共	平成22年3月	大阪体育大学紀要，第41号	土屋裕睦，高橋孝治，今堀美樹，荒屋昌弘，前林清和，菅生貴之	pp. 169-185
2009年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告	共	平成23年3月	大阪体育大学紀要，第42号	土屋裕睦，高橋孝治，今堀美樹，荒屋昌弘，前林清和，菅生貴之，松本和典	pp. 149-167
2010年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告	共	平成24年3月	大阪体育大学紀要，第43号	土屋裕睦，高橋孝治，今堀美樹，荒屋昌弘，前林清和，菅生貴之	pp. 121-138
2011年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告	共	平成25年3月	大阪体育大学紀要，第44号	菅生貴之，高橋孝治，今堀美樹，荒屋昌弘，前林清和，土屋裕睦	pp. 75-92

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成8年12月～現在に至る	同志社大学社会福祉学会会員
平成9年4月～現在に至る	日本ソーシャルワーク学会会員
平成9年5月～現在に至る	日本社会福祉学会会員
平成11年6月～現在に至る	日本キリスト教社会福祉学会会員
平成11年10月～現在に至る	関西社会福祉学会会員
平成12年4月～現在に至る	近畿学生相談研究会（ＫＳＣＡ）機関会員
平成15年4月～現在に至る	日本学生相談学会機関会員
平成25年4月～現在に至る	大学生協大阪インターカレッジコープ　理事
平成25年4月～現在に至る	同志社大学人文科学研究所　嘱託研究員（社外，第18期，第3研究）

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 健康福祉学部	職名　　教　授	氏名　大谷　悟	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 2009年度4月施行社会福祉士法改正に伴う新カリキュラムによる社会福祉実習の教育内容及び方法を改定した。	2009年4月1日より	社会福祉士改正法（平成21年4月施行）に伴う社会福祉士受験資格取得科目が旧来の13科目から18科目へと大きくその内容が変更された。社会福祉士実習も従来の2週間から4週間へ大幅に延長され、週1回の巡回指導が義務化されたことによる準則周知。
2　作成した教科書、教材、参考書 ①社会福祉士実習ノートの作成 ②社会福祉士実習自己評価表の」作成	①2009年4月～ ②2010年4月～	社会福祉士改正法（平成21年4月施行）に伴う新たな社会福祉実習の枠組みは、大きく変容したため、社会福祉実習分野舞（児童・高齢・障害・地域等）に実習すべき職種・職域・ソーシャルワーク専門職を項目化して実習内容の可視化を図った。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ①実習教育プログラム研究発表 ②社会福祉士実習と学生自身による自己評価の枠組みについて	①2010年３月10日 ②2012年3月2日	①社会福祉士養成校協会近畿ブロック支部において、本学実習教育について報告 ②同上近畿ブロック支部において、本学非常勤講師の西川先生との共同発表
4　その他教育活動上特記すべき事項 2009年度4月施行社会福祉士法改正に伴う新カリキュラムによる社会福祉実習のあり方を「社会福祉現場実習指導者」と共同して2年間わたる検討会を実施した。	20010年4月～2012年3月（2年間）	社会福祉士法改正に伴い、社会福祉実習のあり方も大きく変容した。まず実習日数が従来より倍増、実習内容も3層構造化（職種、職域、ソーシャルワーク専門職）したため何をいつどのような形で実習させるかについて現場職員と協議した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
障害者総合福祉サービス法の展望	共著	平成２１年７月	ミネルヴァ書房	大熊由紀子・茨木尚子・尾上浩二・竹端寛・北野誠一	165頁～179頁（14頁）
障害者本人中心の相談支援	共著	平成２５年7月	ミネルヴァ書房	朝比奈ミカ・北野誠一・玉木幸則	57頁～70（13頁）
報告書					
医療的ケアと地域生活支援	共著	平成２３年３月	大阪府自立支援協議会	大谷悟・佐々木耕治・荒木敏弘	43頁～67頁、86頁～119頁
障害者相談支援ハンドブック	共著	平成２４年２月	大阪府（障害福祉）	大谷悟監修	全257頁

重症心身障害児者のケアシステム	共著	平成２５年３月	同　上	同　上	全280頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成18年4月～　　現在	大阪府障害者自立支援協議会　座長
平成18年4月～平成24年3月	大阪市障害者自立支援協議会　座長
平成24年9月～　　現在まで	大阪府社会福祉審議会　座長

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 健康福祉学部	職名　准教授	氏名　加藤　良徳	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　○無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「日本語技法」での実践	平成23年4月～	作文添削指導を通じて、基礎的な日本語運用能力を身につけると共に、大学でレポートを書く際の基本的なルールを講義し、実際にそれらを使えるようになるまで、個別徹底指導を行っている。
2　作成した教科書、教材、参考書 『スキルアップ！　日本語力　大学生のための日本語練習帳』	平成21年4月	日本語検定を活用して日本語力をアップするための大学生用教科書。 リメディアル教育にも対応。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 愛知淑徳大学「平成22年度『日本語表現』全学開講記念シンポジウム」 基礎演習についての基礎的研究（静岡英和学院大学）	平成22年7月 平成22年度	パネリストとして参加。 大学共同研究費を取得、研究代表者として成果をまとめる。
4　その他教育活動上特記すべき事項 日本語検定　作問委員	平成22年以降、現在に至る	大学生・社会人向け日本語検定問題の作問。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『日本語検定公式練習問題集改訂版』２級	共著	平成24年3月	東京書籍	加藤淳・加藤弓枝・加藤良徳・佐光美穂・畑恵理子・本田恵美・村井宏栄	pp133～144
『日本語検定公式練習問題集改訂版』１級	共著	平成24年3月	東京書籍	加藤淳・加藤弓枝・加藤良徳・佐光美穂・畑恵理子・本田恵美・村井宏栄	pp133～145
論文					
人間社会学科における基礎演習モデルの提案	共著	平成21年3月	『静岡英和学院大学・静岡英和学院短期大学部紀要』7号	加藤良徳・川島美奈子・林智幸	pp. 259～268
作文支援システムTEach0therSの運用と成果分析	共著	平成21年12月	『名古屋学院大学紀要　言語・文化』21－1	北村雅則・石川美紀子・加藤良徳・棚橋尚子・山口昌也	pp. 43～54

学習型コミュニケーション能力の測定と育成方策（学習型コミュニケーション能力を高める授業の導入を目指して）	共著	平成24年2月	『リメディアル教育研究』第7巻第1号	小野博・工藤俊郎・穂屋下茂・田中周一・加藤良徳・長尾佳代子	pp. 96～103
日本語検定２級合格者はどのような体験をしているのかー中堅私立大学学生（文系）の場合―	単著	平成25年3月	『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』第10巻		pp. 47～58

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　健康福祉学部 健康福祉学科	職名　准教授	氏名　金子勝司	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 実践指導力を身に付けさせる教育方法	平成22年4月～現在	授業でのスポーツやレクリエーション、子どもの体育指導の講義に加え、これらの対象を大学に招き運動指導や実践方法についての実習を行っている。また週一回、学生に近隣の保育園、体育施設等で学習する機会を作り、実技や子どもを指導する機会を作っている。
スポーツ大会の実施運営力を学ぶ実践例 （第1回全国障害者スポーツ大会） （第4回全国障害者スポーツ大会） （第5回スペシャルオリンピクス日本夏季ナショナルゲーム大阪大会）	平成13年10月 平成16年11月 平成22年5月	障害者国体（宮城・埼玉）において、学生ボランティアとして参加する機会を作り、スポーツ大会の実施運営の一員となって運営の実際を学ぶ機会を作った。また、第5回スペシャルオリンピクス日本夏季ナショナルゲーム大阪大会の学生ボランティアとして実施運営を体験させるとともに選手への実際のフォローの仕方を学ばせた。
大学と地域の連携活動の方法の実践例	平成24年7月～現在	地域の教育委員会、学校、施設と連携し、子ども（障がい児も含む）を対象とした運動教室を実施。学生に、企画・教室の運営・体育指導等の実際を学ばせている。
異世代交流事業（幼稚園・保育園）への参加	平成18年～現在	近隣の小学校・幼稚園等の行事等に関わり、子ども達と触れ合う機会を作っている。子ども達とコミュニケーションの取り方、行事（会の運営）のあり方を学ぶ機会をつくっている。
大阪体育大学での授業評価 平成24年度・25年度　授業アンケート	平成25年3月	学生による授業評価を毎年受けているが、主要科目において5点満点の4.7点の評価を受けている。
共栄大学・共栄学園短期大学での授業評価	平成22年3月	学生による授業評価を毎年受けているが、主要科目において5点満点で4.5点以上の評価を受けている。
毎回の講義の概要および要点のプリントを作成	平成７年～現在	講義の効率化をはかり学習を助けるため、毎回の講義の概要と要点をプリントして、資料として配布している。また、質問等に対応するための時間の設定等も用意した。
2　作成した教科書、教材、参考書 『現代スポーツ論』テキストの作成	平成12年3月～現在	スポーツ社会学の講義において、子ども・高齢者・障害者のスポーツの現状や諸問題、イベント等活動の事例を紹介する際、参考資料として使用している。
クエスチョン・バンク 『介護福祉士　国家試験問題解説2010』 メディックメディア　（発行） 医療情報科学研究所　（編集）	平成21年6月	6章「レクリエーション活動援助法」を分担執筆。教科に関する全問題（歴的変遷・援助方法・活動内容・専門用語の解説・政策、制度・援助技術等）の解答、解答に関する解説、専門用語の説明等の監修を担当した。レクリエーション論の授業で参考資料として活用している。

児童福祉実習報告書　第16・17・18号作成	平成19年4月～平成22年3月	児童福祉学専攻の保育実習における学生の報告書をまとめたものである。ゼミ生１・2年に対して実習指導時に参考資料としてゼミで使用した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
大阪市　親子運動教室事業	平成23年2月	講師　（平成23年2月8日～2月22日）
岸和田市教育委員会主催『地域スポーツ指導者研究会』	平成24年3月	講師　（平成25年4月～現在）
赤穂市教育委員会研修会	平成26年8月	講師
赤穂市教育委員会実技研修会	平成26年9月	講師
泉佐野市保育園幼児体育講師	平成25年4月～現在	講師
泉大津市幼保体育指導	平成23年6月～平成25年7月	講師
４　その他教育活動上特記すべき事項		
貝塚市生涯スポーツ課『子どもスポーツクラブ』	平成24年4月	企画・運営委員　（平成24年4月～平成25年4月）
こども運動教室開催（大阪体育大学）	平成25年4月	企画・運営責任者（平成22年6月～現在）

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
クエスチョン・バンク『介護福祉士　国家試験問題解説2010』	共	平成21年6月	メディックメディア　（発行） 医療情報科学研究所　（編集）	金子勝司・赤羽克子他	204頁-234頁
アクティビティ実践とQOLの向上	共	平成22年2月	明石書店 日本福祉文化学会 編集委員会（編集）	金子勝司・石田易司他	109頁-120頁
地域に生きるこどもたち	共	平成26年3月	創世社	金子勝司・小堀哲郎他	72頁-87頁
学術論文等					
東北地方の過疎地域における中・高齢者の社会参加事業の検討 ―社会参加活動とQOLの関連から―	共（筆頭）	平成19年3月	共栄学園短期大学 共栄児童福祉研究 第14号	金子勝司・南條正人	87頁-95頁
知的障害児（者）のスポーツ・レクリエーション活動と生活の質（QOL）に関する研究 ―性別による活動群と非活動群からの比較検討―	共	平成19年3月	共栄学園短期大学 研究紀要第23号	南條正人・金子勝司	111頁-125頁
過疎山村地域における高齢者の社会参加政策事業に関する研究	単	平成20年3月	共栄学園短期大学 共栄児童福祉研究第15号		63頁-74頁
スポーツと子どもの発達に関する研究	共（筆頭）	平成20年3月	共栄学園短期大学　研究紀要 第24号	金子勝司・東野充成	91頁-108頁
子ども向け地域スポーツ活動に対する保護者の期待感と効用感 －地域サッカークラブを事例として－	単	平成21年3月	共栄学園短期大学　共栄児童福祉研究紀要 第16号		25頁-36頁

子どものスポーツ指導のあり方と発達に関する研究	単	平成21年3月	共栄学園短期大学　共栄児童福祉研究紀要第16号		67頁-84頁
豪雪過疎地域における冬季の社会参加事業の検討	単	平成21年3月	共栄学園短期大学　研究紀要　第25号		177頁-196頁
「ゆとり教育と生きる力」	共	平成22年3月	共栄学園短期大学 共栄児童福祉研究第16号	外崎紅馬・金子勝司	59頁-66頁
運動種目の違いによる子どもへの心身の効果と指導上の注意すべきことについて －学生の学びからの一考察－	共（筆頭）	平成22年3月	総合人間科学研究　第2号 総合人間科学研究会	金子勝司・佐近慎平他	61頁-74頁
運動種目の違いによる幼児体育の研究 －学生の学びからの一考察－	単	平成23年3月	総合人間科学研究　第2号 総合人間科学研究会	金子勝司・佐近慎平	47頁-60頁
子どもの発達と地域スポーツに関する研究 -社会学的研究の意義と方法-	単	平成23年3月	総合人間科学研究　第４号		25頁-32頁
体育の実践指導を通した学生の教育的効果について －フィールドスタディとふりかえりからの考察－	共（筆頭）	平成25年3月	学際連携研究　文化と社会 Vol.1 2012.3	金子勝司・山田一典	27頁-38頁
地域の体育教室・スポーツクラブが及ぼす社会的意義について ー自由記述からの分析ー	共（筆頭）	平成25年12月	大阪千代田短期大学紀要 第41号	金子勝司・中野一茂	43頁-54頁
幼児の遠投距離測定からボールスピードを推定する	共	平成26年4月	福岡こども短期大学 研究紀要　第25号	山田一典、曽根裕二	91頁 - 97頁
研究ノート					
地域社会における障害児（者）のスポーツ・レクリエーション活動の実際 ―仙南チャレンジド・スポーツ・クラブの活動から―	共	平成19年3月	共栄学園短期大学　共栄児童福祉研究　第14号	南條正人・金子勝司	140頁-145頁
実践報告					
子ども運動教室活動報告	共	平成26年3月	健康福祉実践研究センター紀要 大阪体育大学健康福祉学部発行 （平成25年度版）	金子勝司・曽根裕二・安田友紀・大月和彦	43頁 - 54頁
教育実習の活動実践報告	単	平成26年3月	健康福祉実践研究センター紀要 大阪体育大学健康福祉学部発行 （平成25年度版）		63頁 - 74頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
	（学会における活動）
平成11年4月	日本福祉文化学会　会員　　（現在に至る）
平成12年4月	日本生涯スポーツ学会　会員　　（現在に至る）

平成13年4月	日本レジャー・レクリエーション学会　会員　　（平成22年3月迄）
平成21年4月	日本幼児体育学会　会員　　（現在に至る）
平成25年8月	日本アダプテッド体育・スポーツ学会（現在に至る）
平成25年8月	Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise（現在に至る）
平成26年3月	第26回日本生涯スポーツ学会　大会実行委員（大阪体育大学）
	（社会における活動）
平成22年4月～現在	公益財団法人　大阪府レクリエーション協会　課程認定校　幹事
平成22年5月	第5回スペシャルオリンピクス日本夏季ナショナルゲーム・大阪　実行委員会（選手団対応委員会　副委員長）
平成22年6月～現在	泉大津市　とれぞあ保育園　体育指導講師
平成23年2月	大阪市　親子運動教室事業　講師　2/8～2/22
平成24年3月	岸和田市教育委員会主催　地域スポーツ指導者研究会講師
平成24年4月	貝塚市　生涯スポーツ課　子どもスポーツクラブ　企画・運営責任者
平成25年4月～現在	こども運動教室開催（大阪体育大学）　企画・運営責任者（第1期～7期開催）
平成25年4月～現在	泉大津市　子どもサッカー教室（講師）
平成22年6月～現在	大阪府レクリエーション協会　課程認定校レクリエーション交流大会実行委員
平成25年9月	泉佐野市こども体育指導　講師（平成25年9月～現在）
平成25年9月	和歌山県紀ノ川市　粉河保育園（講師）
平成26年8月	赤穂市教育委員会主催　幼児体育研修会（講師）
平成26年9月	赤穂市教育委員会主催　幼児体育実技研修会（講師）

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

1．指導クラブ名	幼児体育研究会（同好会）　　部	2．役職	顧問　2012～現在	3．部員数	15　人
4．現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
5．合宿指導	年間合宿回数：　　回	延べ日数：　　日			
6．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
7．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
8．部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　健康福祉学部	職名　教授	氏名　後上鐵夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 授業の視覚化を図り、障害学生等の支援とする。	平成22年4月から	全ての授業をパワーポイントで表現し、又映像を可能な限り使用することで、聴覚障害学生への支援とともに、全ての受講生の理解向上を図る。
特別支援学校への体験学習	平成22年より	特別支援学校の児童生徒と実際関わる体験や授業を見学することで、机上の学習で知り得た特別支援教育の必要性や課題を改めて考える。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 日本特殊教育学会第46回大会 特別支援教育における地域支援の在り方Ⅱ－地域支援の在り方と課題	平成21年	特別支援学校における地域支援の方法として学校コンサルテーションを提案している。その実際を通して明らかになってきた学校コンサルテーションのあり方や課題について有識者を交え、自主シンポ企画し、実施した。
日本教育心理学会第51回総会 特別支援学校における地域支援体制（1） －地域支援の実際に関する調査結果から－	平成21年	地域支援に関する調査をした中から、支援ニーズに関するデータと、他機関との連携に関するデータ分析をここ見た。その結果を報告した。
日本教育心理学会第51回総会 特別支援学校における地域支援体制（2） －特徴的な事例からの地域支援体制の検討－	平成21年	地域支援を実践している期間の中から特徴的な支援方法を行っている15機関を例に、支援体制と構築する上での共通項は何かを検討した。その結果を報告した。
日本特殊教育学会第47回大会 要支援児と学級担任・保護者への具体的な支援方法の開発に関する研究Ⅰ －サポートプランの作成とその活用について	平成22年	特別支援括弧の地域支援部担当者が、要支援児への対応について学級担任や保護者への支援ツールとしての「サポートプラン」の作成方法とその活用方法について報告した。
日本教育心理学会沖縄大会 地域支援（学校コンサルテーション）の在り方を考える ―「請負型」の教育相談からの脱却―	平成24年11月	近畿の特別支援学校のセンター的機能の実態調査から、教育相談が担任支援にはなっているものの、担任の教育力向上には必ずしも繋がらず、教育相談の有り様を再検討する必要があることを報告した。 共（筆頭）　後上鐵夫、松崎保弘、清水謙二他3名

日本特殊教育学会高知大会 地域の教育力向上を図る学校コンサルテーションのあり方 ―アンケート調査による　学校園所・担任教員等の思いと課題の分析―	平成26年9月	学校コンサルテーションは、個の相談から、教育委員会と協働した地域全体で、学校や担任、保護者を支援することを目指して、その有り様を変容していく必要があることと、校内体制の構築について提言した。 共（筆頭）　後上鐵夫、大久保圭子、井上和久

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
特別支援学校等で実施する学校コンサルテーションの課題について	共（筆頭）	平成26年1月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要第11巻	後上鐵夫、大久保圭子、井上和久	p61～80
単行本					
障害のある子どもの海外学校生活を支援するガイドブック ー社員の海外赴任をサポートするために	共	平成21年	独立法人国立特別支援教育総合研究所	後上鐵夫、小林倫代、藤井茂樹	p1-10, p19-24, p31-34, p50-81
障害のある子どもの教育相談マニュアル はじめて教育相談を担当する人のために	共	平成22年	ジアーズ教育新社	後上鐵夫、小林倫代他8名	Ⅰ部 Ⅱ部１・２．３．４ Ⅲ部 Ⅳ部1・４・１１
この子と「共に生きる」すばらしさ ―響き合うこころとコミュニケーション	共	平成24年	ジアーズ教育新社	後上鐵夫（編著者）、小村宣子	1章 3章1・2・3・5・6
社会と人間に問われるもの 第３部　被災地における特別支援教育の役割	共	平成25年	佛教大学総合研究所編 ナカニシヤ出版	後上鐵夫、藤堂俊英他31名	p174-207
報告書等					
地域の支援をすすめる教育相談の在り方に渇する実際的研究・そのⅡ ー関係機関と協働して行う総合的な支援体制の構築を目指して	共	平成21年3月	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所研究報告書	後上鐵夫（研究代表者）、小林倫代、藤井茂樹他3名	1章・2章・6章
日本人学校および補習授業校における 特別支援教育推進状況に関する調査研究	共	平成21年3月	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所調査研究報告書	後上鐵夫（研究代表者）、小林倫代、藤井茂樹他3名	1章、2章 3章(2)(5) 4章(1)④⑤⑥、6章
言語障害教育における指導の内容・方法・評価に関する研究 ―言語障害教育実践ガイドブックの作成に向けて	共	平成22年3月	（独）国立特別支援教育総合研究所専門研究Ｂ研究報告書	久保山茂樹、後上鐵夫、他10名	p84～97
ヘレンケラーとサリバン先生に学ぶ ―今､問われている「教師力」とは何かを考える	単	平成23年3月	大阪体育大学健康福祉学会「健康福祉研究」Vol.2		p40～43

特別支援学校における地域支援としての教育相談の実態 ―学校コンサルテーションのあり方と課題	共	平成24年3月	大阪体育大学健康福祉学部研究報告書	後上鐵夫（研究代表者）、小林倫代、井上和久、吉崎純子他11名	第1章、第2章、第7章
特別支援学校におけるセンター的機能の有用性に関する研究 ―地域の教育力向上を図る学校コンサルテーション―　研究報告書	共	平成26年3月	大阪体育大学健康福祉学部研究報告書	後上鐵夫（研究代表者）、小林倫代、大久保圭子、中村和彦他16名	第1章、第2章、第4章

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成１０年から現在に至る	文部科学省特別支援学校教員資格認定試験企画委員
平成２２年から平成24年まで	大阪府泉大津市就学指導委員会委員長
平成２２年から現在に至る	大阪府立和泉支援学校学校協議会会長
平成２３年から現在に至る	大阪市立西淀川特別支援学校学校協議会会長

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

健康福祉学部	教授	駒井博志	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
講義でのミニリポート作成指導	平成21年度～	授業終了時に、当日の講義内容に関して理解した内容や疑問な点、もっと知りたい内容等について、ミニリポートという形で記述・提出させ、次回授業開始時に説明、補足を行っている。講義内容の理解の内容と理解度、文書作成能力の育成を図っている。
視聴覚教材の利用	平成21年度～	主に講義用に編集したビデオを使用し、講義内容の多面的な理解を図るとともに授業に対しての興味や関心を高めることを目指している。また、講義形式では伝えることが困難な精神保健福祉の対象となる人たちに関する実践的理解を深めるようにしている。なお、使用するビデオ等はテレビ等で放映されたものを使用し、時代性を重視している。
2　作成した教科書、教材、参考書		
授業レジュメの作成	平成21年度～	授業開始時に当日の講義内容を記述したレジュメを配布し、学習のながれや学習の目的・内容を明確に理解できるようにしている。
資料作成、配布	平成21年度～	学習内容に社会や時代とのつながりを意識させ、実践性を感じさせるために、新聞記事や文献等を整理編集した資料を作成し、配布するようにしている・。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
障害福祉事業所での体験学習	平成21年度～	理事長として関与している障害者総合支援法に基づく障害福祉事業所を活用し、障害当事者に関する理解を深めるとともに、事業所運営に関しての実践的能力の涵養を図っている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
精神保健福祉に関する制度とサービス	共著	平成24年2月	中央法規出版	日本精神保健福祉士養成校教会編	94－101頁

論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成13年4月～現在に至る	日本社会福祉学会会員
平成14年4月～平成24年3月	日本社会精神医学会会員
平成24年4月～現在に至る	日本精神保健福祉学会会員
平成18年7月～平成24年6月	精神保健福祉士国家試験委員
平成14年4月～現在に至る	特定非営利活動法人ふきのとう理事長
平成14年4月～平成25年3月	就労継続支援事業所（Ｂ型）なずな施設長
平成21年4月～現在に至る	泉佐野市障害者施策推進委員会委員
平成22年4月～平成26年3月	大阪府立砂川厚生福祉センター第三者委員
平成21年4月～現在に至る	紀泉病院第三者委員

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　健康福祉学部	職名　講師	氏名　曽根 裕二	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
・ICT等を活用した授業	2011年4月～	授業毎にスライド資料を作成し、視覚的に理解を促す指導を行った。
・作業工程・内容の工夫	2011年4月	各児童の特性に合わせた作業工程を工夫し、意欲的に取り組めるようにした
・大学での授業評価	2011年9月～	主要項目において5点満点中、4.5点以上の評価を受けている。
・実習の充実による理解促進	2013年1月	障がい者スポーツの活動について地域のクラブチームと連携し、実習を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		
・現場実習事前事後指導教材	2011年6月	知的障害のある生徒が現場実習に関する見通しを持ちやすい教材を作成した。
・ハンドサッカーのルール説明資料	2011年12月	重度肢体不自由者も参加できる団体球技の解説用資料を作成した。
・ボッチャ解説用動画教材	2012年8月	「ボッチャ」の普及用動画教材を地域のクラブチームと連携して作成した。
・授業用記録ノート	2013年9月	毎時のキーワードと概略を示すとともに、学生の授業内のトレーニング記録として活用できる授業ノートを作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・日本体育協会公認上級指導員養成講習会	2012年11月4日	対象に合わせたスポーツ指導～障害者とスポーツ～
・中級障がい者スポーツ指導員養成講習会 講師	2013年8月10日	障がい者スポーツ・運動指導のための発育・発達
・大阪体育大学 教員免許更新講習会 講師	2014年1月13日	アダプテッド・スポーツの授業づくり
・大阪高齢者大学 講師	2014年2月10日	障がい者スポーツの現状と課題
・国立特別支援教育総合研究所 研修会講師	2014年2月19日	肢体不自由児・者スポーツの現状と課題
・阪南市社会教育団体人権研修会 講師	2014年3月22日	「アダプテッド・スポーツ」を通して障がい者理解を深める
4　その他教育活動上特記すべき事項		
・泉佐野市社会福祉協議会主催 「ボッチャ教室」の実施	2011年～	泉佐野市社協主催の「ボッチャ教室」に講師として協力した。
・子どもへの運動指導	2012年10月～	健康福祉実践研究センター主催の「子ども運動教室」の主要スタッフとして子どもたちを指導する学生へのアドバイスを行っている。また、運動面に困難を抱える子どもへの個別指導も行っている。
・地域の小・中学校への出前授業	2013年～	地域の小学校・中学校で「アダプテッド・スポーツ」に関する出前授業を行った。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数

著書					
大阪体育大学教員免許更新講習	単著	2013年12月	大阪体育大学教職支援センター	池島明子、梅林薫、岡村浩嗣、他12名	117頁-127頁
論文					
幼児・児童に対する投能力向上を目指した短時間トレーニング指導の有効性	共著	2013年12月	総合人間科学研究6:115-120	山田一典、金子勝司、曽根裕二、時國順	共同研究につき、本人担当部分抽出不能
下肢に障がいを有する者と健常者の比較から筋・腱形態の発育発達を探る	共著	2013年12月	総合人間科学研究6:129-135	山田一典、曽根裕二、竹内亮、金子勝司、岩岡研典	共同研究につき、本人担当部分抽出不能
体育系大学との連携協働による高齢者介護予防教室の展開 大阪府忠岡町における「お元気いきいき教室」の取り組み	共著	2013年12月	保健師ジャーナル69（12）:1010-1017	竹内亮、曽根裕二、横井光治、岩佐由美、行貞伸二	共同研究につき、本人担当部分抽出不能
重度肢体不自由者のスポーツ継続に関する事例的研究－グループインタビューによる検討－	共著	2014年1月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要11:81-91	曽根裕二、大村琢麻	共同研究につき、本人担当部分抽出不能
その他					
作業を通して、自己効力感、社会とのつながりを育む	単著	2011年5月	自閉症教育の実践研究、4巻、2号、14-15		14頁-15頁
The 23rd International Sport Science Congress 2011に参加して	単著	2012年6月	障害者スポーツ科学 10(1), 67-69		67頁-69頁
2012年度大阪体育大学健康福祉学部スポーツ福祉系活動報告～月例勉強会の開催～	共著	2013年3月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要10:79-84.	曽根裕二、金子勝司、竹内亮、岩岡研典	共同研究につき、本人担当部分抽出不能
スポーツを楽しみ、続けるためのヒント	単著	2014年8月	発達教育 33（8）, 4-11		4頁-11頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
2009年9月	2009アジアユースパラゲームズ 陸上競技 跳躍担当総務
2011年7月～	日本パラリンピック委員会 医・科学・情報サポート推進事業 サポートスタッフ
2012年1月～	大阪府障がい者スポーツ大会 実行委員
2013年1月～	日本アダプテッド体育・スポーツ学会 理事
2014年4月～	堺市立健康福祉プラザ スポーツセンター運営委員
2014年4月～	日本ボッチャ協会 事務局 広報部長

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	車いすハンドボール同好会　　部	２．役職	2012年～ 部長、監督	３．部員数	10　　人

４．現場指導の頻度	③	① ほほ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない		
５．合宿指導	年間合宿回数：　1　回		延べ日数：　1　日	
６．クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない		
９．年間の引率公式大会名	大　会　名		期　　間	場　　所
	車いすハンドボール 大阪大会		11月上旬	ファインプラザ大阪
	車いすハンドボール 全国大会		10月～11月	徳島

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　健康福祉学部	職名　講師	氏名　髙宮正貴	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
1. 穴埋め式プリントを用いた授業実践	平成25年４月～平成26年１月	講義では、重要事項を空欄にし、穴埋めにする語句を板書し、学生に写させている。プリントは毎回授業後に回収し、教員がチェックしている。それによって、講義を聴こうとする意欲が上がり、集中力も高まっている。（教育原理、道徳教育の研究）
2. グループのワークシートを利用した対話型・参加型授業の実践	平成25年４月～平成26年１月	毎回の講義では、教員が与えた問いについて、学生がグループで話し合い解答とその理由を話し合う時間を取っている。それによって、授業で学習する問題について主体的に考えることができ、思考力を高める効果を狙っている。（教育原理、道徳教育の研究）
3. ワークシートとそれに対するフィードバックによる双方向的授業の実践	平成25年９月～平成26年１月	教員が与えた問いについて、学生にワークシートに意見を書いてもらい、その意見をカテゴリー別に分類して次週にフィードバックを行う。このことにより、学生は自分の意見が掲載されたという自信を得るとともに、他の学生がその問題についてどう考えているかを知ることができる。このワークシートを使用した実践によって、講義への参加意欲を高める効果を期待できる。（教育原理、道徳教育の研究）
4. ２０１３年度前期・後期「授業に関するアンケート」（教育原理、道徳教育の研究）	平成25年10月、平成26年３月	学生による授業評価アンケートを実施した。板書の文字のきれいさ、スライドを利用する際の照明、授業準備の不足について、学生から改善の要望があった。とりわけ授業準備については、１時間で伝えたいことのポイントをしぼり、発問を工夫し、授業にストーリー性を持たせるように改善を行った。
２　作成した教科書、教材、参考書		
1. グループディスカッション用ワークシート（教育原理、道徳教育の研究）	平成25年４月	講義でグループディスカッションを行うためのワークシートを作成した。ディスカッションのテーマは、賛成と反対の両方の解答がありうるものを設定し、どちらの立場に立つかを話してもらい、その理由を挙げてもらう。議論の内容をワークシートに記入してもらい、次週には、出た意見を教員がフィードバックする。
2. 「誰が何を？」ワークシート（教育原理）	平成25年６月	教育原理で、学生自身のコミュニケーションの仕方を見直してもらうためのワークシートを作成した。コミュニケーションをする際に必要な資質や態度を考えてもらった上で、自分のコミュニケーションの長所と短所を挙げてもらった。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４　その他教育活動上特記すべき事項		

1. 協同出版　教員採用試験対策講座　講師（生徒指導×１回、教育法規×２回、学習指導要領×２回）	平成25年3月～	教員採用試験の対策講座の講師を務めている。
2. 大阪体育大学　教員採用試験対策支援ゼミ　講師（教育史、教育課程、道徳教育）	平成25年10月～	学内の教員採用試験対策支援ゼミで講師を務めている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
1. 教育の思想と歴史（教職教育講座第1巻）	共著	平成24年３月	協同出版	編　者：新井保幸、上野耕三郎 共著者：新井保幸、村島義彦、他	83～93頁
2. 子どもの心によりそう保育内容総論	共著	平成26年３月	福村出版	編　者：鈴木昌世 共著者：渡辺一弘、佐藤哲也、他	201頁～208頁
論文					
1. J. S. ミルにおける美学と美的教育の位置づけ	単著	平成23年3月	『上智教育学研究』第23号		21～39頁
2. なぜ公教育の正当性論なのか（平成21～22年　教育哲学会特定課題研究助成 「公教育の「正当性」論のための基礎研究―近・現代の倫理学・政治哲学諸理論の比較検討」（研究代表者：高宮正貴）の成果報告）	単著	平成23年5月	『教育哲学研究』第103号		111～116頁
3. J.S.ミルの功利主義による教育の正当化――「生の技術」の三部門からの考察（査読付）	単著	平成24年12月	『教育哲学研究』第106号		1～17頁
4. J.S.ミルにおける機会の平等と教育――分配的正義からの考察――	単著	平成26年1月	『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』第11巻		21～34頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成21年10月～平成22年10月	教育哲学会特定課題研究助成「公教育の「正当性」論のための基礎研究―近・現代の倫理学・政治哲学諸理論の比較検討」　研究代表者

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

4　「研究活動」については、下記の点に留意してください。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 健康福祉学部	職名　准教授	氏名　竹内　亮	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
大阪府忠岡町介護予防事業「お元気いきいき教室」における学生ボランティアによる運動指導	平成24年11月2日～平成26年2月14日	町内在住高齢者（一次及び二次予防事業対象者）に対する運動器の機能向上（転倒・膝痛・腰痛予防）、日常生活動作の再学習及びニュースポーツの体験を目的に開催された教室で、学生が運動プログラム内容の一部を指導した。これにより、学生における現場での指導の機会を多く持つことができ、後の教育実習等につなげていけるような仕組みづくりを構築した。
通所介護施設における学生ボランティアによる運動指導	平成24年11月13日～平成26年2月7日	大学近隣の通所介護施設（デイサービス）に通う高齢者（要支援・要介護者）に対して、施設職員が1時間程度の集団体操を実施している。今回、「スポーツ福祉指導法（高齢者）」の授業の一環として、学外授業という形でこの集団体操を学生が主体となって6回実施した。これにより、学生が運動指導の進め方を実践的に学ぶ機会を得ることができ、後の教育実習等につなげていけるような仕組みづくりを構築した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
特記事項なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
上級障害者スポーツ指導員養成講習会講師	平成24年9月23日	日本障害者スポーツ協会主催の指導員養成講習会において、「高齢者とスポーツ」の講義を担当した。参加者は、初・中級障害者スポーツ指導員で実務経験を有する者であった。
大学オープンキャンパスにおける体験授業	平成25年8月2日	大阪体育大学オープンキャンパスに参加した高校生及び保護者に対して、「高齢者における介護予防のための運動」をテーマに、市町村で実施した運動教室の実践例をもとに体験授業を実施した。これにより、すべての年代において体を動かすことの重要性、またその促進による社会的な影響についても参加者に周知させるとともに、さらには大学と地域との関わり方や意義についても理解させる機会が得られた。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
特記事項無し		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					

論文					
携帯電話のメール機能を利用した身体活動量評価支援ツールの開発	共著	2010年6月	公衆衛生，第74巻，第6号	久保田晃生，◎竹内亮，永田順子，石塚貴美枝	p.531-535
The influence of different exercise intervention programs on changes in quality of life and activity of daily living levels among geriatric nursing home residents	共著	2011年2月	Journal of Physical Therapy Science 第26巻，第1号	◎Ryo Takeuchi，Yoshiro Hatano，Masahiro Yamasaki	p.133-136
勤労者における抑うつ状態と体力との関係の縦断的研究	共著	2011年4月	厚生の指標，第58巻，第4号	久保田晃生，◎竹内亮，原田和弘，笹井浩行，甲斐裕子，高見京太	p.15-22
地域在住高齢者における生活活動能力および満足度が3年後の要介護化状態に及ぼす影響 ― 静岡県における高齢者生活実態の縦断的調査 ―	共著	2011年5月	保健の科学，第53巻第5号	◎竹内亮，久保田晃生，石塚貴美枝，永田順子，高田和子，太田壽城	p.353-358
高齢者の身体的な自立状況のマップ化に関する研究	共著	2012年3月	東海大学紀要（体育学部），第41巻	久保田晃生，松下宗洋，◎竹内亮，石塚貴美枝，高田和子，太田壽城	p.71-75
介護保険サービスを利用している高齢者のQuality of LifeおよびActivity of Daily Livingに及ぼす運動介入の影響（学位論文）	単著	2012年12月	広島大学大学院総合科学研究科紀要，総合科学研究，第7巻		p.67-70
地域在住高齢者における身体および社会活動頻度とQuality of Lifeの変化との関係－静岡県における高齢者コホートによる縦断的研究－	共著	2013年3月	生涯スポーツ学研究，第9巻第1，2号	◎竹内亮，久保田晃生，高田和子，太田壽城	p.3-10
2012年度大阪体育大学健康福祉学部スポーツ福祉系活動報告―月例勉強会の開催―	共著	2013年3月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要，第10巻	曽根裕二，金子勝司，◎竹内亮，岩岡研典	p.79-84
下肢に障がいを有する者と健常者の比較から筋・腱形態の発育発達を探る	共著	2013年7月	総合人間科学研究，第6巻	山田一典，曽根裕二，◎竹内亮，金子勝司，岩岡研典	p.129-135
Service quality and user satisfaction in sports facilities for persons with disabilities in Japan	共著	2013年7月	Hacettepe Journal of sport sciences，第24巻，第2号	Kanayama C，Yamashita S，◎Takeuchi R，Miki Y，Yamasaki M	p.172-177
体育系大学との連携協働による高齢者介護予防教室の展開―大阪府忠岡町における「お元気いきいき教室」の取り組み―	共著	2013年12月	保健師ジャーナル，第69巻第12，2号	◎竹内亮，曽根裕二，横井光治，岩佐由美，行貞伸二	p.1010-1017

介護施設入所高齢者における加速度計による身体活動状況と日常生活活動および生活の質との関連性	共著	2014年6月	障害者スポーツ科学，第12巻	◎竹内亮，山崎昌廣	p. 3-11

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成22年6月～平成24年3月	静岡県ふじのくに健康増進計画推進協議会運動部会委員
平成22年11月～平成23年3月	静岡県下田市テーラーメイド保健指導プログラム評価会議委員
平成25年10月～現在	大阪府障害者交流促進センター指定管理者評価委員会委員

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　健康福祉学部	職名　准教授	氏名　辰巳佳寿恵	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 批判的思考力と文章作成能力を養うための工夫	2013年4月～7月	本学の学生は社会福祉現場実習において、実習日誌の書き方に問題がある（文章力・問題意識・分析力・批判力）点を、現場指導者から指摘されてきた。教育開発出版の添削システムを試行的い用い、上記弱点の改善を試行的に目指した。
2　作成した教科書、教材、参考書 「社会調査の基礎」サブテキスト	2013年12月	社会福祉士の要件科目である「社会調査の基礎」を学ぶにあたり、算数・数学力の不足から、量的調査の分野の理解度が非常に低かった。この点を改善するため、統計に関連する領域のみを復習するサブテキストを、教育開発出版の協力を得て作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 リメディアル教育学会　学会発表	2012年8月 2013年8月	「体育大学における社会福祉士養成の課題」 「社会福祉士養成教育におけるリメディアル教育の必要性と産学連携の取り組み」
4　その他教育活動上特記すべき事項 「合格ゼミ」「合格応援教室」の設置	2012年4月～2013年3月 2013年3月～2014年3月	社会福祉士国家試験の受験合格率を上昇させるため。基礎からシステム的に学びを積美重ねる「合格ゼミ」の方式を2012年度に試行して固め、2013年度からは委員会活動として、チューターによる指導システムを取り入れ、合格率を上昇させた。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
障害者福祉論	共著	2010年3月	ミネルヴァ書房	大島侑監修、村井龍治編著	55頁～72頁
論文					
リハビリテーション再考	単著	2009年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要　第6巻		1頁～12頁
リハビリテーション支援システムの充実と文化的背景	単著	2010年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要　第7巻		73頁～84頁
中途視覚障害者の雇用継続を目指す取り組み	共著	2011年10月	医学書院　総合リハビリテーション Vol.39.No.10	辰巳佳寿恵、津田諭、山崎秀樹、山縣浩、竹田幸代	1001頁～1004頁
大学における視覚障害者のインクルーシヴ教育の課題	共著	2012年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要　第9巻	辰巳佳寿恵、長尾佳代子、中村健、寺口敏生、堤裕之	1頁～26頁
大阪体育大学における社会福祉士養成の課題	共著	2013年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要　第10巻	辰巳佳寿恵、今堀美樹、大谷悟	73頁～84頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
期　　間	内　　容
2006年～2012年	泉佐野障害者施策推進協議会　副会長
2008年～2011年	独立行政法人大学入試センター　第99部会　試験問題作成委員
2012年～2013年	熊取町男女共同参画推進協議会　委員長
2012年～2013年	熊取町人権擁護委員会　委員
2012年～2013年	熊取町防災会議　委員
2012年～2013年	熊取町国民保護協議会　委員

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。

２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 健康福祉学部	職名　講師	氏名　田部絢子	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 該当なし		
2　作成した教科書、教材、参考書 該当なし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 該当なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
私立学校の特別支援教育システムに関する実証的研究	単著	2014年3月	A5版、全482頁、風間書房		
学位論文					
（博士論文）					
私立学校における特別支援教育体制整備に関する実証的研究―「幼小中高一貫」したシステム開発の視点から―	単著	2013年3月	博士（教育学）学位論文、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科		
（修士論文）					
私立高校における特別支援教育の実態とシステム整備に関する実証的研究	単著	2010年3月	修士（教育学）学位論文、東京学芸大学大学院教育学研究科特別支援教育専攻		
学術論文					

発達障害の本人調査からみた発達障害者が有するスポーツの困難・ニーズ	共著	2010年2月	『東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅰ』第61集	山下揺介・田部絢子・石川衣紀・上好功・至田精一・髙橋智	pp.319-357
「発達障害と不適応」問題の研究動向と課題	共著	2010年2月	『東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅰ』第61集	横谷祐輔・田部絢子・石川衣紀・髙橋智	pp.359-373
私立高校における中高一貫教育と特別支援教育―特別な配慮を要する生徒の実態に関する全国調査から―	単著	2010年7月	『日本私学教育研究所紀要』第46号		pp.71-79
発達障害者が有するスポーツの困難・ニーズに関する研究―発達障害の本人調査からみえてくるもの―	共著	2010年11月	『YMCA総合研究所第3回大阪YMCA研究フォーラム報告書平成21年度』第3巻（YMCA総合研究所研究紀要別冊）	髙橋智・山下揺介・田部絢子	pp.51-75
全国私立高校養護教諭悉皆調査からみた特別支援教育の現状と支援の課題	共著	2010年11月	『SNEジャーナル』第16巻1号、日本特別ニーズ教育学会	田部絢子・髙橋智	pp.128-145
国立大学附属小学校と特別支援教育―特別な配慮を要する児童の実態と支援に関する全国調査から―	共著	2010年11月	『SNEジャーナル』第16巻1号、日本特別ニーズ教育学会	髙橋 智・石川衣紀・田部絢子	pp.68-84
Difficulties and Needs of Students with Developmental Disabilities and Their Parents in Progressing to High School	共著	2011年2月	Bulletin of Tokyo Gakugei University, Division of Comprehensive Educational Science Ⅱ ,vol.62	Ayako TABE , Satoru TAKAHASHI	pp.125-141
幼稚園における特別支援教育の現状―全国公立幼稚園調査からみた特別な配慮を要する幼児の実態と支援の課題―	共著	2011年2月	『東京学芸大学紀要（総合教育科学系）』第62集	佐久間庸子・田部絢子・髙橋智	pp.153-173
本人調査からみた発達障害者の「身体症状（身体の不調・不具合）」の検討	共著	2011年2月	『東京学芸大学紀要（総合教育科学系）』第62集	髙橋智・石川衣紀・田部絢子	pp.73-107
発達障害等の多様な困難を抱える中学生とユニバーサルデザイン教育	単著	2011年2月	『YMCA総合研究所第4回大阪YMCA研究フォーラム報告書2010年度』第4巻（YMCA総合研究所研究紀要別冊）		pp.26-49
発達障害者は「誰にも理解されない身体の不調・不具合」で困っている―発達障害の本人・当事者の身体症状調査から―	共著	2011年2月	『YMCA総合研究所第4回大阪YMCA研究フォーラム報告書2010年度』第4巻（YMCA総合研究所研究紀要別冊）	髙橋智・石川衣紀・田部絢子	pp.50-93
私立幼稚園と特別支援教育―全国私立幼稚園調査からみた特別な配慮を要する幼児の実態と支援の動向―	共著	2011年3月	『日本教育大学協会研究年報』第29集、日本教育大学協会	髙橋智・田部絢子・佐久間庸子	pp.147-160

国立大学附属小学校における特別支援教育の現状と課題―管理職・特別支援教育コーディネーターおよび養護教諭への全国調査から―	共著	2011年3月	『日本教育大学協会研究年報』第29集、日本教育大学協会	髙橋智・石川衣紀・田部絢子	pp.219-232
Japanese Association of Special Education 2010 Annual Meeting International Symposium ;The Challenge of Developmental Support for Persons with Autism and International Educational Cooperation in East Asia	共著	2011年3月	The Japanese Journal of Special Education,Vol.48 No.6, Japanese Association of Special Education	Satoru Takahashi, Tsutomu Nagasaki,Ayako Tabe& Izumi Ishikawa	pp.635-643
高校特別支援教育の動向と課題	単著	2011年9月	『特殊教育学研究』第49巻3号、日本特殊教育学会		pp.317-329
高校における特別支援教育実践の困難と課題	共著	2011年12月	『月刊高校教育』第44巻13号、学事出版	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	pp.38-41
発達に困難を抱える高校生が求める「自立・就労・社会参加」の支援―公立高校と特別支援学校高等部分教室に在籍する生徒への調査から―	共著	2012年1月	『発達』第129号、ミネルヴァ書房	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	pp.18-25
児童養護施設における発達障害児の実態と支援に関する調査研究―児童養護施設の職員調査から―	共著	2012年2月	『東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅱ』第63集	横谷裕輔・田部絢子・髙橋智	pp.1-20
児童自立支援施設における発達障害児の実態と支援に関する調査研究―全国児童自立支援施設併設の分校・分教室の教師調査から―	共著	2012年2月	『東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅱ』第63集	内藤千尋・田部絢子・髙橋智	pp.21-30
全国市区教育委員会悉皆調査からみた幼稚園特別支援教育の現状と課題	共著	2012年3月	『日本教育大学協会研究年報』第30集、日本教育大学協会	髙橋智・田部絢子	pp.27 -43
Japanese Association of Special Education 2011 Annual Meeting International Symposium: Challenges of the Internationalization of the Japanese Association of Special Education ; International Comparative Research and Internationalization of Research	共著	2012年3月	The Japanese Journal of Special Education, Vol.49 No.6, The Japanese Association of Special Education	Satoru Takahashi, Tsutomu Nagasaki, Ayako Tabe	pp.781-791
発達障害の身体問題（感覚情報調整機能障害・身体症状・身体運動）の諸相―発達障害の当事者調査から―	共著	2012年5月	『障害者問題研究』第40巻1号	髙橋 智・田部絢子・石川衣紀	pp.34-41

私立中学校における特別支援教育体制整備の現状と課題―全国私立中学校管理職悉皆調査から―	共著	2012年10月	『SNEジャーナル』第18巻1号、日本特別ニーズ教育学会	田部絢子・髙橋智	pp.60-79
児童自立支援施設における発達障害児の実態と支援の課題―全国児童自立支援施設調査から―	共著	2012年10月	『SNEジャーナル』第18巻1号、日本特別ニーズ教育学会	髙橋智・内藤千尋・田部絢子	pp.8-21
発達障害等の特別な配慮を要する幼児の発達支援システムの開発に関する全国調査研究	共著	2012年12月	『家庭教育研究所紀要』第34号、公益財団法人小平記念日立教育振興財団日立家庭教育研究所	田部絢子・髙橋智	pp.62-74
中学校における特別支援教育の動向と課題	共著	2013年2月	『障害者問題研究』第40巻4号	髙橋智・田部絢子	pp.242-249
私立中学校における発達障害等生徒の支援の実態と特別支援教育の課題―全国私立中学校養護教諭調査から―	単著	2013年2月	『障害者問題研究』第40巻4号		pp.274-281
児童自立支援施設における発達障害児の実態と支援に関する調査研究（第３報）―全国児童自立支援施設職員および分校・分教室教師調査から―	共著	2013年2月	『東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ』第64集	内藤千尋・田部絢子・髙橋智	pp.101-113
Inclusive Education in North Europe and Japan : Cerrent Situaton and Challenges	共著	2013年2月	Journal of Special Education Research, Vol.1 No.1, The Japanese Association of Special Education	TAKAHASHI Satoru , KORENAGA Kanako, TABE Ayako	pp.31-34
私立学校における特別支援教育体制整備に関する実証的研究―「幼小中高一貫」したシステム開発の視点から―	単著	2013年3月	博士（教育学）学位論文、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科		
本人・当事者調査から探るアスペルガー症候群等の発達障害の子ども・青少年のスポーツ振興の課題	共著	2013年4月	『SSFスポーツ政策研究』第2巻1号、公益財団法人笹川スポーツ財団	髙橋智・井戸綾香・田部絢子・内藤千尋・小野川文子・竹本弥生・石川衣紀	pp.204-213
私立学校における特別支援教育体制整備の現状と課題―全国学校法人理事会・私学協会悉皆調査から―	共著	2013年10月	『SNEジャーナル』第19巻1号、日本特別ニーズ教育学会	田部絢子・髙橋智	pp.109-124
自立に困難を抱える発達障害青年の実態と支援の課題―全国自立援助ホーム職員調査を通して―	共著	2013年10月	『SNEジャーナル』第19巻1号、日本特別ニーズ教育学会	内藤千尋・田部絢子・髙橋智	pp.175-186
病弱特別支援学校寄宿舎における病気の子どもの「生活と発達」の支援	共著	平成26年2月	『東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ』第65集	小野川文子・田部絢子・池田敦子・髙橋智	pp.125-132
韓国の高校に設置された特殊学級の現状と課題	共著	平成26年2月	『東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ』第65集	存在玉・崔在婉・田部絢子・竹本弥生・髙橋智	pp.147-156

発達障害と「身体の動きにくさ」の困難・ニーズ―発達障害の本人調査から―	共著	平成26年2月	『東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ』第65集	髙橋智・井戸綾香・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋	pp.23-60
全国国立大学附属学校園の特別支援教育の現状と課題に関する調査研究―全国の附属幼稚園管理職・養護教諭調査から―	共著	平成26年2月	『日本教育大学協会研究年報』第32集、日本教育大学協会	髙橋智・石川衣紀・田部絢子	pp.173-184
養護教諭からみた私立学校の特別支援教育の現状と課題―全国私立小・中学校養護教諭悉皆調査から―	共著	2014年3月	『日本教育保健学会年報』第21号、日本教育保健学会	田部絢子・髙橋智	pp.17-28
翻訳					
日本特殊教育学会訳編『障害百科事典』全5巻	共訳	2013年1月	丸善出版	(編集委員長:前川久男、副編集委員長:尾崎久記・高橋智) 翻訳担当者多数	田部分担訳項目：「教育と障害」「インクルーシブ教育」「特別教育」「イソップ」「オースティン，メアリー・ハンター」「バーカー，ロジャー・ガーロック」「ベル，アレクサンダー・グラハム」「ブリッジマン，ローラ・デューイ」「バック，パール・S」「エジソン，トーマス」「エルキン，スタンリー」「フラー，マーガレット」「ギルマン，シャーロット・パーキンス」「ゴダード，ヘンリー・ハーバート」「カリカク，デボラ」「カナー，レオ」「ケラー，ヘレン」「クレペリン，エミール」「ランゲ，ドロシア」「メイス，ロナルド・L」「モーム，W・サマセット」「モンテッソーリ，マリア」「レイ，アイザック」「ロバーツ，エド」「サンガー，マーガレット」「サリバン・アン」「ファン・ゴッホ，フィンセント」「バルワー，ジョン」「ローゼ=ヴェヒトラー，エルフリーデ」「ジェームズ・ボズウェル，『サミュエル・ジョンソンの生涯』から」（30項目）
その他の著作物					

【特集１高等学校・特別支援学校学習指導要領改訂のポイント】高等学校特別支援教育の充実	共著	2009年3月	『教職研修』第440号、教育開発研究所	髙橋智・田部絢子	pp.56-57
日本特別ニーズ教育学会祭16回研究大会課題研究報告：本人・当事者の参加・発言から探る高校特別支援教育の課題	共著	2011年11月	『ＳＮＥジャーナル』第17巻1号、日本特別ニーズ教育学会	髙橋智・田部絢子	pp.79-86
【ラウンドテーブル２】高校における特別支援教育実践の展開と課題	共著	2012年1月	『SNE学会ニューズレター』第2号、日本特別ニーズ教育学会	髙橋智・田部絢子・竹本弥生	pp.5-7
学会企画シンポジウム２・日本特殊教育学会の国際化の課題―国際比較研究と研究の国際化―	共著	2012年1月	『特殊教育学研究』第49巻5号、日本特殊教育学会	髙橋智・千賀愛・田部絢子	pp.535-538
【東日本大震災に伴う本学会の社会貢献活動報告：東日本大震災支援基金調査研究報告書】東日本大震災と特別支援教育の課題―被災地域の教育委員会・避難所調査から―	共著	2013年7月	『特殊教育学研究』第51巻2号、日本特殊教育学会	髙橋智・田部絢子・松本直巳・山下揺介・内藤千尋・石川衣紀・石井智也	pp.171-176
【東日本大震災に伴う本学会の社会貢献活動報告：大会における学会企画・社会貢献公開シンポジウムの記録】東日本大震災と特別支援教育の課題―被災地域の教育委員会・避難所調査から―	共著	2013年7月	『特殊教育学研究』第51巻2号、日本特殊教育学会	東京学芸大学髙橋智研究室東日本大震災被災地域調査班（髙橋智・田部絢子・松本直巳・山下揺介・内藤千尋・石川衣紀・石井智也）	pp.218-253
学会発表					
私立高校における特別な配慮を要する生徒の実態と支援に関する動向	共同	2009年8月	『日本発達障害学会第44回大会発表論文集』、岩手大学	田部絢子・髙橋智	pp.94-95
全国悉皆調査からみた私立高校特別支援教育の実態と課題	共同	2009年8月	『日本教育学会第68回大会発表要旨集録』、東京大学	田部絢子・髙橋智	pp.306-307
発達障害の本人・保護者調査からみた高校進学の困難・ニーズ―私立高校の特徴と課題を中心に―	共同	2009年9月	『日本特殊教育学会第47回大会発表論文集』、宇都宮大学	田部絢子・内野智之・髙橋智	p.109
発達障害者のスポーツの困難・ニーズに関する研究―発達障害の本人調査から(その1)―	共同	2009年9月	『日本特殊教育学会第47回大会発表論文集』、宇都宮大学	髙橋智・山下揺介・田部絢子・横谷祐輔	p.91
発達障害者のスポーツの困難・ニーズに関する研究―発達障害の本人調査から(その2)―	共同	2009年9月	『日本特殊教育学会第47回大会発表論文集』、宇都宮大学	山下揺介・髙橋智・田部絢子・横谷祐輔	p.92
発達障害児の不適応問題の実態と支援に関する研究―児童養護施設調査から―	共同	2009年9月	『日本特殊教育学会第47回大会発表論文集』、 宇都宮大学	横谷祐輔・田部絢子・髙橋智	p.101
国立大学附属小学校と特別支援教育―特別な配慮を要する児童の実態と支援に関する全国実態調査から―	共同	2009年9月	『日本特殊教育学会第47回大会発表論文集』、宇都宮大学	石黒祥子・林田佳奈・田部絢子・髙橋智	p.108

私立高校における特別支援教育の実態と課題―全国私立高校養護教諭調査から―	共同	2009年10月	『日本特別ニーズ教育（SNE）学会第15回大会発表要旨集』、山形大学	田部絢子・髙橋智	pp.123-124
高校特別支援教育の現在―政策・施策、調査研究、実践―	共同	2010年8月	『日本教育学会第69回大会発表要旨集録』、広島大学	田部絢子・髙橋 智	pp. 170-171
全国公立幼稚園調査からみた幼稚園特別支援教育の実態と課題	共同	2010年9月	『日本発達障害学会第45回大会発表論文集』、東海大学	田部絢子・髙橋 智	pp.170-171
全国私立高校悉皆調査からみた特別支援教育の課題	共同	2010年9月	『日本特殊教育学会第48回大会発表論文集』、長崎大学	田部絢子・髙橋智	p.185
国立大学附属小学校と特別支援教育―特別な配慮を要する児童の現状と支援に関する全国実態調査から―	共同	2010年10月	『2010（2010）年度日本教育大学協会研究集会発表概要集』、島根大学教育学部	髙橋智・石川衣紀・田部絢子	pp.70-71
全国私立幼稚園調査からみた幼稚園特別支援教育の実態と課題	共同	2010年10月	『2010（2010）年度日本教育大学協会研究集会発表概要集』、島根大学教育学部	田部絢子・佐久間庸子・髙橋智	pp.154-155
全国区市教育委員会調査からみた幼稚園特別支援教育の動向と課題	共同	2010年11月	『日本特別ニーズ教育学会第16回研究大会発表要旨集録』、pp. 65-66、岡山大学	佐久間庸子・田部絢子・髙橋智	pp. 65-66
幼稚園・保育所から小学校の移行における要配慮児の支援の実態と教師の指導困難	共同	2010年11月	『日本特別ニーズ教育学会第16回研究大会発表要旨集録』、岡山大学	別府悦子・田部絢子・髙橋智	pp. 69-70
発達障害等の多様な困難を抱える中学生とユニバーサルデザイン教育	共同	2010年11月	『日本特別ニーズ教育学会第16回研究大会発表要旨集録』、岡山大学	田部絢子・髙橋智	pp. 59-60
発達障害等の多様な困難を抱える中学生とユニバーサルデザイン教育	共同	2010年11月	ＹＭＣＡ総合研究所主催「第４回大阪ＹＭＣＡ研究フォーラム」、大阪ＹＭＣＡ		
発達障害者は「誰にも理解されない体の不調・不具合」でとても困っている―発達障害当事者の身体症状調査から―	共同	2010年11月	ＹＭＣＡ総合研究所主催「第４回大阪ＹＭＣＡ研究フォーラム」、大阪ＹＭＣＡ	髙橋智・石川衣紀・田部絢子	
私立中学校の特別支援教育体制の現状と課題―全国私立中学校管理職悉皆調査から―	共同	2011年8月	『日本教育学会第70回大会発表要旨集録』、千葉大学	田部絢子・髙橋智	pp.264-265
児童自立支援施設における発達障害児の実態と支援に関する調査研究―全国児童自立支援施設併設の分校・分教室教員調査から―	共同	2011年8月	『日本教育学会第70回大会発表要旨集録』、千葉大学	内藤千尋・田部絢子・髙橋智	pp.242-243
高校生の発達困難と特別支援教育の実践―公立高校全日制普通科での取り組みから―	共同	2011年8月	『日本教育学会第70回大会発表要旨集録』、千葉大学	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	pp.186-187

特別な教育的ニーズをもつ児童生徒の小学校から中学校の意向・接続に関する調査研究	共同	2011年9月	『日本特殊教育学会第49回大会発表論文集』、弘前大学	別府悦子・田部絢子・髙橋智	p.182
児童自立支援施設における発達障害児の実態と支援に関する調査研究―全国児童自立支援施設職員調査から―	共同	2011年9月	『日本特殊教育学会第49回大会発表論文集』、弘前大学	内藤千尋・田部絢子・髙橋智	p.142
高校における特別支援教育の動向と課題	共同	2011年9月	『日本特殊教育学会第49回大会発表論文集』、弘前大学	田部絢子・髙橋智	p.190
高校における特別支援教育実践の困難と課題―公立高校全日制普通科における生活指導の取り組みから―	共同	2011年9月	『日本特殊教育学会第49回大会発表論文集』、弘前大学	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	p.194
東日本大震災と特別支援教育その1―新聞記事の検討を通して―	共同	2011年9月	『日本特殊教育学会第49回大会発表論文集』、弘前大学	石井智也・田部絢子・山下揺介・松本直巳・内藤千尋・髙橋智	p.195
東日本大震災と特別支援教育その2―被災地域教育委員会等調査を通して―	共同	2011年9月	『日本特殊教育学会第49回大会発表論文集』、弘前大学	髙橋智・田部絢子・山下揺介・松本直巳・内藤千尋・石井智也	p.196
幼稚園における特別支援教育の現状と課題―全国市区教育委員会悉皆調査から―	共同	2011年10月	『2011年度日本教育大学協会研究集会発表概要集』、サンポートホール高松	髙橋智・田部絢子	pp.136-137
少年非行・矯正教育分野における発達障害問題と支援に関する研究動向	共同	2011年11月	『日本特別ニーズ教育学会第17回研究大会発表要旨集』、福岡教育大学	内藤千尋・田部絢子・髙橋智	pp.60-61
高校生の発達困難と特別支援教育の実践―公立高校全日制普通科の取り組み事例から―	共同	2011年11月	『日本特別ニーズ教育学会第17回研究大会発表要旨集』、福岡教育大学	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	pp.60-61
私立中学校における特別支援教育の実態と課題―全国私立中学校養護教諭悉皆調査から―	共同	2011年11月	『日本特別ニーズ教育学会第17回研究大会発表要旨集』、福岡教育大学	田部絢子・髙橋智	pp.106-107
中学校における教師の指導困難の実態と特別支援教育の課題―コンサルテーションの取り組み事例を通して―	共同	2011年11月	『日本特別ニーズ教育学会第17回研究大会発表要旨集』、福岡教育大学	別府悦子・田部絢子・髙橋智	pp.108-109
高校における特別支援教育の実践と課題―「課題集中校」の取り組み事例から―	共同	2011年12月	『発達障害支援システム学研究（日本発達障害支援システム学会2011年度研究大会発表論文集）』第10巻2号、東京学芸大学	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	p.148
児童自立支援施設における発達障害児の実態と支援に関する調査研究	共同	2011年12月	『発達障害支援システム学研究（日本発達障害支援システム学会2011年度研究大会発表論文集）』第10巻2号、東京学芸大学	内藤千尋・田部絢子・髙橋智	p.184

The Current Situation and Problems on Special Education in Korean Upper Secondary Schools —Based on the Research of Upper Secondary School Special Classes in Seoul City—	共同	2012年2月	International Research Conference for International Collaborative Research Project on Comparative Study on Current Conditions and Perspective of Program Designs and Quality Assurance System for University-based Teacher Education in East Asia, Garden City Shinagawa	Ayako TABE, Jaeok SONG, Hyunjeong KIM, Choi Jeawan, Yusuke YOKOYA, Yayoi TAKEMOTO, Fumiko ONOGAWA, Chihiro NAITO, Tomoya ISHII, Satoru TAKAHASHI	p.135
“The Great East Japan Earthquake “and Special Needs Education—Through Analyzing Newspaper Articles—	共同	2012年2月	International Research Conference for International Collaborative Research Project on Comparative Study on Current Conditions and Perspective of Program Designs and Quality Assurance System for University-based Teacher Education in East Asia, Garden City Shinagawa	Tomoya ISHII, Ayako TABE, Chihiro NAITOH, Satoru TAKAHASHI	p.139
A study on Developmental Disabilities and Special Needs in Juvenile Delinquency and Development of Self-Sustaining Capacity Field—Survey of Facilities for Development of Self-Sustaining Capacity in Japan—	共同	2012年2月	International Research Conference for International Collaborative Research Project on Comparative Study on Current Conditions and Perspective of Program Designs and Quality Assurance System for University-based Teacher Education in East Asia, Garden City Shinagawa	Chihiro NAITOH, Ayako TABE, Satoru TAKAHASHI	p.140
東日本大震災と障害児のケア・教育の課題—被災地域教育委員会・特別支援教育調査を通して—	共同	2012年3月	『第9回日本教育保健学会講演集』、東北福祉大学	田部絢子・髙橋智	pp.88-89
「教育困難校」と称される公立高校における特別支援教育の実践—生徒の学習意欲向上の取り組みを中心に—	共同	2012年8月	『日本発達障害学会第47回研究大会発表論文集』、横浜国立大学	竹本弥生・田部絢子・髙橋 智	p.61
私立小学校の特別支援教育体制整備の現状と課題—全国私立小学校管理職悉皆調査から—	共同	2012年8月	『日本発達障害学会第47回研究大会発表論文集』、横浜国立大学	田部絢子・生川善雄・髙橋智	p.65
発達障害を有する非行少年の自立に向けた移行支援の課題—児童自立支援施設職員および自立援助ホーム職員調査を通して—	共同	2012年8月	『日本発達障害学会第47回研究大会発表論文集』、横浜国立大学	内藤千尋・田部絢子・髙橋智	p.89
全国私立小学校養護教諭調査からみた特別支援教育の体制整備の現状と課題	共同	2012年8月	『日本教育学会第71回大会発表要旨集録』、名古屋大学	田部絢子・髙橋智	pp.204-205

「教育困難校」と称される公立高校における特別支援教育コーディネーターの役割―生徒の学習意欲向上の取り組み―	共同	2012年8月	『日本教育学会第71回大会発表要旨集録』、名古屋大学	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	pp.328-329
「発達障害」を有する非行少年の自律支援の実態と課題―自立援助ホームの調査から―	共同	2012年9月	『日本特殊教育学会第50回大会発表論文集』、つくば国際会議場	内藤千尋・田部絢子・竹本弥生・髙橋智	P2-H-10
「教育困難校」と称される公立高校全日制普通科における特別支援教育の実践	共同	2012年9月	『日本特殊教育学会第50回大会発表論文集』、つくば国際会議場	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	P3-J-7
韓国の高等学校特殊学級と統合教育の研究―「仲間支援プログラム(Good Friend Program)」による交流活動を中心に―	共同	2012年9月	『日本特殊教育学会第50回大会発表論文集』、つくば国際会議場	宋在玉・金炫廷・崔在婉・田部絢子・竹本弥生・内藤千尋・髙橋智	P3-O-9
中学校の特別支援教育に関する調査研究―「中1ギャップ」の問題を中心に―	共同	2012年9月	『日本特殊教育学会第50回大会発表論文集』、つくば国際会議場	別府悦子・田部絢子・髙橋智	P4-K-8
私立中学校における特別支援教育の体制整備の現状と課題―全国私立中学校管理職・養護教諭悉皆調査を通して―	共同	2012年9月	『日本特殊教育学会第50回大会発表論文集』、つくば国際会議場	田部絢子・生川善雄・髙橋智	P4-O-10
「教育困難校」と称される公立高校における特別支援教育の実践―「特親クラス」の取り組みを中心に―	共同	2012年10月	『2012年度日本教育大学協会研究集会発表概要集』、かごしま県民交流センター	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	p.226
私立学校の特別支援教育体制整備とインクルーシブ教育に関する研究―全国私立学校理事会調査から―	共同	2012年10月	『2012年度日本教育大学協会研究集会発表概要集』、かごしま県民交流センター	田部絢子・髙橋智	p.227
社会的養護・少年非行問題と特別支援教育の課題―自立援助ホーム・矯正教育施設等職員への面接法調査から―	共同	2012年10月	『2012年度日本教育大学協会研究集会発表概要集』、かごしま県民交流センター	内藤千尋・田部絢子・竹本弥生・髙橋智	p.228
自立援助ホームにおける発達障害少年の移行・就労支援に関する困難と支援―全国の自立援助ホーム職員調査を通して―	共同	2012年10月	『日本特別ニーズ教育学会第18回大会発表要旨集録』、高知大学	内藤千尋・田部絢子・髙橋智	
全国私立小・中学校調査からみた私立学校の特別支援教育体制整備の現状と課題	共同	2012年10月	『日本特別ニーズ教育学会第18回大会発表要旨集録』、高知大学	田部絢子・髙橋智	
「教育困難校」と称される公立高校における特別支援教育の実践と課題―「生徒指導」の取り組みを中心に―	共同	2012年10月	『日本特別ニーズ教育学会第18回大会発表要旨集録』、高知大学	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	

An Empirical Study on Development of Special Needs Education System in Private Schools ; From the Perspective of Supporting System Development Consistent from Kindergarten to High School	共同	2012年11月	The 7th International Symposium on Teacher Education in East Asia—Quality Assurance of University-based Teacher Education in East Asia—, Garden City Shinagawa	TABE Ayako, TAKAHASHI Satoru	p.160
The Role of Special Needs Education Coordinator in Public High School Called “Failing School”	共同	2012年11月	The 7th International Symposium on Teacher Education in East Asia—Quality Assurance of University-based Teacher Education in East Asia—, Garden City Shinagawa	TAKEMOTO Yayoi, TABE Ayako, TAKAHASHI Satoru	p.162
「教育困難校」と称される公立高校における特別支援教育の取り組みの成果と課題—授業を中心とした支援のあり方—	共同	2012年12月	『日本発達障害支援システム学会2012年度研究大会発表論文集』、順天堂大学	竹本弥生・田部絢子・高橋智	p.94
発達障害青年の社会適応における困難と自立に向けた支援—全国自立援助ホーム職員調査から—	共同	2012年12月	『日本発達障害支援システム学会2012年度研究大会発表論文集』、順天堂大学	内藤千尋・田部絢子・高橋智	p.117
私立学校における特別支援教育の体制整備に関する実証的研究—「幼小中高一貫」したシステム開発の視点から—	共同	2013年3月	『一般社団法人日本社会福祉学会2012年度関東部会研究集会抄録集』、大正大学巣鴨キャンパス	田部絢子・髙橋智	pp.38-39
【課題別セッション（4）特別支援教育と教育保健　報告１】養護教諭からみた私立学校の特別支援教育の現状と課題—全国私立小中高校の養護教諭悉皆調査から—	共同	2013年3月	『第10回日本教育保健学会講演集』、國學院大學たまプラーザキャンパス	田部絢子・髙橋智	pp.62-63
私立学校における特別支援教育体制整備の現状と課題—全国私立学校理事会・私学協会調査から—	共同	2013年7月	第44回全国私立学校夏季研究集会、兵庫県城崎温泉	田部絢子・髙橋智	
「課題校」と称される公立高校における配慮を要する生徒の発達支援と「特親クラス」の実践—すべての生徒の学びと中退ゼロをめざして—	共同	2013年8月	『全国障害者問題研究会第47回全国大会レポート集』、弘前大学	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	pp.73-74
発達障害と身体症状（身体の不調・不具合）の諸相—発達障害の本人・当事者調査から—	共同	2013年8月	『全国障害者問題研究会第47回全国大会レポート集』、弘前大学	石川衣紀・田部絢子・髙橋智	pp.190-191
養護教諭からみた私立学校の健康問題と特別支援教育の動向—全国私立小中高校の養護教諭悉皆調査から—	共同	2013年8月	『日本育療学会第17回学術集会抄録集』、九州大学	田部絢子・髙橋 智	p.54

発達障害と身体症状（身体の不調・不具合）の諸相―発達障害の本人・当事者調査から―	共同	2013年8月	『日本育療学会第17回学術集会抄録集』、九州大学	髙橋 智・田部絢子・石川衣紀	p.58
病弱特別支援学校寄宿舎における子どもの多様な「生活と発達の困難」の実態と支援	共同	2013年8月	『日本育療学会第17回学術集会抄録集』、九州大学	小野川文子・田部絢子・髙橋 智	p.59
「課題集中校」と称される公立高校における特別支援教育の実践（1）	共同	2013年8月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	竹本弥生・安田佳世・田部絢子・髙橋智	O-1
「課題集中校」と称される公立高校における特別支援教育の実践（2）	共同	2013年8月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	安田佳世・竹本弥生・田部絢子・髙橋智	O-2
病弱特別支援学校寄宿舎における心身症・精神疾患の子どもへの「生活と発達」の支援	共同	2013年8月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	小野川文子・田部絢子・髙橋智	O-7
国立大学附属幼稚園の特別支援教育の現状と課題に関する調査研究（1）―全国の附属幼稚園管理職調査から―	共同	2013年8月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	石川衣紀・田部絢子・髙橋智	O-11
国立大学附属幼稚園の特別支援教育の現状と課題に関する調査研究（2）―全国の附属幼稚園養護教諭調査から―	共同	2013年8月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	髙橋智・石川衣紀・田部絢子	O-12
全国私立学校理事会・私学協会からみた特別支援教育体制整備の現状と課題	共同	2013年8月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	田部絢子・生川善雄・髙橋智	O-35
韓国の高校特殊学級における地域と連携したキャリア教育の実践	共同	2013年8月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	宋在玉・田部絢子・竹本弥生・髙橋智	O-37
発達障害者の「身体の動きにくさ」の困難・ニーズに関する研究―本人調査を通して―	共同	2013年9月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	井戸綾香・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・髙橋智	O-45
発達障害者の「食」の困難・ニーズに関する研究―本人調査を通して―	共同	2013年9月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	斎藤史子・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・髙橋智	O-46
発達障害者の「皮膚感覚」の困難・ニーズに関する調査研究―本人調査を通して―	共同	2013年9月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	笹ヶ瀬菜生・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・髙橋智	O-47
【自主シンポジウム65：発達障害における身体症状の諸相と支援―医学・薬学と特別支援教育のコラボレーション―】 発達障害の本人・当事者調査から探る身体症状の実態	共同	2013年9月	『日本特殊教育学会第51回大会発表論文集』、明星大学	髙橋智・田部絢子・今津嘉宏・髙山恵子・片岡聡	自主シンポジウム65

国立大学附属学校園の特別支援教育の体制整備に関する研究―全国の附属幼稚園・中学校・高校および学長・学部長調査から(その1)―	共同	2013年10月	『2013年度日本教育大学協会研究集会発表概要集』、札幌全日空ホテル	髙橋智・田部絢子・石川衣紀	pp.148-149
国立大学附属学校園の特別支援教育の体制整備に関する研究―全国の附属幼稚園・中学校・高校および学長・学部長調査から(その2)―	共同	2013年10月	『2013年度日本教育大学協会研究集会発表概要集』、札幌全日空ホテル	髙橋智・田部絢子・石川衣紀	pp.150-151
「課題校」と称される高校における特別支援教育の体制整備の課題―特別な配慮を要する生徒・保護者の聞き取り調査を通して―	共同	2013年10月	『第19回日本特別ニーズ教育学会札幌大会発表要旨集』、北海道教育大学札幌校	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	pp.58-59
特別支援学校寄宿舎の現代的機能と役割―肢体不自由特別支援学校卒業生の聞き取り調査を通して―	共同	2013年10月	『第19回日本特別ニーズ教育学会札幌大会発表要旨集』、北海道教育大学札幌校	小野川文子・田部絢子・髙橋智	pp.88-89
学長・学部長調査からみた国立大学附属学校園の特別支援教育体制整備の実態と課題	共同	2013年12月	『日本発達障害支援システム学会2013年度研究大会発表論文集』、東京学芸大学	石川衣紀・田部絢子・髙橋智	p.143
病弱特別支援学校寄宿舎における子どもの多様な「発達と生活の貧困」の実態と教育支援(第4報)	共同	2013年12月	『日本発達障害支援システム学会2013年度研究大会発表論文集』、東京学芸大学	小野川文子・田部絢子・髙橋智	p.128
子どもの「生活と発達の困難」の実態と特別支援教育コーディネーターの役割―知的障害特別支援学校高等部の支援事例から―	共同	2013年12月	『日本発達障害支援システム学会2013年度研究大会発表論文集』、東京学芸大学	池田敦子・田部絢子・髙橋智	p.111
「課題校」と称される高校における特別支援教育の課題―特別な配慮を要する生徒の聞き取り調査を通して―	共同	2013年12月	『日本発達障害支援システム学会2013年度研究大会発表論文集』、東京学芸大学	竹本弥生・田部絢子・髙橋智	p.129

受賞

2009年11月	論文「発達障害者が有するスポーツの困難・ニーズに関する研究―発達障害の本人調査からみえてくるもの―」（髙橋智・山下揺介・田部絢子）により、ＹＭＣＡ総合研究所主催「第３回大阪ＹＭＣＡ研究論文」入賞（入選）
2010年3月	学術研究活動成果が評価され、東京学芸大学学長より「東京学芸大学第1回学生表彰」受賞
2010年11月	論文「発達障害者は「誰にも理解されない体の不調・不具合」でとても困っている―発達障害当事者の身体症状調査から―」（髙橋智・石川衣紀・田部絢子）により、、ＹＭＣＡ総合研究所主催「第４回大阪ＹＭＣＡ研究論文奨励賞」受賞
2010年11月	論文「発達障害等の多様なニーズを抱える中学生とユニバーサルデザイン教育」（田部絢子）により、YMCA総合研究所主催「第4回大阪YMCA研究論文優秀賞」受賞
2013年1月	博士論文テーマ「私立学校における特別支援教育の体制整備に関する実証的研究-「幼小中高一貫」したシステム開発の視点から-」が評価され、一般社団法人大学女性協会より「2012年度国内奨学生（一般奨学生）」受賞

2013年8月	研究課題「発達障害を有する子どもの「食・食行動」の困難に関する発達支援研究―発達障害の本人・当事者へのニーズ調査から―」が評価され、公益財団法人発達科学研究教育センター「2013年度発達科学研究教育奨励賞」受賞	
2013年12月	研究課題「私立学校におけるインクルーシブな特別支援教育のシステム開発に関する実証的研究―公私格差の解消をめざして―」　が評価され、公益財団法人未来教育研究所「第3回（2013年度）未来教育研究所研究助成優良賞」受賞	
競争的外部資金獲得状況		
2009年4月～2010年3月	財団法人日本私学教育研究所「平成21年度委託研究員」（研究代表者：田部）	私立高校における中高一貫教育と特別支援教育―特別な配慮を要する生徒の実態と支援に関する全国調査から―
2009年4月～2010年2月	財団法人日本科学協会「平成21年度笹川科学研究助成」（研究代表者：田部）	私立高等学校と特別支援教育―特別な配慮を要する生徒の実態と支援に関する全国調査から―
2009年4月～2010年3月	平成21年度科学研究費補助金奨励研究（研究代表者：田部）	私立高校と特別支援教育―特別な配慮を要する生徒の実態と支援に関する全国調査から―
2011年8月～2012年7月	財団法人小平記念日立教育振興財団「家庭教育研究奨励金」（研究代表者：田部）	発達障害等の特別な配慮を要する幼児の発達支援システムの開発に関する全国調査研究
2012年4月～2013年3月	公益財団法人倶進会「2012年度一般助成」採択（研究代表者：田部）	私立学校における幼小中高一貫した特別支援教育システムの開発に関する調査研究
2012年4月～2013年3月	公益財団法人パナソニック教育財団「第38回 実践研究助成　『一般』」採択（研究代表者：田部）	ICTを活用した探究学習の深化と情報活用・発信能力の育成―地球のみんなと生きる・わたしたちとコミュニケーション―
2013年11月～2014年10月	公益財団法人カシオ科学振興財団「2013年度カシオ科学振興財団研究協賛事業」(研究代表者:田部)	発達障害を有する子どもの食事・食行動に関する実証的研究―発達障害の本人・当事者へのニーズ調査から―

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
2009年12月～2012年11月	一般社団法人日本特殊教育学会研究委員会国際化小委員会幹事
2011年4月～2012年11月	一般社団法人日本特殊教育学会研究委員会社会貢献活動小委員会幹事
2011年10月～2012年11月	一般社団法人日本特殊教育学会研究委員会幹事
2013年2月～現在に至る	一般社団法人日本特殊教育学会用字・用語委員会幹事
2013年4月～現在に至る	大阪府岸和田市特別支援教育専門家チーム
2013年10月～現在に至る	日本特別ニーズ教育学会理事
2013年10月～現在に至る	日本特別ニーズ教育学会機関誌常任編集委員・編集幹事

社会貢献活動

早稲田大学「特殊教育学」特別招聘講師	2009年5月17日	早稲田大学【特殊教育学】授業にて「私立中・高校と特別支援教育― 子どもたちの自立・自律を目指して ―」を講義

東京学芸大学「病弱教育学」特別招聘講師	2009年12月10日	東京学芸大学【病弱教育学】授業にて「私立中学校と特別支援教育―すべての子どもにやさしいクラス・授業づくり―」を講義
早稲田大学「特殊教育学」特別招聘講師	2010年6月26日	早稲田大学【特殊教育学】授業にて「発達障害等の多様な困難を抱える中学生とユニバーサルデザイン教育」を講義
独立行政法人教員研修センター「平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修」講師	2010年7月27日	「思春期における発達障害の問題」を講演、独立行政法人教員研修センター「平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修」、東京福祉大学池袋キャンパス
小金井市・国分寺市・小平市三市教育委員会共催特別支援教育研修会「特別支援教育講演会」講師	2010年8月27日	「多様な困難を抱える中学生と保護者を支えるユニバーサルデザイン教育」を講演、小金井市・国分寺市・小平市三市教育委員会共催特別支援教育研修会「特別支援教育講演会」、小金井市民会館
東京学芸大学「病弱教育学」特別招聘講師	2010年12月9日	東京学芸大学【病弱教育学】授業にて「多様な困難を抱える中学生と保護者を支えるユニバーサルデザイン教育」を講義
早稲田大学「特殊教育学」特別招聘講師	2011年6月11日	早稲田大学【特殊教育学】授業にて「多様な困難を抱える中学生と保護者を支えるユニバーサルデザイン教育」を講義
東京私立学校教職員教育研究集会講師	2011年6月26日	「私立学校における「丁寧できめ細やかな教育」と特別支援教育」を講演、足立学園
東京学芸大学「病弱教育学」特別招聘講師	2011年12月13日	東京学芸大学【病弱教育学】授業にて「生徒・教師・保護者で育む安心・自信と当事者・支援者関係」を講義
愛知県立大学生涯発達研究所「公開特別授業」講師	2012年1月20日	愛知教育大学「公開特別授業」にて「高校における発達障害生徒の実態と支援」について講演
東京都地域教育サポーター養成講座（基礎講座）講師	2012年2月13日	「特別な支援を要する子供の理解とかかわり方―ユニバーサルデザイン教育―」を講演、東京都地域教育サポーター養成講座（基礎講座）、東京学芸大学
私立和光高校校内研修講師	2012年3月16日	「私立高校における特別支援教育の動向と課題」を講演、私立和光高校
教育支援人材認証制度こどもサポーター（特別支援）認証講座講師	2012年3月17日	「中学校における生徒の発達ニーズに応えるユニバーサルデザイン教育の実践」を講演、教育支援人材認証制度こどもサポーター（特別支援）認証講座、中野サンプラザ
練馬区教育委員会学校応援団特別講座講師	2012年8月21日	「気になる子どもたちとのかかわり方について」を講演、練馬区教育委員会学校応援団特別講座、練馬区役所
小金井市・国分寺市・小平市三市教育委員会共催特別支援教育研修会講師	2012年8月24日	「思春期の多様な発達困難を抱える中学生の自律と自立を支える教育実践」を講演、小金井市・国分寺市・小平市三市教育委員会共催特別支援教育研修会「特別支援教育講演会」、小金井市商工会館
私立東京実業高校校内研修講師	2012年8月30日	「私立学校における「丁寧できめ細やかな教育」と特別支援教育」を講演、私立東京実業高校
小金井市・国分寺市・小平市・学芸大連携子どもサポーター（特別支援）育成講座講師	2012年11月5日	「思春期の多様な困難を抱える中学生の自律・自立を支える『ユニバーサルデザイン教育』の実践」を講演、小金井市・国分寺市・小平市・学芸大連携子どもサポーター（特別支援）育成講座、東京学芸大学
東京学芸大学「病弱教育学」特別招聘講師	2012年12月13日	東京学芸大学【病弱教育学】授業にて「発達に困難・ニーズを有する中学生に丁寧に向き合う教育」を講義

大阪体育大学「第17回スポーツ福祉系研究会」	2013年5月21日	「私立学校における特別な配慮を有する児童生徒への対応について―特別支援教育推進のために―」を講演、大阪体育大学同窓会館アネックス
大阪体育大学教育福祉系「第31回特別支援教育トワイライト研修」	2013年6月19日	「発達障害等の特別な配慮を要する子どもの身体の困難と支援」を講演、大阪体育大学
東京都中野区特別支援教育研究協議会情緒障害部会研修会講師	2013年7月12日	「思春期の発達的課題と対応の仕方」を講演、中野区立中野中学校
早稲田大学「特殊教育学」特別招聘講師	2013年7月13日	早稲田大学【特殊教育学】授業にて「多様な困難を抱える中学生と保護者を支えるユニバーサルデザイン教育」を講義
大阪体育大学教育福祉系「第32回特別支援教育トワイライト研修」	2013年7月17日	「発達障害児の行動理解とその対応のポイント―発達障害と『食』の困難・ニーズ―」を講演、大阪体育大学
小金井発達障害児の親の会「ひまわりママ」主催「大人になって困らない。子どものためのマナー講座」講師	2013年7月30日	「大人になって困らない。子どものためのマナー講座」を講演、小金井市公民館緑分館
一般社団法人教育支援人材認証協会「こども支援士（アフタースクール）認証講座ゲストスピーカー	2013年8月4日	「発達障害等を有する中学生の困難・ニーズに丁寧に向き合う教育実践」を講演、国立オリンピック記念青少年総合センター
小金井市・国分寺市・小平市・学芸大連携子どもサポーター（特別支援）育成講座講師	2013年11月4日	「思春期の多様な発達困難を抱える中学生の自律と自立を支える教育実践」を講演、東京学芸大こども未来研究所子どもサポーター養成講座、東京学芸大学
神奈川県立綾瀬西高等学校「出前講座」（生徒対象）、「校内研修」（教職員対象）講師	2013年11月29日	「世界の教育事情―北欧の高校教育―」（生徒向け）、「高校の支援教育について―生徒との接し方のヒント―」（教職員向け）を講演、神奈川県立綾瀬西高等学校
岸和田市立朝陽小学校教職員研修講師	2013年10月30日	「アスペルガー症候群・高機能自閉症の「感覚処理障害（感覚の過敏・鈍麻）」の実態と支援」を講演、大阪府岸和田市立朝陽小学校
東京学芸大学こども未来研究所主催「こどもサポーター（特別支援）養成講座」講師	2014年1月25日	「特別支援教育とは何か―発達に困難を有する子どもの自律と自立をめざす教育―」を講演、墨田区八広地域プラザ吾嬬の里
大阪府岸和田市立浜小学校教職員研修講師	2014年1月29日	「困っていることはなんですか。すべての子どもの発達と自律・自立を支えるために」を講演、岸和田市立浜小学校
黄金ネットワーク（障がい児の父親の会）主催「思春期・青年期をゆたかに生きて、おとなになっていくための講座」講師	2014年2月23日	「思春期・青年期の発達支援―発達に困難を有する中高生の『自律と自立』をめざす実践―」を講演、東京学芸大学

［注］ 1　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。

2　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

3　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

4　「研究活動」については、下記の点に留意してください。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　健康福祉学部	職名　教授	氏名　松崎保弘	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 授業内試験と補習授業の実施	平成22年～25年	「知的障害教育課程」等において単元ごとの授業内テストを実施し、理解が不十分と思われる学生対象の補習授業及び再テストを実施している。
2　作成した教科書、教材、参考書 「知的障害教育総論」テキスト	平成25年7月	免許認定講習用に小冊子を作成した
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 筑波大学教育開発国際協力研究センター公開討論会「英国の特別支援教育とインクルーシブ教育」話題提供	平成23年10月	ロンドン大学の調査依頼に関連し、我が国の離島・僻地における特別支援教育、インクルーシブ教育の実情説明
4　その他教育活動上特記すべき事項 特別支援学校教員養成課程開設記念シンポジューム	平成22年３月	特別委支援教育養成課程開設によもない特別支援教育における体育指導の現状及び改善点についてシンポジュウムを開催した

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
インクルーシブ教育を目的とした特別支援学校分教室の教育課程	単著	平成24年３月	大阪体育大学健康福祉学部紀要（第10巻）		19頁～30頁
知的障害特別支援学校における教師行動と生徒の身体活動	単著	平成25年３月	平成25年度大阪体育大学健康福祉学部研究成果報告書		1頁～１１頁
知的障害児の散歩学習の効果	共著	平成25年３月	平成25年度大阪体育大学健康福祉学部研究成果報告書	松崎保弘　　與儀達子	12頁～20頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成25年７月	沖縄県教育委員会教員免許認定講習会講師

平成21年・22年	障害者スポーツ科学　編集協力委員
平成21年	豊見城市障害児保育審議会委員

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　健康福祉学部	職名　講師	氏名　安田友紀	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
授業「身体表現(リトミックを含む)」における学生理解の促進と、教育効果向上として工夫した事項 ・課題・レポートの活用（効果的な題材、評価方法） ・視聴覚教育技術の利用 ・ディベート、ディスカッションの導入 ・双方向授業の実践	平成25年9月～平成26年3月31日	1．ウォーミングアップ2．即興3．創作4．授業内発表という内容で構成し、個人課題やグループ課題を与え、次の能力の重要性を必要とする機会を設けた。「物事に進んで取り組む力」「目標設定し実行する力」「疑問を持ち考える力」「チームワークで動く力」など。また、授業終了時に振り返りの時間を設け、体験や考えを言語化しレポートにおいて記述させた。身体を通して表現することへの抵抗を軽減し、「他者と関わる楽しさ」を体感できるよう、DVD観賞や補足資料を作成し、学生の内発的動機付けを高めるよう工夫した。授業評価、すべての項目において、4.0以上の評価を得た。
授業「スポーツ福祉指導Ⅱ」における演習や実習の効果的な活用として工夫した事項 ・学生の授業外における学習促進のための取り組み ・体験型学習の導入	平成25年9月～平成26年3月31日	大阪府障がい者交流促進センターで開催される教室や行事にスタッフとして参加し、実際に関わる体験授業を実施した。福祉におけるスポーツの重要性や、その促進による社会的な影響についても理解するとともに、大学と地域との関わり方や意義についても理解させる機会が得られた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・全国障がい児体育研究連絡協議会主催　春の学習会　講師	平成26年3月30日	特別支援学校の教員を対象に、「ダンス・ムーブメントの理論と実践について」実技を交えた講演における講師をつとめる。
・赤穂市幼児体育研究会　講師	平成26年8月5日	赤穂市公立幼稚園教員を対象に、「子どもの運動機能の一般的な発達」について講演。
・赤穂市幼児体育研究会　講師アシスタント	平成26年9月4日	赤穂市公立幼稚園教員を対象に、赤穂市城西幼稚園において、年少児と年長児を対象とした実践を通した講演の講師アシスタントをつとめる。
4　その他教育活動上特記すべき事項		
・静岡県御殿場市介護予防体操「元気に3776（みななろー体操）の作成、監修	平成25年9月～平成26年3月31日	高齢者向け介護予防体操を作成。プログラム内容は学生及び教員が共同で考案し、リズム運動や筋力トレーニングを含んだ約6分間の構成となっている。体操の振付からパンフレット作成まで学生も関わったため、創作の進め方を学ぶ有意義な学習となった。

・国際交流事業「コニュニティダンス・ファシリテーター研修会」	平成26年9月19日	活動の場において、一人一人の表現力や創造力を引き出し、全体を目的に向かって進行する役割を包括的な視点をもって取り組む力を養うための研修会である。ダンス経験の有無に関係なく受講でき、小学校・中学校の教員志望の学生や、福祉関係を目指す学生を対象に開催され、コミュニティダンス研究プロジェクト実行委員として、研修会運営など多岐にわたって携わった。参加した学生らにもダンス通してコミュニケーションをはかるための有意義な学びとなった研修会であった。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
知的障がい児を対象としたダンス即興のおける動きの特徴ー集団即興と個人即興に着目してー	共著（筆頭）	平成21年3月	大阪体育大学紀要　第40巻		25～39頁
知的障がい児を対象としたダンス教室におけるプログラムの検討	共著（筆頭）	平成22年3月	大阪体育大学紀要　第41巻		95～104頁
知的障がい児を対象したダンス教室に関する研究ー保護者アンケートからみた教室のあり方についてー	単著	平成26年3月	総合人間科学　第2巻		109～121頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成17年4月～現在	知的障がい児者ダンスグループ「アマカマ･ドゥ」指導
平成21年4月～現在	大阪府障がい者交流促進センター「ぴかっとダンス教室」指導及び講師
平成21年4月～平成23年3月	日本体育学会　体育心理専門分科会　幹事
平成22年3月	大阪体育学会　第48回にて、参加継続者と非継続者におけるプログラム内容の好みを比較検討した結果を発表
平成22年9月	日本ダンスセラピー協会　第19回東京大会にて、日本におけるダンスセラピーにおける現状・課題・展望について
平成23年5月～現在	医療法人 杏和会　阪南病院　児童精神科　ダンス・ムーヴメント・セラピー　講師
平成23年9月	日本ダンスセラピー協会　第20回奈良大会にて、遊びから即興ダンスへ発展させる内容について実技発表

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 健康福祉学部	職名　教授	氏名　安塲　敬祐	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　(無)　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書 テキストブック社会福祉 （ふくろう出版）	平成25年9月15日	本書は，杉本社会福祉の概論に資するテキストを目指し敏夫と安塲敬祐で編集したものである．また，本書第11章の介護問題と介護保険について執筆している．分担執筆章では，介護問題の本質について現在有効な概念などをもとに明確にするとともに，主に改正介護保険制度の概要を整理し，今後の介護問題に対する介護保険制度の課題を論究したものである． （杉本敏夫，安塲敬祐編集：執筆者：杉本敏夫，安塲敬祐，家高将明，山田妙韶，新井康友，河野清志，坂本勉，久永繁夫，木村志保，小榮住まゆ子，北村由美，吉中季子） 本書は，杉本社会福祉の概論に資するテキストを目指し敏夫と安塲敬祐で編集したものである．また，本書第11章の介護問題と介護保険について執筆している．分担執筆章では，介護問題の本質について現在有効な概念などをもとに明確にするとともに，主に改正介護保険制度の概要を整理し，今後の介護問題に対する介護保険制度の課題を論究したものである． （杉本敏夫，安塲敬祐編集：執筆者：杉本敏夫，安塲敬祐，家高将明，山田妙韶，新井康友，河野清志，坂本勉，久永繁夫，木村志保，小榮住まゆ子，北村由美，吉中季子） 本書は，杉本社会福祉の概論に資するテキストを目指し敏夫と安塲敬祐で編集したものである．また，本書第11章の介護問題と介護保険について執筆している．分担執筆章では，介護問題の本質について現在有効な概念などをもとに明確にするとともに，主に改正介護保険制度の概要を整理し，今後の介護問題に対する介護保険制度の課題を論究したものである． （杉本敏夫，安塲敬祐編集：執筆者：杉本敏夫，安塲敬祐，家高将明，山田妙韶，新井康友，河野清志，坂本勉，久永繁夫，木村志保，小榮住まゆ子，北村由美，吉中季子） 本書は，杉本社会福祉の概論に資するテキストを目指し敏夫と安塲敬祐で編集したものである．また，本書第11章の介護問題と介護保険について執筆している．分担執筆章では，介護問題の本質について現在有効な概念などをもとに明確にするとともに，主に改正介護保険制度の概要を整理し，今後の介護問題に対する介護保険制度の課題を論究したものである． （杉本敏夫，安塲敬祐編集：執筆者：杉本敏夫，安塲敬祐，家高将明，山田妙韶，新井康友，河野清志，坂本勉，久永繁夫，木村志保，小榮住まゆ子，北村由美，吉中季子）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
テキストブック社会福祉	編著	平成25年9月	ふくろう出版	杉本敏夫，安塲敬祐　編著	30頁
論文					
社会貢献事業の役割と課題に関する考察	単著	平成22年3月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要第7巻		13頁～37頁
介護保険制度と普遍的介護保障に関する考察	単著	平成23年3月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要第8巻		9頁～31頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成21年4月～現在	泉佐野市社会福祉協議会第三者委員就任
平成22年11月～現在	大阪府岸和田市及び岸和田市社会福祉協議会　第3次地域福祉計画・地域福祉活動推進計画策定委員会副委員長就任
平成24年7月～現在	大阪府貝塚市介護保険事業計画等推進委員会　委員長就任
平成25年9月～現在	大阪市施設指定管理予定者選定委員就任

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

１　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 健康福祉学部	職名　教授	氏名　山本啓太郎	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・（無）　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 福祉関連の新聞、TV等映像資料を授業で配布、解説するとともに、厚生労働省の議論をもとに5名ずつの小グループによるディスカッション、報告を行った。	2012年4月より現在	
２　作成した教科書、教材、参考書 厚生労働省HPより、全国児童相談所長会議など関連するデータを授業で配布するとともに、虐待事件の新聞報道、TVニュースを適宜配布した。	201２年4月より現在	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
４　その他教育活動上特記すべき事項 なし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
石井十次の残したもの―愛染園セツルメントの１００年―	共著	2010年11月	社会福祉法人石井記念愛染園	100周年記念誌委員会編	２３９頁－２５５頁
論文					
ライオン歯磨「慈善券」の慈善事業助成	単著	2009年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要６巻		４３頁－６１頁
その他					
明治前期の大阪における福祉史資料―「大阪朝日新聞」広告欄による―	単著	2013年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要１０巻		９５頁－１１１頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容

2010年1月	日本ソーシャルワーカー協会新春交流セミナーにおいて「大阪の社会福祉」を基調講演

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　　健康福祉学部	職名　　講師	氏名　　行貞 伸二	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 特になし		
2　作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4　その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
高齢者の長期療養ケアに関する一考察　―高知県における療養病床の実情に関するアンケート調査および「無医地区」におけるヒアリング調査をもとに―	共著	平成25年７月	高知論叢（高知大学経済学会） 第107号	西島文香	1頁～55頁
体育系大学と連携協働による高齢者介護予防教室の展開―大阪府忠岡町における「お元気いきいき教室」の取り組み	共著	同　　年12月	保健師ジャーナル 第69巻　第12号	竹内亮、曽根裕二、横井光治、岩佐由美	1010頁～1017頁
報告書					
高知県における療養病床の実情に関するアンケート調査	共著	平成25年３月	調査報告書	西島文香	
スウェーデンの知的障害児教育―トロルヘッタン市を事例に―	単著	平成26年３月	大阪体育大学健康福祉実践研究センター研究活動報告書	大阪体育大学健康福祉実践研究センター	55頁～60頁

大阪府忠岡町における介護予防実践―ソーシャルキャピタルに関するアンケート調査―	単著	同	同	同	75頁～106頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
2007年～現在	特定非営利活動法人 おおぞら（ホームレス者など生活困窮者の支援を主な活動目的とするＮＰＯ）　理事

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

健康福祉学部	教授	和田　隆夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書 看護師をめざす人のための関係法規	平成25年4月	本書は、看護師をめざす学生のための関係法規のテキストである。過去の国家試験問題を分析しポイントを絞った構成のもと、法学の基礎を習得させることを目的としたものである。 （担当部分：「業務に関する法律」（P.93-106）14頁）、「医療・福祉に関する法」(P.138-166)29頁（野畑健太郎，森田慎二郎，和田隆夫，和田美智代）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
看護師をめざす人のための関係法規	共著	平成25年４月	法律文化社	（野畑健太郎，森田慎二郎，和田隆夫，和田美智代）	29頁
社会保障・福祉と民法の交錯	単著	平成25年12月	法律文化社		285頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成17年11月（現在に至る）	日本法政学会理事

平成26年3月（現在に至る）	関西法政治研究会会長

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属 健康福祉学部	職名　講師	氏名　横井　光治	大学院における研究指導 担当資格の有無 （　有　・　○無　）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
（1）講義ノート・配布プリントの工夫	平成24年度～	配布プリントの冒頭に、毎回の授業のポイントを明記し、ファイリングした後、復習しやすくなるよう工夫している。
（2）授業後ミニレポートの提出	平成24年度～	毎回の授業後にミニレポート提出させている。特に理解できたこと、わかりにくかった内容、質問などを書かせ、毎回、学生の理解度を把握している。
（3）授業評価の実施	平成24年度～	FD委員会が実施する授業評価の結果を受け、次年度の授業に反映している。
2　作成した教科書、教材、参考書 やさしく学ぶ介護の知識③こころとからだのしくみ	平成21年6月	新カリキュラムに対応した、こころとからだのしくみとして、身じたくおよび入浴に関するうことについて、老化や加齢に伴う病気、障がいがその生活行為に及ぼす影響を介護入門者に理解しやすく記述した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 小学生に対する車椅子体験・アイマスク体験授業の実施	平成24年度～	総合学習の授業の内容で福祉教育として、依頼のある小学校に出向き、小学生に対する車椅子の体験授業やアイマスクを用いて、視覚障害者の歩行介助などを学ぶ体験授業を実施している。 その授業では、授業の補助員として本学学生に担当させている。補助員をする学生には事前に車椅子の使い方や視覚障害者の理解を丁寧に説明し、学生たちも自ら学びを深め、小学生に指導している。学生にとっては貴重な指導経験の機会となっている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

福祉現場における医療行為に関する研究～介護福祉士の医療行為のあり方を考える～	単著	平成23年３月	大阪体育大学短期大学部研究紀要第12号		1頁～14頁
体育系大学との連携協働による高齢者介護予防教室の展開	共著	平成25年12月	医学書院、保健師ジャーナル第69巻弟12号	竹内亮、曽根裕二、岩佐由美、行貞伸二	1010頁～1017頁
小学生に対する車椅子体験授業の効果的なプログラムの検討	単著	平成26年３月	大阪体育大学健康福祉実践研究センター研究・活動報告書		31頁～40頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

期　　間	内　　容
平成23年4月～平成25年3月	日本生活支援学会学会誌編集委員
平成24年7月～平成27年3月	泉南市高齢者保健福祉計画推進委員会、泉南市地域包括支援センター運営協議会及び泉南市地域密着型サービスの運営に関する委員会委員
平成26年8月～現在	全国大学女子硬式野球連盟理事

Ⅳ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	硬式野球部（女子）　　部	２．役職	監督：平成23年6月～現在	３．部員数	32　人
４．現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日　② 週3日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない			
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　10　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			
８．部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない			

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	JABA子規記念杯女子	5月	愛媛県松山市
	関西女子硬式野球選手権大会	5月～6月	京都府福知山市
	全日本女子硬式野球選手権大会	8月	愛媛県松山市
	LG CUP International Women's Baseball Tournament	8月	韓国
	関西女子硬式野球リーグ（LUCKY LEAGUE）	7月～11月	京都府福知山市・大阪府茨木市他
	全国大学女子硬式野球選手権大会	10月	愛知県大府市
	Phoenix cup IBAF International Women's Baseball Tournament	2月	香港

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
平成24年9/15～17	第５回九州女子硬式野球選手権大会	優勝	宮崎県宮崎市
平成24年10/6～7	第２回全国大学女子硬式野球大会	３位	愛知県大府市
平成25年6/1～2	第４回関西女子硬式野球選手権大会	優勝	京都府福知山市
平成25年10/12～13	第３回全国大学女子硬式野球大会	３位	愛知県大府市
平成26年2/14～17	Phoenix cup 2014 IBAF International Women's Baseball Tournament	優勝	香港
平成26年8/2～6	第10回全日本女子硬式野球選手権大会	３位	愛媛県松山市
平成26年8/22～25	LG CUP 2014 International Women's Baseball Tournament	優勝	韓国

［注］１　学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
２　各教員ごとに最近５年間(2009（H21）年度～2013（H25）年度）の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
３　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
４　「研究活動」については、下記の点に留意してください。
①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
④　最近５年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。